令和６年第１回吉田町議会定例会

# 吉 田 町 議 会 会 議 録

令和６年３月１日　開会

～

令和６年３月２２日　閉会

吉　田　町　議　会

# 令和６年第１回吉田町議会定例会会議録目次


第　１　号　（３月１日）

○町長挨拶……１

○開会の宣告……１

○会議録署名議員の指名……１

○会期の決定……１

○諸報告について……２

○議会閉会中の委員会活動報告……１３

○議案第３号～議案第２７号の一括上程、説明……１５

○散会の宣告……６３

第　２　号　（３月４日）

○開議の宣告……６４

○議事日程の報告……６４

○議案第１２号の質疑、討論、表決……６４

○散会の宣告……７０

第　３　号　（３月１１日）

○開議の宣告……７１

○議事日程の報告……７１

○議案第１３号の質疑……７１

○議案第１４号の質疑……７１

○議案第１６号の質疑……７２

○議案第１７号の質疑……７２

○議案第１８号の質疑……７６

○議案第１９号の質疑……７７

○議案第２０号の質疑……８１

○議案第２１号の質疑……８１

○散会の宣告……８８

第　４　号　（３月１３日）

○開議の宣告……９０
○議事日程の報告……９０
○一般質問……９０
増　田　剛　士……９０
平　野　　積……１０３
八　木　　栄……１１６
楠　元　由美子……１２８
大　石　裕　之……１３６
山　内　　均……１５０
○散会の宣告……１６２

第　５　号　（３月１５日）

○開議の宣告……１６３
○議事日程の報告……１６３
○議案第１５号の質疑……１６３
○散会の宣告……２３３

第　６　号　（３月２２日）

○開議の宣告……２３４
○議事日程の報告……２３４
○議案第１３号の討論、表決……２３４
○議案第１４号の討論、表決……２３４
○議案第１５号の討論、表決……２３５
○議案第１６号の討論、表決……２３５
○議案第１７号の討論、表決……２３６
○議案第１８号の討論、表決……２３６
○議案第１９号の討論、表決……２３７
○議案第２０号の討論、表決……２３７

○議案第２１号の討論、表決……２３７
○議案第３号の質疑、討論、表決……２４０
○議案第４号の質疑、討論、表決……２４０
○議案第５号の質疑、討論、表決……２４１
○議案第６号の質疑、討論、表決……２４３
○議案第７号の質疑、討論、表決……２４４
○議案第８号の質疑、討論、表決……２４４
○議案第９号の質疑、討論、表決……２４５
○議案第１０号の質疑、討論、表決……２４５
○議案第１１号の質疑、討論、表決……２４６
○議案第２２号の質疑、討論、表決……２５０
○議案第２３号の質疑、討論、表決……２５３
○議案第２４号の質疑、討論、表決……２６１
○議案第２５号の質疑、討論、表決……２６２
○議案第２６号の質疑、討論、表決……２６２
○議案第２７号の質疑、討論、表決……２６３
○委員会活動報告……２６３
○議員派遣について……２６４
○議会閉会中の継続調査について……２６５
○町長挨拶……２６５
○議長挨拶……２６５
○閉会の宣告……２６６

開会　午前　９時００分

**○議長（大石　巌君）**　改めまして、おはようございます。

本日ここに、令和６年第１回吉田町議会定例会が招集されました。議員各位には御出席をいただき、ありがとうございます。

本定例会に提出される諸議案につきましては、後刻、町長から説明がありますが、議員各位には円滑に議事を進められ、適正、妥当な議決に達せられますよう、最後まで慎重なる御審議をお願いいたします。

---

**◎町長挨拶**

**○議長（大石　巌君）**　開会に当たりまして、町長から御挨拶をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　議員の皆様のお元気な顔に接してうれしく思っております。

令和６年度を決める議会でございますので、どうぞよろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　ありがとうございました。

---

**◎開会の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　本日、２番、増田伸介君から欠席の届があります。

ただいまの出席議員数は12名であります。ただいまから、令和６年第１回吉田町議会定例会を開会いたします。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

---

**◎会議録署名議員の指名**

**○議長（大石　巌君）**　議事日程第１、会議録署名議員の指名をいたします。

会議録署名議員の指名は、会議規則第120条の規定によりまして、１番、大石裕之君、３番、盛　純一郎君を指名いたします。

---

**◎会期の決定**

**○議長（大石　巌君）**　日程第２、会期の決定を議題といたします。

お諮りします。

今期定例会の会期は、本日３月１日から３月22日までの22日間としたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

本定例会は、本日３月１日から３月22日までの22日間に決定しました。

なお、会期中の会議予定につきましては、お手元に配付の会期及び審議予定表のとおりでありますので、御了承願います。

---

**◎諸報告について**

**○議長（大石　巌君）**　日程第３、諸報告を行います。

初めに、議長報告を行います。

最初に、監査委員から例月出納検査及び定期監査の監査結果報告書が提出されております。写しをお手元に配付させていただきましたので、御了承願います。

次に、議員派遣結果についてでありますが、議員派遣結果報告書をお手元に配付させていただきましたので、御了承願います。

次に、系統議長会関係に関することについてでありますが、２月１日木曜日、静岡県地方議会議長連絡協議会第２回政策研修会が静岡県庁で開催されました。Ｖリーグ所属バレーボールクラブ、ブレス浜松ゼネラルマネージャーの大林素子氏による「マイ・ドリーム～夢をあきらめない～」と題した講演がありました。

２月14日水曜日、令和５年度静岡県町村議会議長会総会・議長会議が静岡市で開催されました。総会では、協議事項として、令和６年度静岡県町村議会議長会事業計画及び令和６年度静岡県町村議会議長会歳入歳出予算について審議が行われ、原案のとおり可決されました。

また、協議事項として町村議会議長県外調査について協議をするとともに、報告事項として全国町村議会議長会自治功労者表彰及び公益財団法人静岡県消防協会要望書について報告がありました。

会議への出席に関する報告は以上のとおりであります。

次に、本定例会へ説明員として委任または嘱託され、出席する者の職氏名を一覧表としてお手元に配付しておきましたので、御了承願います。

以上で議長報告を終わります。

続いて、町長の施政方針を行います。

お聞き取りのほど、お願いいたします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　令和６年第１回吉田町議会定例会の開会に当たり、新年度に向けての施政方針並びに各種施策の方針や概要等について申し上げる前に、１月１日に発生しました能登半島地震により亡くなられた全ての方々にお悔やみを申し上げますとともに、御遺族や被災された皆様が一日も早く安全で穏やかな日常を取り戻すことができますようお祈り申し

上げます。

最大震度７を観測したこの能登半島地震は、住宅の被害が７万4,000棟余り、240人を超える方々の死亡が確認されるなど、年末年始の休暇でふるさとを訪れていた子や孫、親戚などが集まる元旦のにぎやかなひとときを一瞬で一変させてしまいました。

この痛ましい地震から今日で２か月が過ぎようとしておりますが、幾重にも重なった被害により、今もなお多くの方々が厳しい避難生活を強いられている状況でございます。その様子は、毎日のようにテレビや新聞などで報道をされており、町といたしましては、静岡県などからの要請を受け、被災された方々に寄り添った支援を行うとともに、災害対応の経験を積むためにも１月19日から石川県穴水町などに町職員を派遣し、避難所の運営や支援物資の受入れ、配給、罹災証明書の交付、避難者の健康管理などの支援を継続的に行っているほか、１月20日からは町のトイレカーを現地に搬入し、約１か月間、延べ14人の職員が交代でトイレカーの運営管理などに従事してまいりました。

過去の災害からはもちろんのこと、こうした派遣職員の現場の声などを含め、この能登半島地震からは住宅の耐震化や安否確認の方法など生命に関わることや、トイレ、風呂といった水の供給、寒さや感染症などへの対策、避難所運営を中心とした避難生活に関することなど様々な課題が浮き彫りになってきております。

ＮＨＫの報道によりますと、特に亡くなった方の約40％が倒壊した建物の下敷きとなったことによる圧死であるということから、町内において同じような悲劇が起こらぬよう、令和６年度は無料耐震診断を拡充して実施するなど、強力に耐震補強事業を推進してまいります。

そのほかにも、こうした災害の教訓を町はもちろんのこと、各地区の自主防災会や御家庭においても生かしていただくとともに、町といたしましては、令和６年度から本格的に始動する住吉海岸防潮堤の整備をはじめとした津波防災対策を引き続きスピード感を持って推し進めることによって確固たる安全を確保し、皆様が安心して暮らし続けることができる町づくりに邁進してまいります。

こうした喫緊の課題がある中、本議会定例会では、町が目指す将来都市像やそれを達成するために必要な施策の大綱を掲げる第６次吉田町総合計画の基本構想について御審議いただくこととなっております。

この第６次吉田町総合計画は、南海トラフ巨大地震や激甚化する豪雨災害への備え、深刻化する人口減少社会への対応、コロナ禍により変化した人々の生活様式や価値観への柔軟な対応、加速するデジタル化への適応など、町が取り組むべき様々な課題に対応しながら、時代とともに多様化する町民のニーズに応えるとともに、町がよりよい未来に向かって着実に進んでいくための指針となるものでございます。

この計画においては、令和６年度を初年度とした８年間でこの中で示す将来都市像「豊かで活気にあふれ　心を魅了するまち」に向かい、「安全で安心して住み続けることができるまちづくり」、「にぎわいと魅力にあふれたまちづくり」、「豊かな心を育みいきいきと暮らせるまちづくり」の３つを基本理念として動き出すとともに、これまでに町が最重要施策として取り組んでまいりましたシーガーデンシティ構想を引き続き強力に推進してまいります。そして、確固たる安全を確保し、子育て、教育、健康づくりといった支える安心をきめ細やかに提供することにより、豊かで活気にあふれたまちを実現し、人と人との交流を通じて豊かな心を育み、心を魅了する町を目指してまいります。

それでは、令和６年度の主な事業につきまして、第６次吉田町総合計画の施策体系に沿って御説明申し上げます。

初めに、「安全で安心して住み続けることができるまちづくり」の「災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり」に関連する事業のうち、防潮堤整備について御説明申し上げます。

1000年に一度の大津波から町を守る防潮堤整備につきましては、令和４年３月の川尻工区の完成以降、住吉工区の早期の着手に向け、これまでに具体的な整備手法などについて国や県と協議を重ねているところでございます。令和６年度はこうした協議を踏まえて測量設計を実施し、確固たる安全を早急に確保するためスピード感を持って事業を進めてまいります。

次に、吉田漁港の津波対策についてでございます。

吉田漁港における津波対策につきましては、昨年度に実施しました津波シミュレーションの結果を基に、令和６年度は漁港内の津波対策施設の構造や工法などについて検討を行い、事業を進めてまいります。

次に、全周防御の構築についてでございます。

本年度に実施しました大井川と坂口谷川における最大規模の津波に対する遡上シミュレーションの結果を基に、今後は浸水をゼロにするための施設の範囲や構造について検討を進めるとともに、関係機関との調整を図ってまいります。この施設の整備と同時に、さきに述べました住吉工区の防潮堤整備や吉田漁港における津波対策を一体的に進めることにより全周防御を構築し、町民の皆様の生命と財産、企業の皆様の生産活動を守る対策を推進してまいります。

次に、木造住宅の耐震化プロジェクト「ＴＯＵＫＡＩ－０」についてでございます。

県では、令和７年度までを「ＴＯＵＫＡＩ－０」事業の総仕上げと位置づけて取組を強化しており、町もこれに同調し事業を進めているところでございます。令和６年度は、わが家の専門家診断事業が最終年度となりますが、能登半島地震により建物倒壊が多数発生したことを受け、耐震診断について多くの皆様から問合せをいただいておりますことから、本年度の1.5倍となる60件まで拡充して無料耐震診断を実施する予定でございます。

今後も引き続き、県と連携を図りながら耐震化の重要性や負担軽減のための補助制度について戸別訪問を中心としたＰＲを積極的に展開するとともに、それぞれ対象者の状況に合った命を守る対策を提案するなど、耐震補強事業を推進してまいります。

次に、治水対策についてでございます。

湯日川流域における治水対策につきましては、近年激甚化している豪雨による浸水被害の軽減に向けた流域治水対策計画を本年度中に完成をさせ、令和６年度はこの計画に沿った治水対策や河川整備に関する基本設計に着手してまいります。

また、坂口谷川流域における治水対策につきましても、令和４年５月に策定しました坂口谷川水災害対策プランに基づき、宮裏川河口部に設置してある第３号ポンプの増強に係る工事に着手してまいります。この工事は、令和６年度と７年度の２か年にわたって実施する計画としており、このほかにも町内河川の浚渫工事を引き続き進めるなど、浸水被害の軽減に向けた対策をより一層推進してまいります。

次に、河川の改修についてでございます。

準用河川であります大窪川では、河川の流下能力を高めるため、国の交付金を活用して下流側から順次河川の改修を実施しております。令和６年度においても引き続き上流側へ護岸

整備を進める予定で、国の防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策に係る事業として進捗を図ってまいります。

次に、交通安全対策についてでございます。

町では、吉田町子供の移動経路に関する交通安全プログラムに基づき、通学路や未就学児が日常的に集団で移動する経路の交通安全対策を推進しております。令和６年度においても、学校、警察、道路管理者などによる合同点検の結果を基にこれまで対策を検討してまいりました危険箇所について、区画線の設置や防護柵の更新などを迅速に進めてまいります。

また、例年実施しております道路交差点部の区画線の更新に加え、町内の幹線道路のうち、特に交通量が多い道路の一部についても先進安全自動車に搭載される車線逸脱警報装置や車線維持支援制御装置が確実に検知し作動するよう区画線の更新を予定しております。

そのほか、通学路の安全対策として実施しております中央幹線の歩道整備につきましては、本年度に用地の取得が完了しましたので、早期の完成を目指して工事を進めてまいります。

次に、犯罪被害者等支援条例の制定についてでございます。

誰もが犯罪被害者などになり得る中で、安全で安心して暮らすことができる地域社会の実現のため、社会全体で犯罪被害者などを支える体制の整備が必要になってきております。犯罪被害者などの支援においては、保険医療や福祉制度の実施主体が町でありますことから、相談や問合せに対して様々な支援制度の案内、申請補助などの適切なコーディネートや関係機関などに関する情報提供、橋渡しを行うことが求められております。

こうしたことから、被害に遭われた方が相談しやすく、他機関との連携強化を図ることができる環境を整えるため、条例を制定し、支援の取組姿勢や施策を明らかにすることにより、社会全体での切れ目のない支援が可能な町を目指してまいります。また、この条例の制定に伴い、静岡県犯罪被害者支援センターの賛助会員になるとともに、令和６年度には連携強化に関する協定の締結を予定しており、さらなる支援体制の強化を図ってまいります。

次に、吉田町消防団小型動力ポンプつき積載車の更新についてでございます。

南海トラフ地震などの大規模地震や全国各地で頻発している風水害などの大規模自然災害に備えるためには、地域の消防防災の中核である吉田町消防団の装備の充実と防災力の強化を図る必要があります。

こうした消防団の重要性を鑑み、令和６年度においては老朽化した第３分団の小型動力ポンプつき積載車を更新する計画でございます。これにより全ての分団において配備車両の更新が完了することとなりますので、消防団のさらなる災害対応能力の向上が図られ、地域防災活動の要としての役割を担っていただくことを期待しております。

続きまして、「豊かな自然と共生するまちづくり」に関連する事業のうち、上水道事業について御説明申し上げます。

水道事業は、町民の皆様の生活や社会経済活動を支えるライフラインを維持するための重要な役割を果たすものであり、地震災害時においても安定して水を供給し続ける必要がありますことから、令和６年度につきましても引き続き基幹管路の耐震化と老朽管の更新に重点を置いて整備を進めてまいります。

基幹管路の耐震化につきましては、第２配水池からの配水本管であります片岡原線の配水管と牧之原市坂部地内の大正橋に架かる配水管の布設替え工事を予定しております。

老朽管の布設替えにつきましては、吉田港線や岩留２号線を、そのほか中央幹線や本年度

からの繰越しとして坂部地内において県の道路改良事業に伴う配水管の布設工事を予定しております。

新規の事業としましては、水道施設の正常な運転を維持し、水道水の安定的な供給を継続するため、大幡地内の第３水源において予備ポンプを設置するための詳細設計を行う予定でございます。

次に、下水道事業についてでございます。

公共下水道事業の施設整備につきましては、社会資本整備総合交付金を活用して事業を進めております。

管渠整備につきましては、債務負担行為を活用した２件の工事を既に発注しており、これに加えて住吉、川尻、片岡地区の管路布設工事を実施し、令和８年度の概成を目指して未普及対策を進めるとともに、地震対策としてマンホール浮上防止工事を実施する予定でございます。

浄化センターの整備につきましては、ストックマネジメント事業として建築改修工事を実施する予定でございます。さらに、施設の有効活用などを目的として、し尿浄化槽汚泥処理の共同化に向けた可能性調査も実施してまいります。

吉田町公共下水道事業経営戦略につきましては、将来にわたって安定的に下水道事業を継続していくため、中長期的な基本計画として令和３年度から12年度までの10年間を計画期間として策定をしております。より質の高い経営戦略とするため、５年以内の見直しが求められておりますことから、令和７年度の改定に向けて着手してまいります。

なお、令和６年度の公共下水道事業会計予算につきましては、昨年の第２回議会定例会においてお認めいただいた新たな下水道使用料金を踏まえて編成をしております。使用料の改定につきましては、これまでも様々な媒体を活用し周知を図ってまいりましたが、今後も引き続き、住民の皆様に御理解いただけるよう丁寧な説明を行うとともに、経費削減等の経営努力を継続してまいります。

次に、浄化槽設置費補助金についてでございます。

この補助金につきましては、国と県の補助金を活用しながら実施をしており、国や県の制度改定に沿って運用しておりますことから、令和６年度は補助額の見直しを図ることとなりますが、整備基数は本年度と同数の140基を予定しており、引き続き合併浄化槽への転換の促進を図ってまいります。

次に、公営企業に関する取組についてでございます。

公営企業につきましては、水道事業と下水道事業の経営の効率化や利用者へのサービス向上を目的として、１月から水道メーターの検針、水道料金や下水道使用料の収納などの業務を民間事業者に委託し事業を進めております。そのほか、引っ越しなどによる水道の使用開始や中止の受付をはじめ、上下水道に関する様々な問合せに対応するため、４月から上下水道課内に吉田町上下水道お客さまセンターを開設し、皆様が利用しやすい総合窓口として窓口業務の充実を図るとともに、より住民生活に密着したサービスが提供できるよう努めてまいります。

続きまして、「賑わいと魅力にあふれたまちづくり」の「活力と魅力あふれる産業振興のまちづくり」に関連する事業のうち、吉田インターチェンジ周辺整備について御説明申し上げます。

吉田インターチェンジ周辺の整備につきましては、本年度に実施しましたバスターミナルの基本設計に基づき、令和６年度からはターミナルと周辺道路の詳細設計に着手してまいります。吉田インターチェンジ周辺はシーガーデンシティ構想において町の玄関口として位置づけしており、バスターミナルの整備を進めることにより路線バスの利用者の利便性向上を図るとともに、町内外への人の流れを促進し、にぎわいの創出を図ってまいります。

次に、吉田公園南側用地の整備についてでございます。

吉田公園周辺の用地を活用したにぎわいの創出につきましては、本年度に基本構想案の策定を進めるとともに、官民が連携して事業を進める上で重要となります町内事業者の事業参画への機運の醸成を図るため、吉田町商工会と連携して官民連携事業に関する勉強会を開催したり、小・中学校においてはワークショップを開催したりするなど、事業への理解を深め、事業化に向けた組織づくりの基盤整備を進めているところでございます。

令和６年度におきましては、引き続き商工会と連携して勉強会を開催するとともに、県と町、民間事業者が連携して事業を進めるため、町の基本構想を取り入れながら、地元の産材や地域の人材を生かしたローカルＰＦＩの事業体制を軸としたスキームを構築するための調査を進めてまいります。

次に、ふるさと納税の推進についてでございます。

本年度４月から１月までの寄附金額は10億8,390万1,000円となり、昨年度の同時期と比較して約５％の減少となっております。これは、昨年10月に国が寄附金募集費用の基準を見直したことにより、寄附額の設定について一部増額を余儀なくされたため、その影響が出ているものと考えております。令和６年度においてもこの影響は続くことが考えられますが、事業者の皆様に引き続き寄附者のニーズに合った返礼品を提案していただくなど、新たな返礼品の掘り起こしに努めるとともに、新たなふるさと納税サイトの追加や効果的なウェブ広告の活用など、返礼品ＰＲの強化に取り組むことにより、全国に向けて町の魅力を発信し、ふるさと納税事業のさらなる推進に努めてまいります。

次に、都市計画マスタープランの策定についてでございます。

町では、都市計画に関する基本的な方針を定める吉田町都市計画マスタープランに基づき、「住みやすく活気のある水・緑豊かな協働のまち」の実現に向けた町づくりを進めております。このマスタープランは、令和７年度までを計画期間としておりますことから、第６次吉田町総合計画や第４次吉田町国土利用計画との整合を図りながら、令和６年度と７年度の２か年をかけて新たなマスタープランを策定し、町の将来像を見据え、地域の実情に即した適正な土地利用の促進を図ってまいります。

次に、吉田漁港多目的広場の整備についてでございます。

吉田漁港多目的広場につきましては、天端部分において本年度はトイレの設置と駐車場の整備を進めているところでございます。令和６年度につきましては、東臨港橋から吉田漁港多目的広場までの進入路の舗装ややのり面の芝生を整備し、シーガーデンシティ構想の一角を担う施設として皆様に利用され、にぎわいが図られるよう事業を進めてまいります。

次に、吉田漁港の浚渫についてでございます。

水産物供給基盤機能保全事業により実施しております港内泊地浚渫工事につきましては、令和元年度から着手し、計画水深であります３メートルを確保するため、吉田漁港入り口部分から港内に向かって段階的に実施しているところでございます。令和６年度は、湯日川河

口東側の水域を中心に浚渫を進める計画で、これにより吉田漁港の機能が保全をされ、航行の安全が確保されるとともに、地域水産業の振興につながることを期待しております。

続きまして、「多様な人々が快適に暮らせるまちづくり」に関連する事業のうち、能満寺山公園の整備について御説明申し上げます。

町のシンボルであります展望台小山城へのアクセスと来訪者の皆様の利便性の向上を図るため、高台部分に駐車場の整備を計画しております。令和６年度は、地権者の皆様に御理解と御協力をいただきながら用地の取得を進めてまいります。

次に、町内道路の整備についてでございます。

大幡川幹線につきましては、これまで地元の皆様の御意見を伺いながら事業の着手に向け準備を進めてまいりました。令和６年度は、測量設計の実施を予定しており、早期の完成を目指して事業を推進してまいります。

問屋堤線につきましては、引き続き用地取得を進めるとともに道路改良工事を実施をし、令和６年度中に供用が開始できるよう事業を進めてまいります。

中瀬北原１号線につきましては、本年度に測量設計が完了しましたので、令和６年度からは地権者の皆様の御理解と御協力をいただきながら用地の取得を進めていく計画でございます。

谷川東塩谷線につきましては、東名吉田インター周辺の整備における東西の基幹道路として整備するものでございます。令和６年度につきましては、道路線形を検討するための測量を実施する予定でございます。

次に、橋梁の維持補修についてでございます。

町内の橋梁につきましては、長寿命化を図るため、国の補助を受けながら５年ごとの定期的な点検と、その結果に基づき計画的に補修工事を実施しております。令和６年度におきましては、定期点検の結果により構造物の機能に支障が生じる可能性があると判定された橋梁のうち、大幡地内の４号橋と５号橋、７号橋、川尻地内の問屋南橋、第４号橋梁の５本の橋について補修を実施する予定でございます。

次に、町内を走る新しい交通についてでございます。

現存の路線バスだけでは対応できない町内の移動や、バス停から遠い地点とバス停との移動手段を確保することを目的に、昨年10月からオンデマンド型乗合タクシー「“ぎゅっと”カーよしだ」で実証運行を行っております。さらに、１月からは、これまでの日中の運行に加えて朝と夜の運行も実施しております。２月20日時点で580人を超える方々が会員登録をされ、中でも65歳以上の高齢者を中心とした皆様に多く御利用いただいており、その行き先といたしましては医療施設が最も多い状況でございます。

令和６年度も、引き続き吉田町地域公共交通計画に基づいて実証運行を進めてまいりますが、さらに多くの皆様に利用していただけるよう、パンフレットの配布や町ホームページ、町公式ＬＩＮＥで利用を呼びかけるなど、様々な方法により周知を図るとともに、必要に応じて利便性向上策を追加するなど、今後も町民の皆様が気兼ねなく町内を移動できるような仕組みを模索してまいります。

次に、初期日本語教室の開催についてでございます。

近年は、町内における外国人住民が著しく増加をしており、１月末時点で2,300人を超え、町人口の約８％を占めている状況でございます。企業の技能実習生として町内に居住されて

いる方もおりますが、中には日本語を話せないことによって地域コミュニティへ上手に参画できない外国人住民も多くなってきております。

こうした状況を踏まえ、令和６年度は日本語を話せない外国人住民を対象として、日常生活に必要な最低限の日本語を身につけてもらうための初期日本語教室を吉田町国際交流協会と連携して実施してまいります。この教室で日本語を学ぶことにより、意思の疎通が図られ、町内に住む様々な国籍の人たちがお互いの文化を理解し合い、交流し、快適に暮らせる町を目指してまいります。

次に、吉田町男女共同参画プランについてでございます。

平成18年度に吉田町男女共同参画プランを策定して以降、見直しを行いながら男女共同参画の取組を総合的に推進しております。現行の第４次吉田町男女共同参画プランは、令和３年度を初年度とした４年間の計画で、令和６年度までを計画期間としております。最終年度となります令和６年度は、町を取り巻く社会情勢の変化や町の現状を踏まえ、住民一人一人が多様性を認め合い、性別や年齢にとらわれることなく個性や能力を十分に発揮できる町を目指して新たな第５次吉田町男女共同参画プランの策定を進めてまいります。

続きまして、「豊かな心を育みいきいきと暮らせるまちづくり」の「誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり」に関連する事業のうち、産後における支援の充実について御説明申し上げます。

安心して妊娠、出産、子育てをしていただくため、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援として、一貫して身近で相談に応じるとともに経済的支援を一体的に実施する「よしにこ応援パッケージ事業」を展開しております。これに加え、特に慣れない育児などから心身ともに不安定になりやすい産後においては、早期に専門的な心身のケアを行う「産後ケア事業」を実施しているところでございます。これまでは、利用者が医療機関や助産院へ通所、宿泊をすることにより実施しておりましたが、多様な生活環境や個々のニーズに即したサービスを提供するため、令和６年度からは新たに利用者のお宅を訪問してケアを提供するアウトリーチ型の実施を加え、さらなる産後支援の充実を図ってまいります。

次に、吉田町子ども・子育て支援事業計画の策定についてでございます。

全国的に少子高齢化や核家族化の進展、就労の多様化、地域コミュニティ意識の希薄化など、子供を取り巻く様々な環境の変化により、子育てに不安や孤立感を感じる家庭は少なくなく、保育のニーズも多様化しております。このような状況の中で、子供の健やかな育ちと子育てを支えることは社会全体で取り組むべき最重要課題の一つであると捉え、町では、子ども・子育て支援法に基づく施策などを反映した吉田町子ども・子育て支援事業計画を策定し、様々な事業を進めております。この計画は令和６年度までを計画期間とした５年間の計画で、新たに令和７年度から令和11年度までを計画期間とする計画の策定に取り組んでいるところでございます。

本年度は、計画策定の基礎資料として、町民の皆様が必要とする保育への潜在的ニーズを含めた見込みを把握し、それに対応する方策、子育てサービスの利用状況や意向を把握するほか、子育て世帯の生活実態や要望などを収集するため、就学前のお子様と小学生の保護者を対象としたアンケート調査を実施しましたので、今後は国の動向も踏まえながら、この調査結果や皆様の意見を反映させ、令和６年度中の策定を目指して進めてまいります。

そして、引き続き全ての子供が健やかに生き生きと育つことができるよう、家庭、教育・

保育施設や行政機関などが相互に協力し、地域社会が一体となって切れ目のない子ども・子育て支援を推進してまいります。

次に、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施についてでございます。

高齢者の保健事業につきましては、75歳に到達し、国民健康保険制度や社会保険制度から後期高齢者医療制度へ移行する際に、それまでの健康診査の結果や保険事業が途切れてしまい、継続的な支援ができないことが課題となっております。

このような課題を解消するため、令和６年度からは、後期高齢者健康診査の未受診などにより健康状態が不確かな高齢者の状態を把握し、必要な介護予防サービスへつなぐなどの支援を行ってまいります。さらには、町と関係機関が一体となり、通いの場などにおいてフレイルや生活習慣病の予防啓発も積極的に展開してまいります。

このように、一人一人それぞれの状況に応じたきめ細やかな支援を積極的に行うとともに、高齢者の保健事業と介護予防事業を一体的に行うことにより、健康の増進と介護予防が図られ、高齢者の皆様が住み慣れた地域でできる限り自立した生活を送ることができるよう事業を推進してまいります。

次に、高齢者福祉と介護保険事業についてでございます。

高齢者人口がピークを迎える2040年を見据え、今後ますます介護が必要な高齢者の増加や、社会を支える生産年齢人口の減少が見込まれることから、国では介護サービス基盤の計画的な整備や地域包括ケアシステムの深化と推進に向けた取組、地域包括ケアシステムを支える介護人材確保と介護現場の生産性向上を現計画からの見直し内容とした基本方針を示しており、こうした状況を踏まえて、町では、令和６年度から３年間を計画期間とする第10次高齢者保健福祉計画・第９期介護保険事業計画の策定に取り組んでおります。

新たな計画では、現計画の基本理念を引き続き継承し、加えて、国の指針や新たな課題にも対応したものとしており、この計画に基づき、今後も引き続き地域共生社会の実現に向けて地域住民との協働や多様な社会資源を活用するとともに、医療、介護、予防分野などとの連携により支援を必要とする方々を身近な地域で支える体制の強化に取り組んでまいります。

続きまして、「次代を担う心豊かな人を育むまちづくり」に関連する事業のうち、吉田町教育大綱と吉田町教育元気物語ＴＣＰトリビンスプランについて御説明申し上げます。

吉田町教育大綱につきましては、現大綱の教育目標であります「生涯にわたり学びあい高めあう人づくり」の達成を引き続き目指し、令和６年度から令和９年度までの４年間を期間とする新たな大綱では、「生きる力の育成を目指す学校教育の推進」や「心豊かに学び続け、学びを生かす生涯学習の推進」など５つの基本方針と14の重点施策を掲げ、教育施策の着実な推進を図っていくこととしております。

吉田町教育元気物語ＴＣＰトリビンスプランにつきましては、新たに目標として掲げた「子供、教職員、保護者が共に元気になり、三者にとって魅力ある教育を実現する」ことを達成するため、「子供の「確かな学力」を保障する環境づくり」、「教職員が授業等に専念できる環境づくり」、「保護者が安心して子育てできる環境づくり」の３つを柱に、それぞれ具体的な施策を着実に実施していくこととしております。

令和６年度は、引き続きＩＣＴの効果的な利活用に重点を置き、町内の小・中学校における校務支援システムのクラウド化を進めてまいります。このクラウド化は、情報を一元的に管理し、蓄積された教育データを児童・生徒、教職員、保護者の皆様が利活用することによ

り、児童・生徒はデータに基づいたきめ細かい指導を受けることができ、教職員はデータを活用した適切な指導を行うとともに事務の効率化を図ることができるようになるもので、さらに、将来的には保護者が学校の様子をスマートフォンで確認することができ、学校との連絡が簡略化され、負担軽減につながるなどの効果が期待されるものでございます。

このほか、町教育委員会では、本年度に引き続き全教職員を対象とした研修会を各校で開催する予定でございます。ＩＣＴを学習ツールとして日常的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを共に充実をさせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を教職員が学び合うことにより、魅力ある授業づくりにつなげるとともに学力向上を目指すこととしております。

また、Ｇｏｏｇｌｅ　ｆｏｒ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　パートナー自治体として、グーグル合同会社と連携しながら、教職員を対象とするＩＣＴの利活用に向けた研修会や、児童・生徒をＩＣＴリーダーとして育成する研修会などを引き続き開催し、ＩＣＴ活用の技術や能力を育成していくこととしております。

さらに、文部科学省が展開するリーディングＤＸスクール事業につきましても、引き続き町内小・中学校の全てが指定校の認定を受けられるよう申請を行い、１人１台端末とクラウド環境を活用したより効果的な教育実践を創出していくこととしております。

次に、吉田町シニアカレッジについてでございます。

シニア世代が互いに学び合い、高め合いながら生き生きと充実した生活を送ることができるよう、平成28年に開設しました吉田町シニアカレッジにつきましては、１期２年を受講期間として学びの機会を提供しており、８月には３期生が卒業を迎える予定でございます。これまでに卒業したシニアの皆様の中には、コミカレ・ねっとわ〜くや地域教育推進協議会に所属し、地域においてボランティアとして活躍されている方々もいらっしゃる状況でございます。

今後も引き続き、新たな知識の習得や仲間づくりなどを通してシニア世代が楽しく充実した生活を送ることができるよう、受講者の皆様から御意見を伺うとともに、吉田町シニアカレッジ運営委員会においても協議をしながら、魅力ある事業の展開に努めてまいります。

次に、吉田町学習ホール等長寿命化計画の策定についてでございます。

吉田町学習ホールは、昭和60年に開館して以来38年が経過しており、舞台の照明や音響設備などの施設の老朽化が進んでおります。今後は大規模改修の実施に向け、令和６年度に施設の劣化診断調査などを実施し、長寿命化計画を策定してまいります。計画の策定につきましては、町の財政状況や吉田町公共施設等総合管理計画との整合を図りながら長期的な事業の平準化を進めるとともに、ライフサイクルコストの縮減に努めてまいります。

次に、吉田町子ども読書活動推進計画についてでございます。

町では、平成９年に策定しました吉田町立図書館基本構想及び基本計画に沿って、これまでに様々な読書活動の推進に取り組んでまいりましたが、近年は本を読まない子供の割合が増加をしており、今後はさらなる読解力の強化や子育て支援施策との連携を図っていく必要があると考えております。

こうしたことから、町内における子供の読書活動の現状を踏まえ、関係団体の委員で構成する策定委員会により皆様の御意見をいただきながら、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づく吉田町子ども読書活動推進計画を新たに策定し、地域に根差した子供の読書のた

めの環境づくりに取り組む体制を整備してまいります。

次に、高齢者のスポーツ振興についてでございます。

幅広い世代がいつでもスポーツに親しめるよう、安全で安心して利用できる施設環境の整備を進めるとともに、運動習慣の定着を図るための各種健康体力づくり教室などを開催し、スポーツを気軽に楽しめる環境づくりを推進しております。

本年度は、既存の教室に加え、高齢者の皆様がいつまでも心身ともに健康で豊かな生活を送ることができるよう、町内の65歳以上を対象としたシニアフィットネス教室を昨年６月に開講しており、47人の参加者が楽しみながら毎月１回の筋力トレーニングや軽スポーツに取り組んでいるところでございます。教室では、筋力や体脂肪などを測る体組成計測定を実施し、参加者はその結果を確認しながらそれぞれの目標に向かって筋力と生活の質の向上を図っております。

令和６年度は、教室の開催を月２回に増やすとともに、より多くの皆様に参加していただけるよう、事業内容についてもさらなる充実を図ってまいります。

続きまして、「行政と住民が一体となって取り組むまちづくり」に関連する事業のうち、自治体ＤＸの推進について御説明申し上げます。

急速に進展するデジタル社会の中、町民の皆様の暮らしを支え守るとともに、事務手続の効率化や高度化を推進するため、昨年３月に策定しました吉田町ＤＸ推進計画に基づきＤＸ推進に取り組んでおります。

令和６年度におきましては、地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に基づいて自治体における主要な20の業務を国の標準準拠システムに移行し、庁内の情報システムの標準化に取り組んでまいります。これにより、将来的にはこれまで各自治体が独自に行っていたシステム構築等に係る人的負担や財政的負担が軽減され、真に職員でなければできない住民への直接的なサービスの向上につなげてまいります。このほかにも、吉田町ＤＸ推進計画に基づき、オンラインによる申請手続の拡充を図るなど、さらなる住民サービスの向上に努めてまいります。

以上、令和６年度を迎えるに当たり、各種施策の方針や概要などについて述べさせていただきました。

新年度に向けましては、第６次吉田町総合計画を礎に確固たる安全の下で、子育て、教育、健康づくりといった支える安心を提供することにより、活気のある若者が集まり、元気な子供が増え、そして、この町で暮らし続けたいという人が増えていくものと確信をしております。こうしたことを具現化していくための令和６年度一般会計当初予算につきましては、歳入歳出それぞれ132億8,000万円と過去最高の額となる予算を編成いたしました。原油価格などの物価高が続き、今後の景気の動向や町税などの歳入が不透明な状況であっても、その不透明な先をしっかりと読み、町政を運営していかなければなりません。将来にわたって持続可能性を高めていくため、これまで以上の創意と工夫によりさらなる歳入の確保に取り組み、今後も引き続き町民の皆様に御協力をいただくとともに、適時適切にその時々の状況に柔軟に対応しながら「豊かで活気にあふれ　心を魅了するまち」の実現に向けて様々な施策を展開してまいります。

議員各位をはじめ、町民の皆様におかれましては、ぜひともこうした本町の町づくりに御理解をいただき、今後より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げて、令和６

年度の施政方針といたします。

**○議長（大石　巌君）**　町長の施政方針が終わりました。

---

**◎議会閉会中の委員会活動報告**

**○議長（大石　巌君）**　日程第４、議会閉会中の委員会活動報告を、初めに、総務文教常任委員会委員長から報告をお願いいたします。

３番、盛　純一郎君。

〔総務文教常任委員会委員長　盛　純一郎君登壇〕

**○総務文教常任委員会委員長（盛　純一郎君）**　総務文教常任委員会より議会閉会中の委員会活動についての報告を行います。

調査中の地域教育推進事業につきまして、令和６年１月10日水曜、放課後子ども教室の残り１か所、住吉のびのび教室の視察を行いました。その後の協議で、視察を通じて得た教室現場の高齢化、担い手不足、あるいは地域差など、子ども教室に関する課題点が各委員から挙げられました。

１月26日金曜、地域教育推進事業に対する課題について、各委員から提出された内容を事業項目ごとに協議し、意見の削除、訂正などを行いました。また、最終の議長報告案を正副委員長で作成し、次会の委員会にて報告内容の確認、修正を行うこととしました。

２月16日金曜、所管事務調査報告書の正副委員長案の内容について協議し、修正、削除を行い、次会の委員会で確認後、議長提出し、本調査を終了することとしました。

また、次の調査内容について、各委員案を持ち寄り、協議決定することにしました。

以上、総務文教常任委員会の報告とします。

**○議長（大石　巌君）**　報告が終わりました。

委員長報告に対し質疑を許します。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

委員長、御苦労さまでした。

続きまして、産業建設常任委員会委員長から報告をお願いいたします。

８番、山内　均君。

〔産業建設常任委員会委員長　山内　均君登壇〕

**○産業建設常任委員会委員長（山内　均君）**　令和６年３月１日、第１回定例会、産業建設常任委員会委員長報告を行います。

産業建設常任委員会での所管事務調査。

空き家等対策の推進について。

令和５年12月20日午後１時26分から午後２時38分まで、委員６名、番外１人、事務局２人の出席で委員会を開会した。

１、調査事項は、空き家等対策の推進について。

⑴視察先として選択した４市、掛川、袋井、藤枝、富士について、気になった事項を各

委員から発表を受けた。

２、発表された内容を基に、視察における質問内容について協議をした。

①主な質問事項、４市共通の施策です。

アは、空き家対策の全般について。

イは、空き家等情報に対する処理、対応方法について。

ウ、空き家対策に対する情報の量と、対応の量について。

エ、各条例制定による効果について。

オ、空き家調査方法とその数について。

カ、補助金の利用状況とその効果について。掛川市以外です。

②は、その他４市独自の施策から質問事項を決めました。

(3) ４市への質問事項についての今後の予定は、質問事項を正副委員長でまとめ、年内にまとめることとしました。

４、視察の日程については、相手先の状況により、今後協議決定をする。

次会予定を令和６年１月10日に決定し、閉会をした。

令和６年１月10日午前９時から午前11時30分、委員６名、番外１人、事務局２人の出席で委員会を開会した。

調査事項は、空き家等対策の推進について。

１、視察の目的、質問内容を決定をした。

①４市共通の事項は、空き家等対策全般について。

イ、空き家の調査方法と数、空き家バンク制度の対応と登録数。

エ、条例制定及び補助金制度制定等、現状の空き家対策での効果と利用状況。

オ、民間との連携による空き家減少の効果、成果について。

カ、今後取り組んでいく必要があると考える対策。

②各市への個別質問の決定。それぞれの市が行っている事業に対する質問事項を決定をした。

(3)は視察の日程の決定。各市町とも２月議会が始まるため、２月初旬で相手の都合のよい日に合わせることに決定。

次会は未定のまま閉会をした。

令和６年２月16日午前９時から午前10時６分、委員６名、番外１人、事務局２人で開会、調査事項は、空き家対策等の推進について。

１、視察の日程について、各市とも議会の開始や新年度の調整ができないため、日程を再確認をした。富士市、菊川市については５月中旬以降、５月中旬なら可。袋井市、藤枝市は６月以降ということで情報をいただいた。

２、今後の調査の進め方については、１、現状と今後の予定及び吉田町空家等対策協議会について、担当課から説明を受けることとした。

２、町内の空き家を確認、視察する。３月中に行う予定とした。

次会予定を３月12日に決定し、閉会をした。

以上が産業建設常任委員会の活動報告でございます。

**○議長（大石　巌君）**　報告が終わりました。

委員長報告に対して質疑を許します。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

委員長、御苦労さまでした。

---

**◎議案第３号～議案第２７号の一括上程、説明**

**○議長（大石　巌君）**　次に、会議規則第35条の規定によりまして、日程第５、第３号議案から、日程第29、第27号議案までの25議案を一括議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　令和６年第１回吉田町議会定例会に上程をされました議案の概要につきまして御説明申し上げます。

今回上程されました議案は、専決処分事項の承認について１件、条例の一部改正について７件、条例の制定について１件、補正予算について３件、当初予算について７件、契約の締結について１件、基本構想について１件、町道の路線廃止について１件、町道の路線認定について１件、人事案件２件の合計25件でございます。

それでは、各議案につきまして御説明申し上げます。

第３号議案は、専決処分事項の承認を求めることについて（令和５年度吉田町一般会計補正予算（第８号）について）でございます。

本議案は物価高騰による負担感が特に大きい低所得世帯の負担軽減を図る低所得世帯重点支援交付金給付事業事務を早急に執行する必要がありますことから、その経費といたしまして、令和５年度の吉田町一般会計歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ8,408万4,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ143億4,920万5,000円とする補正予算を本年２月２日に地方自治法第179条第１項の規定により専決処分しましたので、同法同条第３項の規定により御報告させていただき、御承認をお願いするものでございます。

第４号議案は、吉田町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

本議案は国の法律改正に伴いまして、当町の非常勤消防団員等に関わる傷病補償の算定の基礎となる額を、国の基準に合わせて改正する内容の条例改正につきましてお認めいただこうとするものでございます。

第５号議案は、吉田町介護保険条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

本議案は３年ごとの見直しが義務づけられている介護保険事業計画におきまして、要介護認定者数等の動向を分析し、必要な介護保険サービスの見込み量を算出した結果、介護保険料の基準額を変更する必要が生じたこと等により、所要の改正を行う内容の条例改正につきましてお認めいただこうとするものでございます。

第６号議案は、吉田漁港管理条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

本議案は利用する法律名の変更等に対応するために、にぎわい創出や、民間事業者は投資

を行いやすくするように、漁港の占用許可を変更する内容の条例改正につきましてお認めいただこうとするものでございます。

第７号議案は、地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定についてでございます。

本議案は地方自治法の改正に伴いまして、同法を引用している条例に条ずれが生じましたことから、関係する条例の所要の改正を行う内容の条例改正につきましてお認めいただこうとするものでございます。

第８号議案は、吉田町上水道事業給水条例及び吉田町布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

本議案は国の法律改正に伴いまして、水道法等による権限が国土交通大臣に移管されますことから、関係する条例に所要の改正を行う内容の条例改正につきましてお認めいただこうとするものでございます。

第９号議案は、指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定についてでございます。

本議案は指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令が本年４月１日から施行されることに伴いまして、当町の指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を省令の指示に沿った基準に改正する内容の条例改正につきましてお認めいただこうとするものでございます。

第10号議案は、吉田町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてでございます。

本議案は地方自治法の改正及び総務省からの通知に伴いまして、会計年度任用職員に対する勤勉手当の支給に関して、関係する条例に所要の改正を行う内容の条例改正につきましてお認めいただこうとするものでございます。

第11号議案は、吉田町犯罪被害者等支援条例の制定についてでございます。

本議案は犯罪被害者等が安全で安心して暮らせる地域社会を実現するため、犯罪被害者等の支援に関し、必要な事項を定めた内容の条例制定につきましてお認めいただこうとするものでございます。

第12号議案は、令和５年度吉田町一般会計補正予算（第９号）についてでございます。

本議案は令和５年度の一般会計の歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ5,454万円減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ142億9,466万5,000円と定めるとともに、繰越明許費、地方債の補正について定める補正予算をお認めいただこうとするものでございます。

第13号議案は、令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）についてでございます。

本議案は令和５年度の後期高齢者医療事業特別会計の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,574万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ３億4,474万6,000円と定める補正予算をお認めいただこうとするものでございます。

第14号議案は、令和５年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第２号）についてでございます。

本議案は令和５年度の介護保険事業特別会計の歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ

1,938万4,000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ22億991万7,000円と定める補正予算をお認めいただこうとするものでございます。

第15号議案は、令和６年度吉田町一般会計予算についてでございます。

本議案は令和６年度の一般会計歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ132億8,000万円と定めるほか、債務負担行為、地方債、一時借入金及び歳入歳出予算の流用について定める予算をお認めいただこうとするものでございます。

第16号議案は、令和６年度吉田町土地取得事業特別会計予算についてでございます。

本議案は令和６年度の土地取得事業特別会計の歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1,502万2,000円と定める予算をお認めいただこうとするものでございます。

第17号議案は、令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計予算についてでございます。

本議案は令和６年度の国民健康保険事業特別会計の歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ26億8,263万5,000円と定めるほか、歳入歳出予算の流用について定める予算をお認めいただこうとするものでございます。

第18号議案は、令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計予算についてでございます。

本議案は令和６年度の後期高齢者医療事業特別会計の歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４億304万円と定める予算をお認めいただこうとするものでございます。

第19号議案は、令和６年度吉田町介護保険事業特別会計予算についてでございます。

本議案は令和６年度の介護保険事業特別会計の歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ22億456万6,000円と定めるほか、歳出予算の流用について定める予算をお認めいただこうとするものでございます。

第20号議案は、令和６年度吉田町水道事業会計予算についてでございます。

本議案は令和６年度の水道事業会計予算につきまして、収益的収入の総額を６億916万8,000円とし、収益的支出の総額を５億9,457万1,000円とするとともに、資本的収入の総額を１億2,666万4,000円とし、資本的支出の総額を４億6,574万3,000円として、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する３億3,907万9,000円は減債積立金などで補塡するものと定めるほか、企業債、一時借入金などについて定める予算をお認めいただこうとするものでございます。

第21号議案は、令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算についてでございます。

本議案は令和６年度の公共下水道事業会計予算につきまして、収益的収入の総額を７億4,310万8,000円とし、収益的支出の総額を７億2,329万2,000円とするとともに、資本的収入の総額を６億8,213万円とし、資本的支出の総額を６億9,970万6,000円として、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する1,757万6,000円は、過年度分消費税資本的収支調整額で補塡するものと定めるほか、債務負担行為、企業債、一時借入金などについて定める予算をお認めいただこうとするものでございます。

第22号議案は、令和５年度農業基盤整備促進事業山崎頭首工改修工事請負契約の締結についてでございます。

本議案は山崎頭首工の改修工事につきまして、一般競争入札により契約金額１億890万円で大石建設株式会社代表取締役、大石真也との請負契約を締結することにつきましてお認めいただこうとするものでございます。

第23号議案は、第６次吉田町総合計画基本構想についてでございます。

本議案は吉田町総合計画の策定に関する条例第６条の規定に基づき、町の総合的かつ計画的な町政の運営を図るため、令和６年度を初年度として、令和13年度を目標年度とする第６次吉田町総合計画基本構想につきましてお認めいただこうとするものでございます。

第24号議案は、町道の路線廃止についてでございます。

本議案は敬満伝兵島線に関連する町道を廃止する必要がありますことから、神戸地内の１路線について町道の路線廃止をお認めいただこうとするものでございます。

第25号議案は、町道の路線認定についてでございます。

本議案は小山４号線に関連する町道を認定する必要がありますことから、川尻地内１路線について町道の路線認定をお認めいただこうとするものでございます。

第26号議案は、吉田町固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めることについてでございます。

本議案は吉田町住吉2021番地の４、増田竜彦氏を吉田町固定資産評価審査委員会の委員に選任することについて、議会の御同意をお願いするものでございます。

第27号議案は、人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてでございます。

本議案は吉田町片岡2293番地の１、五條栄子氏を人権擁護委員に推挙することにつきまして、議会の御意見をお伺いするものでございます。

以上が上程されました25議案の概要でございます。

詳細につきましては担当課長から御説明申し上げます。

なお、今回の議会定例会に上程されました第12号議案の令和５年度吉田町一般会計補正予算（第９号）につきましては、繰越明許費の補正のうち、漁港環境整備事業費におきまして工期を延長する必要がありますことから、早期議決をお願いしたいと考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

それでは、御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**○議長（大石　巌君）**　町長からの提案理由の説明が終わりました。

続いて、各担当課長からの詳細なる説明を順次お願いをするところではありますが、ここで暫時休憩といたします。

10時40分からの開催としますので、お願いします。

休憩　午前１０時２７分

再開　午前１０時４０分

**○議長（大石　巌君）**　それでは、休憩を閉じ、会議を再開をいたします。

５番、福世議員から体調不良という申出がありましたので、退席を許可をいたしました。

ただいまの出席議員数は11名であります。

それでは、続いて、各担当課長から詳細なる説明を順次お願いいたします。

初めに、総務課長、お願いします。

総務課長、太田順子君。

〔総務課長　太田順子君登壇〕

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

総務課からは、第７号議案、第10号議案、第26号議案及び第27号議案について御説明申し上げます。

初めに、第７号議案　地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について御説明申し上げます。

議案書11ページ及び12ページ、参考資料ナンバー４を御覧ください。

本議案は地方自治法の改正に伴いまして、吉田町監査委員に関する条例及び吉田町水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例のそれぞれにおいて引用している同法の条ずれに対応する必要が生じますことから、所要の改正を行う内容の条例改正につきましてお認めいただこうとするものでございます。

それでは、条例の内容につきまして御説明申し上げます。

参考資料を御覧ください。

第１条は、吉田町監査委員に関する条例の一部改正で、第７条中、第243条の２の２第３項を、第243の２の８第３項に改めるものでございます。

第２条は、吉田町水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例の一部改正で、第５条中、第243条の２の２第８項を、第243条の２の８第８項に改めるものでございます。

附則は、この条例は、令和６年４月１日から施行すると規定しております。

続きまして、第10号議案　吉田町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例等の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

議案書35ページから37ページ、参考資料ナンバー７を御覧ください。

本議案は令和６年度からパートタイム会計年度任用職員について、勤勉手当の支給が法律上可能となり、あわせて総務省から令和６年度からフルタイム会計年度任用職員に対しても適切に勤勉手当を支給すべきものであると通知されたことから、会計年度任用職員に対する勤勉手当の支給に関し、吉田町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例、吉田町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例及び吉田町職員の育児休業等に関する条例のそれぞれに所要の改正を行う内容の条例改正につきましてお認めいただこうとするものでございます。

それでは、条例の内容につきまして御説明申し上げます。

参考資料を御覧ください。

第１条は、吉田町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正でございます。

第３条第１項の改正は、会計年度任用職員の給与に勤勉手当を追加するため、「及び期末手当」を「期末手当及び勤勉手当」に改めるものでございます。

第14条の２を加える改正は、フルタイム会計年度任用職員の勤勉手当について新たに規定するものでございます。

第１項は、給与条例第15条の８に規定する勤勉手当の支給について、任期が６か月以上のフルタイム会計年度任用職員について準用すると規定するものでございます。

第２項は、前条第２項及び第３項の規定について、前項において準用する第15条の８の規定による勤勉手当の支給について準用すると規定するものでございます。

第25条第１項の改正は、引用に関する規定を追加するため、「この条」の次に「及び次条第１項」を加えるものでございます。

３ページの第25条の２を加える改正は、パートタイム会計年度任用職員の勤勉手当について新たに規定するものでございます。

第１項は、給与条例第15条の８に規定する勤勉手当の支給について、任期が６か月以上のパートタイム会計年度任用職員について準用すると規定するものでございます。

第２項は、前条第２項及び第３項の規定について、前項において準用する第15条の８の規定による勤勉手当の支給について準用すると規定するものでございます。

次に、第２条は、吉田町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正で、第19条に規定する会計年度任用企業職員の給与に勤勉手当を追加するため、「及び期末手当」を「期末手当及び勤勉手当」に改めるものでございます。

次に、第３条は、吉田町職員の育児休業等に関する条例の一部改正でございます。

第７条第２項の改正は、育児休業をしている職員の期末手当等の支給に関して、会計年度任用職員を除外している規定を改めるため、「（地方公務員法第22条の２第１項に規定する会計年度任用職員（以下「会計年度任用職員」という。）を除く。）」の部分を削るものでございます。

第８条の改正は、会計年度任用職員の略称規定を加えるため、会計年度任用職員を「地方公務員法第22条の２第１項に規定する会計年度任用職員（以下「会計年度任用職員」という。）」に改めるものでございます。

続きまして、第26号議案　吉田町固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めることについて御説明申し上げます。

議案書80ページを御覧ください。

本議案は現在、吉田町固定資産評価審査委員会の委員であります桐田不二雄委員が本年４月30日をもって任期満了となりますことから、新たに吉田町住吉の増田竜彦氏を吉田町固定資産評価審査委員の委員に選任にすることについて、地方税法第423条第３項の規定により議会の御同意をお願いするものでございます。

増田氏の住所は、吉田町住吉2021番地の４、氏名は増田竜彦、生年月日は昭和27年２月15日で現在72歳でございます。

委員の任期は、本年５月１日から令和９年４月30日までの３年間でございます。

増田氏は、昭和49年から38年間、金融機関にお勤めになり、支店長などを歴任され、現在は住吉区自治会の自治会長を務められており、地域住民からの信望も非常に厚い人物でございます。また、宅地建物取引士の国家資格をお持ちであり、不動産に関する専門的な知識を有しておられます。

したがいまして、固定資産評価審査委員の委員としてふさわしい識見をお持ちであることから、適任であると確信しております。

続きまして、第27号議案　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてでございます。

議案書81ページを御覧ください。

本議案は人権擁護委員法第６条第３項の規定により、人権擁護委員に推薦する方につきまして議会の御意見をお伺いするものでございます。

現在、人権擁護委員であります五條栄子委員が本年６月30日をもって任期満了となりますことから、静岡地方法務局長から候補者の推薦依頼がございました。つきましては、引き続

き五條氏を人権擁護委員の候補者として法務大臣に推薦するに当たり、議会の御意見をお伺いするものでございます。

五條氏の住所は、吉田町片岡2293番地の１、氏名は五條栄子、生年月日は昭和26年７月21日で現在72歳でございます。

委員の任期は、本年７月１日から令和９年６月30日までの３年間でございます。

五條氏は、昭和48年から39年間、教職に就かれ、主に小学校において教鞭を取られてきました。退職後も、当町の教育委員会の指導主事として、障害を持った子供の特別指導やいじめ相談等の業務の経験をお持ちであり、人権擁護活動に対して深い御理解と熱意をお持ちの方でございます。また、今回の推薦に当たりましては、前回の推薦時と同様に、地元片岡区からも強い推薦をいただいており、人権擁護委員として適任であるものとして推薦するものでございます。

以上が総務課からの４議案でございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、続きまして、危機管理監兼防災課長、お願いします。

危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

〔危機管理監兼防災課長　田邊　誠君登壇〕

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

防災課からは、第４号議案、第11号議案の２議案につきまして御説明申し上げます。

初めに、第４号議案　吉田町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

議案書の３ページから４ページ及び参考資料ナンバー１を御覧ください。

本議案は一般職の職員の給与に関する法律の一部改正により、非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令に規定されている補償基礎額について改正が行われたことに伴い、本条例の一部を改正するものでございます。

それでは、改正の内容について御説明申し上げます。

第５条第２項第２号の改正は、消防作業従事者等の補償基礎額の最低額を8,900円から9,100円に改めるものでございます。

次に、別表の改正は、非常勤消防団員の補償基礎額を団長及び副団長において、勤務年数が10年未満の場合は１万2,440円から１万2,500円に、勤務年数が10年以上20年未満の場合は１万3,320円から１万3,350円に改めるものでございます。

本部長、分団長及び副分団長において、勤務年数が10年未満の場合は１万670円から１万800円に、勤務年数が10年以上20年未満の場合は１万1,550円から１万1,650円に、勤務年数が20年以上の場合は１万2,440円から１万2,500円に改めるものでございます。

部長、班長及び団員において、勤務年数が10年未満の場合は8,900円から9,100円に、勤務年数が10年以上20年未満の場合は9,790円から9,950円に、勤務年数が20年以上の場合は１万670円から１万800円に改めるものでございます。

附則第１項は、この条例は、令和６年４月１日から施行すると規定しております。

附則第２項は、改正後の条例の規定における経過措置を規定しております。

続きまして、第11号議案　吉田町犯罪被害者等支援条例の制定について御説明申し上げます。

議案書の38ページから41ページを御覧ください。

本議案は犯罪被害に遭われた方に対しまして、社会全体で切れ目のない支援ができるよう、町の取組姿勢や見舞金の支給など、必要な事項を定める条例を制定するものでございます。

それでは、条例の内容について御説明申し上げます。

第１条は、条例の目的について、犯罪被害者等が安全・安心して暮らすことができる地域社会の実現に寄与することと規定しております。

第２条は、条例で使用する用語の意義について規定しております。

第３条は、基本理念について、犯罪被害者等の個人の権利が尊重されるように推進すること、必要な支援を途切れなく受けることができるようにすること、二次的被害の発生の防止に十分配慮すること、関係機関と連携協力を図ることと規定しております。

第４条は、町の責務について、犯罪被害者等の支援の施策を総合的に策定し、施策が円滑に実施されるよう、関係機関と連携協力を図ることと規定しております。

第５条は、町民等の責務について、町及び関係機関等が行う犯罪被害者等の支援に関する取組に協力するよう努めることと規定しております。

第６条以降は、町が行う支援について規定しております。

第６条は、犯罪被害者等の相談に応じ、情報提供、助言、関係機関等の連絡調整を行うこと及び支援を総合的に行う窓口を設置することを規定しております。

第７条は、犯罪等により死亡した者の遺族または犯罪等により被害を受けた者のうち、規則で定めるものに対し、見舞金を支給することと規定しております。

第８条は、犯罪被害者等の平穏な生活を確保するため、町は保健医療サービス及び福祉サービスの提供をされるように必要な施策を講ずることを規定しております。

第９条は、犯罪被害者等の安全を確保するため、一時保護、施設への入所による保護、防犯に係る指導、犯罪被害者等に係る個人情報の適切な取扱いの確保等の施策を講ずることを規定しております。

第10条は、犯罪等により従前の住居に居住することが困難となった犯罪被害者等の居住の安定を図るため、必要な施策を講ずることを規定しております。

第11条は、個人の尊厳及び犯罪被害者等が置かれている状況への配慮の重要性、二次的被害の発生の防止、その他の支援について、町民等の理解を深めるため、町は広報活動、啓発活動、その他の必要な施策を講ずることを規定しております。

第12条は、犯罪被害者等が犯罪等を誘発したとき、その他、犯罪被害者等支援を行うことが社会通念上適切でないと認められるときは、町は犯罪被害者等の支援を行わないことができることを規定しております。

第13条は、条例の施行に関し、必要な事項は規則で定めると規定しております。

附則は、この条例は、令和６年４月１日から施行すると規定しております。

なお、参考資料ナンバー８は、第13条の規定に基づき、本条例の施行に関し必要な事項を定める吉田町犯罪被害者等支援条例施行規則の案でございます。この施行規則案は、条例第７条に規定する見舞金に関し、見舞金の支給対象者、見舞金の額、見舞金の申請手続等を規定するものでございます。

以上が防災課からの２議案についての説明でございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、続きまして、企画課長、お願いします。

企画課長、石間智三郎君。

〔企画課長　石間智三郎郎君登壇〕

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課でございます。

企画課からは、第23号議案の１議案について御説明申し上げます。

第23号議案　第６次吉田町総合計画基本構想についてでございます。

議案書の75ページ、別冊の第６次吉田町総合計画基本構想、参考資料ナンバー13、第６次吉田町総合計画基本計画を御覧ください。

本議案につきましては、令和６年３月末をもって、第５次吉田町総合計画の目標年次が終了を迎えることから、新たに第６次吉田町総合計画を策定するに当たり、令和６年度を初年度とし、令和13年度を目標年次とする８年間の計画期間となる第６次吉田町総合計画基本構想を吉田町総合計画の策定に関する条例第６条の規定に基づき、お認めいただこうとするものでございます。

第６次吉田町総合計画の策定に当たりましては、住民意識調査、まちづくりタウンミーティング、高校生まちづくりミーティングなどを実施し、住民皆様の御意見を反映させ、また、国・県及び関係機関の各種計画との整合を図り、吉田町総合計画の策定に関する条例第５条の規定に基づき、基本構想と基本計画について、吉田町総合計画等審議会に令和６年１月12日に諮問してございます。

内容につきましては、吉田町総合計画等審議会におきまして慎重なる御審議をいただき、令和６年２月１日に答申をいただいておりまして、今回上程されました基本構想につきましては、吉田町総合計画等審議会の答申に沿った内容となっております。

それでは、別冊の第６次吉田町総合計画基本構想を御覧ください。

１ページから３ページは、第１編、総論としまして、１、計画策定の趣旨、２、計画の性格、３、計画の構成及び期間、４、時代の潮流について記載しております。

４ページから本論の第２編、基本構想となります。

まず、１、将来フレームでございます。

令和２年までは国勢調査の実績値、令和６年以降は吉田町人口ビジョンにおける将来人口の展望値を国勢調査の人口水準に置換した推計値と整合を図っており、計画の目標年次である令和13年の吉田町の人口は２万9,500人、世帯数は１万3,400世帯と想定しており、年齢、階層別では、年少人口が15.6％、生産年齢人口が56.6％、老年人口が27.8％と想定しております。

次に、６ページから14ページは、２、将来都市像・まちづくりの基本理念となります。

６ページを御覧ください。

まず、将来都市像でございますが、第６次吉田町総合計画においては、これまで本町が最重要施策として取り組んできたシーガーデンシティ構想を引き続き進めることにより、確固たる安全を確保するとともに、子育て、教育、健康づくりといった支える安心をきめ細やかに提供することで、人々の暮らしを豊かにし、活気にあふれたまちを形成することを目指しております。

また、このような豊かで活気にあふれたまちを実現することで、人と人との交流を通じて豊かな心を育み、次代を担う若い世代が住みやすいまち、町内の子供から高齢者まで全ての人々から住み続けたいと思われ、町外の人々からも住んでみたいと思われるまち、すなわち

心を魅了するまちを目指すという意識を持って町づくりを進めることとし、本計画における将来都市像を「豊かで活気にあふれ　心を魅了するまち　吉田町」としてその実現を目指してまいります。

次に、７ページを御覧ください。

まちづくりの基本理念でございますが、将来都市像の実現に向けた町づくりを進めるに当たり、その根幹的な考え方となる町づくりの基本理念を３つ定めてございます。

まず、基本理念１、安全で安心して住み続けることができるまちづくりでは、地震や津波、水害や土砂災害等の自然災害や事故・犯罪などの危害から守られているとともに、人々が豊かな自然と共生しながら、安心して住み続けることのできる町づくりを進めてまいります。

次に、基本理念２、賑わいと魅力にあふれたまちづくりでは、人々の多様な価値観やニーズに対応した魅力的な取組により、生活者や来訪者が増加するとともに、多様な交流や活発な経済活動により、にぎわいが生まれ、魅力あふれたまちづくりを進めてまいります。

基本理念３、豊かな心を育みいきいきと暮らせるまちづくりにつきましては、人々の優しさと健やかさに満ちあふれた誰もが生き生きと暮らせるとともに、高い教養を身につけることにより、豊かな心を育み、愛する郷土を守り、次代に継承していく町づくりを進めてまいります。

以上、この３つが基本理念の下、町づくりを進めてまいります。

８ページを御覧ください。

８ページから14ページにかけましては、３、施策の大綱となっております。

参考資料ナンバー13、第６次吉田町総合計画基本計画の２ページ、３ページを御覧ください。

施策の大綱につきましては、基本構想の施策体系における基本理念に基づく目指すべき姿を各章に示し、進め方を記載しております。

別冊の第６次吉田町総合計画基本構想の８ページにお戻りください。

第１章、災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくりでは、津波災害対策を推進する、総合的な防災力を高める、安全・安心に暮らせる環境を創出するの３点を進めてまいります。

９ページを御覧ください。

第２章、豊かな自然と共生するまちづくりでは、水資源を有効活用し安全で安定的な水を供給する、豊かな自然環境を保全する、地球にやさしい循環型社会の形成を推進するの３点を進めてまいります。

10ページを御覧ください。

第３章、活力と魅力あふれる産業振興のまちづくりでは、新たなにぎわいが創出される交流を促進する、地域に根づく産業を育成・支援する、経済の活力を高める新たな産業を創出する、魅力ある雇用・就業環境を創出するの４点を進めてまいります。

11ページを御覧ください。

第４章、多様な人々が快適に暮らせるまちづくりでは、良好な住環境を保全・創出する、安全で利便性の高い交通環境を創出する、多様性を認め合い、誰もが輝ける社会の形成を推進するの３点を進めてまいります。

12ページを御覧ください。

第５章、誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくりでは、誰もが健やかに暮らせる環境

を創出する、安心して出産・子育てができる環境を創出する、誰もが生き生きと暮らせる環境を創出するの３点を進めてまいります。

13ページを御覧ください。

第６章、次代を担う心豊かな人を育むまちづくりでは、次代を担い、社会を生き抜く力を持つ人づくりを進める、地域の歴史・文化を継承し、心豊かな人を育む活動を推進する、心身の健康を保ち、向上心を育む活動を推進するの３点を進めてまいります。

14ページを御覧ください。

第７章、行政と住民が一体となって取り組むまちづくりでは、デジタル技術を活用し、適正かつ効率的な行財政運営を推進する、住民本位の行政と住民参画を推進するの２点を進めてまいります。

以上が町の目指すべき姿と進め方を各章ごとに示した施策の大綱となります。

最後に、15ページを御覧ください。

４、土地利用の構想でございます。

本町の土地利用の構想につきましては、本年度策定いたしました第４次吉田町国土利用計画との整合を図っており、基本方針としまして、地域の自然と社会的、経済的及び文化的諸条件に配慮し、公共の福祉を優先しながらも、自然環境の保全と調和、健康で文化的な生活環境の確保、産業の振興等地域の均衡ある発展を図ることを基本理念としまして、安全で安心できる土地利用の推進、活力ある産業振興を図る土地利用の推進、自然環境と美しい景観の保全に配慮した土地利用の推進、長期的・広域的視点に立った土地利用の形成、住民の意見を反映した土地利用の推進の５つを考慮し、総合的かつ計画的に行ってまいります。

以上が第23号議案　第６次吉田町総合計画基本構想についての説明でございます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、続きまして、財政管理課長、お願いします。

財政管理課長、八木邦広君。

〔財政管理課長　八木邦広君登壇〕

**○財政管理課長（八木邦広君）**　財政管理課でございます。

財政管理課からは、第３号議案、第12号議案、第15号議案、第16号議案の４議案について御説明申し上げます。

それでは、まず初めに、第３号議案　専決処分事項の承認を求めることについて（令和５年度吉田町一般会計補正予算（第８号）について）の内容につきまして御説明申し上げます。

議案書の１ページと２ページ及び別冊となっております令和５年度吉田町一般会計補正予算（第８号）並びに令和５年度吉田町一般会計補正予算（第８号）に関する説明書を御覧ください。

この補正予算（第８号）の内容でございますが、この補正予算は、国において住民税均等割の課税世帯への給付及び低所得世帯への加算給付について、可能な限り速やかな給付を目指すとの方針が示されるとともに、当該給付に対応するための予備費の支出が令和５年12月22日に閣議決定されましたことから、対象世帯への迅速な支援を行うため予算措置したものでございます。

補正予算でございますので、本来は議会の議決をいただいて成立させるべきものではございますが、国の方針に沿って迅速に支援を行うため、議会を開催していただくいとまがない

中での対応をせざるを得ない状況が生じましたので、令和６年２月５日付をもちまして、地方自治法第179条第１項の規定に基づいて専決処分を行ったものでございます。

それでは、別冊の令和５年度吉田町一般会計補正予算（第８号）の１ページを御覧ください。

まず、第１条でございます。

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ8,408万4,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ143億4,920万5,000円とするものでございます。

また、第２項にございますとおり、款項区分ごとの補正額、補正後の歳入歳出予算額につきましては、２ページの第１表歳入歳出予算補正のとおりお認めいただこうとするものでございます。

以上が補正予算（第８号）の内容でございます。

引き続き、その詳細につきまして、別冊の説明書に沿って御説明いたします。

令和５年度吉田町一般会計補正予算（第８号）に関する説明書の３ページを御覧ください。

まず初めに、歳入から御説明いたします。

14款国庫支出金につきましては、8,408万4,000円の増額でございます。これは、２項10目物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金におきまして8,408万4,000円を増額するものでございます。

以上が歳入でございます。

次に、歳出について御説明いたします。

４ページを御覧ください。

３款民生費につきましては、8,408万4,000円の増額でございます。これは、１項１目社会福祉総務費におきまして8,408万4,000円を増額するもので、国の低所得世帯への支援に伴いまして、低所得世帯重点支援給付金給付事業に係る職員人件費として46万6,000円、また、低所得世帯重点支援給付金給付事業については8,361万8,000円をそれぞれ計上するものでございます。

なお、低所得世帯重点支援給付金の給付に係る経費につきましては、全額国からの補助金を財源にするものでございます。

以上が第３号議案　専決処分事項の承認を求めることについて（令和５年度吉田町一般会計補正予算（第８号）について）の内容でございます。

続きまして、第12号議案　令和５年度吉田町一般会計補正予算（第９号）について御説明申し上げます。

議案は議案書の42ページでございます。

それでは、別冊の補正予算書、令和５年度吉田町一般会計補正予算（第９号）の１ページを御覧ください。

まず、第１条でございます。歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ5,454万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ142億9,466万5,000円とするものでございます。

また、第２項にございますとおり、款項区分ごとの補正額、補正後の歳入歳出予算額につきましては、２ページから５ページまでの第１表歳入歳出予算補正のとおりお認めいただこうとするものでございます。

次に、第２条でございます。令和５年度の事業のうち、年度内に事業が終わらない見込み

があるものとして、地方自治法第213条第１項の規定に基づいて、翌年度に繰り越して使用することができる経費を、６ページに掲げる第２表繰越明許費補正のとおりとすることをお認めいただこうとするものでございます。

次に、第３条でございます。地方債の補正につきまして、７ページから８ページに掲げる第３表地方債補正のとおりお認めいただこうとするものでございます。

具体的な内容といたしまして、繰越明許費から御説明申し上げます。

６ページを御覧ください。

今回措置しようとしております繰越明許費は、全部で６事業につきまして総額１億5,511万6,000円の予算を翌年度に繰り越して使用することをお認めいただこうとするものでございます。

それでは、繰越しをお認めいただく事業費とその財源につきまして事業ごとに申し上げます。

まず、情報公開制度推進費につきましては、個人情報安全管理措置制度等対応支援業務委託料440万円を繰り越すものでございます。繰り越す財源につきましては、全額一般財源でございます。

次に、戸籍・住民基本台帳事務費につきましては、社会保障・税番号制度に係るシステム改修委託料1,545万5,000円を繰り越すものでございます。繰り越す財源につきましては、全額国庫支出金でございます。

次に、職員人件費につきましては、低所得世帯重点支援給付金給付事業に係る時間外勤務手当46万6,000円を繰り越すものでございます。繰り越す財源につきましては、全額国庫支出金でございます。

次に、低所得世帯重点支援給付金給付事業費につきましては、低所得世帯重点支援給付金の給付に係る事業費8,361万8,000円を繰り越すものでございます。繰り越す財源につきましては、全額国庫支出金でございます。

次に、新型コロナウイルスワクチン接種体制事業費につきましては、新型コロナウイルスワクチン接種に係る経費118万2,000円を繰り越すものでございます。繰り越す財源につきましては、全額国庫支出金でございます。

最後に、漁港環境整備事業費につきましては、吉田漁港多目的広場施設整備に係る工事請負費4,999万5,000円を繰り越すものでございます。繰り越す財源につきましては、県支出金と地方債、そして一般財源でございます。

なお、繰越明許費につきましては、地方自治法施行令第146条第２項に基づいて、翌年度の５月31日までに繰越計算書を調製して次に開会される議会に報告しなければならないこととなっておりますので、これらの繰越明許費につきましてもそのルールに従って御報告させていただくようにいたします。

続きまして、７ページから８ページの地方債補正につきまして御説明申し上げます。

起債につきましては、事業の実施状況に沿って、第３表に掲げる事業の起債限度額につきまして、変更及び廃止をお認めいただこうとするものでございます。この地方債の補正によりまして、起債全体の限度額は、補正前と比較して3,500万円の減額となります。

続きまして、別冊の令和５年度吉田町一般会計補正予算（第９号）に関する説明書に沿って補正予算の内容を御説明いたします。

まず初めに、歳入から御説明いたします。

説明書の３ページを御覧ください。

１款町税につきましては、１億990万円の増額でございます。まず、１項２目法人におきましては、2,720万円の増額でございます。これは法人税割額について、企業収益の増加に伴い2,720万円を増額するものでございます。

次に、２項１目固定資産税におきましては、企業の設備投資の増加に伴いまして、償却資産を8,270万円増額するものでございます。

次に、２款地方譲与税から８ページの11款交通安全対策特別交付金につきましては、いずれも県から示された決算見込みによりまして、地方譲与税及び各種県税交付金等についてそれぞれ増減するものでございます。

次に、13款使用料及び手数料につきましては、88万4,000円の減額でございます。これは、１項６目教育使用料におきまして、決算見込みにより総合体育館に係る体育館使用料88万4,000円を減額するものでございます。

９ページを御覧ください。

次に、14款国庫支出金につきましては、8,422万6,000円の減額でございます。まず、１項１目民生費国庫負担金におきましては、558万2,000円の増額でございます。これは障害者自立支援給付費負担金について、決算見込みにより558万2,000円を増額するものでございます。

次に、２目衛生費国庫負担金におきましては、6,808万3,000円の減額でございます。これは新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金について、決算見込みにより6,808万3,000円を減額するものでございます。

次に、２項１目総務費国庫補助金におきましては、1,184万7,000円の増額でございます。その内訳でございますが、まず、総務管理費補助金につきまして、官民連携基盤調査費補助金について、交付決定に伴い892万1,000円を増額するものでございます。

また、戸籍住民基本台帳費補助金につきましては、国の令和５年度補正予算に伴いまして、社会保障・税番号制度に係るシステム整備費補助金（戸籍附票システム分）292万6,000円を増額するものでございます。

次に、２目民生費国庫補助金におきましては、34万7,000円の増額でございます。これは社会福祉費補助金につきまして34万7,000円の増額で、決算見込みによりそれぞれ増減するものでございます。

次に、３目衛生費国庫補助金におきましては、301万8,000円の減額でございます。これは新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費について、決算見込みにより301万8,000円を減額するものでございます。

次に、５目土木費国庫補助金におきましては、2,936万1,000円の減額でございます。その内訳でございますが、まず、道路橋梁費補助金につきましては、交付決定に伴い、社会資本整備総合交付金2,235万8,000円を減額するものでございます。

また、都市計画費補助金につきましては700万3,000円の減額で、決算見込みによりそれぞれ増減するものでございます。

11ページを御覧ください。

次に、３項３目教育費国庫委託金におきましては、154万円の減額でございます。これは、リーディングＤＸスクール事業委託金について、決算見込み等による組替えを行うものでご

ざいまして、154万円を減額するものでございます。

続きまして、15款県支出金につきましては、4,641万2,000円の減額でございます。まず、１項１目民生費県負担金におきましては、279万1,000円の増額でございます。これは障害者自立支援給付費負担金について、決算見込みにより279万1,000円を増額するものでございます。

次に、２項１目総務費県補助金におきましては、2,232万1,000円の減額でございます。これは総務管理費補助金につきまして、静岡空港隣接地域賑わい空間創生事業費補助金について、事業の実績に伴いまして2,232万1,000円を減額するものでございます。

次に、２目民生費県補助金におきましては、17万4,000円の増額でございます。これは社会福祉費補助金につきまして17万4,000円の増額で、決算見込みによりそれぞれ増減するものでございます。

次に、４目農林水産業費県補助金におきましては、682万2,000円の減額でございます。その内訳でございますが、まず、農業費補助金につきましては688万6,000円の減額で、決算見込みによりそれぞれ減額するものでございます。

また、水産業費補助金につきましては、交付決定に伴い、漁業基盤整備事業費補助金を６万4,000円増額するものでございます。

次に、12ページから13ページにかけての５目商工費県補助金におきましては、決算見込みにより地域産業立地事業費補助金525万円を減額するものでございます。

次に、６目土木費県補助金におきましては、都市計画費補助金について455万7,000円の減額で、決算見込みによりそれぞれ増減するものでございます。

次に、７目消防費県補助金におきましては、決算見込みによる増減について補正するもので、地震・津波対策等減災交付金が295万円の減額となるものでございます。

次に、８目教育費県補助金におきましては、交付決定により学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金170万円を減額するものでございます。

次に、３項１目総務費県委託金におきましては、事業実績により静岡県議会議員選挙費委託金577万7,000円を減額するものでございます。

続きまして、16款財産収入につきましては、１万1,000円の増額でございます。これは１項２目利子及び配当金収入におきまして、当初予定しておりました金額以上の利子額を収入できることになりましたことから、ふるさとよしだ寄附金基金について１万1,000円を増額するものでございます。

次に、14ページから15ページにかけての17款寄附金につきましては、１項２目ふるさとよしだ寄附金におきまして、決算見込みによる組替えを行うものでございまして、一般寄附金を6,500万円減額するとともに、指定寄附金を6,500万円増額するものでございます。

続きまして、20款諸収入につきましては、1,327万1,000円の増額でございます。これは５項２目雑入におきまして、1,327万1,000円を増額するものでございます。その内訳でございますが、決算見込み等によりまして、総務費雑入につきましては27万2,000円を減額、衛生費雑入につきましては1,720万5,000円を増額、消防費雑入につきましては403万2,000円を減額、また、教育費雑入につきましては37万円の増額となるものでございます。

続きまして、21款町債につきましては、3,500万円の減額でございます。まず、１項５目土木債におきましては、3,250万円減額するものでございます。これは道路橋梁債について、

それぞれの事業実績に応じ3,250万円を減額するものでございます。

次に、７目教育債におきましては、250万円を減額するものでございます。これは社会教育債について、事業実績に応じて250万円を減額するものでございます。

以上が歳入でございます。

次に、歳出について御説明申し上げます。

17ページを御覧ください。

まず、１款議会費につきましては、126万7,000円の減額でございます。これは１項１目議会費におきまして、決算見込みにより126万7,000円を減額するものでございます。

続きまして、18ページを御覧ください。

２款総務費につきましては、2,342万9,000円の減額でございます。まず、１項１目一般管理費におきましては、吉田町牧之原市広域施設組合負担金（総務管理費）について、広域施設組合補正予算に伴う増額を構成市町で案分した93万8,000円を増額するものでございます。

次に、５目財産管理費におきましては、庁舎管理費について歳入における地震・津波対策等減災交付金の減額に伴う財源振替で、県支出金から一般財源への振替でございます。

次に、６目企画費におきましては、シーガーデンシティ推進事業費について、決算見込みにより設計委託料46万2,000円を減額するものでございます。

19ページを御覧ください。

次に、９目交通安全対策費におきましては、交通安全推進費について、決算見込みにより県交通安全指導員設置費負担金を12万3,000円増額するものでございます。

また、交通安全施設整備費については、歳入における社会資本整備総合交付金の減額に伴う財源振替で、国庫支出金から一般財源への振替でございます。

次に、２項２目賦課徴収費におきましては、決算見込みにより森林環境税新設に伴うシステム改修委託料165万円を減額するものでございます。

次に、３項１目戸籍住民基本台帳費におきましては、戸籍・住民基本台帳事務費について、国の令和５年度補正予算に伴いまして、社会保障・税番号制度に係るシステム改修委託料を292万6,000円増額するものでございます。なお、戸籍・住民基本台帳事務費につきましては、令和６年度に繰り越す措置を講じさせていただいております。

次に、４項３目静岡県議会議員選挙費におきましては、事業実績により577万7,000円を減額するものでございます。

次に、21ページの４目町長、町議会議員選挙費におきましては、こちらも事業実績によりまして1,941万1,000円を減額するものでございます。

また、次に、６項１目監査委員費におきましては、事業実績により11万6,000円を減額するものでございます。

23ページを御覧ください。

続きまして、３款民生費につきましては、8,095万7,000円の増額でございます。まず、１項５目心身障害者福祉費におきましては、5,036万7,000円の増額でございます。これは心身障害者自立支援事業費について、給付費の増減見込みにより福祉サービス審査支払手数料の増額のほか、扶助費をそれぞれ増減、また、過年度事業の精算に伴い、県補助金等返還金3,450万8,000円を増額するものでございます。

また、地域生活支援事業費につきましては、障害者相談支援事業委託料に係る消費税の取

扱いの変更に伴いまして454万2,000円の増額となっております。

25ページを御覧ください。

次に、７目介護保険費におきましては、決算見込みにより介護保険事業会計繰出金を337万6,000円減額するものでございます。

また、次に、２項１目児童福祉総務費におきましては、児童福祉費について過年度事業の精算に伴いまして補助金等返還金371万9,000円を増額するものでございます。

次に、３目保育所費におきましては、保育園管理について、こちらも過年度事業の精算に伴いまして補助金等返還金3,024万7,000円を増額するものでございます。

続きまして、４款衛生費につきましては、5,528万6,000円の減額でございます。まず、１項１目保健衛生総務費におきましては、災害時医療救護対策事業費について歳入における地震・津波対策等減災交付金の補正に伴う財源振替で、一般財源から県支出金への振替でございます。

次に、２目予防費におきましては、2,170万1,000円の減額でございます。これは27ページの新型コロナウイルスワクチン接種体制事業費について、決算見込みにより事業費を増減するとともに、過年度分の精算に伴い補助金等返還金を計上するものでございます。なお、新型コロナウイルスワクチン接種体制事業費につきましては、令和６年度に繰り越す措置を講じさせていただいております。

次に、３目環境衛生費におきましては、広域施設組合補正予算に伴う減額を構成市町で案分した減額補正でございまして、吉田町牧之原市広域施設組合負担金（し尿処理費）については２万3,000円を減額、また、吉田町牧之原市広域施設組合負担金（ごみ処理費）については3,386万4,000円を減額するものでございます。

次に、５目母子保健衛生費におきましては、過年度事業の精算に伴いまして母子保健衛生費補助金返還金67万6,000円を増額するものでございます。

29ページを御覧ください。

８目健康増進事業費におきましては、37万4,000円の減額で、決算見込みにより事業費を減額するとともに、過年度事業の精算に伴う返還金を計上するものでございます。

続きまして、６款農林水産業費につきましては、724万6,000円の減額でございます。まず、１項３目農業振興費におきましては、担い手育成総合対策事業費について、決算見込みにより724万6,000円を減額するものでございます。

次に、３項２目漁港管理費におきましては、漁港環境整備事業費について歳入における漁業基盤整備事業費補助金の増額に伴う財源振替で、一般財源から県支出金への振替でございます。なお、漁港環境整備事業費につきましては、令和６年度に繰り越す措置を講じさせていただいております。

31ページを御覧ください。

続きまして、７款商工費につきましては、1,500万円の減額でございます。これは１項２目商工業振興費におきまして、企業立地振興費について決算見込みによりまして1,500万円減額するものでございます。

続きまして、８款土木費につきましては、8,547万8,000円の減額でございます。まず、２項１目道路維持費におきましては、吉田町内道路舗装修繕事業費について、国庫補助金の交付決定に伴い4,230万6,000円を減額するものでございます。

次に、２目道路新設改良費におきましては、問屋堤線道路改良事業費について、決算見込みによりまして2,876万5,000円を減額するものでございます。

次に、４項１目都市計画総務費におきましては、1,440万7,000円の減額でございます。これは33ページのＴＯＵＫＡＩ－０促進事業費について、決算見込みにより1,440万7,000円を減額するものでございます。

続きまして、９款消防費につきましては、409万5,000円の減額でございます。まず、１項１目常備消防費におきましては、吉田町牧之原市広域施設組合負担金（消防費）について、広域施設組合補正予算に伴う減額を構成市町で案分した4,000円を減額するものでございます。

次に、２目非常備消防におきましては、消防団運営費について、歳入における地震・津波対策等減災交付金の補正に伴う財源振替で、一般財源から県支出金への振替でございます。

また、消防団福利厚生費につきましては、決算見込みにより424万9,000円を減額するものでございます。

次に、３目消防施設費におきましては、消防施設整備事業費について、歳入における地震・津波対策等減災交付金の補正に伴う財源振替で、一般財源から県支出金への振替でございます。

次に、５目災害対策費におきましては、15万8,000円を増額するものでございます。これは地震対策費について、決算見込み等により15万8,000円を増額、また、35ページの防災意識向上事業費については、歳入における地震・津波対策等減災交付金の補正に伴う財源振替で、一般財源から県支出金へ振替でございます。

また、情報伝達充実・強化事業費につきましては、こちらも歳入における地震・津波対策等減災交付金の補正に伴う財源振替で、一般財源から県支出金への振替でございます。

続きまして、10款教育費につきましては、1,664万5,000円の減額でございます。まず、１項３目教育諸費におきましては、133万2,000円の減額でございます。これは決算見込みにより教育振興事業費については79万2,000円を減額、また、確かな学力定着事業費については54万円を減額するものでございます。

次に、４項１目社会教育総務費におきましては、40万2,000円の減額でございます。これは決算見込みにより、社会教育委員費について40万2,000円を減額、また、地域教育推進事業費については歳入の学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金の減額に伴う財源振替で、県支出金から一般財源への振替でございます。

37ページを御覧ください。

次に、２目公民館費におきましては、494万4,000円の減額でございます。これは決算見込みにより、中央公民館運営費については389万4,000円を減額、また、地域教育活動費については105万円を減額するものでございます。

次に、４目図書館費におきましては、図書館管理費について、決算見込みにより41万5,000円を減額するものでございます。

次に、５項１目保健体育総務費におきましては、社会体育振興費について、決算見込みにより52万7,000円を減額するものでございます。

次に、２目給食施設費におきましては、902万5,000円の減額でございます。これは吉田町牧之原市広域施設組合負担金（給食施設費）について広域施設組合補正予算に伴う減額を構

成市町で案分した902万5,000円を減額するものでございます。

39ページを御覧ください。

３目体育館運営費におきましては、総合体育館運営費について、歳入における体育館使用料の減額に伴う財源振替で、使用料から一般財源への振替でございます。

最後に、13款諸支出金でございます。こちらは7,294万9,000円の増額でございます。これは２項１目基金費におきまして、財政調整基金について、今回の補正に際し、すぐに事業の財源とすることのない収入793万8,000円を財政調整基金に積み立てるための増額、また、ふるさとよしだ寄附金基金につきましては、歳入のふるさとよしだ寄附金（指定寄附金）及びふるさとよしだ寄附金基金の利子が増額となったことに伴いまして、ふるさとよしだ寄附金基金費を6,501万1,000円増額するものでございます。

以上、ただいま説明申し上げました内容が第12号議案　令和５年度吉田町一般会計補正予算（第９号）についての概要でございます。

なお、繰越明許費の補正のうち、漁港環境整備事業費につきましては、吉田漁港多目的広場施設整備に係る工事費について、年度内での事業完了が見込めないため繰越しするものでございまして、建設資機材の不足により、現在の契約工期の終期である令和６年３月15日までの工事完了が見込めない状況となり、工期を延長する必要が生じております。このため、この補正予算につきましては早期議決をお願いさせていただこうとするものでございます。

**○議長（大石　巌君）**　課長。

それでは、今説明をいただきました第12号議案、次の第15号議案につきましては、休憩の後に行いたいと思いますので、ここで暫時休憩といたします。

再開は13時といたします。よろしくお願いします。

休憩　午前１１時４７分

再開　午後　零時５５分

**○議長（大石　巌君）**　皆さんおそろいですので、会議を再開をしたいと思います。

休憩を閉じ、会議を再開いたします。

２番、増田伸介君、５番、福世義己君から欠席の届が出ております。

ただいまの出席議員数は11名であります。

それでは、午前に引き続き、各担当課長から詳細なる説明をお願いをいたします。

財政管理課長、八木邦広君。

〔財政管理課長　八木邦広君登壇〕

**○財政管理課長（八木邦広君）**　財政管理課でございます。

引き続き、第15号議案　令和６年度吉田町一般会計予算について御説明申し上げます。

議案は議案書の45ページからとなっております。

それでは、まず、議案書の46ページを御覧ください。

第１条は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ132億8,000万円とし、また、この款項区分ごとの金額は、47ページから53ページまでに掲載しております第１表歳入歳出予算のとおりお認めいただこうとするものでございます。

第２条は、債務負担行為について、54ページに掲げました第２表債務負担行為のとおりお認めいただこうとするものでございます。

第３条は、地方債について、55ページから56ページに掲げました第３表地方債のとおりお認めいただこうとするものでございます。

第４条は、一時借入金の借入れを最高額を５億円と定めることにつきましてお認めいただこうとするものでございます。

第５条は、歳出予算の各項間の金額を流用することができる経費を定めるものでございます。

以上が令和６年度吉田町一般会計予算でございます。

引き続き、その詳細につきまして、別冊の予算に関する説明書に沿って御説明いたします。

それでは、予算に関する説明書の３ページを御覧ください。

まず、歳入でございます。

１款町税につきましては、52億8,658万1,000円の計上でございます。前年度と比較してマイナス5,165万9,000円で、マイナス１％となっております。

それでは、項目ごとに御説明申し上げます。

まず、１項町民税につきましては、19億9,342万4,000円の計上でございます。前年度と比較してマイナス4,748万1,000円となっております。

その内訳でございますが、１目個人町民税は14億7,386万5,000円で、前年度比マイナス１億2,301万3,000円となっております。

現年課税分は14億5,386万5,000円、所得割額14億331万9,000円、前年度比マイナス１億1,450万1,000円でございます。これは、国の経済対策である定額減税に伴い減収となるものでございます。なお、減収分は、地方特例交付金で全額補填されます。この定額減税の影響を受け、個人町民税全体として減収を見込んでおりますが、令和５年度の課税状況につきましては、課税標準額及び納税義務者数ともに前年より増加している状況でございます。経済の回復とともに、雇用環境が改善する中で、雇用者数が今後も増加していくこと、また、所得状況につきましても増加傾向にあると判断し、令和６年度について定額減税による減税分を除けば増額と見込み、計上したところでございます。

均等割額は5,054万6,000円、前年度比マイナス851万2,000円で、これは森林環境税の新設に伴い減収となるものでございます。

滞納繰越分につきましては、現年分の徴収を強化していることもあり、過年分として繰り越される額が年々減少しているところでございます。令和５年度の決算見込みにより、前年度と同様の2,000万円を計上しております。

次に、２目法人町民税は５億1,955万9,000円で、前年度比7,553万2,000円の増でございます。現年課税分は５億1,945万9,000円、法人税割額４億1,065万9,000円、前年度比7,677万円の増額でございます。予定納税を含めた法人町民税申告の受付状況及び企業への見込み調査を行い、状況を判断し、令和５年度の課税状況に基づき計上しております。

均等割額は１億880万円、前年度比マイナス123万8,000円でございます。令和５年度の課税状況に基づき計上しております。

滞納繰越分につきましては、前年度と同様の10万円を計上しております。

続きまして、２項固定資産税につきましては、27億2,412万3,000円の計上でございます。

前年度と比較してマイナス445万8,000円となっております。その内訳でございますが、１目固定資産税は27億2,189万2,000円で、前年度比マイナス440万8,000円となっております。

土地につきましては、７月１日時点の地価調査を基に、下落修正を行うとともに、地目変更等を含め試算を行い、７億7,108万7,000円を計上しております。前年度比マイナス730万8,000円でございます。

家屋につきましては、11億8,195万5,000円、前年度比マイナス2,553万2,000円でございます。令和５年滅失処理分及び新築家屋分の減を見込み、計上しております。

償却資産につきましては、経年の減価率に企業への見込み調査結果からの新規投資分を見込むとともに、令和５年度の課税状況から判断し７億5,185万円、前年度比2,843万2,000円の増となっております。

滞納繰越分につきましては、令和５年度の決算見込みにより、前年度と同様の1,700万円を計上しております。

次に、２目国有資産等所在市町村交付金及び納付金は223万1,000円で、前年度比マイナス５万円となっております。県の算定基準を基に算定しております。

続きまして、３項軽自動車税につきましては、１億1,488万5,000円の計上でございます。前年度と比較して63万3,000円の増額でございます。その内訳でございますが、１目環境性能割は553万円で、前年度比マイナス219万5,000円となっております。令和５年度の決算見込みにより計上しております。購入台数が減っていることにより減額となっております。

次に、２目種別割は１億935万5,000円で、前年度比282万8,000円の増でございます。現年課税分は１億875万5,000円で、令和５年度の登録車両台数を基に計上しております。

滞納繰越分につきましては、前年度と同様の60万円を計上しております。

続きまして、４ページから５ページにかけての４項町たばこ税につきましては、２億1,959万6,000円の計上でございます。前年度と比較して336万2,000円の増額でございます。現年課税分２億1,959万6,000円を計上しております。前年度比336万2,000円の増でございます。過去２か年の実績等により見込み本数を算出し、計上しております。販売本数増加により増額となってございます。

続きまして、５項都市計画税につきましては、２億3,455万3,000円の計上でございます。前年度と比較してマイナス371万5,000円となっております。現年課税分は２億3,325万3,000円を計上しております。土地につきましては、１億328万円、前年度比マイナス93万円でございます。家屋につきましては、１億2,997万3,000円を計上、前年度比マイナス278万5,000円でございます。

滞納繰越分につきましては、令和５年度の決算見込みにより、前年度と同様の130万円を計上しております。

以上が１款町税でございます。

次に、２款地方譲与税につきましては１億410万円の計上でございます。これは地方財政計画の率を考慮し、１項地方揮発油譲与税として2,700万円、２項自動車重量譲与税として7,380万円を計上、また、３項森林環境譲与税といたしまして330万円を計上するものでございます。

次に、３款利子割交付金は160万円の計上でございます。これは県民税として利子等の額の５％が課税され、その収入額から事務費を控除した額の５分の３に相当する額が県から市

町村に利子割交付金として交付されるものでございます。

続きまして、７ページ、８ページを御覧ください。

４款配当割交付金は2,710万円の計上でございます。これは県民税として上場株式等の配当等の額の５％が課税され、その収入額から事務費を控除した額の５分の３に相当する額が県から市町村に配当割交付金として交付されるものでございます。

５款株式等譲渡所得割交付金につきましては、4,410万円の計上でございます。これは県民税として源泉徴収口座における上場株式等の譲渡所得金額の５％が課税され、その収入額から事務費を控除した額の５分の３に相当する額が県から市町村に株式等譲渡所得割交付金として交付されるものでございます。

次に、６款法人事業税交付金につきましては、こちらは１億2,500万円を計上しております。法人事業税交付金は、法人事業税の収入額に7.7％を乗じて得た額が県から市町村に法人事業税交付金として交付されるものでございます。

次に、７款地方消費税交付金につきましては、７億6,660万円の計上でございます。これは都道府県間における清算後の地方消費税収入額の２分の１に相当する額が市町村に交付されるものでございます。市町に対する交付は、直近の国勢調査の結果による各市町の人口と経済センサスにおいて公表された結果による各市町村の従業者数によって案分され、交付されます。

なお、別添の参考資料ナンバー９の19ページを御覧いただきますと、社会保障財源化分の内訳を計上させていただいております。総額として４億1,814万5,000円が社会保障財源化分の予算となります。

続きまして、予算に関する説明書の９ページ、10ページを御覧ください。

８款環境性能割交付金につきましては、1,740万円の計上でございます。これは県に納付された環境性能割収入額から町税費を控除した額の43％相当額が交付されるものでございます。市町への交付基準は道路の延長及び面積によって案分されます。

次に、９款地方特例交付金につきましては、１億7,223万3,000円の計上でございます。まず、１項地方特例交付金につきましては、１億7,123万3,000円の計上でございます。これは個人住民税の住宅借入金等特別税額控除に伴う減収及び個人住民税の定額減税に伴う減収を補塡するために交付されるもので、個人住民税減収補塡特例交付金として１億7,123万3,000円を計上するものでございます。

また、２項新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補塡特別交付金につきましては、100万円の計上でございます。これは生産性革命の実現に向けた固定資産税の特例措置の拡充等による減収を補塡するために交付されるもので、固定資産税減収補塡特別交付金として100万円を計上するものでございます。

次に、10款地方交付税につきましては、４億6,200万円の計上でございます。普通交付税３億6,200万円のほか、特別交付金１億円を計上しております。

続きまして、11ページ、12ページを御覧ください。

11款交通安全対策特別交付金につきましては、390万円の計上でございます。これは道路交通法第128条第１項の規定により納付されます反則金の収入相当額から通知書送付費支出金相当額等を控除した額が都道府県及び市町村に交付されるものでございます。

12款分担金及び負担金につきましては、5,703万5,000円を計上で、１項分担金として266

万2,000円、２項負担金として5,437万3,000円を計上しております。

次に、12ページから15ページにかけての13款使用料及び手数料につきましては、7,392万6,000円の計上で、１項使用料として6,151万6,000円、２項手数料として1,242万円を計上しております。

次に、16ページから20ページにかけての14款国庫支出金につきましては、12億825万4,000円の計上でございます。地域公共交通に係る地域公共交通確保維持改善事業費補助金、シーガーデン整備に係る先導的官民連携支援事業費補助金、児童手当の拡充に伴う児童手当費負担金の増額等が主な要因となりまして、前年度と比較して１億4,126万7,000円の増額でございます。国庫支出金の内訳といたしましては、１項国庫負担金として８億3,018万5,000円、２項国庫補助金として３億7,044万9,000円、３項国庫委託金として762万円を計上しております。

次に、20ページから26ページにかけての15款県支出金につきましては、９億9,032万7,000円の計上でございます。静岡空港隣接地域賑わい空間創生事業費補助金の増額が主な要因となりまして、前年度と比較して2,120万8,000円の増額でございます。県支出金の内訳といたしましては、１項県負担金として４億1,205万円、２項県補助金として５億1,448万3,000円、３項県委託金として6,379万4,000円を計上しております。

次に、27ページから28ページにかけての16款財産収入につきましては、1,251万9,000円の計上で、１項財産運用収入として521万7,000円、２項財産売払収入として730万2,000円を計上しております。

次に、28ページから29ページにかけての17款寄附金につきましては、13億250万円の計上でございます。そのうち、ふるさと納税分としてふるさとよしだ寄附金13億100万円を計上しております。

次に、18款繰入金につきましては、15億9,806万3,000円の計上でございます。その内訳といたしましては、１項特別会計繰入金として92万9,000円、２項基金繰入金として15億9,713万4,000円を計上しておりまして、合計で前年度と比較して３億5,443万2,000円の増額となっております。

次に、19款繰越金につきましては、２億円。

31ページからの20款諸収入につきましては、２億1,646万2,000円の計上でございます。

次に、36ページを御覧ください。

21款町債でございます。町債につきましては、６億1,030万円を計上するものでございます。まず、１項１目総務債につきましては、1,030万円を計上するものでございます。これは調整池修繕事業に660万円、吉田インターチェンジ周辺バスターミナル整備事業に370万円を充てる起債でございます。

次に、２目民生費につきましては、480万円を計上するものでございます。これは中央児童館空調設備改修事業に480万円を充てる起債でございます。

次に、３目農林水産業債につきましては、1,460万円を計上するものでございます。これは漁港環境整備事業に1,460万円を充てる起債でございます。

次に、36ページから37ページにかけての４目商工債につきましては、380万円を計上するものでございます。これは小山城女坂手すり整備事業に380万円を充てる起債でございます。

次に、５目土木債は、４億8,250万円の計上でございます。これは土木管理債として防潮

堤整備事業に580万円を充てる起債を計上、また、道路橋梁債として吉田町内道路舗装修繕事業に7,340万円、問屋堤線整備事業に1,400万円、大幡川幹線整備事業に1,750万円、中瀬北原１号線整備事業に350万円、谷川東塩谷線整備事業に950万円、そして、吉田町内橋梁維持補修事業に4,980万円を充てる起債を計上し、また、河川債として吉田町内河川浚渫事業に840万円、吉田町内治水対策事業に１億9,970万円、大幡川改修事業に750万円を充てる起債を計上、また、都市計画債として西の宮雨水幹線整備事業に7,870万円、中央幹線整備事業に1,050万円、能満寺山公園整備事業に420万円を充てる起債をそれぞれ計上しております。

次に、６目消防債は1,570万円の計上でございます。これは消防局庁舎改修事業に270万円、消防積載車整備事業に990万円、北区自彊館空調設備改修事業に310万円を充てる起債でございます。

次に、７目教育債は2,860万円の計上でございます。これは小中学校債として学校施設整備事業に1,920万円を充てる起債を計上し、また、社会教育債として中央公民館非常用電源整備事業に270万円、中央公民館屋上防水改修事業に670万円を充てる記載をそれぞれ計上しております。

最後に、８目臨時財政対策債でございます。これは国の地方交付税の財源不足について、国と地方との折半ルールに基づいて借入れを行う制度の下、町で地方債を発行するものでございます。制度の性格から、この起債につきましては全額一般財源となりますが、令和６年度の当町の臨時財政対策債の発行可能額は5,000万円と推計して計上しております。

以上が歳入でございます。

続きまして、歳出について御説明申し上げます。

39ページを御覧ください。

まず、１款議会費につきましては、9,670万円の計上でございます。前年度と比較してマイナス305万8,000円で、3.1％の減でございます。

42ページを御覧ください。

２款総務費につきましては、22億8,844万9,000円の計上でございます。前年度と比較して9,808万7,000円の増額で、4.5％の増でございます。その内訳でございますが、まず、１項総務管理費は19億7,201万9,000円で、前年度比9,124万5,000円、4.9％の増でございます。主な増額要因でございますが、行財政構造改革推進事業費、出納管理事務費、男女共同参画推進事業費、生活交通確保対策事業費、シーガーデンシティ推進事業費、情報化推進費の増でございます。

主な事業につきましては、45ページを御覧ください。

１目一般管理費の６の事業、行財政構造改革推進事業費では、12節に行政評価システム導入に係る委託料として電算処理委託料を計上しております。

続きまして、47、48ページを御覧ください。

４目会計管理費の３の事業、出納管理事務費では、金融機関の各種手数料の新設に対応するため、11節に窓口収納手数料、振込手数料を新たに計上しております。

50ページを御覧ください。

５目財産管理費の４の事業、公有財産管理費では、10節にみどり団地調整池修繕に係る施設・設備修繕料を計上しております。

続きまして、53ページを御覧ください。

６目企画費の４の事業、多文化共生推進事業費では、７節、８節、10節、11節、13節に初期日本語教室に係る経費として合計116万3,000円を計上、54ページ、６の事業、男女共同参画推進事業費では、男女共同参画プラン策定業務委託料を計上、７の事業、ふるさと納税推進事業費では、７節にふるさと納税謝礼代、12節にふるさと納税推進業務委託料、オンラインワンストップサービス業務委託料を計上、55ページ、８の事業、生活交通確保対策費では、12節に新しい交通実証運行業務委託料、13節に配車システム使用料を計上、56ページ、12の事業、シーガーデンシティ推進事業費では、12節に吉田公園南側エリア等シーガーデン整備に係る先導的官民連携手法調査業務を実施するための委託料として調査委託料を計上、また、吉田インターチェンジバスターミナル整備事業詳細設計に伴う発注者支援業務に係る委託料として支援業務委託料を計上、吉田インターチェンジバスターミナル整備事業詳細設計に係る委託料として設計委託料を計上、57ページ、13の事業、シティプロモーション事業費では、12節にシティプロモーション動画作成に係る動画作成業務委託料を計上しております。

60ページを御覧ください。

８目防犯対策費の３の事業、防犯対策推進費では、19節に吉田町犯罪被害者等支援条例に係る犯罪被害者遺族見舞金を計上しております。

62ページを御覧ください。

９目交通安全対策費の５の事業、交通安全施設整備費では、14節に吉田町子供の移動経路に関する交通安全プログラムに基づく通学路等における交通安全対策などに係る施設整備費を計上しております。

65、66ページを御覧ください。

11目事務改善対策費の３の事業、情報化推進費では、自治体ＤＸを推進するため、12節に自治体標準システム移行に係る業務委託料、ＣＩＯ補佐業務委託料、ガバメントクラウド運用管理業務委託料を計上しております。

68ページを御覧ください。

次に、２項徴税費は２億622万2,000円で、前年度比1,370万7,000円、7.1％の増となっております。

主な事業につきましては、70、71ページを御覧ください。

２目賦課徴収費の３の事業、賦課徴収費では12節に住民税減税に伴うシステム改修委託料及び森林環境税新設に伴うシステム改修委託料を計上しております。

同じく71ページを御覧ください。

次に、３項戸籍住民基本台帳費は8,185万4,000円で、前年度比1,112万9,000円、15.7％の増額でございます。

主な事業につきましては、73、74ページを御覧ください。

１目戸籍住民基本台帳費の３の事業、戸籍・住民基本台帳事務費では12節に標準化に係るシステム改修委託料を計上、21節にはシステム契約清算金といたしまして、クラウド化に伴うシステム契約清算金を計上しております。

74ページを御覧ください。

次に、４項選挙費は2,474万8,000円で、前年度比マイナス1,846万4,000円、42.7％の減でございます。主な減額要因は、静岡県議会議員選挙に係る経費と、吉田町長、町議会議員選挙に係る経費の減でございます。なお、１目選挙管理委員会費の３の事業、選挙管理費は自

治体ＤＸを推進するため、12節に投票管理システム標準化移行に係る業務委託料、ガバメントクラウド運用管理業務委託料を計上しております。

76ページを御覧ください。

次に、５項統計調査費は225万7,000円で、前年度比47万3,000円、26.5％の増でございます。令和５年度は、住宅・土地統計及び漁業センサスに係る経費を計上しておりましたが、令和６年度につきましては、農林業センサス及び全国家計構造調査に係る経費を計上しております。

78ページを御覧ください。

次に、６項監査委員費は134万9,000円で、前年度比マイナス3,000円、0.2％の減でございます。

79ページを御覧ください。

３款民生費につきましては、35億7,387万円の計上でございます。前年度と比較して２億672万9,000円の増額で、6.1％の増でございます。その内訳でございますが、まず、１項社会福祉費は15億3,134万9,000円で、前年度比1,094万円、0.7％の増でございます。

96ページを御覧ください。

次に、２項児童福祉費は20億4,222万1,000円で、前年度比１億9,569万6,000円、10.6％の増でございます。主な増額要因は、児童手当費、さゆり保育園運営費、児童館運営費の増でございます。

主な事業につきましては、97ページを御覧ください。

１目児童福祉総務費の３の事業、児童福祉費では、12節に令和７年度からの新たな吉田町子ども・子育て支援事業計画の策定業務委託料を計上しております。

101ページを御覧ください。

２目児童措置費の３の事業、児童手当費では、12節に児童手当システム改修に係る委託料として電算処理委託料を計上、19節に児童手当費を計上しております。

107ページから109ページを御覧ください。

３目保育所費の６の事業、さゆり保育園運営費では、民間活力を活用し、安定して給食を提供する方法として業務を委託することとしたため、12節に給食調理業務委託料を計上、14節工事請負費に施設補修として園舎の照明をＬＥＤ化するための工事費を計上しております。また、各園の修繕料には、園舎窓の遮熱対策に係る改修費をそれぞれ計上しております。

111、112ページを御覧ください。

４目児童館費の３の事業、児童館運営費では14節に中央児童館の空調設備改修に係る工事費として施設整備費を計上、112、113ページ、４の事業、放課後児童健全育成事業費では12節に放課後児童クラブの職員を確保するための委託料として人材派遣委託料を計上しております。

114ページを御覧ください。

次に、３項生活保護費は29万6,000円で、前年度比９万3,000円、45.8％の増でございます。

115ページを御覧ください。

次に、４項災害救助費では4,000円で、前年度と同額でございます。

116ページを御覧ください。

４款衛生費につきましては、20億1,405万6,000円の計上でございます。前年度と比較して

2,896万9,000円の増額で、1.5％の増となっております。

主な事業につきましては、まず、121ページを御覧ください。

２目予防費の３の事業、感染症予防費では、19節に子宮頸がんの予防接種費助成金、小児がん等による再接種費助成金、帯状疱疹ワクチン予防接種費助成金等を計上しております。

125、126ページを御覧ください。

３目環境衛生費の11の事業、吉田町環境基本計画策定事業費では、12節に令和５年度に引き続き実施いたします環境基本計画・地球温暖化防止対策計画・生物多様性地域戦略策定に係る業務委託料を計上しております。

127、128ページ、５目母子保健衛生費の３の事業、母子保健衛生費では、19節に国の伴奏型子育て相談支援に応じて拡充いたしましたよしにこ応援パッケージに係る経費として妊娠出産等応援助成金及び出産・子育て応援給付金を計上、４の事業、妊娠・出産包括支援事業費では、12節に今回アウトリーチ型を拡充いたしました産後ケア事業委託料を計上しております。

129ページを御覧ください。

６目健康づくり事業費の３の事業、健康づくり事業費では、12節に吉田町健康増進計画、食育推進計画策定に係る実態調査のための委託料として、健康増進計画策定委託料を計上しております。

133ページを御覧ください。

５款労働費につきましては、302万2,000円の計上でございます。前年度と比較してマイナス7,000円で、0.2％の減でございます。

134ページを御覧ください。

６款農林水産業費につきましては、２億9,824万5,000円の計上でございます。前年度と比較してマイナス１億7,958万5,000円で、37.6％の減でございます。その内訳でございますが、まず、１項農業費は１億956万6,000円で、前年度比マイナス１億4,096万7,000円、56.3％の減でございます。主な減額要因は、山崎頭首工の補修工事の減でございます。

主な事業につきましては、まず、139、140ページを御覧ください。

４目畜産業費の３の事業、畜産業費では18節に静岡県食肉センター再編整備事業負担金を計上しております。

５目農地費の３の事業、水門・排水機場管理費では12節に第１排水機場、大窪川元井堰、亀の尻頭首工などの点検業務に係る委託料として機械・設備器具点検委託料を計上しております。

141ページを御覧ください。

次に、２項林業費は1,149万3,000円で、前年度比202万6,000円、21.4％の増でございます。

142ページを御覧ください。

次に、３項水産業費は１億7,718万6,000円で、前年度比マイナス4,064万4,000円、18.7％の減でございます。主な減額要因は、多目的広場整備工事に係る経費の減でございます。

主な事業につきましては、143ページを御覧ください。

１目水産振興費、３の事業、水産振興費では、18節南駿河湾漁業協同組合が実施いたします船揚げ場の施設改修に係る水産業振興事業費補助金を計上しております。

145、146ページを御覧ください。

２目漁港管理費の４の事業、水産物供給基盤機能保全事業費は、14節に漁港内の航路に堆積する土砂を取り除くための港内浚渫工事費を計上、５の事業、漁港環境整備事業費では、14節に多目的広場の整備を行う漁港環境施設用地整備費及び漁港環境施設整備費を計上、６の事業、津波・高潮危機管理対策事業費では、12節に吉田漁港内のレベルⅡ津波対策に係る検討業務委託料として設計委託料を計上しております。

146ページを御覧ください。

７款商工費につきましては、１億423万4,000円の計上でございます。前年度と比較してマイナス1,990万3,000円で、マイナス16％となっております。主な減額要因は、企業立地振興費の企業立地促進事業費補助金の減でございます。

主な事業につきましては、まず、150、151ページを御覧ください。

３目観光費の３の事業、観光振興費では、12節に小山城周辺の樹木管理に係る業務委託料として樹木管理業務委託料を計上、また、14節に小山城女坂手すり設置工事に係る経費として施設整備費を計上しております。

152ページを御覧ください。

次に、８款土木費につきましては、17億7,036万1,000円の計上でございます。前年度と比較して３億1,034万6,000円の増額で、21.3％の増でございます。その内訳でございますが、まず、１項土木管理費は１億5,821万3,000円で、前年度比5,874万3,000円、59.1％の増となっております。

増額要因は、155ページを御覧ください。

１目土木総務費の４の事業、防潮堤整備事業費の増でございまして、12節に住吉工区の海岸線における防潮堤の測量設計業務に係る委託料として測量調査委託料を計上しております。

155ページを御覧ください。

次に、２項道路橋梁費は４億5,735万7,000円で、前年度比6,986万2,000円、18％の増でございます。主な増額要因は、吉田町内道路舗装修繕事業費及び橋梁維持補修費の増でございます。

主な事業につきましては、156ページを御覧ください。

１目道路維持費の４の事業、吉田町内道路舗装修繕事業費では、14節に継続事業として大幡大井川線、堤内３号線を、新規事業として中央幹線、鮒ヶ窪１号線、本田線の舗装修繕に係る道路改良費を計上しております。

156、157ページを御覧ください。

２目道路新設改良費では、継続事業として３の事業、問屋堤線道路改良事業、４の事業、大幡川幹線道路整備事業費、５の事業、中瀬北原１号線道路改良事業費、新規事業として６の事業、谷川東塩谷線道路改良事業費を計上しております。

３目橋梁維持費の３の事業、橋梁維持補修費では、12節に今回点検業務を実施する71橋のうち委託で実施する30橋の橋梁点検業務に係る調査委託料及び橋梁補修設計業務委託料、14節に４号橋、５号橋、７号橋等の補修に係る維持修繕料をそれぞれ増額計上しております。

同じく157ページを御覧ください。

次に、３項河川費は２億6,373万2,000円で、前年度比１億8,923万3,000円、254％の増でございます。主な増額要因は、治水対策推進事業費の増でございます。

主な事業につきましては、158、159ページを御覧ください。

１目河川総務費の４の事業、治水対策推進事業費では坂口谷川流域における水害対策として実施いたします第３ポンプ場の整備に係る経費として、11節の不動産鑑定評価手数料、12節の測量調査委託料、14節の施設整備費、16節の河川用地費を計上、また、湯日川流域における浸水対策に向けた稲荷川及び神戸都市下水路、神戸川の排水経路策定に係る設計委託料を計上しております。

160ページを御覧ください。

次に、４項都市計画費は８億7,454万1,000円で、前年度比459万3,000円、0.5％の増でございます。主な事業につきましては、160、161ページを御覧ください。

まず、１目都市計画総務費の３の事業、都市計画総務費では、12節に都市計画マスタープラン策定業務委託料を計上、162ページ、６の事業、ＴＯＵＫＡＩ－０促進事業費では、12節にわが家の専門家診断事業委託料を40件分から60件分に増額計上、７の事業、空き家対策事業費は、令和６年度から新たに計上するものでございます。

164ページを御覧ください。

２目土地区画整理事業費、４の事業、西の宮雨水幹線整備事業費では、用排水路改良費を計上しております。

164、165ページを御覧ください。

３目街路事業費の４の事業、中央幹線整備事業費では、14節に歩道整備に係る道路改良費、21節に電柱移転に係る道路整備関連補償費を計上しております。

166ページを御覧ください。

５目公園費の４の事業、能満寺山公園整備事業費では、16節に駐車場用地取得に係る公園用地費を計上しております。

167ページを御覧ください。

次に、５項住宅費は1,651万8,000円で、前年度比マイナス1,208万5,000円、42.3％の減でございます。減額要因でございますが、令和４年12月に火災のありました松原団地の９号棟の解体に係る経費の減でございます。

168ページを御覧ください。

９款消防費につきましては、５億211万9,000円の計上でございます。前年度と比較して4,995万8,000円の増額で、12％の増となっております。主な増額要因といたしましては、消防救急広域事業費、消防施設整備事業費、地震対策費及び情報伝達充実・強化事業費の増によるものでございます。

169ページを御覧ください。

主な事業につきましては、１目常備消防、４の事業、消防救急広域事業では、12節の事務委託料において経常的経費のほか、はしご車オーバーホール等修繕及び消防局庁舎改修工事に係る経費を増額計上しております。

171、172ページを御覧ください。

３目消防施設費の３の事業、消防施設整備事業費では、17節に消防積載車購入に係る公用車費、消防用可搬ポンプの購入に係る消防団消防用資機材費を計上しております。

173、174ページを御覧ください。

５目災害対策費の３の事業、地震対策費では、14節に住吉小学校に設置してあるマンホールトイレをかさ上げするためのマンホールトイレ改修工事費を計上、18節には一般財団法人

自治総合センターの助成である地域防災組織育成事業に係るコミュニティ助成交付金を計上、また、北区自彊館の空調機改修工事及びガラス飛散防止工事に係る防災コミュニティセンター整備事業補助金を計上。

175、176ページ、６の事業、情報伝達充実・強化事業費では、10節に同報無線親局操作卓修繕等に係る修繕料を計上しております。

177ページを御覧ください。

10款教育費につきましては、11億856万9,000円の計上でございます。前年度と比較して１億1,449万4,000円の増額で、11.5％の増となっております。その内訳でございますが、まず、１項教育総務費は２億9,427万円で、前年度比4,626万8,000円、18.7％の増となっております。主な増額要因でございますが、教育振興事業費及び確かな学力定着事業費の増でございます。

主な事業につきましては、181から184ページを御覧ください。

まず、３目教育諸費の４の事業、教育振興事業費では、７節に放課後サポート学習に係る講師謝礼金やコミュニティ・スクールに係るコミュニティ・スクールディレクター謝礼金を計上、12節には校務のＤＸ化を推進するため、サーバー設置型からクラウド型の校務支援システムに更新する校務支援システム更新業務委託料を計上。

183、184ページ、７の事業、確かな学力定着事業費では、リーディングＤＸスクール事業に係る経費として７節の講師謝礼金、８節の特別旅費、10節図書費などに合計100万円を計上しております。

185ページを御覧ください。

次に、２項小学校費は１億9,325万4,000円で、前年度比4,890万9,000円、33.9％の増でございます。主な増額要因は、中央小学校維持管理費及び自彊小学校維持管理費における施設維持修繕に係る経費の増でございます。

主な事業としては188ページから191ページを御覧ください。

１目学校管理費の４の事業、中央小学校維持管理費では、10節に小荷物専用昇降機修繕等に係る修繕料を計上、体育館屋根の雨漏りに対する改修工事に係る経費として12節に設計委託料を、14節に施設補修費を計上、191から193ページ、５の事業、自彊小学校維持管理費では、10節に小荷物専用昇降機修繕、防火扉自動閉鎖装置修繕、電話機取替え修繕等に係る修繕料を計上しております。

195ページを御覧ください。

次に、３項中学校費は8,176万8,000円で、前年度比360万2,000円、4.6％の増となっております。

199ページを御覧ください。

次に、４項社会教育費は３億41万8,000円で、前年度比345万3,000円、1.2％の増でございます。

主な事業につきましては、200ページを御覧ください。

１目社会教育総務費の３の事業、社会教育総務費では、12節に総合体育館、学習ホール、図書館に無線ＬＡＮを整備するための公衆無線ＬＡＮ整備等業務委託料を計上しております。

204、205ページを御覧ください。

２目公民館費の３の事業、中央公民館運営費では、12節に中央公民館に設置してあります

非常用電源設備の老朽化に伴い、更新するための設計業務委託料を計上、また、中央公民館の雨漏りに対応するための屋上防水工事に係る経費として11節に中央公民館屋上防水設計手数料、14節に工事請負費を計上しております。

206、207ページを御覧ください。

３目学習ホール費の３の事業、学習ホール運営費では、12節に学習ホール及び保健センターの長寿命化に係る長寿命化計画策定委託料を計上しております。

209、210ページを御覧ください。

４目図書館費の３の事業、図書館管理費では、16節に図書館用地取得に係る図書館用地費を計上しております。

213ページを御覧ください。

次に、５項保健体育費は２億3,885万9,000円で、前年度比1,226万2,000円、5.4％の増となっております。

主な事業につきましては、213ページから215ページを御覧ください。

まず、１目保健体育総務費の３の事業、社会体育振興費では、７節によしスポサークルや高齢者を対象としたシニアフィットネス教室、新規事業のノルディックウォーク教室等の開催に係る経費としてスポーツ教室指導者謝礼金を計上しております。

４の事業、体育施設・広場維持管理費では、10節に各広場及びグラウンド等の施設維持に係る経費として修繕料を増額計上しております。

219ページを御覧ください。

11款災害復旧費につきましては4,000円の計上で、前年度と同額でございます。

その内訳でございますが、まず、１項農林水産施設災害復旧費は2,000円で、前年度と同額でございます。

次に、２項公共土木施設災害復旧費は2,000円で、前年度と同額でございます。

220ページを御覧ください。

12款公債費につきましては、９億7,933万7,000円の計上でございます。前年度と比較してマイナス5,502万3,000円で、マイナス5.3％となっております。

222ページを御覧ください。

13款諸支出金につきましては、５億2,103万4,000円の計上でございます。前年度と比較して6,499万3,000円の増額で、14.3％の増でございます。

その内訳でございますが、まず、１項普通財産取得費は2,000円で、前年度と同額でございます。

次に、２項基金費は５億2,103万2,000円で、前年度比6,499万3,000円、14.3％の増でございます。

225ページを御覧ください。

14款予備費につきましては、2,000万円の計上で、前年度と同額でございます。

最後に、全体を通して人件費についてでございますが、227ページの(1)総括を御覧ください。

令和６年度は24億5,812万円、前年度比１億8,995万3,000円、8.4％の増となっております。主な増額要因は、正規職員の増員及び会計年度任用職員に対する勤勉手当の支給による増でございます。

以上が第15号議案　令和６年度吉田町一般会計予算についての概要でございます。

続きまして……

〔「議長、動議」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　はい、どうぞ。

12番、蒔田昌代君。

**○１２番（蒔田昌代君）**　トイレ休憩をお願いしたいです。

**○議長（大石　巌君）**　はい、分かりました。

それでは、暫時休憩とします。

２時10分まで、よろしいですか。

休憩　午後　１時５８分

再開　午後　２時０７分

**○議長（大石　巌君）**　それでは、休憩を閉じ、会議を再開をいたします。

出席議員数は11名であります。

引き続き、財政管理課長、お願いします。

財政管理課長、八木邦広君。

〔財政管理課長　八木邦広君登壇〕

**○財政管理課長（八木邦広君）**　財政管理課でございます。

引き続き、第16号議案　令和６年度吉田町土地取得事業特別会計予算について御説明申し上げます。

議案は議案書の57ページからとなっております。

初めに、議案書の58ページを御覧ください。

第１条は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1,502万2,000円とし、また、この款項区分ごとの金額は、59ページに掲載しております第１表歳入歳出予算のとおりお認めいただこうとするものでございます。

以上が令和６年度吉田町土地取得事業特別会計予算でございます。

引き続き、その詳細につきまして別冊の説明書に沿って御説明いたします。

それでは、令和６年度吉田町一般会計及び特別会計予算に関する説明書の一般会計予算の最終ページ、235ページの次に土地取得事業特別会計予算がございますので、そちらの１ページ、歳入歳出予算事項別明細書を御覧ください。

まず、歳入でございます。

１款財産収入につきましては、２万円を計上するものでございます。前年度と比較して1,000円の増額となっております。

次に、２款繰入金につきましては1,500万円の計上で、前年度と同額でございます。

次に、３款繰越金につきましては1,000円、また、４款諸収入につきましては1,000円をそれぞれ計上しております。こうした内容で、合計1,502万2,000円という歳入を計上しております。

続きまして、歳出でございます。

１款総務費につきましては、1,502万2,000円の計上でございます。前年度と比較して1,000円の増額となっております。

次に、２ページを御覧ください。

歳入についての詳細でございます。

１款財産収入の２万円は、土地開発基金の基金利子１万8,000円と土地売払収入2,000円でございます。

２款繰入金の1,500万円は、土地開発基金繰入金でございます。

３款繰越金の1,000円は、前年度繰越金でございます。

次に、３ページから４ページにかけての４款諸収入1,000円は、土地取得事業特別会計の普通預金における預金利子でございます。

５ページを御覧ください。

続きまして、歳出についての詳細でございます。

１款総務費の1,502万2,000円は、土地開発基金積立金２万円、用地先行取得1,500万円、そして土地開発基金への繰出金2,000円でございます。

以上が第16号議案　令和６年度吉田町土地取得事業特別会計予算についての内容でございます。

以上、財政管理課から４議案につきまして御説明させていただきました。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、続きまして、町民課長、お願いします。

町民課長、伊藤美絵君。

〔町民課長　伊藤美絵君登壇〕

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

町民課からは、第13号議案、第17号議案、第18号議案の３議案につきまして御説明申し上げます。

初めに、議案書の43ページの第13号議案　令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）につきまして御説明申し上げます。

別冊となっております令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）の１ページを御覧ください。

第１条でございますが、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,574万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３億4,474万6,000円とするものでございます。

また、第２項にありますとおり、款項の区分、当該区分ごとの金額、補正後の歳入歳出予算の金額につきましては、２ページの第１表歳入歳出予算補正のとおりお認めいただこうとするものでございます。

引き続き、その詳細につきまして御説明させていただきます。

別冊の令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）に関する説明書を御覧ください。

初めに、２ページの歳入でございます。

１款後期高齢者医療保険料は1,574万8,000円の増額でございます。後期高齢者医療広域連合での保険料の確定に伴い、増額をするものでございます。

続きまして、３ページの歳出でございます。

１款後期高齢者医療広域連合納付金は1,574万8,000円の増額でございます。さきの歳入の保険料の補正を受けまして、後期高齢者医療広域連合への納付金を同額増額するものでございます。

以上が第13号議案　令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）の内容でございます。

続きまして、議案書の60ページから63ページの第17号議案　令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計予算につきまして御説明申し上げます。

議案書の61ページを御覧ください。

第１条で、歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ26億8,263万5,000円と定め、同条第２項の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、62ページ及び63ページの第１表歳入歳出予算によること、また、第２条の地方自治法第220条第２項ただし書の規定により、保険給付費における同一款内での各項の間の流用ができることをお認めいただこうとするものでございます。

では、引き続きその詳細を別冊となっております予算に関する説明書により御説明させていただきます。

予算に関する説明書の吉田町国民健康保険事業特別会計を御覧いただきたいと存じます。

それでは、歳入から御説明申し上げます。

２ページ及び３ページの１款国民健康保険税は、５億6,551万7,000円の計上でございます。過去５年間の決算額の伸び率等により計上した結果、被保険者数の減少により前年度と比較して2,121万6,000円、率にして3.6％の減額でございます。

次に、４ページの２款使用料及び手数料は、督促手数料の10万円の計上でございます。

次の３款国庫支出金は、災害臨時特例補助金1,000円の計上でございます。

次に、５ページの４款県支出金は、19億2,751万5,000円の計上でございます。県から交付され、歳入歳出予算の保険給付費に充当される普通交付金と保険者努力支援分等の特別交付金でございます。

次に、５款財産収入は、基金利子４万1,000円の計上でございます。

次に、６ページの６款繰入金は１億6,447万円の計上でございます。１項１目一般会計繰入金は、国民健康保険税の軽減分に充当される保険基盤安定繰入金や出産育児一時金等繰入金などの法定内の繰入れでございます。

また、２項１目国民健康保険事業基金繰入金は、国保財政の不足分を補うため3,200万円の計上でございます。

次に、７ページの７款繰越金は1,000万円の計上でございます。

次に、８ページ及び９ページの８款諸収入は、1,499万1,000円で、延滞金、預金利子のほか、返納金等の雑入の計上でございます。

続きまして、歳出につきまして御説明申し上げます。

10ページを御覧ください。

１款総務費は1,276万4,000円の計上でございます。内訳としましては、１項総務管理費852万3,000円、11ページの２項徴収費393万7,000円、12ページの３項運営協議会費30万4,000円でございます。いずれも補助事業分を除き、一般会計から職員給与費等繰入金として充当されるものでございます。

次に、13ページから18ページにかけての２款保険給付費は、18億8,879万9,000円の計上でございます。過去の決算額及び本年度の決算見込みを踏まえた結果、前年度と比較して172万6,000円の増額でございます。内訳でございますが、13ページ及び14ページの１項療養諸費は、16億3,727万2,000円で、療養給付費、療養費、審査支払手数料でございます。

14ページから16ページにかけての２項高額療養費は、２億4,227万2,000円で、高額療養費と高額介護合算療養費でございます。

16ページの３項移送費は、10万1,000円の計上でございます。

以上の１項療養諸費から３項移送費までにつきましては、全額県から普通交付金として充当されるものでございます。

次に、17ページの４項出産育児諸費は、700万3,000円の計上でございます。

また、５項葬祭諸費は215万円の計上で、４項の出産育児諸費とともに過去の実績から件数を推計し、計上しております。

次に、18ページの６項傷病手当諸費は、1,000円の計上でございます。

次に、19ページから21ページにかけての３款国民健康保険事業費納付金は、７億2,760万2,000円の計上でございます。県が所得水準や医療費指数を基に算定し、各市町が県に納付するもので、被保険者数の減少等により、前年度と比較して6,010万1,000円の減額でございます。

次に、21ページの４款共同事業拠出金と22ページの５款財政安定化基金拠出金は、ともに1,000円の計上でございます。

次に、23ページ及び24ページの６款保健事業費は、3,256万5,000円の計上でございます。内訳でございますが、１項保健事業費は、医療費通知等の発送や人間ドックの助成事業などを実施するため、947万7,000円の計上でございます。

２項の特定健康診査等事業費は、未受診者への勧奨通知の発送に加え、健診対象年齢前の年代にも引き続き受診を実施するため、2,308万8,000円の計上でございます。

次に、25ページの７款基金積立金は、４万1,000円の計上でございます。

次に、25ページから28ページにかけての８款諸支出金は、1,586万2,000円の計上でございます。所得更正などによる保険税の還付金や交付金の償還金の計上でございます。

最後に、28ページの９款予備費は、500万円の計上でございます。

以上が第17号議案　令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計予算の内容でございます。

続きまして、議案書の64ページから66ページの第18号議案　令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計予算につきまして御説明申し上げます。

議案書の65ページを御覧ください。

第１条で、歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ４億304万円と定め、同条第２項で款項の区分及び当該区分ごとの金額は、66ページの第１表歳入歳出予算のとおりとすることをお認めいただこうとするものでございます。

では、引き続き別冊となっております予算に関する説明書の吉田町後期高齢者医療事業特別会計の２ページを御覧いただきたいと存じます。

それでは、歳入から御説明申し上げます。

１款後期高齢者医療保険料は３億4,217万8,000円の計上でございます。被保険者数の増加に伴い、前年度と比較して6,692万7,000円、率にして24.3％の増額でございます。増額の要

因といたしましては、静岡県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の一部改正により、保険料率が改定されたことに伴い増額するものでございます。

次に、２款使用料及び手数料は、保険料の督促手数料等で２万1,000円の計上でございます。

次に、３ページの３款繰入金は、5,943万円の計上でございます。低所得世帯と社会保険被扶養者に対する均等割額の減額分を一般会計から保険基盤安定繰入金として繰り入れるものでございます。

次に、４款繰越金は1,000円の計上でございます。

次に、４ページ及び５ページの５款諸収入は、141万円の計上でございます。所得更正などにより被保険者に保険料を還付するため、後期高齢者医療広域連合から町へ返還していただくための還付金の予算計上が主なものでございます。

続きまして、歳出につきまして御説明申し上げます。

６ページを御覧ください。

１款後期高齢者医療広域連合納付金は４億160万8,000円の計上でございます。歳入の１款の被保険者から納付していただいた保険料と、３款の一般会計から繰り入れた均等割額の減額分を後期高齢者医療広域連合へ納付するものでございます。

次に、７ページ及び８ページの２款諸支出金は、140万6,000円の計上で、保険料の還付金等でございます。

最後に、８ページの３款予備費は、２万6,000円の計上でございます。

以上が第18号議案　令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計予算の内容でございます。

町民課から提出いたしました３議案についての説明は以上でございます。御審議のほどよろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、続きまして、福祉課長、お願いします。

福祉課長、増田稔生子君。

〔福祉課長　増田稔生子君登壇〕

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

福祉課からは、第５号議案、第９号議案、第14号議案、第19号議案の４議案につきまして御説明申し上げます。

初めに、議案書の５ページから８ページ、第５号議案　吉田町介護保険条例の一部を改正する条例の制定につきまして御説明申し上げます。

本議案は第９期介護保険事業計画期間中の介護保険料について、介護保険法施行令の一部を改正する政令及び介護保険法施行規則等の一部を改正する省令により、第１号保険料の標準段階の多段階化及び介護保険料の段階判定に必要となる基準所得金額が改定されたことに伴い、計画に基づき算定された基準額と国が示す標準段階及び基準所得金額に合わせた令和６年度から令和８年度までの３年間の介護保険料を定めるため、吉田町介護保険条例の一部を改正することをお認めいただこうとするものでございます。

改正内容につきましては、参考資料ナンバー２の新旧対照表を御覧ください。

初めに、１ページの第２条保険料率でございますが、第１項中の令和３年度から令和５年度までを、令和６年度から令和８年度までと改め、計画に基づき各年度における保険料基準

額を月額5,250円、年額６万3,000円に定め、第１号被保険者の区分を第10段階から第13段階に改め、区分に応じ、それぞれ各号に定めるものでございます。

第９期の保険料につきましては、第９期計画中に団塊の世代が全員75歳になる令和７年を迎え、さらに、高齢者人口がピークとなる令和22年を見据えると、85歳以上人口が急増し、多様なニーズのある要介護高齢者の増加や、生産年齢人口の急減が見込める中において、国や県の動向を踏まえつつ、近年の給付費の推移や推計人口等から導かれる介護需要を踏まえ、基金を活用して３年間運用できるよう算定いたしました。

また、介護保険料の標準段階と段階判定に必要となる基準所得金額につきましては、国の改正において、第１号被保険者間での所得再分配機能を強化することで、低所得者の保険料上昇の抑制を図るために、高所得者の標準乗率の引上げ、低所得者の標準乗率の引下げ等が行われることを踏まえ、当町においても現行の10段階から13段階に改めるとともに、国の示す標準乗率による各段階の保険料を定めることとし、３ページからの第１項第９号から第12号にあります第９から第12段階までの区分となる合計所得金額をそれぞれ420万円、520万円、620万円、720万円と定めるものでございます。

戻っていただきまして、１ページからの第６号のアの合計所得金額につきましては、第９期計画期間以後の保険料に係る所得段階の算定において、平成30年度税制改正による特例措置は継続されないことから、所要の改正を行うものでございます。

４ページを御覧ください。

第２項から第４項では、第１段階から第３段階までにおきまして、公費による軽減措置を実施することを規定するものでございます。

次に、第４条は、新たに保険料の年額端数処理についての規定を加え、５ページの第３条を第４条、第４条を第５条と改め、第５条の第３項では介護保険料の判定基準となる合計所得金額及び所得段階の変更に伴い、賦課期日後において、第１号被保険者の資格取得、喪失があった場合について、所要の改正を行うものでございます。

７ページの附則により、この条例は、令和６年４月１日から施行するものとし、経過措置として、改正後の介護保険条例第２条、第３条、第５条第３項の規定は、令和６年度以降の保険料について適用し、令和５年度分までの保険料については、なお従前の例によることとするものでございます。

以上が第５号議案　吉田町介護保険条例の一部を改正する条例の制定についての内容でございます。

次に、議案書の15ページから34ページ、第９号議案　指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定につきまして御説明申し上げます。

本議案は令和６年１月25日に、指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令が公布され、令和６年４月１日から施行されることに伴い、関係する４条例を一括して所要の改正を行うことをお認めいただこうとするものでございます。

この改正省令につきましては、令和６年度の介護報酬に係る改定に合わせ所要の改正を行うもので、今回の介護報酬の改定の概要は、人口構造や社会経済状況の変化を踏まえ、地域包括ケアシステムの深化・推進、自立支援・重度化防止に向けた対応、良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり、制度の安全性、持続可能性の確保を基本的

な視点として報酬改定が行われるものでございます。
改正内容につきましては、参考資料ナンバー６の新旧対照表を御覧ください。
主な改正点について説明させていただきます。
初めに、１ページを御覧ください。
第１条、吉田町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正でございます。
６ページを御覧ください。
第６条の９などに、身体的拘束等の適正化を推進する観点から、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならないこと、また、身体的拘束等を行う場合の記録を義務づけることを追加しております。なお、この改正点につきましては、４条例に共通することから、それぞれ所要の改正を行うものでございます。
次に、34ページを御覧ください。
第２条吉田町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正でございます。
36ページを御覧ください。
第33条などに、事業所運営規定の概要等の重要事項を書面掲示に加え、原則としてウェブサイトに掲載することを追加しております。なお、この改正点につきましても４条例に共通することから、それぞれ所要の改正を行うものでございます。
また、41ページの第54条第３項及び第64条の２などに多機能系サービスについて共通する改正点として、身体的拘束等の適正化のための措置を義務づけるとともに、介護現場の生産性の向上を図る観点から、利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置を義務づけることを追加するものでございます。
さらに、43ページの第84条などに、居住系サービス及び施設系サービスについて、協力医療機関等との連携体制の構築のための見直しがされ、施設内で対応可能な医療の範囲を超えた場合に適切な医療を提供するため、一定の要件を満たす協力医療機関を定めるように努め、協力医療機関とは、年１回以上、入所者の病状急変時などの対応を確認し、指定を行った市町村長に届け出ることを規定するとともに、新興感染症の発生時等に事業所内の感染者への診療等を迅速に対応できる体制を平時から構築するための規定を追加するものでございます。
次に、45ページを御覧ください。
第３条、吉田町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法等に関する基準を定める条例の一部改正でございます。
第４条、46ページの第５条などでは、介護予防支援の円滑な実施を図るため、指定居宅介護支援事業所が介護予防支援の指定を受けられるようになることから、所要の規定の追加を行っております。
また、50ページの第32条第17号アでは、指定介護予防支援の提供に当たって、人材の有効活用及び指定居宅サービス事業者との連携促進によるケアマネジメントの質の向上の観点から、テレビ電話装置等を活用したモニタリングを行うことを可能とするための要件を追加するものでございます。

次に、51ページを御覧ください。

第４条、吉田町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部改正でございます。

52ページの第４条では、基本方針における取扱い件数との整合性を図る観点から、指定居宅介護支援事業所ごとに１人以上の常勤の介護支援専門員を置くことが必要となる人員基準について見直し、介護支援専門員１人当たりの取扱い件数を改めるものでございます。

58ページからの附則により、この条例は、令和６年度４月１日から施行することと規定しております。ただし、省令に合わせ、重要事項の掲示に係る事項、59ページの身体的拘束等の適正化に係る事項については令和７年３月31日まで、また、利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置に係る事項と、協力医療機関との連携に関する事項については、令和９年３月31日まで経過措置を設けるものでございます。

以上が第９号議案　指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定についての内容でございます。

次に、議案書の44ページ、第14号議案　令和５年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第２号）につきまして御説明申し上げます。

別冊の令和５年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第２号）及び補正予算（第２号）に関する説明書を御覧ください。

初めに、補正予算（第２号）の１ページを御覧ください。

第１条でございますが、歳入歳出の総額から歳入歳出それぞれ1,938万4,000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ22億991万7,000円とするものでございます。

また、第２項では、款項区分の補正額、補正後の歳入歳出予算額につきまして、２ページの第１表歳入歳出予算補正のとおりお認めいただこうとするものでございます。

引き続き、その詳細について説明させていただきます。

今回の補正は、地域支援事業費を実績見込みにより補正するとともに、国庫支出金など歳入の予算を法定負担割合により併せて補正するものでございます。

別冊の補正予算（第２号）に関する説明書の２ページを御覧ください。

２の歳入から御説明申し上げます。

３款国庫支出金は547万5,000円の減額でございます。２項２目及び３目の地域支援事業国庫補助金を減額するものでございます。

４款支払基金交付金は689万円の減額でございます。１項２目地域支援事業支援交付金を減額するものでございます。

次に、３ページの５款県支出金は337万6,000円の減額でございます。２項１目及び２目の地域支援事業補助金を減額するものでございます。

次に、４ページを御覧ください。

７款繰入金は337万6,000円の減額でございます。１項２目及び３目の一般会計からの地域支援事業繰入金を減額するものでございます。

９款諸収入は26万7,000円の減額でございます。介護予防・生活支援サービス支援事業の利用者負担による雑入を実績見込みにより減額するものでございます。

次に、６ページを御覧ください。

３の歳出について御説明申し上げます。

３款基金積立金は736万8,000円の増額でございます。

次に、６ページから９ページにかけての４款地域支援事業費は、2,675万2,000円の減額でございます。介護予防・生活支援サービス事業及び包括的支援・任意事業の実績見込みによる減額でございます。

以上が第14号議案　令和５年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第２号）の内容でございます。

次に、議案書の67ページから70ページ、第19号議案　令和６年度吉田町介護保険事業特別会計予算について御説明申し上げます。

初めに、議案書の68ページを御覧ください。

第１条でございますが、歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ22億456万6,000円と定め、同条第２項の歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、69ページ及び70ページの第１表歳入歳出予算によることとし、第２条の地方自治法第220条第２項のただし書の規定により、保険給付費における同一款内での各項間の流用ができることをお認めいただこうとするものでございます。

それでは、その詳細を別冊の予算に関する説明書により説明させていただきます。

予算に関する説明書の吉田町介護保険事業特別会計１ページを御覧ください。

令和６年度は、第９期吉田町介護保険事業計画の初年度に当たり、予算案につきましては、計画に沿った内容となっております。前年度の当初予算と比較しまして、総額で6,563万1,000円増、率にして3.07％の増となっております。

２ページを御覧ください。

２の歳入から御説明申し上げます。

１款保険料は、第１号被保険者保険料で５億1,369万7,000円の計上でございます。第９期の保険料は、第１号被保険者の保険料基準額を月額5,250円、区分を第13段階と設定いたしました。保険料の内訳は、特別徴収保険料が４億6,851万5,000円、普通徴収保険料が4,424万8,000円、滞納繰越分が93万4,000円でございます。

２款使用料及び手数料は３万1,000円の計上で、督促手数料等でございます。

次に、３ページ及び４ページを御覧ください。

３款国庫支出金は４億3,707万9,000円で、介護給付費国庫負担金、財政調整交付金、地域支援事業国庫補助金、事務費交付金は、それぞれ法定負担割合等により計上させていただいております。保険者機能強化推進交付金、介護保険保険者努力支援交付金は、国の交付見込額により計上させていただいております。

次に、５ページを御覧ください。

４款支払基金交付金は５億6,029万4,000円の計上で、介護給付費交付金及び地域支援事業支援交付金として交付される第２号被保険者の負担分でございます。

次に、６ページを御覧ください。

５款県支出金は３億1,645万9,000円で、介護給付費県負担金、地域支援事業補助金を法定負担割合により計上させていただいております。

次に、７ページを御覧ください。

６款財産収入は２万8,000円の計上で、介護給付費準備基金利子でございます。

次に、７ページから９ページにかけての７款繰入金は、３億7,166万8,000円の計上で、介護給付費、地域支援事業費に対しての一般会計からの法定割合による繰入金と、事務費繰入金、低所得者保険料軽減繰入金、介護給付費準備基金からの繰入金でございます。

９ページの８款繰越金は、100万円の計上で、前年度繰越金でございます。

10ページ及び11ページの９款諸収入は、431万円の計上で、地域支援事業の利用料が主な収入でございます。

以上が歳入でございます。

続きまして、３の歳出について御説明申し上げます。

12ページから15ページにかけての１款総務費は、4,627万6,000円の計上でございます。介護保険事業運営に係る必要な経費として総務管理費、徴収費、介護認定審査会費、趣旨普及費及び介護保険運営協議会費を計上しており、介護認定審査会事業費の榛原病院介護認定審査事務運営負担金が主なものでございます。

次に、15ページから18ページにかけての２款保険給付費は、19億8,783万円の計上でございます。１項介護給付費は、居宅介護サービスや地域密着型介護サービス、施設介護サービスなど介護サービスに係る給付費、16ページからの２項高額介護サービス等諸費は、サービス利用者が一定の上限額を超えたときに支払われる給付費でございます。

17ページの３項は審査支払手数料、18ページの４項特定入所者介護サービス等費は、低所得者が施設サービスで支払った食費や居住費に対して限度額を超えた分を支給するものでございます。介護保険給付費につきましては、いずれも第９期介護保険事業計画に沿った給付見込額を計上させていただいております。

次に、19ページを御覧ください。

３款基金積立金は２万8,000円の計上で、介護給付費準備基金への積立金でございます。

次に、19ページから26ページにかけての４款地域支援事業費は、１億6,350万2,000円の計上でございます。内容は、介護予防・生活支援サービス事業費、包括的支援・任意事業費、一般介護予防事業費及びその他諸費で、主な事業は運動器の機能向上事業委託料、介護予防・生活支援サービス給付費、包括支援センター運営事業委託料でございます。

次に、26ページを御覧ください。

５款保健福祉事業費は400万1,000円の計上でございます。高齢者の自立支援、重度化防止に関する取組として、高齢者移動支援事業、独り暮らし高齢者等緊急通報システム事業、ワンコインサービス事業などに係る事業費でございます。

次に、27ページから28ページにかけての６款諸支出金は、192万9,000円の計上で、保険料の還付金及び補助金等の返還金、一般会計繰出金でございます。

最後に、29ページの７款予備費は、100万円の計上でございます。

以上が第19号議案　令和６年度吉田町介護保険事業特別会計予算の内容でございます。

以上が福祉課からの４議案についての説明でございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、続きまして、産業課長、お願いします。

産業課長、山脇一浩君。

〔産業課長　山脇一浩君登壇〕

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

産業課からは、議案書の９ページ、10ページにあります第６号議案　吉田漁港管理条例の一部を改正する条例の制定についての１議案について説明申し上げます。

本議案は近年の水産物の消費の減少等に対応して、漁港の有効活用を通じた水産業の健全な発展及び水産物の安定供給を図るため、長期的かつ計画的な漁港施設等の活用を図る事業の実施を推進する制度を創出するなどの措置が必要であることから、漁港漁場整備法及び水産業協同組合法の一部を改正する法律が令和５年５月26日に公布され、令和６年４月１日から施行されることに伴い、法律名等が改正されたため、所要の改正を行うものでございます。

また、漁港の有効活用を図るため、占用期間についても改めるものでございます。

改正内容については、参考資料ナンバー３を御覧ください。

第１条は、法律名である漁港漁場整備法を「漁港及び漁場の整備等に関する法律」に改めるものでございます。

第14条第４項は、工作物の設置を目的とする占用許可の期間を３年から10年に改めるものでございます。

第18条第１項は、「採取又は」を「採取若しくは」に改めるとともに、土砂採取料等を徴収するものに、法第43条第４項に規定する認定計画実施者を追加するものでございます。

また、附則により、この条例は、令和６年４月１日から施行するものでございます。

以上が第６号議案の説明でございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**○議長（大石　巌君）**　続きまして、建設課長、お願いします。

建設課長、栁原真也君。

〔建設課長　栁原真也君登壇〕

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

建設課からは、第22号議案、第24号議案、第25号議案の３議案について御説明申し上げます。

初めに、第22号議案　令和５年度農業基盤整備促進事業山崎頭首工改修工事請負契約の締結について御説明申し上げます。

議案書の73ページ、74ページ及び参考資料ナンバー12を御覧ください。

本議案は地方自治法第234条の規定に基づき、一般競争入札に付した令和５年度農業基盤整備促進事業山崎頭首工改修工事につきまして、契約の金額を１億890万円、契約の相手方を静岡県榛原郡吉田町大幡2130番地、大石建設株式会社代表取締役、大石真也とする請負契約を締結するため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定により、議会の議決をお認めいただこうとするものでございます。

参考資料ナンバー12の１ページを御覧ください。

入札結果表でございます。

令和６年２月７日午前10時から吉田町役場２階町民ホールにおきまして、１者による制限つき一般競争入札が執行されました。入札の結果、大石建設株式会社が9,900万円で落札し、２月９日、落札額に消費税及び地方消費税相当額である10％を加えた金額の１億890万円で仮契約をしております。

続いて、参考資料の２ページ、工事等概要書を御覧ください。

工事名は、令和５年度農業基盤整備促進事業山崎頭首工改修工事、工事箇所は、吉田町片

岡地先でございます。

工事の内容につきましては、参考資料の３ページから６ページの図面も併せて御覧ください。

今回の工事は、湯日川にかかる山崎橋下流に設置してあります頭首工の改修を行うもので、大型土のうによる仮設の通路及び坂路を設置し、仮締切による水替えを行い、老朽化したゴム引布製起伏ゲート設備の撤去・更新を行うものでございます。

なお、本工事の工期につきましては、令和６年３月25日から令和７年２月28日までと設定しております。

次に、第24号議案　町道の路線廃止について御説明申し上げます。

議案書の76ページ、77ページ及び参考資料ナンバーの14ページを御覧ください。

本議案は道路法第10条第３項の規定に基づき、町道の路線を廃止しようとするもので、神戸地内の未利用となっている１路線の廃止をお認めいただこうとするものでございます。

提出議案77ページの一覧表と、参考資料ナンバー14の位置図と公図写しを併せて御覧ください。

路線番号は5086、敬満伝兵島線は延長178.3メートル、幅員が1.8メートルから２メートルでございます。

次に、第25号議案　町道の路線認定について御説明申し上げます。

議案書の78ページ、79ページ及び参考資料ナンバー15を御覧ください。

本議案は道路法第８条第２項の規定に基づき、町道の路線を認定しようとするもので、民間の宅地造成工事に関連し、築造された道路１路線の認定をお認めいただこうとするものでございます。

提出議案79ページの一覧表と、参考資料ナンバー15の位置図と公図写しを併せて御覧ください。

路線番号2177、小山４号線は延長109.2メートル、幅員が６メートルから10.2メートルでございます。

以上が建設課からの３議案の説明でございます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、続きまして、上下水道課長、お願いします。

上下水道課長、内田宏一君。

〔上下水道課長　内田宏一君登壇〕

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

上下水道課からは、第８号議案、第20号議案、第21号議案につきまして説明申し上げます。

初めに、議案書の13ページを御覧ください。

第８号議案　吉田町上水道事業給水条例及び吉田町布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例の制定につきまして説明申し上げます。

本議案は生活衛生等関係行政の機能強化のための関係法律の整備に関する法律が令和５年５月26日に公布され、令和６年４月１日から水道法等に関する権限が厚生労働大臣から国土交通大臣及び環境大臣に移管されることを受け、町の２つの条例についても改正を行うものでございます。

それでは、改正の内容につきまして、参考資料を基に説明申し上げます。

参考資料ナンバー５を御覧ください。

第１条、吉田町上水道事業給水条例の一部改正は、第５条中にある厚生労働省令を国土交通省令に、第33条第２項ただし書中にある厚生省令を国土交通省令に、第36条の第１号中にある厚生労働省令を国土交通省令にそれぞれ改めるものでございます。

次に、第２条、吉田町布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部改正は、第４条第６号中にある厚生労働大臣を国土交通大臣に改めるものでございます。

また、附則により、この条例の施行は、令和６年４月１日と規定しております。

続きまして、議案書つづり71ページ、第20号議案　令和６年度吉田町水道事業会計予算についてでございます。

別冊の令和６年度吉田町水道事業会計予算の１ページを御覧ください。

第１条は、総則でございます。

第２条は、業務の予定量でございます。給水戸数は１万4,179件、年間総配水量は450万立方メートル、１日平均配水量は１万2,329立方メートルを予定しております。主要な建設改良事業は、基幹管路耐震化事業費として7,302万9,000円、水道施設更新事業として１億2,533万5,000円でございます。

第３条は、収益的収入及び支出の予定額でございます。収入の第１款水道事業収益は６億916万8,000円、支出の第１款の水道事業費用は５億9,457万1,000円でございます。

第４条は、資本的収入及び支出の予定額でございます。収入の第１款資本的収入は１億2,666万4,000円、支出の第１款資本的支出は４億6,574万3,000円でございます。また、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額３億3,907万9,000円は、減債積立金1,000万円、建設改良積立金5,000万円、過年度分消費税資本的収支調整額2,778万7,000円、過年度分損益勘定留保資金7,889万3,000円、当年度分損益勘定留保資金１億7,239万9,000円で補塡するものでございます。

２ページを御覧ください。

第５条は、企業債として起債の目的を建設改良事業、限度額を１億円などとして措置するものでございます。

第６条は、一時借入金として限度額を2,000万円とするものでございます。

第７条は、予定支出の各項の経費の金額の流用として、(1)及び(2)のとおり。

第８条は、議会の議決を経なければ流用することのできない経費として、職員給与費を5,967万5,000円と定めるものでございます。

第９条は、棚卸資産購入限度額を658万1,000円とするものでございます。

以上、令和６年度吉田町水道事業会計予算の内容をお認めいただこうとするものでございます。その内容について、参考資料ナンバー10の１、令和６年度吉田町水道事業会計予算附属書類により、主なところを中心に説明申し上げます。

１ページを御覧ください。

令和６年度吉田町水道事業会計予算実施計画の収益的収入及び支出でございます。

まず初めに、水道事業収益でございます。

営業収益の給水収益は５億4,034万6,000円で、水道料金の算出根拠の基となる有収水量に供給単価を乗じて算出したものでございます。受託工事収益は110万円で、消火栓の修繕で

ございます。
次に、営業外収益の長期前受金戻入は5,890万8,000円で、建設改良事業などの償却資産の取得、改良のために交付された補助金などを収益化した金額でございます。
次に、水道事業費用でございます。
営業費用の原水浄水及び配水給水費は１億9,281万8,000円で、職員人件費、委託料や水道施設の修繕費、動力費などでございます。受託工事費は170万円で、消火栓の修繕などでございます。業務費は6,362万6,000円で職員人件費、料金システム使用料、収納業務委託の委託料などでございます。総係費は2,892万1,000円で、職員人件費、貸倒引当金繰入額などでございます。減価償却費は２億4,837万9,000円で、配水管などの構築物、電気設備などの機械及び装置などの減価償却費でございます。資産減耗費は998万8,000円で、配水管等の布設替え工事による除却費でございます。
次に、営業外費用の支払利息及び企業債取扱諸費は3,253万9,000円で、企業債の利息でございます。消費税は1,540万5,000円でございます。
２ページを御覧ください。
まず初めに、資本的収入でございます。
企業債は１億円で、建設改良事業に係る起債でございます。他会計出資金は632万5,000円で、消火栓の設置費でございます。国庫（県）支出金は1,163万8,000円で、静岡県生活基盤施設耐震化等補助金でございます。その他資本的収入の加入分担金870万1,000円は、量水器出庫に伴い、給水申込者から徴収するものでございます。
次に、資本的支出でございます。
建設改良費は３億1,428万9,000円で、委託料と工事請負費などでございます。企業債償還金は１億5,039万6,000円で、企業債の元金を償還計画に基づいて償還する費用でございます。
最後に、棚卸資産購入限度額でございます。量水器購入限度額は60万9,000円、薬品購入限度額は219万2,000円、材料購入限度額は378万円とするものでございます。
３ページを御覧ください。
令和６年度吉田町水道事業会計予定キャッシュ・フロー計算書でございます。
１の業務活動においては１億9,412万7,000円の現金が増える予定でございます。また、２の投資活動においては２億6,734万3,000円、３の財務活動においては4,407万円の現金がそれぞれ減る予定で、この結果、令和６年度は１億1,728万6,000円の現金が減り、令和６年度の資金期末残高は３億7,105万6,000円となる予定でございます。
４ページから６ページは給与費明細書でございます。
７ページは、令和５年度吉田町水道事業会計予定損益計算書でございます。
下から４行目の当年度純利益は697万7,000円を予定しております。
８ページ、９ページは令和５年度吉田町水道事業会計予定貸借対照表でございます。こちらは今年度末における水道事業の財政状況を示すものでございます。
10ページ、11ページは令和６年度吉田町水道事業会計予定貸借対照表でございます。
10ページの２の流動資産の現金預金については、先ほどのキャッシュ・フロー計算書で説明したように３億7,105万6,000円でございまして、資産合計として71億1,690万9,000円を予定しております。
11ページの３の固定負債の企業債については17億4,690万5,000円でございまして、負債合

計として32億9,675万6,000円と予定しております。

７の(2)の利益剰余金の当年度未処分利益剰余金は6,095万1,000円でございまして、資本合計として38億2,015万3,000円と予定しております。

12ページは、注記として重要な会計方針、予定貸借対照表等関連などを記載してございます。

13ページから17ページまでは先ほど御説明いたしました実施計画明細書でございます。

続きまして、参考資料ナンバー10の２、令和６年度吉田町水道事業会計予算資料について御説明申し上げます。

１ページは、予算実施計画明細書比較でございます。

２ページは、企業債の概況でございます。

３ページは、令和６年度当初の資本的支出補塡財源でございます。

４ページから６ページまでは、令和６年度水道事業主要工事一覧表と工事箇所図でございます。

以上が第20号議案の説明でございます。

続きまして、議案書つづり72ページ、第21号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算について説明申し上げます。

別冊の令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算の１ページを御覧ください。

第１条は、総則でございます。

第２条は、業務の予定量でございます。年間総処理水量は91万9,000立方メートル、１日平均処理水量は2,518立方メートルと予定しております。主要な建設改良事業は、管渠建設改良として２億2,380万円、処理場建設改良として１億1,100万円でございます。

第３条は、収益的収入及び支出の予定額でございます。収入の第１款下水道事業収益は７億4,310万8,000円、支出の第１款下水道事業費用は７億2,329万2,000円でございます。

第４条は、資本的収入及び支出の予定額でございます。収入の第１款資本的収入は６億8,213万円、支出の第１款資本的支出は６億9,970万6,000円でございます。また、資本的収入額から資本的支出額に対して不足する額1,757万6,000円は、過年度分消費税資本的収支調整額1,757万6,000円で補塡するものでございます。

２ページを御覧ください。

第５条は、債務負担行為としまして２件でございます。

１件目は、事項をストックマネジメント計画策定業務、期間を令和７年度から令和８年度まで、限度額を8,697万7,000円とし、２件目は、事項を経営戦略策定及び下水道使用料改定業務、期間を令和７年度、限度額を818万4,000円とする債務負担行為を措置するものでございます。

第６条は、企業債としまして、起債の目的を建設改良事業、限度額を２億2,670万円などとして措置するものでございます。

第７条は、一時借入金としまして、限度額を３億円とするものでございます。

第８条は、予定支出の各項の経費の金額の流用としまして、営業費用と営業外費用との間で経費の流用ができるとするものでございます。

第９条は、議会の議決を経なければ流用することのできない経費を職員給与費4,953万2,000円と定めるものでございます。

第10条の他会計からの補助金は5,711万3,000円とするものでございます。

以上が令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算の内容をお認めいただこうとするものでございます。

その内容について、参考資料ナンバー11の１、令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算附属書類により主なところを説明申し上げます。

１ページを御覧ください。

これは令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算実施計画の収益的収入及び支出でございます。

まず初めに、下水道事業収益でございます。

営業収益の下水道使用料は１億1,632万7,000円とするもので、使用料改定と住宅団地の取り込みによる増収を加味したものでございます。

次に、営業外収益の他会計補助金は5,711万3,000円で、一般会計からの補助金でございます。補助金は2,000万円で、ストックマネジメント計画策定などに対する社会資本整備総合交付金でございます。

他会計負担金は１億1,159万4,000円で、企業債償還利子などに充てるものでございます。

長期前受金戻入は４億1,492万9,000円で、一般会計、国庫補助金、受益者負担金などの償却資産の取得、改良のために交付された補助金などを収益化した金額でございます。

消費税還付金は2,302万4,000円でございます。

次に、下水道事業費用でございます。

営業費用の管渠及び処理場費は２億580万5,000円で、処理場などに係る光熱水費、運転管理などの委託料及び下水道施設の修繕費などでございます。

総係費は4,124万1,000円で、職員給与費、電算処理委託などの委託料及び下水道使用料賦課徴収負担金などでございます。

減価償却費は４億1,451万5,000円で、建物、構築物及び機械及び装置などの減価償却費でございます。

次に、営業外費用の支払利息及び企業債取扱諸費は6,031万6,000円で、借入金の利息でございます。

２ページを御覧ください。

資本的収入及び支出でございます。

まず初めに、資本的収入でございます。

企業債は２億2,670万円で、建設改良事業に充てる起債でございます。

受益者負担金は529万4,000円で、令和６年度に供用を開始する土地に係る負担金でございます。

他会計負担金は３億1,323万6,000円で、企業債償還元金に対するものでございます。

国庫（県）支出金は１億3,690万円で、建設改良事業に対して交付される社会資本整備総合交付金でございます。

次に、資本的支出でございます。

建設改良費は３億8,647万円で、委託料と工事請負費などでございます。

企業債償還金は３億1,323万6,000円で、借入金の元金を償還計画に基づいて償還する費用でございます。

３ページを御覧ください。

令和６年度吉田町公共下水道事業会計予定キャッシュ・フロー計算書でございます。

１の業務活動においては49万9,000円の現金が増える予定でございます。

また、２の投資活動においては8,944万1,000円が増え、３の財務活動においては8,653万6,000円の現金が減る予定で、この結果、340万4,000円の現金が増え、資金期末残高は１億4,847万1,000円となる予定でございます。

４ページから６ページは、給与費明細書でございます。

７ページは、債務負担行為に関する調書でございます。

８ページは、令和５年度吉田町公共下水道事業会計予定損益計算書でございます。下から３行目の当年度純利益は29万4,000円と予定しております。

９ページ、10ページは、令和５年度吉田町公共下水道事業会計予定貸借対照表でございます。これは今年度末における下水道事業の財政状況を示すものでございます。

11ページ、12ページは、令和６年度吉田町公共下水道事業会計予定貸借対照表でございます。11ページの２の流動資産の現金預金については、先ほどのキャッシュ・フロー計算書で説明したように１億4,847万1,000円を予定しております。未収金については、現年度分の下水道使用料及び消費税還付金などとして2,793万9,000円、資産合計として127億492万8,000円と予定しております。

12ページの３の固定負債の企業債については、43億8,945万5,000円でございます。４の流動負債の未払金については、工事などについて8,143万4,000円と予定しております。負債合計として121億8,699万4,000円と予定しております。７の剰余金の当年度未処分利益剰余金は190万9,000円でございまして、資本合計として５億1,793万4,000円と予定しております。

13ページは、注記として重要な会計方針、予定貸借対照表等関連などを記載してございます。

14ページから17ページまでは、先ほど御説明いたしました予算の実施計画明細書でございます。

続きまして、参考資料ナンバー11の２、令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算資料について説明申し上げます。

１ページは、予算実施計画明細書比較でございます。

２ページは、企業債の概況でございます。

３ページは、令和６年度当初の資本的支出補塡財源でございます。

４ページから10ページまでは、令和６年度主要工事一覧表と工事箇所図でございます。

以上が第21号議案の説明でございます。

上下水道課から３議案につきまして説明申し上げました。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**○議長（大石　巌君）**　各担当課長から説明が終わりました。

ただいま説明のありました第12号議案につきましては、この後、全員協議会で内容確認を行い、４日に審議を行います。

そして、第13号議案、第14号議案及び第16号議案から第21号議案までの８議案については11日に、第15号議案については15日に質疑を行い、最終日22日に討論、表決を行います。その他の第３号議案から第11号議案まで及び第22号議案から第27号議案までの15議案について

は、最終日22日に審議を行いますので、よろしくお願いいたします。

---

**◎散会の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　以上で本日の日程は全て終了いたしました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。

散会　午後　３時３０分

開議　午前　９時００分

**◎開議の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　改めまして、おはようございます。

本日は定例会４日目であります。

本日は、２番、増田伸介君から欠席の届出があります。

ただいまの出席議員数は12名であります。

これから本日の会議を開きます。

---

**◎議事日程の報告**

**○議長（大石　巌君）**　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

---

**◎議案第１２号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第１、第12号議案　令和５年度吉田町一般会計補正予算（第９号）についてを議題とします。

これから第12号議案についての質疑を行います。

質疑は、最初に歳入全体についての質疑を行います。引き続き、歳出は款別に区切って質疑を行いたいと思います。

初めに、歳入全体についての質疑を行います。

質疑につきましては、数値や説明を受けた内容などについて確認の質問とならないよう、また、発言は簡潔明瞭に、審議する議題に関すること以外の質疑にまで至らないよう御協力お願いいたします。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、歳出に入ります。

１款議会費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、２款総務費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、３款民生費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、４款衛生費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、６款農林水産業費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、７款商工費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、８款土木費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木　栄です。

33ページですけれども、ＴＯＵＫＡＩ－０促進事業費で、内容確認のとき、一応実績が少ないから今回補正に至ったというなこと伺ったものですから、そうした中で実績が少ないということの、どのような理由で実績が少ないかということをちょっとお伺いします。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

まず、実績のほうから申し上げさせていただきますと、木造耐震補強につきましては当初20件を予定させていただいておりました。実績につきましては７件でございます。ブロック塀につきましては30件を予定しておりましたが、実績につきましては18件となっております。こちらのほう少なくなった理由といいますと、もともと予算計上に当たっては多めというか、これまでの実績によりまして多い件数を想定して予算を取っております。そういった中でそこまで達しなかったというような状況でございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番です。

今のことは了解しましたが、あと、それこそお正月に１日に能登半島地震があって、それから何か月か、１月、２月、２か月たって３か月に入るんですけれども、そうした中で、その間にやっぱり能登半島地震の被害の何というかな、なられた現状が建物倒壊によるものと、能登半島、あちらは歴史があるところで、なかなか古い建物多いということは分かっておりますので、そういう中で、やはり建物倒壊によって下敷きになったという被害者がかなりあると思うものですから、そういうことを踏まえると、私たちのこの吉田町も将来的にいつ来るか分からないということに備えておかなければいけないというと、お正月のああいう悲惨

なのを目の当たりにして、自分なりに考えるということがあると思うんですけれども、今後そういうことを踏まえて、実際今、物価が上がっちゃって、自分も仕事柄あれですけれども、そういう建設とか建築とかそういうものが、大体５割増しというくらいの勘定でなっているもので、そこら辺まで考えると何というんですか、金額が高いからこのＴＯＵＫＡＩ－０のこれを受けるということをなかなかできないということもあると思いますけれども、今後に向けて、なるたけ予定していたのに近づけるというんですか、もう少し今の、今回の実績よりはもっと増やすというようなそういう形の考え方というのをちょっとお伺いしますけれども。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

そうです、やはり物価高騰とはいえ、補助金額も静岡県内の市町と変わらない金額を出させていただいている、高い金額を出しているという中で、耐震評定がやっぱり低いと補強の金額もかかってくるという中で、やっぱり金額でやっぱり難しいと考えられる方もいらっしゃると思います。そういったことでも、建築士会の皆さんや県のほうの職員のほうとも協力しながらしっかり説明をして、できる限り耐震補強を受けていただくように考えていくのと併せて、広報のほうもしっかり周知をした中で、引き続きできる限り多くの方に耐震補強を受けていただくというようなことで考えております。

以上です。

**○１０番（八木　栄君）**　了解です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

次に、９款消防費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、10款教育費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、13款諸支出金についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

それでは、本議案の質疑を終結したいと思いますが、まだ疑義のあるようでしたら、全般にわたり質疑を許可いたします。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　財源振替についてお伺いします。

財源振替の質疑なんですが、結論とすれば資料提供のお願いということになると思います。

今回の補正予算の説明書には、10の事業において財源振替という記載があります。しかし、その財源の振替の内容については複雑で、提供された補正の説明書では読み取れない箇所が何か所かあり、具体的に言うと３か所あります。例を挙げますと、説明書の34ページから35ページにかけての災害対策費です。そこには、地震対策費15万8,000円の増額、防災意識向上事業費及び情報伝達充実・強化事業費が財源振替となっています。一方、補正の財源内訳を見ますと、国・県支出金が342万円の増額、一般財源が326万2,000円の減額となっています。

その詳細を財政管理課にお伺いしますと、防災意識向上事業において、県の地震対策等減災交付金が23万4,000円増額で、その額分、一般財源がマイナス。そして情報伝達充実・強化事業も同じく地震対策等減災交付金が57万1,000円の増額で、その分、一般財源がマイナス。そして地震対策費が同じく地震対策等減災交付金261万5,000円増額で、一般財源が247万7,000円の減額で、結果として15万8,000円の増額になっています。つまりこの２つの事業の財源振替表記によって、それより高額な財源振替ですが、それが隠れた、見えてこない状況にあると、説明書では。

でも、昨年の12月の定例会において、同僚議員から財源振替に関してより詳細に説明してほしいという質疑行われましたけれども、その際に、予算の書類説明書に記載するのは難しいので、詳細説明でかみ砕いて分かりやすく説明することを検討するという答弁がありました。では、今回もある程度工夫はされたという認識は持っておりますけれども、今言ったようなことが隠れていると説明はなかったというふうに思います。だからそこで今回の財源振替の詳細というものをやっぱり参考資料として出していただければ、内容が理解できると。要するに何が実際行われているのか、何が起こっているのかというのを我々としては理解したいというふうに考えておりますので、そこに関してはどうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　財政管理課長、八木邦広君。

**○財政管理課長（八木邦広君）**　財政管理課でございます。

以前、財源振替については御指摘いただいていて、今回もちょっと財源振替の説明できるところでちょっと工夫はさせていただいて、追加しながらやらせていただいてはおります。ただ、財源振替自体をやはり全てどのレベルまでどういう形で出せるか、うちと資料が用意していけるかというところで、ちょっと今の時点で必ずここまで出しますという、ちょっとお約束はやはりできませんので、ちょっと口頭の説明プラス、あとそれ以外にどういうことがやったら分かりやすいかというところをちょっと検討はさせていただきたいなということで考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　１対１で分かるという事業はあるわけですよね。それはいらないと思うんだけれども、今回、財政管理課に資料としてここをちょっと埋めてくださいということでお願いした、訂正含め、要するに訂正があったところというのは、我々では理解できないところが訂正されているわけです。そういうところに関してしっかり説明、資料として出していただきたいということなんですが、そこに関してはどうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　財政管理課長、八木邦広君。

**○財政管理課長（八木邦広君）**　財政管理課でございます。

そこも含めてどういうふうに出していくべきかというと、ちょっとまた検討、すみませんがさせていただきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今回そういう財源振替のお話をしたときに、国庫支出金、県支出金、今度は支出金のほうですけれども、それがいっぱいあるわけですね、細かい金額が。ここに表示されているのはプラスマイナス、トータルして合計幾らという記載しかない。そうすると、やっぱりそこに関してもいっぱい事業があるとすれば、その内訳というのも出していただければ、じゃ、こういう金がどう動いているのかというのが理解できると思うんですが、そこに関してはどうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　財政管理課長、八木邦広君。

**○財政管理課長（八木邦広君）**　財政管理課でございます。

一応、今回、説明においては、どのメニューのものがまずどう動いたか、その後、表記としては国庫支出金、それが国庫支出金から一般財源ということで振り替えていますということで、詳細説明書はちょっと工夫はさせていただいたんですけれども、そういったところで、今言った１対１の振替でない部分というところがちょっとどういうに説明できるか等、やはりちょっとすみませんが検討させていただきたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　近々よろしくお願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　ほかには。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

繰越明許費補正についてお伺いいたします。

繰越明許の中で、低所得世帯重点支援給付金給付事業費というのが国の10分の10でということで聞いてございます。その上の人件費もこれに含まれるものでなっておるかと思いますが、これはそもそも補正の８号で専決、今回出ているわけですが、で決めておりますよね。そうした中で繰り越すというところに非常に疑問があるんですが、どういった経緯で繰越しに回るようになったんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

低所得世帯重点支援給付金給付事業につきましては、議員がおっしゃるとおり８号補正ということで、専決処分ということでさせていただいております。こちらは、国のなるべく早く着手するように、対象者に届くようにといった方針の下、専決処分をさせていただいたものでございますが、やはり３月中、今年度中に全ての給付が終わらないということは見込まれておりますので、繰越しをさせていただくというものになります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

過去に７号か６号あたりで、やはりこういった突然、突然といったらおかしいんですが、国のほうから給付事業というのが来て、それはもう年度内にやりなさいよという中でやった

ものがございますよね。そことそんなに時間的に差があるようには思えないんですが、今回わざわざ繰り越す、今年度はもう手をつけないということで決めているんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

今年度につきましては、手をつけないということではなくて、現在、システム改修等、その事業に着手をしつつ、準備を整えているところです。ですので、全てが今年度中に終わるという見込みが立たないことから、繰越しをさせていただくということになります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　そうしますと、そのシステム改修云々は町の費用でやる、結局ここには職員人件費だけ上がっているわけですが、そうした費用はもうこの10分の10の中に含まれていなくて、その分は町の事業としてやりますよということで理解してよろしいですか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

職員人件費も合わせて10分の10ということで、国の交付金の中で事業をさせていただきます。ですので、町の持ち出しというようなことではなく、国の交付金を活用して事業はさせていただきます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　よろしいですか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　今、課長が言われたそのシステム改良云々、今年度、手をつけていますよみたいな話、それはそれも入っているということで、金額は丸々繰越し、その今年度分使う分というのはどこに入ってくるんでしょうか。８号の補正やっていないんで分からないんだけれども、そこちゃんと教えていただきたいなと思うんですよ。丸々入ってくる、国から入ってくる額を繰り越すわけですよ。そうした中で今年度、課長が言われたようにシステム改修等はやりますよ。その費用、結構いつもかかっていますよね。その分はどこ行っちゃったんですかという質問なんです。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

今回の繰越明許費の補正につきましては、全額を繰越しさせていただくという、その限度の枠の部分について繰越しをさせていただきますので、今年度内にできることは着手をさせていただくということになります。

以上です。

**○９番（増田剛士君）**　了解。

**○議長（大石　巌君）**　ほかには。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　それでは、これをもって第12号議案についての質疑を終結します。

これから第12号議案についての討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎散会の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　以上で本日の日程は終了をいたしました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。

御苦労さまでした。

散会　午前　９時２２分

開議　午前　９時００分

**◎開議の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　改めまして、おはようございます。

本日は定例会11日目であります。

本日は、２番、増田伸介君、５番、福世義己君から欠席の届出があります。

ただいまの出席議員数は11名であります。

これから本日の会議を開きます。

---

**◎議事日程の報告**

**○議長（大石　巌君）**　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

---

**◎議案第１３号の質疑**

**○議長（大石　巌君）**　それでは、議事に入ります。

本日は、提出されました特別会計及び企業会計の予算に関する議案の質疑を行います。

初めに、総務文教常任委員会の所管に関する議案について、議案番号順に質疑を行います。

次に、産業建設常任委員会の所管に係る議案について、議案番号順に質疑を行います。

途中、説明員の入替えを行い進めてまいりますので、御了承願います。

質疑につきましては、数値や説明を受けた内容などについて確認の質問とならないよう、お願いをいたします。

また、簡潔明瞭に、審議する議題に関すること以外の質疑まで至らないよう御協力をお願いいたします。

日程第１、第13号議案　令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

---

**◎議案第１４号の質疑**

**○議長（大石　巌君）**　次に、第14号議案　令和５年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第２号）についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

---

**◎議案第１６号の質疑**

**○議長（大石　巌君）**　次に、日程第３、第16号議案　令和６年度吉田町土地取得事業特別会計予算についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

---

**◎議案第１７号の質疑**

**○議長（大石　巌君）**　次に、日程第４、第17号議案　令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計予算についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　国民健康保険税、保険給付費、国民健康保険事業費納付金、ページ数といたしますと２ページ、13ページ、19ページです。

まず最初に、保険税についてお伺いします。

令和６年度の国民健康保険税の当初予算額は５億6,551万7,000円で、令和５年度に対して約2,100万円ほど、3.94％の減額となっています。主な要因は、被保険者数の減少ということのようでありますけれども、吉田町の統計要覧の実績見ますと、28年から元年ぐらいまでは毎年約５％ぐらい減っていたんですけれども、データの出ている令和４年では1.6％の減少にとどまっています。令和６年度の被保険者数はどのくらいと想定しているのでしょうか。また、保険税の減少について人数以外のほかの要因はあるのでしょうか。よろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　町民課長、伊藤美絵君。

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

議員がおっしゃいました吉田町の統計要覧の被保険者数につきましては、こちらの数字は年度中の月末の人数の平均となっております。若干の数値の変動はございますが、トレンドといたしましては減少していることは確かでございます。令和６年度の当初予算では、被保険者数を5,190人と想定をして保険税のほうを算出しております。これは、令和５年度の当初予算時と比べまして約64人ほどの減少を見込んでおります。

この保険税が減少した要因ということですが、やはり一番の要因は被保険者の減少でござ

いまして、この被保険者の減少といたしましては、団塊世代の後期高齢への移行や社会保険の適用拡大のためで、主な要因として考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　では、納付金についてお伺いします。

これ、県に納めるお金でありますけれども７億2,706万2,000円で、これが令和５年度に対して約6,000万、7.63％減少しています。町の国保事業からすると喜ばしいことだというふうに思うわけでありますけれども、これも被保険者の減少だけが納付金減少の要因とはちょっと数字的に見て考えにくいんですが、ほかに要因というのは考えられますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　町民課長、伊藤美絵君。

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

こちらの納付金の算定方法を初めにお伝えさせていただきます。

納付金は医療給付分、後期高齢者支援金分、介護納付金の３つに分けられております。過去３年間の被保険者数や世帯数の推計、あと１人当たりの診療費の推計を用いまして、県が各市町の納付金を算定するものでございます。

令和６年度の納付金につきましては、過去３年間の数値に基づいて算定をしておりますので、保険税の減少と同様に、後期高齢者医療への移行などにより被保険者数の減少傾向であること、またコロナ禍の受診控え、高度医療の受診などが要因となって令和６年度の算定が減額になっているものと考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今、説明でもございましたけれども、納付金は３つに分かれていると、それに関して言えば、納付金の中で令和４年度医療給付金が、そのパーセンテージ、３つのが69.2％で後期高齢者支援分が22.8％でした。令和６年度の予算では、医療給付金が65.3％で3.9％減少しています。それに対して後期高齢者支援分が26.3％で3.5％増加している。この構成の変更で令和４年度から令和６年度に対して5,100万円減少しているわけです。この増減に関しては、何か意味があるというようなことは、県のほうから報告あるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　町民課長、伊藤美絵君。

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

先ほども申し上げましたとおり、こちらにつきましては、後期高齢者分が増えているというところにつきましては、高齢者の後期高齢者が増加しているということで聞いております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今までが前ふりでこれから、給付費です。医療給付費は18億8,879万9,000円、これは令和５年度に比べて172万6,000円の増加です。被保険者は減っているんですが、医療費は増えているという結果になっています。

県あたりでは被保険者の減少とかその辺をシミュレーションして、今後の運営というのを考えているようなんですけれども、吉田町においてはそういうことをやっているのかどうかということでお伺いしたいんですけれども、今後、静岡県の保険料率というか、それを統一しようというような話もあるし、今、定年が延長になってきていますので、国保、会社辞め

て国保に入って、もう75で後期にいっちゃうというなことも、いろんな不透明なことはあると思うんですけれども、今後の我々被保険者とすればできるだけ料金を抑えていただきたいし、でも一方、国保を健全に運営してもらわないと困ったことになるわけで、その辺に関して、町として国保の運営に関してどのような見通しというのをお持ちでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　町民課長、伊藤美絵君。

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

町では、被保険者数がそれほど多いわけではありませんので、社会情勢の影響とかを受けやすいため、中長期的な見直しを立てるのは難しい状況でございます。このため、町ではこれまでの実績値やその時点の現状等を踏まえまして、毎年３か年の見通しを立てて町の国保運営を計画しております。毎年、被保険者数、世帯数、繰入金、保険給付費、納付金、あと基金、収支など、３か年の見通しを立てて想定したものを策定しております。

今後の国民健康保険事業の健全な運営についてでございますが、保険料の統一化につきましては、県は最終目標といたしまして、保険料の完全統一を目指して段階的に計画を進めていく方針でおります。町といたしましても、県の方針に沿って基金を活用できる部分については活用しながら、国民健康保険事業の健全な運営を行っていきたいと考えております。

以上でございます。

**○７番（平野　積君）**　了解。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　山内です。

４款の県の支出金、１項の県補助金、保険者努力支援分で1,232万円についてお伺いしますね。

平成30年度にこの制度が始まって以来、吉田町の伸び方、非常に順調に伸びていると。その内容としては、平成30年度の予算はまず800万、31年が703万、令和２年が709万、令和３年が1,196万円、令和４年が1,510万円、令和５年が1,276万円、令和６年、今年が1,232万円という数字が、予算が出されています。

決算を決算書から見ていきますと、平成30年度が664万円の保険者支援分が支払われたと、それで平成31年、令和元年が578万9,000円、令和２年が709万4,000円、令和３年が1,087万円、令和４年が1,283万円、かなり順調にそのように伸びていて非常にいいことだと思いますが、その中で決算書見ていてちょっと見にくかったのが、保険者支援分の決算書の何というか、細かいやつがあるじゃないですか、説明書というか。その中に分散されているものですから、なかなか見られなかったんですけれども、それがうまい見方ができるようになればいいと思うんですけれども、書き方はあれしかないですかね。

〔発言する人あり〕

**○８番（山内　均君）**　いや違う、今のこの話で。

**○議長（大石　巌君）**　町民課長、伊藤美絵君。

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

当初予算の関係でいいますと、まず保険者努力支援制度は、医療費の適正化や国保財政の改善に向け努力を行う自治体に対して交付金が支払われるものでございます。令和５年度に比べますと令和６年度の保険者努力支援分は少し減少、減額となっております。こちらの理

由といたしましては、年度ごと、この事業の年度ごとに配点が変わるため、同じ事業をやっておりましても、昨年までやっていた事業を実施しても今年度は交付金をもらえなかったり、あと減額となる場合がございます。

町といたしましては、健康増進を目標にしておりますので、少しでも交付金につながるよう、その事業を強化して進めていきたいと考えております。決算のほうにつきましても、またそれが分かるような表記は検討していきたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　山内です。

その中からこの問題、今言われた医療費の拡大の問題、社会問題として出ている、それに対しては非常に有効な手段だろうと。それとあと保険者が努力して健康、自分の健康を守ること、要するに成立難しいいろんな今までのね、そういうように対しての非常に有効な　　、要するに医療費抑制と自分の健康、それともう一つは、やっぱり県からこういう制度があって、国が決めた制度が県から交付されるわけですから、この制度は非常にいい制度だと思っていますがね。それとその中で予算書は、予算は予算で一緒でしょうけれども、恐らく予算というのは決算を見詰めてやるでしょう。そうするとその決算見ていくと非常にいい形ですよね。そのところで毎年伸びている理由、推測される理由というのは、ほかに町のほうでは持っていますかね。

**○議長（大石　巌君）**　町民課長、伊藤美絵君。

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

町といたしましては、交付金をもらうために事業をやっているのではなくて、被保険者の健康増進を目標にしております。それが交付金のほうにつながるように努力をしているものでございますので、今後も引き続き交付金につながるような事業を行っていきたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　ありがとうございます。

ここに令和３年度の資料、ちょっと古いんですけれどもあるんですけれども、吉田町で令和３年度で見ると、重症化予防、それと税、それに関して非常に大きな成果を出しているんですね。要するに吉田町のこの成果に対して、今の傾向というか現在、現状はどうですか。この制度というのは国が毎年基準を定めて、そして変えていくということ、その国の基準に合わせたやつがいくんですけれども、今、吉田町が力を入れている制度というのはどういうものですか。この制度を大いに活用させないかんと思っていますけれども。

**○議長（大石　巌君）**　町民課長、伊藤美絵君。

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

先ほども説明をさせていただきましたが、年度ごとこの配点は変わるため、前年度やっていたものについても令和６年度は点数が低くなってしまうといった場合があります。町といたしましては、点数が大きいものについては、やはり特定健診だったり収納率のところが点数自体は高いので、そういったところを努力することによって交付金は増えていくものと考えております。町といたしましては、そこも付け加えまして、あとは適正かつ健全な取組と

いうところを踏まえまして、全ての項目ができるだけ強化できるように事業のほうを進めていきたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　最後にしますけれども、それでこの今言われた吉田町が非常に頑張っている制度、毎年毎年上がってきますね。これをなくさないためにも、例えばホームページであるとかできるだけ広報をしてもらって、恐らくこの制度そのものが割合メジャーではないですよね。そのためにも、有効に使うためにも健診を受ける人とかそういう人たちにとって有効になるように、それで意識をしてやれるような形で進めていきたいと。当然広報であるとかそういうやつをしていただきたいと思うんですけれども、その辺の計画というやつは、そういうのはまた改めてどうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　町民課長、伊藤美絵君。

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

努力支援制度の対象であります特定健診等につきましては、現在も広報、ホームページ、あとＬＩＮＥ等で、また保険証を交付、郵送するときに、一緒にチラシのほうに特定健診を受けましょうというような内容のものを同封して送っております。今後は、さらに被保険者の方にも見てもらえるような、興味を持ってもらえるような周知をしていきたいと考えております。

以上でございます。

**○８番（山内　均君）**　分かりました。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

---

**◎議案第１８号の質疑**

**○議長（大石　巌君）**　次に、第18号議案　令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計予算についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　後期高齢者医療広域連合納付金、予算書の６ページです。

この医療費は、人数が増加していくということもあり、年々増加していくものというふうに思っております。令和６年度の納付金は４億160万8,000円で、令和元年度を基準にすると約１億3,000万ほど増えていて、1.5倍になっていると、要するに急激に増えている状況だと思います。また、一般会計からも納めている部分がありまして、そちらのほうは２割ほど増えているというようなことで、基本的には国とか広域連合の方針ということによって左右されるんだとは思うんですけれども、町は、その後期高齢者医療事業特別会計の健全化という観点で、ここを気をつけるとか、どうしていったらいいかというようなことに関してどのよ

うなお考えをお持ちでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　町民課長、伊藤美絵君。

**○町民課長（伊藤美絵君）**　町民課でございます。

議員がおっしゃいますように、後期高齢者医療事業特別会計につきましては、今後も広域連合の方針に沿って運営していくものとなりますが、町長の施政方針にもございましたが、令和６年度から高齢者と介護予防の一体的実施事業を開始いたします。高齢者一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援を積極的に行いまして、高齢者の皆様が住み慣れた地域でできる限り自立した生活を送ることができるように、事業に取り組んでいきたいと考えております。また、こうした取組を重ねながら、町といたしましては、後期高齢者医療事業特別会計の健全化に寄与していきたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　よろしいですか。

**○７番（平野　積君）**　了解。

**○議長（大石　巌君）**　ほかには質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

---

**◎議案第１９号の質疑**

**○議長（大石　巌君）**　日程第６、第19号議案　令和６年度吉田町介護保険事業特別会計予算についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

予算書の15ページの介護サービス等諸費の中で、地域密着型介護サービス給付費であるとか地域密着型介護予防サービス給付費、これらが５年度と比べて大きく減額されております。一方、居宅介護サービス給付費であるとかというものは上がっています。ここについて、何でこういうことが起きてきたのかな、町の方針が何かしら変わってきたのかなというところが見えてきてしまうんですが、その点について答弁をお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

保険給付費のうちの介護給付費のうちの地域密着型サービス給付費の減額につきましては、町内に小規模多機能事業所というものがこの地域密着型介護サービス給付費の中で大きなものとなっておりましたが、そちらが、５年度の途中からそのサービスが町内になくなったという状況がございまして、そういうことから見込みが当然減になりますので、それによりまして当初予算減額となっております。

それから、地域密着型介護予防というところですが、そもそも今、介護予防サービスという要支援者が利用するサービスにつきましては、利用料がこの８期の計画の中でも見込みよ

り実績が少ないという状況がございました。そういうことから、今後のサービス料を見込んだときに実績を見てこのくらいの見込みというものを推計しております。そういったところから、この地域密着型介護予防サービス費というものも減額ということになっております。

居宅介護サービス給付費につきましては、在宅でサービスを使っていただくんですけれども、そのサービス利用の見込みが増えておりますので、そういったところから推計を出して当初予算を組ませていただいております。これは９期の介護保険事業計画に沿ったものになっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

密着型介護サービス給付費については、明らかな原因というか、１つの事業者のサービスが途中で終わった。それがないとどういった現象が起きるのかちょっと分からないんだけれども、それに代わるものを町として求めていくというようなことによって、利用者の方がもっとよくなるような、使いやすくなるようなというようなことに関しては、町としては何かしら対応できるものなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

現状につきましては、先ほど説明したとおりでございますが、今後やはりサービス利用のニーズを研究しながら、施設整備につきましても町として必要なものは検討をしてまいりたいと考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

居宅介護サービス給付費のほうは少し上がっている中で、先ほどの答弁の中でも実績値というかそういうので増えていますよ、でも地域型サービスという中でそちらのほうへ移っていくというか、それがなかなかできない状況になってくると、今度はまたほかの面でいろいろ問題が出てくるんじゃないかなというのが非常に懸念されるんですが、その点について、在宅介護というのは非常にその家族にも非常に負担がかかったりする、そうした中でもともと地域密着型というのは、この町内で生まれ育った方が町内でというような住み慣れた土地というのがある中で、なかなかそこが給付費だけで見ても分からないんだけれども、実際減っている。そうした理由は分かるんだけれども、そこについて何となく矛盾というか感じられるんですが、その点について何かお考えがあれば。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

サービス利用につきましては、その方に合ったサービス、必要なサービスを使っていただくということがやはり重要だと考えております。それには、町内の介護施設の施設整備であるだとか、あとは利用しやすいサービス、そういったものを町としては整備していく必要があるというふうに考えております。

現在、その地域密着型サービスにつきましても、地域密着型の特定入所者、特別養護老人ホームがございますが、そちらの３ユニットあるうちの今まで２つのユニットが稼働してお

りましたが、その残りの１ユニットも今少しずつ埋まりつつあるということを聞いておりますので、やはり現状を見ながら、どこのサービスがどのように必要かといったことは今後も検討しながら、施設整備に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　地域支援事業費、介護予防・生活支援サービス事業費、19ページです。

この予算は、今年も補正がありましたけれども、毎年、当初予算に対して年度末に減額補正を繰り返しています。令和２年度から令和４年度まで当初予算約7,500万に対して、決算見ますと、３年間ほぼ同じで約4,500万で推移しています。この当初予算と決算額の差というのが生じる原因は何でしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

介護予防・生活支援サービス給付費の減額についてでございますが、今年度の補正予算につきましても、内容はその給付費のうちの要支援１、２の方が利用される訪問介護、通所介護の給付費が半分、内容としては中心に減額をさせていただいております。令和６年度の当初予算につきましても介護予防・生活支援サービス給付費を減額となっておりますが、そこにつきましても、要支援１、２の訪問介護、通所介護の給付費を1,000万円ほど減額している状況です。その介護予防・生活支援サービス給付費の中には、介護予防事業、総合事業の運動器の機能向上の事業費でありますとか、ワンコインの事業委託料、緩和した通所サービスのいきいきデイサービス等は増額をしております。

毎年その介護予防・生活支援サービス給付費を減額しているということにつきましては、８期の介護保険事業計画の見込みの中で、この介護予防・生活支援サービス給付費を計画を基に見込み量を出して、給付費を３年間上げていくわけでありますけれども、その給付費の見込み自体が大きかったということが一つの理由かと思います。

それにつきましては、この要支援１、２の方に利用していただきます訪問介護、通所介護の給付費は、平成29年度から介護保険制度の改正によりまして地域支援事業費の中に入ってきたという制度改正があります。ですので、３年、４年、５年の８期の計画の中では、なかなかその見込みが、実績がまだ積み上がっておりませんので、見込みが立てづらかったところもあるかと思いますが、６年度以降から３年間の９期の計画につきましては、８期の３年、４年、５年の３年間の実績が積み上がっておりますので、その実績から見込みを出して計画を立てております。ですので、計画を立てる給付見込みと実績に乖離があったということもございますが、令和６年度からの３年間の９期の計画につきましては、実績を基に見込んだものとなっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　平野です。

先ほど町民課長のほうからもお話が、後期高齢者に対してのお話があったんですが、やっぱり健康の予防という観点で、今後、力入れていこうという中において、その減額というのはちょっと違和感があったんですが、それは今、説明があったその実績を踏まえてやってい

くというふうに理解しております。

静岡県がお達者度というのを発表していますね。平成30年が女性が21.98で、静岡県の市町で２位でした。男性は18.1で19位でしたが、最新といっても令和２年度のデータでありますけれども、女性は0.01増加して21.99の９位に、男性は0.3減少して17.80で31位まで下がっていると。この辺について、やっぱり高齢者の方が健康で、介護支援とかそこに行かないようにしっかり予防していくということは重要なことだというふうに考えておりまして、これに関しては、健康づくり課とか生涯学習課なんかもいろいろしっかり議論した上で、どう進めていくかというのはやっていただいていると思うんですが、今後、予防と、介護予防という点ではどういうに進めていこうというふうにお考えでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

議員がおっしゃるとおり、介護予防というものは大変重要だというふうに考えております。高齢期においても健康で充実した生活を送っていただく、生涯を通じた健康づくりということは進めていく必要があると考えております。健康寿命の、今、お達者度のお話がありましたけれども、静岡県が出しておりますお達者度につきましては、要介護度２から５でない状態を自立していると定義して算式しているものになりますが、健康寿命の延伸には健康づくり、健康づくりといっても、生活習慣病予防から介護予防へと連続して対策を打っていく必要があるというふうにも考えます。

生活習慣病予防の観点では、栄養であるだとか、お口、口腔であるだとか、あとは運動、そういった必要な保健指導や健康教育、そういった健康づくり課が中心となって行っている事業、それから元気な高齢者、体力づくりといった観点では、生涯学習課の体操教室やスポーツ教室等によって取り組んでいるところです。

高齢者の健康づくりということで考えますと、福祉課では一般介護予防、少し心配になってきたけれども、このくらいの運動をしましょうといったお教室、それからやはり社会参加であるだとかそういったところも必要ですので、住民主体の通いの場づくりの支援、それから介護認定を受けるか受けないかみたいな、受ける前のそういった予防としての総合事業、そういったところ、福祉課につきましては、地域包括支援センターと連携をしながら、そういった事業の参加者についても進めながら、介護予防に取り組んでいるところです。ですので、それぞれの課で役割分担をしながらも連携しながら、その高齢者の方に合った健康づくり、介護予防というものには取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前　９時４１分

再開　午前　９時４３分

**○議長（大石　巌君）**　休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員は11名であります。

---

**◎議案第２０号の質疑**

**○議長（大石　巌君）**　日程第７、第20号議案　令和６年度吉田町水道事業会計予算についてを議題とします。

質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

---

**◎議案第２１号の質疑**

**○議長（大石　巌君）**　日程第８、第21号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　令和６年度の当初予算を令和５年度の当初予算と比較しますと、一般会計からの補助金、負担金は約6,700万減らし、管渠や処理場に関する委託料も約2,500万減らしている及び６年からは料金も上げますので、経営の健全化というのは進んでいるのではないかというふうに思っております。

その中で幾つか質問したいんですが、附属資料の17ページ、地震対策費が出ていないんですが、町長の施政方針で地震対策としてマンホール浮上防止を実施する予定と述べておりましたけれども、この令和６年度の資本的支出の中の工事請負費に地震対策費、５年まではあったんですが６年はなくなっているということになっています。これはなぜそうなったのでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

令和５年度におきましては、浄化センターにおいて自家発電機設備工事ということで大きな地震対策工事をしておりましたので、別立てして計上しておりますが、この継続して行っておりますマンホール浮上防止等についての耐震補強工事については、管渠建設費として建設費の中に含んでおります。６年度においてもこれを予定しております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今年元日に能登半島地震が起こりまして、それから聞かれるんですが、

吉田町は水道も含めて下水道も、その耐震化やっているのかというふうに聞かれるわけであります。そういう観点からしても、やっぱり吉田町は地震対策をやっているというようなことで明確に項立てすると、吉田町は地震対策やっているんだということが分かると思うんですが、それに対して、もう管渠でもひっくるめてそれでいいじゃないかということなのか、その辺お考えを。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　予算におきましては、マンホールの浮上防止、管渠を触ることですので、管渠建設改良費の中に含めているということは特段おかしいわけではございません。

吉田町の地震対策について御質問ございましたんでお答えをさせていただきますと、例えば住吉小学校に設置をしておりますマンホールトイレなどは、東日本大震災よりも先に設置をしたものでございます。あれは、阪神大震災の被害を受けて、その当時まだマンホールトイレというものは世の中の公共施設には設置をされていなかった。被災をされた方々がもうトイレが困って、道路上のマンホールを開けて用を足したという実例がございました。だったらそういうものをあらかじめ公共施設の中に設けておけば、いざというとき役立つんではないかということで、東日本大震災の起きるよりも先にあの工事をしております。完成の間近３月11日に、東日本であのようなことが起きております。

以後、その後、国から東日本大震災の下水道施設の被災率が１％だったと。この１％が起きては困るところ、過去に埋設した下水道施設全てに地震対策を施していきますと膨大なお金になって、新しい施設にお金を投じることはできません。この１％が起きては困るところ、マンホールが浮上しては困るところ、それは避難所から浄化センターまでの至るルート上であるとか、高齢者の方が入所されている施設の下流であるとか、そこでマンホールが浮き上がるようなことがあってはトイレが使えなくなるという事態が起きますので、そこを重点的にやっていこうと。ただ、短期でお金をかけるということはできませんので、長期的に少しずつやっていこうということで、以後ずっとマンホール浮上防止等についてはやってきておりますので、そこは御理解をいただきたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今、説明があったようなことを広報なりチラシなりで、吉田町はしっかりやっているんだと、そう町民の皆さん、安心されると思うので、予算あるかどうか分かりませんけれども、そういうことを皆さんにお知らせして、町民を安心させていただきたいというふうに考えております。

別件ですが、これも町長の施政方針で経費削減などに経営努力を継続してやっていきますということですけれども、先ほど述べましたけれども、ストックマネジメントの計画策定委託料と、５年に比べて６年のほう減額になっていますし、全体的な委託料というのは減っているんですけれども、この委託料というのは、どちらかというと年度によって上がったり下がったりするものだというふうに思っているわけですけれども、今後、経費削減を図っていくという観点では、下水道事業としてはどういうことをやっていこうというふうにお考えでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

例えば、６年度予算の中では、浄化センター見学会に用いるＰＲ用品に係る特定消耗品などにも手を入れて削減をしております。削減効果というのは、前年比で申し上げますとマイナスの１万8,000円ということで僅かではありますけれども、我々は事業の中に何か少しでも削減できるものはないかという目で予算を組んでおります。

また、先ほどストックマネジメント計画のお話ございましたが、この作成に係る委託費用というのは、確かに今は支出費用として計上されているものではありますけれども、この計画を策定しておくことで、下水道がこれからも事業を続けていく長い期間においては、施設や機器の更新費用の低減に寄与できるものであります。これ、やるとやらないとでは、50年間で120億円を超える差が出るという試算を得ております。長い事業期間においては経費削減策と言えるものであります。

以上です。

**○７番（平野　積君）**　了解。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　まず最初に、予算の中の下水道の事業収益、この中に下水道使用料2,008万7,000円が５年度よりも６年度増えていますよね。これは料金改定の主な理由だと思うんですけれども、それは料金改定そのものがこの金額の差を生んでいるという解釈でいいですか。ほかにありますか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

使用料収入の増加につきましては、施政方針の中でも申し上げておりますけれども、料金改定のほかに住宅団地を取り込んだことの増収も含んでおります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　まず、それで今、住宅団地の話が出ましたけれども、全協で確認した住宅団地、今言ったのは138戸の吉田団地ですか、その吉田団地をいろいろ見てきた、中を回って見ましたけれども、結構空き家になっているうちとか、空き家の空き地になっているうちがあるんですけれども、この138、説明いただいた138に関しては、これはどういう数字なんですか。全体の数字じゃなくて実際に今住んでいる方の数字ですか。全体の区画の数字ですか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

空き家等を除いて、現在、給水の確認できているお宅を拾ってございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　それと分母は分かりますか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

分母とおっしゃるのは空き家も含めてということだと思いますが、それについては承知をしておりません。実際に料金収入を得られるお宅ということで、現に水道を使っているお宅

を拾ってございますので、料金収入を反映させるためにはそのような実数を拾ってございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　これは、じゃ、町ではどこで把握できるんですかね。都市建設課とかどこかで把握できますか、全戸数。できないですか、そんなことあるんですか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　ただいま御審議いただいている下水道予算案とはちょっと関係ないかと思います。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　関係づけましょう。もともと下水道事業は、下水道をやったときに全員が入る、100％入ることが前提ですよね。そのために下水道管の罰則規定を含めた法律があるわけですからね。そのときに今言ったそんな回答していくと、じゃ、やるだけやって後はいいんじゃないかと、実際にここで我々がもう確定されたときに、我々は分かるとその回答ではとてもじゃないけれども追いつかなくて、やっぱりその辺は、それは分母がはっきりしていないと何というんですか、効率的なものを生むことはできないものですから、ぜひその辺までちょっとはっきりをしていただきたいんですがね。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

空き家ですので、今、人が住んでおられない、水道も使わないし下水も流さないというお宅です。

**○８番（山内　均君）**　じゃ、分からない。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　はい、仮にその空き家にどなたか今後入るということであれば、たちまち水道を使うし下水道を流す、我々の料金収入になってきます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　言わんとしていること、下水道課の立場からいったらよく分かりますけれども、ただ今はそういう形で、そういう今の状況を見ていくと、例えばこの団地をとったときに、常に団地の中では使用人口100％になるはずですね。その辺が僕にとっては全体、本当は使用人口は100％じゃなくて、設備をするんですから、その設備は全体みんなで使おう、できるだけ多くの人が使う、そしてそれに加入しない人をなくす、それが第一前提なものですから、そういう形でちょっと質問しただけです。それはいずれにしても追及をしていきます。

あと県営吉田団地、ちょっと昨日も行ってきました。調べたら1982年にできた団地ですね。そのときから現在42年間たっていて、ちょっと心配するのは、下水を通すのはいいんだけれども、その下水を通したときにそのもの、本体そのものの関係ないというかもしれませんけれども、本体そのものの不都合、老朽化とかそういうものに関しての費用というのは、これ、県営団地ですから県が持つわけですか。今の広い団地も含めて県が持つような形になりますか。予算に反映しますから。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　県営吉田団地、住宅団地の本体そのものということは、建物

とかということでしたら、県が見るというものでございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　それとあと南側に民間の60戸、30戸かな、家ありますけれども、60戸か、それは民間ですから、民間が全部やるという解釈でいいわけですね。吉田町の税金から出るようなことはないですね。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

民間アパートにつきましても、本体そのものということであれば、例えば建物であるとか宅内の、民地内の配管であるということでありますれば、それは民間アパートのオーナーが見るということであります。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　悪気はないんですけれども、それだけ確認をしておきたいんです、最終的に。あとは今度、シラサギ団地というんですか、入っているところ、あそこも結構空き家とかあるんですけれども、あと心配するのが、何軒かつなげるじゃないですか、つなげて効率的なことをさっき話をしましたけれども、何軒か合併浄化槽使っているうちが、いいうちがあの中に何軒かじゃなくて何十軒、もう10軒、15軒あるわけですね。その人たちに関しての給水のときに、そういうのの下水道課から下水道につないでくださいよとか、そういう形での接続の要求とかそういうのはするわけですか。その予算にもしできれば、さっき2,008万7,000円がもっと大きな金額で本来は返ってくるはずなんですけれども、そういうのは要求はするんですか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

おっしゃっている団地の中に合併浄化槽、現に合併浄化槽御利用の方がいるということも把握をしております。下水道工事しますれば、その方々に対しても下水道を接続してくださいというお願いはいたします。ただ来年度やる工事でございますので、６年度の使用料収入の増加ということには反映をしないものであります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　分かりました。

あと中で聞いたのが、大丈夫かなと思ったのが、まず浄化センターまでの、吉田団地の南側から浄化センターまでの距離が3.8キロという返事もらったんですね。契約をキソウするに当たって、例えば浄化槽を使うとそういうものはいらないわけですね、長くと、要するに金額がね。そういう何ですか、契約する、基本的にどういう要するに費用対効果であるとかそういうものというのは、やっぱりなかなか範囲が決まっていますから、それはもう常に考えることはないですか。費用対効果を考えるとどこかで止めないかんことになるわけですけれども、そういうものは　　とかそういうものはないですか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

全員協議会で御質問は、浄化センターまでの距離はという御質問でしたので3.8キロと、3.8キロメートルというお答えをしました。これは、現に道路上にもう既に埋設されている

管でありますので、今年やる工事というのはその管から延ばすように、厳密にはマンホールですけれども、埋設済みのマンホールから延ばす工事ですので、もう下流側はもう既に投資をして建設をして完成しておりますので、合理的な工事、効果的な工事、効率のいい工事だと思っています。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今、課長、合理的な工事と言いましたけれども、合理的ということになると、なければ一番よかったわけですよね、本当は。平成12年で本当は見直せばよかったんだけれども、その辺の形でちょっと予算の中で非常に心配するのは、物すごい圧迫をするわけですよ、町政の中の財政に対して。その辺と、それともう一つ一番困るのが分断ですよね。それ心配するんですけれども、そういうものの常に比較検討であるとかそういうところ、あとは効率化であるとか、そういうものに関しての下水道課としてはもうやれる状況では、やることはないですかね。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

６年度予定工事の件数については、全員協議会で各々答えてございます。既にもう目の前まで来ているマンホールにつなげるだけで、60戸なり138戸なり56戸なり八十何戸なりということで、その方々はすぐこの下水道へつなぐことができるところであります。先ほどの団地についても合併浄化槽埋設されているお宅、確かにございますけれども、合併浄化槽でない単独し尿処理浄化槽を使っている方がその団地内にあっては８割以上いるということでこの工事をしておりますので、効果のある合理的な工事だと思っております。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　その合理性についてはいろいろ異論がありまして、本来こういう工事が出たときに、その工事が町にとっていいものか悪いものか、有効であるか有効でないのかというそういう検討をどんな議案であっても検討するはずなんですけれども、その辺はまた期待をして、質問としてはやめます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　附属資料の15ページ、共同化計画策定業務です。

収益的支出の委託料の中で共同化計画業務委託料があります。これはどのような計画を立てるということなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

６年度事業の内容ですが、下水道の汚水と衛生センターのし尿や浄化槽汚泥、これを共同で処理するための可能性調査を行うものです。下水道の汚水とし尿浄化槽汚泥では性状や性質に違いがあります。それらを調べて共同処理する方法を検討するのがこの業務です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　調査して今後進めていくということになるんですけれども、今の予定ではどのぐらいで、いつ頃これが実現しそうなのかということと、それが実現したときにどれくらいの経費削減が図られるのかということについてお伺いします。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

共同処理についてのスケジュールにつきましては、12月に全戸配布をしました吉田町の汚水処理事業についてというパンフレットの中でもロードマップでお示しをしております。この中で令和６年度予算でやろうとしているのは、先ほど申し上げたとおりであります処理方法検討の材料とする予定でこの業務を行います。

コストダウンの見込みについてでございますけれども、この共同処理というのは下水道事業からだけで見ますと、コストダウンの方策ではなくて収入増加の方策になります。し尿や浄化槽汚泥処理の処理、これを下水道施設の浄化センターが担うことで、応分の費用を下水道事業会計に収入をさせていただくということを考えております。共同処理といいますのは、これまでも申し上げているとおり、下水道の汚水とし尿浄化槽汚泥という似たようなものを処理している似たような施設をそれぞれ別に２つ保有して、維持、管理、運営し続けるよりは、１つにまとめて処理をしたほうが効率的という考え方から進めているものでございまして、下水道事業、公益事業、一般会計全て包含した、町全体から見たときにはコストダウンにつながるものと考えております。まだ幾らというような試算はできておりません。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　コストダウンという観点ではそういうことだと思いますし、収入増もそれはそのとおりだと思うんですけれども、そこがどのぐらいのコストダウンが図れるのかということが分からなくて、今この金額すぐ出てきませんけれども、委託料を払って計画立てて、じゃ、いざやろうとすると、多分今の浄化センターにぽんとぶち込むわけじゃないと思うし、浄化センターも設備を強化しなきゃいかん、補強しなければならないと。そういう全体的な流れにおいて、まずそれをやることによって長期的なコストダウン、収益増というのが図れるということだけれども、やはりどのぐらいの経費がかかるのかというのが、今回の令和６年度の調査研究によって大体見えてくるというふうに考えておけばよろしいでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

この全体から見たときのコストダウンというのは、先ほど申し上げましたように下水道の処理場も維持する、衛生センターも維持する、それぞれやがて更新期を迎えるものをそれぞれ更新して維持し続けるというような全体の大きな金額と、１つにしたときというような比較になってこようかと思っております。そういう建設費用が幾らくらいかかるであるとか、方法もどの方法を取るかというようなことがございますので、まだ今回のこの計画の中ですぐその金額が出るというものでもないというふうに思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　じゃ、それはおいおいやっていくとして、別件です。企業債償還金、これは予算資料の１ページなんですけれども、この予算実施計画明細書比較の表の下のほうに企業債償還金というのが記載されております。令和４年度から令和５年度、そして令和６年度、年々減っていると、これは喜ばしいことかなというふうに思いますけれども、今後の企業債償還金の見通しはどのようになっていますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

これまでやってきております事業の原則的な考え方としては、償還元金以上に新たな借入額を起こさないということをしてきておりますので、この償還金は原則的に言えば次第に減っていくという流れにあります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　いや、それをそう信じておけばいいのか、浄化センターも随分、今、長寿命化を図ろうとしていますよね。そういう状況においてもそのルールは守りますということなのか、一般会計でやっている災害時は別枠よというようなことにならないでしょうねという、そこだけなんですよ。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

ただいまの償還元金のもとは、事業を始めた当初にあの処理場を造った、一時的に大きな費用をかけて造っております。それが長い期間の耐用年数を経て、今、現に減ってきているわけです。やがて更新期を迎えようとしています。ですので、また新たな投資、大きな投資というのは、更新のための大きな投資というのは必要になりますので、先ほど申し上げた原則的なルールの中では収まらないということは起きてきます。

ただ、耐用年数が例えば30年のものが、耐用年数30年過ぎたから、31年目にそのままどんと造るよということはしないで、それをなるたけ先送りできるものはして、少しでも平準化していこうというのがストックマネジメント計画でありますので、そういう中でやっていきます。ただその中でも、償還元金を上回って新たな起債を起こさなければならない年というのは出てくるものと思っております。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　多分そうなると思うんだけれども、それが５年先なのか10年先なのか、その辺も全然今は見通しがないということでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

５年、10年というスパンの中では、そういうことは起きてくるではないかと思っておりますけれども、そういうことを今後のストックマネジメント計画の中でやっていきます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

---

**◎散会の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　以上で本日の日程は終了をいたしました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。

散会　午前１０時１４分

開議　午前　９時００分

**◎開議の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　改めまして、おはようございます。

本日は定例会13日目であります。

本日は、２番、増田伸介君、５番、福世義己君から欠席の届出があります。

ただいまの出席議員数は11名であります。

これから本日の会議を開きます。

---

**◎議事日程の報告**

**○議長（大石　巌君）**　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

---

**◎一般質問**

**○議長（大石　巌君）**　日程第１、一般質問を行います。

会議規則第57条第１項及び第２項の規定によりまして、期日までに通告を受け、質問を許可をしております。また、同条第３項の規定によりまして、質問の順序は通告順といたします。

１人の質問及び答弁に要する時間は60分以内であります。関連質問はありません。

それでは、順番に発言を許します。

---

**◇　増　田　剛　士　君**

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

〔９番　増田剛士君登壇〕

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

今回は防犯対策の推進について質問を行います。

昨年10月27日小藤路公園落書き、今年１月10日吉田漁港トイレ落書きと公共施設への落書き事案が発生しました。報道によりますと、その対応として町は、パトロール強化を挙げております。

昨今、自治体の規模にかかわらず、犯罪被害の可能性が高まっている中で、防犯意識の向上、防犯対策の推進は安全で安心して暮らせる町としていくために、非常に重要な施策であると認識しております。

第５次吉田町総合計画後期基本計画、次期の第６次吉田町総合計画基本計画（素案）にも、第１章、分野・くらし安全の目指す状態として、安全で安心して生活できる、犯罪のない健

全で明るいまち、がともに掲載され、目標値、現状と課題等が示されております。

また、まちづくりステップアップ行政評価、令和５年度行政評価結果報告書にも５年度の取組状況、６年度の方向性が示されております。

そこで、以下、質問いたします。

(1)青色防犯パトロール実施団体数は、平成26年度以来、２団体にとどまっており、目標値10以上の達成はできていない。未達の原因と目標値10以上とした理由は。また、令和５年度の取組状況には、青色防犯パトロールを手軽に実施できるよう、方法の見直しを行うとあるが、どのような見直しを行ったのか。

(2)第６次吉田町総合計画基本計画（素案）によると、防犯パトロールの目標値に関し、実施団体数からパトロール回数に変更されているが、その理由とパトロール内容は。

(3)防犯まちづくり推進協議会の役割と活動内容の主なものは。

(4)犯罪の抑止や犯罪発生後の解決のために防犯カメラは有効な設備であり、第６次吉田町総合計画基本計画（素案）にも犯罪被害防止に配慮した環境の推進として示されている。

そこで、以下の事項を質問する。

①通学路防犯カメラ設置事業補助金について、補助金制度制定の経緯と実績は。

②事業所、子供110番の家、高齢者世帯等を対象とする防犯カメラ設置補助金制度の創設を提案するが、町の考えは。

③公園や公共施設等へ設置が必要であると考えるが、町の考えは。

(5)犯罪事件を知ることで、防犯意識の向上につながると考えている。２件の落書き被害について詳細な説明（被害状況と修繕にかかる経費等）と今後の対策は。

以上、答弁を求めます。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、答弁をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　防犯対策の推進についての御質問のうち、１点目の青色防犯パトロール実施団体数は平成26年度以来、２団体にとどまっており、目標値10以上の達成はできていない。未達の原因と目標値10以上とした理由は。また、令和５年度の取組状況には、青色防犯パトロールを手軽に実施できるよう、方法の見直しを行うとあるがどのような見直しを行ったのかについてお答えをいたします。

青色防犯パトロールとは、自主防犯活動の一環として、警察から自主防犯パトロールを適正に行うことができるとの認定を受けた団体が、青色回転灯を装備した車両で地域を巡回するもので、犯罪抑止及び地域住民の防犯意識の向上を図るため、全国的に実施されている活動でございます。

当町におきましては、行政が率先して犯罪の起きにくい防犯まちづくりに取り組もうと平成17年度から職員による定期的な青色防犯パトロールを継続して実施しております。

また、民間団体としては、吉田町花の会が平成18年度から青色防犯パトロールを実施しておりましたが、平成24年度に活動を休止し、以降、当町における青色防犯パトロールの実施団体は、吉田町と吉田町教育委員会の２団体にとどまっている状況でございます。

このような状況において、自主防犯活動の強化を図るため、第５次吉田町総合計画後期基本計画策定時においては、青色防犯パトロールの実施団体数を10以上とすることを目標に掲

げました。

この数値は、防犯まちづくり推進協議会の委員でございます民間団体の皆様の参加を促進するため、設定したものでございます。

しかしながら、青色防犯パトロールを実施するためには、実施しようとする団体自らが、警察への申請手続や使用車両ごとに必要とする警察や運輸局への登録手続を行い、また、パトロールする車両の運転手がその所持や携帯を義務づけられているパトロール実施者証を取得したり継続したりするため、定期的に講習を受講するなど、多くの労力を必要とすることから、これらが登録を妨げる要因となり、実施団体数の増加にはつながらなかったものと考えております。

このような状況の中、本年度の取組として、青色防犯パトロールを手軽に実施できるよう方法の見直しを行おうとした背景には、計画に沿ったパトロールの実施がございます。

町では、年度当初に年間のパトロール実施計画を作成した上で、月ごとに計画を周知や共有しながら、当番制による職員のパトロールを実施しております。パトロールの頻度は週に３回、年間で約140回の実施計画としておりますが、実際には例年、約半数の70回程度の実施にとどまっている状況でございます。

その理由としまして、通常の業務を行いながらパトロールに費やす時間の確保が難しいことが挙げられ、この打開策としてパトロールの方法を見直すこととしたものでございます。

この見直しの内容といたしましては、パトロールの人員と機会でございます。

昨年度まで、このパトロールは２人以上、かつ、パトロールのための時間を設けて実施しておりましたが、通常業務において、１人で外出する際に併せて巡回する、いわゆる、ながら見守りも可能としたものでございます。

次に、２点目の第６次吉田町総合計画基本計画（素案）によると、青色防犯パトロールの目標値に関し、実施団体数からパトロール回数に変更されているが、その理由とパトロール内容はについてお答えをいたします。

青色防犯パトロールは、回転灯の青色が広く目につくことで、犯罪抑止に対する防犯効果が高まり、また、車両を使用することで、広域的な活動が可能となりますので、パトロールの機会が増えるほど防犯効果も必然的に高まるものでございます。

第５次吉田町総合計画後期基本計画では、パトロールの機会を増やす手段として、実施団体数を増加することを目標に掲げておりましたが、現状を踏まえ、第６次吉田町総合計画基本計画では、同じくパトロールの機会を増やす手段としまして、職員によるパトロール回数を計画どおりに実行することを優先して目標に掲げたものでございます。

なお、パトロールの内容につきまして、頻度や方法は先ほど申し上げたとおりでございますが、下校時や放課後の時間帯を中心に、また、学校周辺や公園を中心に町内全域をくまなく巡回するよう努めているところでございます。

次に、３点目の防犯まちづくり推進協議会の役割と活動内容の主なものはについてお答えをいたします。

吉田町防犯まちづくり推進協議会は吉田町防犯まちづくり条例の目的でございます、町、町民及び事業者が協働して、町民の生命、身体または財産に危害を及ぼす犯罪を未然に防止し、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するための協議を行うため、同条例第11条の定めにより設置しているものでございます。

この協議会は、行政機関及び関連団体、自治会や学校関係者のほか、産業４団体など町内多数の関係者で構成され、当町の防犯まちづくりに関する施策や広報活動推進するため、意見交換や情報共有を行っております。主として、町からの情報発信を行っておりますが、施策の一例としまして、青色防犯パトロールの活性化なども呼びかけております。

次に、４点目の犯罪の抑止や犯罪発生後の解決のために防犯カメラは有効な設備であり、第６次吉田町総合計画基本計画（素案）にも、犯罪被害防止に配慮した環境の推進として示されているの１つ目の通学路防犯カメラ設置事業補助金について、補助金制度制定の経緯と実績はについてお答えをいたします。

静岡県では、地域における見守り活動を補完し、子供を狙った犯罪抑止を図るため、令和２年度に通学路に防犯カメラを設置する自治会等に補助する市町に対し補助金を交付する制度として、通学路防犯カメラ設置事業費補助金交付要綱を定めました。

町においても、子供の安全対策を推進するため、県に同調し、令和５年４月に吉田町通学路防犯カメラ設置事業費補助金交付要綱を定め運用を開始いたしました。

今年度開催しました吉田町防犯まちづくり推進協議会においても、この要綱の運用開始を改めて周知したところでございますが、実績といたしましては、本年度、川尻自治会が川尻会館に防犯カメラ１台を設置しております。

次に、２つ目の町内事業所、子ども110番の家、高齢者世帯等を対象とする防犯カメラ設置補助金制度の創設を提案するが町の考えはについてお答えをいたします。

現在、黄色いベストを着用した吉田町笑顔いっぱい運動による見守りや高齢者見守りネットワーク連絡会などによる見守りが行われており、このような地域の方々による見守りが犯罪抑止につながっているものと考えております。

こうした状況の中において、町内事業所、子ども110番の家、高齢者世帯等に設置する防犯カメラへの補助金制度につきましては、対象が多岐かつ広範囲にわたり、プライバシーに関する配慮や地域住民の合意形成、また、費用の面など多くの課題がございますので、現時点におきましては創設する考えはございません。

これまで同様、地域の方々や関連する団体との連携を図りながら、安全・安心の町づくりを目指してまいります。

次に、３つ目の公園や公共施設等への設置が必要であると考えるが町の考えはについてお答えいたします。

現在、防犯カメラを設置している公共施設もございますが、費用や維持管理における課題などがあることから、町といたしましては、基本的に必要最小限の整備を行うものとする考えがございます。新たな防犯カメラの設置など、公共施設への今後の対応につきましては、町を取り巻く環境に応じて総合的に判断してまいります。

最後に、５点目の犯罪事件を知ることで、防犯意識の向上につながると考えている。２件の落書き被害について詳細な説明（被害状況と修繕にかかる経費等）と今後の対策はにつきまして、警察が捜査している案件でございますので、捜査情報を除き、町が把握している事実と今後の対策についてお答えいたします。

最初に、昨年10月27日に発生しました小藤路公園における落書き被害につきましては、同日午前中にトイレ管理の受託者でございます吉田町シルバー人材センターの職員が、トイレ外壁や内部に油性スプレー缶塗料で書かれたものと思われる落書きを発見いたしました。

その後、職員が状況を確認しましたところ、トイレ以外にもあずまやや修景施設である滝など合計７カ所に同様の落書きがあり、同日中に牧之原警察署へ被害届を提出するとともに、マスコミへの情報提供を行い、報道されるに至っております。

この落書き箇所につきましては、小藤路公園が住民の憩いの場として多くの人に御利用いただいていることを鑑み、警察から修繕着手の了承を得た上で、11月22日までに全ての修繕を終え、この修繕に要した費用は、総額で19万2,995円でございました。

なお、今回の落書き被害を受けての対策といたしまして、警察とも相談の上、これまで週１回程度であった職員による公園パトロールを、週３回程度に増やして行っております。

次に、今年１月10日に発生しました吉田漁港トイレにおける落書き被害につきましては、同日午前中に小藤路公園と同様にトイレ清掃管理の受託者でございます吉田町シルバー人材センターの職員が落書きを発見いたしました。その後、職員が状況を確認しましたところ、トイレ建物の壁面や窓ガラスなど６か所に油性スプレー缶塗料で書かれたものと思われる落書きがあり、同日中に牧之原警察署へ被害届を提出するとともに、マスコミへの情報提供を行い、こちらも報道されるに至っております。

この落書き箇所につきましては、外壁の塗り直し、窓ガラスの塗料拭き取りなどの修繕を２月18日までに終え、この修繕に要した費用は、総額で28万4,270円でございました。

なお、吉田漁港トイレにつきましては、日頃より事業者による清掃を週３回行っており、職員も海岸周辺のパトロールを定期的に行っておりましたが、落書き被害を受けて、パトロール回数を週３回程度に増やして行っております。今後もこうした被害を抑制するため、定期的なパトロールを実施してまいります。

**○議長（大石　巌君）**　答弁が終わりました。

再質問はありますか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

答弁ありがとうございました。

では、一つずつ再質問させていただきたいと思います。

まず、答弁の中で、こちらの質問の一つ目、二つ目に関しまして、青色パトロールに関しまして、現状、町と教育委員会がやっているという中で、今後は、ながら見守りというような話が答弁にございます。

まず最初に聞きたいのが、この青色パトロールをやるには、先ほど答弁の中にもありましたが警察への申請がいろいろあって面倒だよ、面倒な手続があって増えなかったよという原因もある中で、現状、職員、あるいは教育委員会で何名ほど実施者証というものを持っている方がいるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

現在、町の職員でこのパトロール実施者証取得者証を取得している職員は、約130名おります。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

130人というとかなりの人数であると思います。

その方々というのは、常に、じゃ、ながら見守りやるには、常に青色のパトロールカーに乗って、順繰り順繰りやるというようなことになるんでしょうか。あれは、基本的に磁石でできた看板みたいのを車に貼り付けて青色のあれをつければいいというふうに規定ではなっているようですが、それがもう着脱式で常に自分ちが動く車にそれをつけて動くよということでよろしいんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

この青色防犯パトロールを実施するときの車両でございますが、やはり事前に警察、あるいは運輸局へこれは青色防犯パトロールに使う車両ですよという登録を行います。今現在町では16台の公用車が登録しているわけなんですが、ながら見守りをやる際にも、その16台のうちの１台を使って、今おっしゃいましたように磁石でパトロール中であるということと、あと青色の回転灯を装着して現場とかそういったときに同時にパトロールしていただく、そういったものになります。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　答弁の中で、今後の業務について、今までは２人以上でやっていたところを１人でもいいよというふうにしたということなんですが、そこについては、警察云々のその指導というか、１人でもそれが可能であるという、一般的に考えると２人くらいでやるのが普通かなと思うんですが、そこはちゃんとそういったルールにのっとってやっていくということでよろしいでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

やはり青色防犯パトロール、やはりちょっと手間がかかるということで、恐らくですが全国的に同じような課題がある中で、やはり警察としても見守りの担い手を増やすために、ながら見守りを、警察のほうが推奨して始めましたので、町もそれに便乗するという形でございます。これは、警察と協議した上で、こういったことも可能にしたというものでございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　そうした中で、多少、警察との交渉というか話合いの中であるとは思うんだけれども、一般の団体の方が、なかなか参加できない、理由としては挙げられているんだけれども、そこをちゃんとやっぱりやっていかないと、本当に、職員に頼るのも、もうある程度限界があるのかなと、ましてや夜間であるとか、早朝であるとかといったときには、なかなか対応はできるのかなという疑念があります。

職員がそこまでするのかというのもあるし、その辺について、やはり一般の団体のそうした登録が必要であると思うんですが、その点について、どうお考えというか、それについて進めていく方針というものがあるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

まず、青色防犯パトロール実施団体となる条件というものが幾つかございます。幾つか挙げさせていただきますと、自主防犯パトロールを行う団体であって、次のいずれにも適合していると認められるという中に、団体が県または市町であったり、県または市町から防犯活動の委託を受けた者であったり、県または市町から防犯活動の委託を受けた者と、また実施計画に対し継続的な自主防犯パトロールの実施が認められること、青色防犯パトロール講習を受講しているなど、防犯パトロール中に予想される事案に対して適切に対応できると認められることなど、幾つか条件がある中で、それに認められると活動のほうができるようになります。

町長答弁でもありましたように、今、計画、目標としましては、職員のパトロールを計画どおりやるということに挙げさせていただいたんですが、団体を増やすということも当然必要と考えておりますので、引き続き防犯まちづくり推進協議会の委員の方たちにも、呼びかけを行うとともに、こういった青色パトロールの必要性については周知してまいりたいと思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　今お話の中で、事案に対応することというようことがあったんだけれども、単なるパトロールをしているだけで何かしらの事案があったときの対応というのは、どこまでが許されているのか、ただ通報するだけなのか、その辺の点について、もし答弁できるようでしたらお願いしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

先ほど、条件として記載されていることをちょっと読み上げさせていただいたところでございますが、実際、青色防犯パトロールを実施しているときに、そういった犯罪現場や事故現場に遭遇した場合は、救助等そういうのは当然必要になってくるかと思うんですが、基本的には迷うことなく110番通報するというふうに警察からも指導を受けていますので、そういったことを講習で周知しております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　当然逮捕権も何もないわけで、その辺は分かっているんだけれども、じゃ、そういった事案があったときには、まずは通報、それを追いかけるというのはおかしいかもしれないんですが、ただ通報だけで警察なりが来たときに、あっち行ったよ、こっち行ったよという程度のことなんでしょうか。

というのは、やっぱりある程度、防犯パトロールをやっていてどこまで自分達できるのという、もちろん講習受けてやるんでしょうけれども、その辺が、講習を受ける前にそういったことが多少分かっていれば、じゃあやってみようかというものもが出てくるのかなと思うんですよ。

あくまでも講習とかそういうのでやるから、その辺についてはなかなか広報できないよというのか、その点についていかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

この青色防犯パトロールも含めて、自主的な防犯パトロールというのは、やはり安全が第一というのが前提にございます。

ただ、今議員おっしゃられましたように、この活動をやろうとしている方が、もしそういった懸念とかをいだいているという可能性もございますので、こういったパトロールはこういうものであるというのを、何らかの形で周知はしていきたいと思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

その点、今後上手に広報していただいて、件数が増えることに関しては問題はないし、増えてもらったほうがお互い負担も軽くなると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

次に、４点目の通学路防犯カメラ設置についてなんですが、これ県では令和２年度に、もう、そうした制度というか補助金交付のものを始めていますよね。

で、当町では令和５年、今年度４月から、令和２年にもう県のほうでは、そうしたものがあるのにもかかわらず、我々、我が町は今年度からというところで、このタイムラグというかについて、何でずれたのかな、大体吉田町の場合、そうしたものがあるとすぐやるというのが非常に頭の中にあるんだけれども、これに関しては遅い、遅いと言ったら失礼ですが、なおかつ、この制度は７年度で終わりなんですよね、確かね。７年度で延長はするかもしれないけれども、今のところ７年度で終わり。あと２年度しかないわけです。

ここへ来て、これを始めたというところが、なぜかなというのが非常に思いがありますので、その点について答弁お願いします。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

議員おっしゃられましたとおり、県が令和２年度から運用を開始しているのに対しまして、町のこの運用は令和５年度からと、約３年間ぐらいの開きがあるのは確かでございます。町としても防犯対策上、この通学路防犯カメラに対する交付が必要と判断して要綱制定の準備が整ったのがこの時期ということでここから始めているわけなんですが、それに代わる、今、通学路のほうに切り替わったんですが、それまでは吉田町地域防犯活動支援事業費補助金交付要綱というのがございまして、これも交付するようなものでございまして、これをずっとやっていたんですが、この令和５年のタイミングでこちらに切り替えたという経緯でございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　今、６年度予算が、この後質疑があったりするんだけれども、今回予算計上が100万になっていて、大体４件分くらいのものだよということは聞いております。その数が多いか少ないかというのは、ちょっと分からないんだけれども、なるだけ多くのところにつけていただきたいというのがあると思います。

ましてや県の補助が２分の１、カメラ１台につき15万の補助が出るというようなのを県のホームページを見たら出ていたんですよ。町は25万補助しますよという中で、もうちょっと増やせるのかなと思うんですが、今回、質疑でやってもいいんだけれども、今ちょっと聞い

ちゃいますけれども、100万に抑えた理由とかあるんでしたらお願いしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

議員おっしゃられましたように、県の交付要綱上は制定で上限が15万となっていますので、２分の１、15万です。計算上は30万ということになるんですが、町が町としてのこの交付要綱を制定したときに、先ほども申し上げました、吉田町地域防犯活動支援事業費補助金交付要綱のときに、やはり同じ25万という補助金を設定していましたので、これをそのまま引き継いで、今町のほうは25万円としているものでございます。

通学路防犯カメラの推進に当たっては、基本的には自治会から要望を上げていただいて、それを県に申請していくという流れになるんですが、来年度につきましては、今４件の要望をいただいていますので、１件当たり25万として掛ける４の100万を計上させていただいてものでございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　じゃ、既に現状もう４件あるということで、今確定しているというところですね。で、それ以上のものはつけないで、取りあえずその分がお支払いできるように予算を組んだというところでよろしいんですか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

現状、今４件の御要望をいただいていますので、その金額を計上させていただいていますが、実際の運用に当たっては、年度明けまして年度当初６月ぐらいまでになると思うんですが、県のほうに補助金申請をして、それが採択されるかどうかというのが７月に分かりますので、その結果をもってというところはあるんですが、そこでお認めいただければこの予算執行とさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　では、次にいきたいと思います。

私のほうから、町内事業所や子ども110番の家、高齢者世帯等に対する対応する防犯カメラ設置補助金みたいなものはどうだというところで、ゼロ回答なんですが、実際のところ、非常にそれがあればいいんじゃないかとすごく思うんですよ。特に、今、高齢者を狙った詐欺事件というかそういったものも起きていますよね。そういうのの防ぐこともあるし、もし、そういう被害に遭ったときにそのカメラで撮っていれば検挙につながるのかなというのも非常に思っております。

そういう意味でも、全く必要がなものではないと思うし、ましてや、笑顔いっぱい運動ももちろん昼間はやっていただいております。でも、大体犯罪というか、そういったことが起きるのは、真っ昼間か人がいない時間帯または深夜とか、そうなると、やっぱり防犯カメラというのは非常に有効な手だてであると思います。

それを今のところは、そういったものがプライバシーに関する配慮であるとか、地域住民の合意形成という答弁にあったけれども、その辺はもう話をすればできるんじゃないかな、ましてやプライバシーに関する配慮というのは、別に常に監視しているわけじゃないですよ

ね、監視カメラじゃないんで。そんなに反対する意見というのは出ないんじゃないかなと思うんですが、その点について、今後もうちょっと考えていくというようなことは全くないんでしょうか。

**○議長（大石　巖君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

議員おっしゃられますように、町としましても、防犯カメラというのは、一つとして犯罪の抑止、二つ目に住民の安心感、三つ目として事件解決、こういった効果が得られる防犯対策として有効な手段の一つというふうに考えておりますので、町が設置管理するものの防犯カメラに対しては、ちゃんと要綱も制定して運用しているところでございます。

ただ、議員が御提案いただきました、町内事業所、子ども110番の家、高齢者世帯等、これは一例というか例であるとは承知しているんですけれども、ちょっと見守る位置が道路であったり、玄関であったり、駐車場であったり、屋内であったりもする可能性もあります。

また、見守る対象が人物であるのか、財産であるのかいったところもあって、やはり多岐にわたる中で、やっぱり用途が広くなり、ちょっと補助事業としてルールづくりがちょっと今困難ではないかというのが一つあるのと、今いろいろ例の中で、ここまでという線をつくれば、つくるというのもあるのかもしれないですが、現状このとおり読むと、設置対象数がかさみ、ちょっと財政的に困難と、あと際限がなくなるというので対象範囲の限定が必要といった課題もあって、現時点ではこういった制度を創設するというような考えはございません。

ただ、特に公共性が高いもので、例えば、局所的にちょっと先ほどの落書きではないんですが、ちょっと犯罪が多発したりするときには、それはその対策として防犯カメラを設置していかなきゃいけないというような一つとして挙げられますので、その辺はちょっと、バランスというんですか、状況を見ながらまた判断してまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巖君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

全てをやれというのは、まず無理なのは分かっていますよ。そうした中で、ある程度限定して、じゃ、高齢者被害がちょっと厳しいねとなったら、それに限定してやるとかというのはいいのかな。何も全額補助することもないし、ある程度の額で上限設けてやっていければ、非常に安心して暮らすというのが、もう町の大前提ですよね。それを考えたときにやっぱり必要かなと思いますので、今後考えていただきたいと思います。

３つ目の公園、公共施設についても、答弁では基本的に必要最小限の整備という答弁をいただいてありますが、この必要最小限の整備というとどういったことが言えるんでしょうか。

**○議長（大石　巖君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

必要最小限ということは、やはり、やみくもという表現はちょっと正しくないかもしれないんですが、もう公共施設のそこら中につけるというものではなく、ある程度ここは犯罪が起きているとかそういった箇所について、ちょっと詳細は防犯上申し上げられないところはあるんですが、例えば、役場の南側の駐輪場、あと中央公民館の駐輪場に役場のほうで防犯カメラを設置してございます。これはやはり、自転車の盗難防止、そういった事案も発生し

たことからそれを抑止する目的で設置しておりますので、そういう事象に応じた最小限の対応という表現でございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　そうしますと、そうした可能性じゃなくて、もう実際起きたことに関して、やっていくというように受け取ったんですが、町内の統計はそんなにないのかもしれないんけれども、公園にしても、今回の落書き事件もそうなんだけれども、実際起きているわけですよ、大きな事件とは言えないかもしれない、でもこれが重なっていくと、公園の中で何かしらあったときに、それはもう最小限とか言っている場合じゃないのかなと思います。

非常に日本は安全な国だと言われつつも、最近ではもう本当に凶悪な事件も起きているし、思いもよらないところで起きているわけですよ。それを考えたときに、せめて公園あたりには必要じゃないかな。それこそ広大な公園の敷地の中に何か所つければいいだという話はあるかもしれません。でも、ポイントで出入口であるとかにつけておけば、ある程度事件後の把握もできるのかなとも思うし、仮にじゃ、遊具があって、遊具の近くにあったら、もし事故があったときに、こういうことがあって事故が起きたんだなというのも分かると思う。そういうもののためにも、やっぱり必要かなと思うんですが、その辺は最小限の中には入ってこないんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

公園の関係の設置ということなので、建設課のほうでお答えさせていただきますけれども、先ほど、議員のおっしゃられましたように、被害の状況とか頻度そういうものにもかかわってくるものとあるかと思ってございます。従前、防犯防止の観点で防犯カメラというのは大変重要なものであり、そこのところの設置というのが有効な手段ということも町のほうでも分かってございます。

その中で防犯カメラが最も合理的に設置することが方策としてあっているというようなものでありましたら、これまた警察、あと地元、そちらとも相談等協議しながら防犯カメラの設置、こちらのほう、また検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　言葉尻を捉えて申し訳ないんですが、合理的に考えて、と今おっしゃったんだけれども、その合理的というのは何を指して合理的としているんでしょう。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

合理的という話なんですけれども、こちら防犯カメラの設置は一番有効であるというようなところを捉えて話させていただいてございます。町のほうでも対策としましては、パトロールの増加とかというのもやってございますし、また町のほうだけではなく地域の方の目というのもございます。ほかには警察におきましても、夜間での警ら、そういうものもやっていただいているような状況でございますので、そういうものを複合的に考えて防犯カメラの設置が最も有効だというような手段であれば、そちらのほうを検討していかなければならないというふうに考えているものでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　了解しました。

最近、よく町なかでよく見る看板があります。安心見守りカメラ推進地区という黄色い看板、これ、急にいっぱい見るようになったんだけれども、これは自治会連合会と牧之原警察署が設置しているもののようです。で、そういった推進地区という、うたっている、で、それについて、じゃ町として、じゃ、そういうものを認めて、じゃ推進地区に関して何かしらのアプローチはしているんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

今、議員がおっしゃられました推進地区というところで、今町のほうから指定というか推進しているような実績はございません。

以上でございます。

**○９番（増田剛士君）**　ございます。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　ございません。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

そうしますと、これはもう、本当に自治会連合会と警察が両方でそういうふうにやっているだけであって、町はあまり関与していないよということなのか、さきに質問した防犯まちづくり推進協議会云々の中でもそういったものは出ていないということでよろしいですか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

そのような協議会の中で自治会連合会のほうから、もし発信していただいていたら大変申し訳ないですけれども、私の承知している中では、ちょっとそういった情報はちょっと私の記憶にはございませんので、ただ、そういった場で共有を図っていきたいと、そのように考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　そうしますと、防災で安心まちづくりをしようと言っている中で、片ややっていることがあまり情報が入っていないというのは、どこかに不具合があるのかなと、今当然町分かっていると思って、今聞いたんだけれども、承知していないというと、じゃ、様々な防犯関係の協議会であるとか何とかというのは、どういった役割を本当にしているのと今思っちゃったんですが、どうなんでしょう。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

この吉田町防犯まちづくり推進協議会でございますが、今年度においては、昨年11月29日に開催のほうしてございますが、その内容としましては、警察のほうから管内の犯罪情勢報告、また情報共有としまして、協議会の活動報告、ただ、これは活動報告としましては、過去３年間にやはりコロナ禍ということで、今年度については実績なしというところで報告のほうはございませんでした。

防災研修としまして、町のほうから、協議会活動上の心構えということで研修を実施したという中でございますけれども、ちょっとコロナ禍というのもあったのもあるのかもしれませんが、もう少しそういった推進協議会の中で情報共有の強化を図ってまいりたいと思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　ぜひお願いしたいと思います。

ましてや「安心見守りカメラ推進地区」というような看板なんで、これが先ほど言っていた通学路防犯カメラ設置にも結びついていけば、非常にありがたい話だなと思いますので、ぜひその辺は情報を密にしていただいて、生かしていただきたいと思います。これは、要望というか、お願いしたいと思います。

最後になりますが、落書き事件についてなんですが、実際のところ、詳しい話はまず無理だと思うんでいいんですが、要は修繕に要したお金というのは被害金額だと思うんだけれども、これらのものは、仮に犯人というか、やった人間が捕まった場合は、請求するんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

公園の被害のところでちょっと御説明させていただきますと、約20万円のぐらいの被害ということになりまして、こちらにつきましては、請求のほうさせていただくようになると思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

当然、これ、犯罪になります。当然町の税金も使っていることから、この見つかった場合は請求をさせていただきます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　非常に安易に落書きとか、こういうのが出ちゃうと、する可能性があるのかなと思います。

そうしたときに、やっぱりこれだけの費用がかかるしというのをちゃんと公表して、これは明らかに犯罪なんだよというのを告知していかないと減らないのかな。どうせ捕まらなきゃいいやぐらいに思っていたらもう本当減らないと思うんで、ここはちゃんと広報もしていただきたいと思います。

今後の対策という中で、パトロールを週３回程度に増やすというのが主なところだと思うんだけれども、これ、昼間ですよね。その点について、じゃ、夜間も何かしらのものがあるのかというところでお聞きしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

基本的には、パトロールにつきましては、昼間のパトロールということになります。夜間についてでございますけれども、こちらにつきましては、また警察とも相談させていただく

形になるんですけれども、基本的には警察のほうとかで警らをしていただく。あと、また地元の皆様の通報で対応するとか、そのような形があるのかというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　大体こういうの夜間ですよね、やるのがね。そういう中で、夜間に関しては警察云々でお願いするにしても、今回こういう事例が出たことで、先ほどの話に戻って申し訳ないんだけれども、防犯カメラ設置できる条件になったのかどうかというところでお願いしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

先ほどもすみません、御説明させていただきました、それこそ被害の状況であるとか、頻度そういうようなものでも考えていかなければならないかというところもございますんで、それまた検討させていただくようなことになると思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　今回は防犯カメラについて主に質問させていただいたわけですが、安心して暮らせる町づくりの中で、本当に今後もパトロールと防犯カメラ、非常に重要なものだと思いますので、ぜひお金がないからとか何とかじゃなくて、防犯カメラ等設置をぜひお願いして質問を終わらせていただきます。

**○議長（大石　巌君）**　以上で、９番、増田剛士君の一般質問が終わりました。

---

**◇　平　野　　積　君**

**○議長（大石　巌君）**　続きまして、７番、平野　積君。

〔７番　平野　積君登壇〕

**○７番（平野　積君）**　７番、平野です。

一般質問を始める前に、お恥ずかしい話なんでございますけれども、今回通告書及び参考資料に多くの間違いがございました。ここで修正させていただきます。

まず、表題なんですけれども、「吉田町第６次総合計画」と記載いたしました。これは、「第６次吉田町総合計画」で、そんな計画はないと、答弁拒否されても仕方のないような事態でございますけれども、それを許していただいた寛大な対応に感謝いたします。

次が、通告書の４行目、将来像、「豊かで活気あふれ、心を魅了するまち　吉田町」というのは、「将来都市像、豊かで活気に」、「に」が入ります、「にあふれ」に修正願います。

三つ目は、質問４の経費回収率についてが「令和４年度実績50.4％」と記載しましたが、これは「53.24％」でした。

四つ目は、質問５の２行目、「第６次計画の現状値（令和３年度）を844グラム」としましたが現状値が「令和４年度で760.58グラム」に修正されておりました。これに伴い、参考資料の１ページの下、２行目、２番目の欄の分野「ごみ減量・リサイクル」とし、現状値を760.58グラムに修正していただいて、括弧の「令和３年度」を外してください。

最後に、質問７で、「審査会等委員」と記載しましたが、「審議会等委員」の誤りでした。これについては、参考資料のほうは正しい表記になっています。

今回は多くの間違いがあり、当局を混乱させてしまいました。誠に申し訳ございませんでした。今後は、しっかりとチェックした後、提出したいというふうに考えております。

では、質問を始めます。

私は、通告のとおり、第６次吉田町総合計画（素案）の分野の主な成果の指標の目標について質問いたします。

吉田町は、平成26年度から令和５年度までの８年間の町づくりの指針を定めた第５次吉田町総合計画基本計画を終了し、令和６年度から令和９年度までを対象期間とした第６次総合計画前期基本計画を策定する予定であります。

本前期基本計画は、総合計画基本計画構想で示した将来都市像「豊かで活気にあふれ、心を魅了するまち　吉田町」を実現するための具体的な取組の方向性を示したものであります。

本前期基本計画は、７つの章の下に掲げられている45の分野で構成されており、各分野には主な取組の進捗度を図るために必要な分野の主な成果指標（以下指標と称す）が掲げられ、それぞれに目標値が示されています。目標値は、定められた期間において、関係者が認めるチャレンジングな取組・道筋を完遂することによって、達成可能な値であると私は認識しています。

そこで、以下の点について質問いたします。

１、吉田町総合計画基本計画の指標の目標設定値に関する吉田町の指針は。また、担当者は目標値の設定理由及びそこに至る施策を提出しているか。

２番、分野「地震・防災対策」の指標にＬ２レベルの津波防潮堤の整備率の目標値として100％を掲げている。整備率100％とはどのような状況か。

３、分野「治山・治水対策」の指標の治水対策新規事業着手箇所の目標値を６か所としている。６か所は具体的にはどこを想定しているか。

４、公共下水道事業においては、令和４年度実績53.24％の経費回収率を令和12年度に100％にすることを目的に、令和６年度に使用料の値上げを行い、令和９年度に２回目の値上げを行う予定である。にもかかわらず、分野「下水道・浄化槽・し尿処理」において、経費回収率の向上を指標としなかった理由は。

５、分野「ごみ減量・リサイクル」の指標として、１日１人当たりの可燃ごみの排出量の目標値を584.11グラムとしている。第６次計画の現状値、令和４年度ですが、760.58グラムは、第５次計画の現状値（平成30年度）の743.2グラムに比べ増加している。目標達成のための新たな施策は。

６、分野「コミュニティ」の指標として、自治会加入率の目標値を71.7％としている。第６次計画の現状値（令和４年度）において、65.1％は第５次計画の現状値（平成30年度）の68％に比べ減少している。目標達成のための新たな施策は。

７、分野「男女共同参画・人権尊重」の指標として、審議会等委員に占める女性の割合を掲げ、目標値を28％としている。目標値の根拠は。

８、分野「学校教育」の指標として、全国学力・学習調査の県平均正答率以上の科目数の割合を掲げ、目標値を小・中学校ともに100％としている。第５次計画においても同様の目標を掲げ、達成できなかった。目標を達成するための新たな施策は。

以上、よろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、答弁お願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　議員の御質問にお答えする前に、議員が出された通告書の中で、ちょっと分からないところがあったものですから、後ほど教えていただければありがたいですけれども。

質問の要旨の９行目に、目標値は、定められた期間において、関係者が認めるチャレンジングな取組・道筋を完遂することによって、達成可能な値であると私は認識していると。この関係者とはどなたでありますかね。また、後ほど教えていただければ。

第６次吉田町総合計画基本計画（素案）の分野の主な成果の指標の目標値についての御質問のうち、１点目の総合計画基本計画の指標の目標値設定に関する吉田町指針は、また、担当者は目標値の設定理由及びそこに至る施策を提出しているかについてお答えをいたします。

第６次吉田町総合計画の基本構想案につきましては、令和４年度から策定に向け、基礎資料の収集として、住民意識調査、町づくりタウンミーティング、各種団体ヒアリング、高校生町づくりミーティングなどを行い、皆様からいただいた貴重な御意見や御提案を踏まえ、吉田町地域づくり推進委員会や吉田町総合計画等審議会において議論を重ね、策定を進めてまいりました。

吉田町総合計画基本計画につきましては、次期計画であります第６次吉田町総合計画基本構想で示す将来都市像「豊かで活気にあふれ、心を魅了するまち　吉田町」を実現するための基本理念に沿って掲げた７つの施策の大綱について、基本的な取組の方向性を示すために策定するものでございます。

この基本計画の策定に当たりましては、現行の第５次吉田町総合計画後期基本計画の評価状況を踏まえ、分野ごとに目標を設定し、その達成状況を分析、評価することで取組の改善につなげていくいわゆるＰＤＣＡサイクルを効果的かつ効率的に進めるため、総合計画と予算を連動させた町独自の行政評価システム、吉田町まちづくりステップアップ行政評価をベースとして策定を進めてきたところですが、その際に重要となるのは、目標の達成度を具体的かつ客観的に測定し、取組を分かりやすく説明するための手段となる指標とその目標値でございますので、今回の第６次吉田町総合計画基本計画におきましても、各分野において、指標及び目標値を設定しているものでございます。

この指標の設定に当たりましては、その指標が基本構想や分野の目標の達成に寄与しているものであること、町民が指標の意味を理解できるものであること、持続的に記録されている情報で、経過の確認が可能であること、出典が明らかなデータであることの四つを基本的な要件としております。

指標の目標値の設定につきましては、全国や県内等の平均値との比較など、可能な限り相対的な比較ができる目標値とすること、適切な目標水準の設定に努めるとともに、現状値を高める、または維持する目標値とすること。町を取り巻く社会情勢の変化を見据え、町民に理解が得られる目標値とすることの３点を念頭としております。こうした考えの下、指標と目標値をそれぞれ設定したものでございます。

また、担当者は目標値の設定理由及びそこに至る施策を提出しているかにつきましては、

基本計画の策定に際しては、提出された計画策定調書を基にヒアリングを重ねてまいりました。

この調書の構成として、将来都市像と町づくりの基本理念の実現に寄与する目指す状態を設定し、現時点における現状と課題を整理した上で、それらに対応するために勘案した施策を検討し、その施策の成果を示す指標と目標値を設定するとともに、目標の考え方、目標の出典を明記するものとなっており、目標値の設定理由をはじめ、分野の目標を達成するための手段となる施策も併せて議論しているものでございます。

次に、２点目の分野「地震・防災対策」の指標にＬ２レベルの津波防潮堤の整備率の目標値として100％を掲げている。整備率100％とはどのような状況かについてお答えをいたします。

東日本大震災以降、町は津波防災町づくりを喫緊の課題と位置づけ、千年に一度の大津波から町を守るための事業に取り組んでいるところでございます。

防潮堤の整備につきましては、津波防災町づくりの一丁目一番地として、海岸線で津波を食い止め、町民の皆様や町内企業の皆様の財産と生産活動を守るため、令和４年３月に川尻工区の整備が完成しております。

今回、第６次吉田町総合計画基本計画の目標値に掲げております防潮堤整備率100％とはどのような状況かにつきましては、川尻工区と同様に、住吉工区におきましても、レベル２津波に対応した盛土構造物が完成し、海岸線で大津波を食い止められる状況でございます。

現在、住吉工区の早期着手に向け、具体的な整備手法について、国や県と協議を重ねているところでございますが、確固たる安全を早急に確保するため、スピード感を持って事業を進めてまいります。

次に、３点目の分野「治山・治水対策」の指標の治水対策新規事業着手箇所数の目標値を６か所としている。６か所は具体的にどこを想定しているかについてお答えいたします。

町の治水対策につきましては、坂口谷川水災害対策プランや吉田町湯日川流域治水対策計画に基づき、浸水被害の軽減を目的に、過去に被害が大きかった箇所などから優先的に対策を進めていく計画でございます。

議員御質問の６か所は具体的にどこを想定しているかにつきましては、令和４年度から既に事業に着手しております普通河川宮裏川をはじめとして、普通河川第２宮裏川、準用河川稲荷川、普通河川神戸川、普通河川住吉川、準用河川西の宮川でございます。

町内で特に浸水被害の発生頻度が多いこの６河川につきましては、排水ポンプ場の整備など、総合的な流域治水対策を実施することにより、町民の皆様に安心して生活していただけるよう事業を推進してまいります。

次に、４点目の公共下水道事業においては、令和４年度実績53.2％の経費回収率を、令和12年度に100％にすることを目的に令和６年度に使用料の値上げを行い、令和９年度に２回目の値上げを行う予定であるにもかかわらず、分野「下水道・浄化槽・し尿処理」において、経費回収率の向上を指標としなかった理由はについてお答えいたします。

下水道事業においては、経費回収率100％を目指すことは、安定的な下水道経営を行うことで、下水道使用者に対してサービスを持続的に供給するとともに、経営の効率化や健全化に資することとなるため、適正な使用料収入の確保に努めるとともに、汚水処理費の削減を図っていく必要がございます。

しかしながら、経費回収率を指標設定とした場合の問題点として、達成を絶対視するあまりに必要な修繕を先送りしてしまうことや、国などから求められる取組への着手が遅れるなど、投資へのブレーキとなってしまうことにより、結果として後年度の費用の増加や経営環境の変化への対応に遅延が生じ、事業の運営に悪影響を与えてしまう懸念がございます。

また、収入確保の面としまして、下水道使用料の改定は、使用料算定のために、使用料対象経費を積算する期間となる使用料算定期間を設定して行っております。下水道使用料は、日常生活に密着した公共料金としての性格から、できるだけ安定性を保つことが望まれる反面、あまりに長期にわたってその期間を設定することは、予測の確実性を失うこととなります。

今回の使用料改定におきましても、令和４年度から令和８年度までの使用料算定期間を設定し算定をいたしました。当初令和２年度に算定した吉田町公共下水道事業経営戦略においては、第１段階の料金改定として、改定率33％を見込み、その改定による経費回収率は80％を目指すこととしました。

しかしながら、エネルギー価格の高騰など、外部要因による予測を超える経費の上昇を受けて改定率は33％としましたが、その経費回収率の目標は、令和８年度に67％とすることに下方修正をいたしました。

このように、使用料算定期間の最終年度における経費の改修率を目標とすることは可能ですが、使用料の対象経費として予見できない経費が生じる可能性があることから、毎年の指標数値として設定することは適当ではないと判断したものでございます。

そのため、第６次吉田町総合計画基本計画での分野の主な成果指標としては、下水道事業の経営基盤強化につながり、経費回収率向上に寄与する水洗化率と下水道処理人口普及率を指標設定したものでございます。

次に、５点目の分野「ごみ減少・リサイクル」の指標として、１人１日当たり可燃ごみの排出量の目標値を584.11グラムとしている。第６次計画の現状値（令和３年度）760.58グラムは、第５次計画の目標現状値（平成30年度）743.2グラムに比べ増加している。目標達成のための新たな施策はについてお答えをいたします。

町では、「ごみ減量・リサイクル活動が活発に行われている美しいまち」の実現に向け、ごみの分別やリデュース、リユース、リサイクルの取組を推進し、ごみの減量化を図る施策を展開しておりますが、第５次吉田町総合計画後期基本計画の目標値である１人１日当たりの可燃ごみの排出量を603.81グラムには到達していない状況でございます。

このため、第６次吉田町総合計画後期基本計画を策定に当たりましては、現状と課題を分析するとともに、指標、目標値の設定、施策の方向性につきましても再度検討しました結果、分野の目的に対し、その手段となる施策の方向性は、これまでと同様に継続していく必要があると判断しておりますので、議員が言われる新たな施策というものはございません。

しかしながら、各施策を達成するための手段となる事務事業レベルでは、新たな取組や新たな工夫といった改善を行う予定でございます。

一つは、昨年第４回議会定例会におきまして、蒔田議員から提案がございました衣類等の回収事業の実施でございます。この衣類等の回収につきまして、現在準備を進めているところですが、衣料等の回収ボックスを主要な公共施設等に設置し、衣類等のリユース活動を実践し、ごみの減量化を図ろうとするものでございます。

もう一つは、各家庭から排出をされる可燃ごみの減量につきましては、主に生ごみに含まれる水分を削減することによってごみの減量化が図られますことから、生ごみの水切り方法等に特化した特集を「広報よしだ」や町公式ＬＩＮＥなどを通じて、町民の皆様に広く周知していく予定でございます。

また、あわせて生ごみの減量化につきましては、生ごみ処理機等の活用も有効な手段となりますので、町の生ごみ処理機器等設置補助金制度の活用については、各家庭はもちろんのこと、生ごみ処理機器を販売している店舗等にも積極的にアピールを行い、ごみ減量に向けた意識の向上を図ってまいります。

このように、第６次吉田町総合計画基本計画では、ごみの減量化に向けた取組を改善しながら展開していくことで、「ごみ減量・リサイクル活動が活発に行われている美しいまち」を目指し、目標値である令和９年度の１日１人当たりの可燃ごみの排出量581.11グラムの達成に向けて、事業を実施してまいりたいと考えております。

次に、６点目の分野「コミュニティ」の指標として、自治会加入率の目標値を71.7％としている。第６次計画の現状値（令和４年度）65.1％は第５次計画の現状値（平成30年度）68％に比べ減少している。目標達成のための新たな施策はについてお答えいたします。

コミュニティの分野におきましては、「住民が積極的にコミュニティ活動に参加し、地域活動が自発的に進められているまち」を目指しており、その地域コミュニティの中心的な担い手であります自治会への加入につきましては、少子高齢化や核家族化をはじめとする社会情勢の変化、個人の価値観の多様化などにより、若い世代を中心に自治会や町内会離れが全国的に課題となっております。

本町の自治会加入率の減少につきましては、昨年第３回議会定例会の一般質問においてもお答えしましたとおり、加入率を算出する際に分母となる住民基本台帳上の登録世帯数が増加していることが要因であると分析しております。

具体的に申し上げますと、平成30年度は登録世帯数１万1,117世帯に対し、隣組加入世帯が7,607世帯、令和４年度は登録世帯数１万1,740世帯に対し、隣組加入世帯が7,647世帯であり、このように加入世帯数が増加しているにもかかわらず、様々な理由により登録世帯数が増加していることによって、加入率が減少している状況でございます。

このような状況におきましては、自治会において、積極的にコミュニティ活動を行っていただくため、自治会連合会と提携して作成しました自治会加入促進のためのチラシを昨年１月から役場窓口等で配布しておりますが、これに加え、本年１月からは多言語化したチラシを役場窓口や公共施設に配架し、年々増加する外国人住民の皆様にも自治会組織について御案内し、加入促進に努めているところでございます。

第６次吉田町総合計画がスタートする令和６年度以降につきましても「住民が積極的にコミュニティ活動に参加し、地域活動が自発的に進められているまち」を目指し、引き続き転入者や外国人住民の皆様へのアプローチを行うとともに、自治会の皆様と連携を図り、町内企業や関係団体などの皆様にも協力を得ながら、自治会への加入を呼びかけていただくなどの取組を継続してまいります。

次に、７点目の分野「男女共同参画・人権尊重」の指標として審議会等委員に占める女性の割合を掲げ、目標値を28％としている。目標値の根拠はについてお答えをいたします。

議員の御質問にございます審議会等委員とは、地方自治法第202条の３に基づく普通地方

公共団体の執行機関の附属機関等を指し、具体的に町においては、吉田町公民館運営審議会などをはじめとして、吉田町都市計画審議会、吉田町防災会議、吉田町民生委員推薦会など24の審議会が該当いたします。

これらの町の審議会などにおける委員の女性の割合は、年々増加傾向ではありますが、議員からの資料にもありますとおり、現状値となる令和４年度におきましては、22.8％でございます。

一方、「静岡県男女共同参画白書」によりますと、県内の市町審議会等委員に占める女性比率は、令和３年の時点で28.3％となっており、現時点で県内市町の値を下回っておりますので、まずはそこに追いつくよう28％以上を目指すために設定したものでございます。

第６次吉田町総合計画の初年度となる令和６年度は、関係する個別計画である第４次吉田町男女共同参画プランの最終年度となりますので、本町を取り巻く社会情勢の変化や現状を踏まえ「住民一人一人が多様性を認め合い、性別や年齢にとらわれず、個性や能力を十分発揮できるまち」を目指し、第５次吉田町男女共同参画プランの策定を進めてまいりたいと考えております。

最後に、８点目の質問につきましては、教育長から答弁いたします。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、教育長、山田泰巳君。

〔教育長　山田泰巳君登壇〕

**○教育長（山田泰巳君）**　それでは、８点目の分野「学校教育」の指標として、全国学力・学習状況調査の県平均正答率以上の科目数の割合を掲げ、目標値を小・中学校ともに100％としている。第５次計画においても同様の目標を掲げ、達成できなかった。目標を達成するための新たな施策はについてお答えをいたします。

本年度の全国・学習状況調査の結果につきましては、11月に町ホームページで公表しておりますが、その中で今後の取組として三つ掲げております。

一つ目の取組は、町全教職員研修会や校内研修の充実を図ることにより、授業の目標や学習課題を明確にし、ＩＣＴ活用が学力向上に効果的につながっていくよう、学校の授業改善を推進するとしております。

児童・生徒の学力向上には、教員の授業力の向上が欠かせないと考えており、本町では、信州大学の佐藤和紀准教授の御指導の下、町内の全教職員を対象とした研修会を各小・中学校でそれぞれ開催し、授業参観後の協議や佐藤准教授の講話などにより、どのような授業を展開することが児童・生徒の学びの充実につながるのかについて研修を実施しているところでございます。

この研修には、文部科学省をはじめ、県内外から視察の要望があり、視察された皆様からは、児童・生徒の主体的に学ぶ姿勢を評価していただいておりますので、来年度も引き続き研修の充実を図り、授業改善を推進していきたいと考えております。

二つ目の取組は、基礎的、基本的内容の定着を図る「習得のサイクル」と課題を設定し、情報を収集、整理、分析し、まとめ、表現する「探究のサイクル」を効果的に活用するとともに、児童・生徒一人一人が明確に課題を持ち、主体的に学ぶとともに、友達と協働的に学び高め合うことによって、学力の向上を図るとしております。

現在「探求のサイクル」については、どの学校でも意識し、児童・生徒が課題を明確に持ち、主体的に学ぶ授業を展開しておりますが、学んだ知識や技能を確実に身につけていくこ

との「習得のサイクル」を充実させていく取組が必要であると捉えております。

単にドリル学習を行うだけでなく、学んだ知識や技能を使いながら、新たな課題に取り組むなど、繰り返し学習していくとともに、授業の最後にその時間で学んだことを振り返り、自分の言葉でまとめる時間を設けることで定着を図っていきたいと考えております。

三つ目の取組は、コミュニティ・スクールを活用し、教育委員会、学校、家庭、地域が一体となって、児童・生徒の学力、学習状況の向上を目指した教育活動を推進するとしております。

児童・生徒の学力・学習状況を向上させていくには、学校だけでなく、家庭や地域とも連携しながら取り組んでいくことが大切であります。

コミュニティ・スクールの導入によって、多くの地域の方が教育活動に参加していただけるようになりましたので、地域の教育力を活用して、児童・生徒の学びの充実を図るとともに、本年度は「吉田探求」の成果を発表するサイトの運営を開始し、学びの様子や成果を広報することで、保護者をはじめとした大人が経験してこなかったＩＣＴを活用した授業がどのように行われているか理解していただき、家庭や地域の皆様にも児童・生徒の学びに積極的に関わっていただけるよう周知していきたいと考えております。

教育委員会といたしましては、公務のＤＸ化をはじめとするＴＣＰトリビンスプランにおける各施策も併せて推進し、児童・生徒の確かな学力の向上に努めてまいります。

**○議長（大石　巌君）**　答弁が終わりました。

再質問はありますか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　私の一般質問史上１番か２番ぐらいに長い答弁ありがとうございました。

この答弁を聞いていますと、１番の質問でほとんど終わってしまいそうなので、先にちょっと気になった二つだけ先に聞いておきます。

最初が、４番目の質問の下水、目標を33％を見込み、その改定による経費回収率を80％を目指すこととしていましたというお話なんですけれども、第３回の吉田町下水道使用料等審議会説明資料では、これ、30％ですけれども、経費回収率を値上して63.2％にすると記載されていました。これ、いつ80％を目指すということになったんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

80％目指すとしていたのは、料金審議会より前の経営戦略を立てた時点では、その当時の経費回収率から33％の値上げ改定で80％の経費回収率が見込めるという経営戦略を立てておりました。その後で、料金審議会のトウに移ったときには、その時点の経費回収率が下がってしまっておりましたので、１回目の料金改定で80％に持ち上げるのは無理だということで、下方修正をしたということでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　続きまして、ごみ処理です。これ、生ごみ処理機等の活用も有効な手段となりますので、町の生ごみ処理機等設置補助金制度の活用についていろいろアピールしていくということですが、予算見ると10台ですよね、20万でしょう。電気処理機は２分１補

助率の最大２万円じゃないですか。要するに最大10、もうちょっと安いの買えば、11台、12台買えるのかもしれんけれども、補助出せるのかもしれんけれども、こういうレベルの話じゃないですよね、水切りしたとしても10台減った。今、目標は20％減らそうと言っている。それに対して、10台補助金出しますというんで、これは有効な手段だから進めますという話にならんじゃないですか、これ。そこはどうなんですか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

それこそ生ごみ処理機だけで達成できるというふうには、やっぱり考えていません。いろいろな施策、ごみ減量につきましては、３Ｒ、あるいは今６Ｒとも言われていますが、そういったのを進めた中で20％というのを達成したいと考えています。

ただ、生ごみ処理機につきまして、予算の関係上やっぱりここのところ実績に応じて予算をつけているような状況でございますので、これがＰＲしていく中で、それが増えてくるということになるんであれば、それも補正等も対応できるようになればいたしますし、次年度以降の実績に合わせた予算というのもできる限りつけていきたいというふうに考えています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　これ、もうちょっと本当はやりたかったんだけれども、時間ないのでやめます。

１番、町長から質問がございました。関係者とはどなたかと。これは、勤めていた頃の経験上の私の認識です。自分が部下であったときも、自分が上司になったときも、要するに計画というのは出させるわけですよ。目標はここですと。そうしたときに、こうこうこういう手段をもって私はこれを達成するんですと、要するに議論するわけですよね。そういう議論をする担当グループ及び課、その中において、ああ、これならやれるんだなと、これだけブレークスルーできればやれるんだなと、じゃ、やろうというぐらいの認識の関係者です。

ここで言えば課とか、そういう課において、それならやれるねというようなことを私は関係者、どう表現したらいいのかよく分からなかった部分もあるんですが、取りあえず関係者としました。

１番なんですが、じゃ、この吉田町の総合計画における目標値というのは何ぞやと。これ、説明、答弁見ている限り願望値ですよね。要するに世間体の悪くない願望値を書いているように見える。その指標が基本構想や分野の目標に達成に寄与している、これ、当たり前のことですよね、目標を設定するときの。町民が指標の意味を理解できる、これも当たり前ですよね。全て極めて大ざっぱですよね。

持続的に記録されている情報や経過の確認が可能である、それは値を決めていくんだから、しっかり追えますと。出典が明らかなデータであること、要するにどうやってやるかなんて関係ないと言っているんですよ、指標の設定に当たって。

目標値に関しては、全国や県内等の平均値との比較、可能な限り相対的な比較ができる目標値、県とか、要するに、ある程度平均値、ここぐらい書いておけばいいんじゃないの、適切な目標水準の設定に努めるとともに、現状値を高める、または維持する目標であること、これが吉田町の問題だと私は思っているわけであります。

目標を目指すことないんだと、ちょっと上がればいいんだと。維持すればいいんだと、書

いてあるわけですよ、目標値は。目標値と設定する以上は、これを達成するかしないかですよ。内部で議論するときには、これだけ頑張ったねと、しっかり評価しましょうということはやるべきだと思うんですが、目標設定した以上は、達成したかしないかだと私は認識していると。ちょっと上がれば、おお、ようやったという話じゃないと思っている。

最後は、町を取り巻く社会情勢の変化を見据え、町民に理解が得られる、これは目標値。目標値じゃなくて、目標ですよね。だから、そういう面でちょっとおかしいと私は思っていますが、第５次総合計画の目標達成率は、総合計画の進捗管理報告、これ、毎年出されておりまして、令和４年度までの達成率は37%。コロナがあったからということで、それを配慮したとしても40%なんですよ。それは４年度までですので、５年度経過した中で、この目標値達成率は上がっているんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

目標値ということですけれども、第５次総合計画につきまして、この前町政連絡会のほうでもお分けさせていただきました行政評価結果報告書のところでもございますとおり、取りあえず今のところでいきますと68.9%につきましては、今の現状の施策として実行していけば、今のところは達成できるということで今進めておりますので、結果としましては、第５次吉田町総合計画後期基本計画の評価につきましては、令和５年度のところで全体的な評価をさせていただきますので、現状でいきますと、今のところ７割ぐらいは、今の状況では達成できるというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　言っていることが違うような気がするんですが、目標値を達成できるかと私は質問しているんだけれども、事業の見直しやるとか、やらないとか、そういう結果においては７割ぐらいは見直しせずに進めていきますということなんですが、もし、私の認識が違うとして、目標値は７割達成できますということであれば、この１年間で30%どうやって達成できる、どういう努力をされたんですか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

先ほど言ったこの指標の目標値を達成するために、今、各課ともその実施計画、総合計画の下に実施計画ございまして、それを３年間で実施計画をどう進めていくかという中で、それは毎年毎年状況に応じて変えていくところはございますけれども、その実施計画を実施することによって、達成を目的に進めていくということになると思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　気持ちは分かるんですよ。結果はどうだと聞いているんで、これあってもなかなか出ないんで、一番知りたかったのは、この総合計画はどうやってつくっているのかということであります。

令和４年度に総合計画策定調査委託料713万9,000円、令和５年度に同様の委託料660万使っています。令和４年度で調査委託として、何が行われたのか、令和５年でこの委託料でどこまでできたのか、それを説明いただけますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この総合計画につきましては、令和４年度、令和５年度の２か年にわたってやったというのがございますけれども、令和４年度につきましては、前説明させていただいたとおり、町づくりタウンミーティングだとか、あとは高校生ミーティング、そういうミーティングをするということと、あとは住民意識調査、住民がどのように考えているかというアンケート調査、あとはほかのもろもろの計画というものを精査するという中での基礎調査的なものを令和４年度に行いました。

令和５年度につきましては、それに基づきまして、計画の策定というところで、その中でも総合計画等審議会であるとか、町づくり推進委員会というものを経ながら、その中のものを精査していくという中で、その策定に向けたコンサルティング業務を委託発注しているというところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　私が一番知りたいのは、この基本計画、基本構想もあるんですが、これを打った人というのは誰ですか、最も最初の素案を。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この基本計画自体の様式といいますか、そのものをつくったのはコンサルタントに委託発注して、そのものはつくってもらってはいますけれども、先ほど答弁の中でもありましたとおり、この基本計画をつくるまでの調書をまずつくって、その帳票をうちのほうの課で各課に作っていただいて、それを各分野ごとに分けて、その分野ごとに町がヒアリングをするとかという業務は全て企画課のほうで行っております。ただ最初の大本なる調書というのは、各課で作成しているというところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今回の答弁で、ちょっと正直言って初めてなんですけれども、計画策定調書というのを初めて聞いたんですけれども、まず、コンサルが大枠をつくります。それに各課が作成したこの調書を打ち込みます。その前に町がヒアリングした上でぶち込んでいくと、そういう過程という理解でよろしいでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

コンサルがつくったものに課がぶち込むということではなくて、まず、この策定調書というのは町の中でつくります。この策定調書に基づいて、これを各分野ごと仕分けをしまして、それをヒアリングをするという業務については町が行います。それを成果品として、仕上げるところのアドバイスであるとか、そういうものについてはコンサルティング業務に委託するというところで作成してございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　この計画策定調書というのは、我々は見えるものなんですか、公表さ

れるものなんですか。

**○議長（大石　巖君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この策定調書というものも、策定の段階でいろいろと議論をしていきますので、どんどん変わっていくものでございますので、作業用のシートというところでありますので、その辺公表するかどうかということについては、また少し議論の余地あると思いますけれども、策定の段階でつくっていくものであるというふうに理解いただきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巖君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今、この調書というのは、議論することによって変わっていくという話なんですが、例えば最終、その中の議論は、本当は最初も知りたいんだけれども、最後はこういう調書ができました、これを基に原案をつくりますと。そういうのは情報公開を依頼しても出てこないものですか。それは今後検討するということでしょうか。

**○議長（大石　巖君）**　理事、谷澤智秀君。

**○理事（谷澤智秀君）**　理事、谷澤です。

ただいまその調書の公表ということで、情報公開請求できるのかということですが、請求は可能かというふうに思いますけれども、開示するか非開示にするかというのは、やはり判断していくことになります。

まず、この調書は、公表を前提に行っているものではなく、内部の議論用につくっているものです。ですので、これは公表を前提にはしていないというのがまず１点あります。

この結果が何が出てきたかというのが基本計画であり、実施計画になりますので、それが結果ということになりますので、そこがスタートということになるかと思いますので、そういうことで御承知いただければと思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巖君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　また、最初に戻りますが、この目標値に対する考え方というのがやっぱり異なる。この総合計画の基本計画は概要版がオープンになりますよね。皆さん、各家庭に配られると思うんです。そこに今回は違うかもしれないんですが、分野の目標値というのが出るわけです。これ、町民見て、ああ、ここまでやってくれるんだと思って見たら、半分ぐらいしかできていないと。要するに町民は裏切られたということになると思うんですが、やはり目標値というのは、少なくとも基本計画４年間にやりますというのを目標値にすべきだと。こうなったらいいなを目標値にしたら、それは町民を裏切ることになると思うんですが、それに関してはどうお考えでしょうか。

**○議長（大石　巖君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この目標値につきましては、先ほど答弁の中でもありましたとおり、どうやって目標値を設定するかという中には言わば出典元をはっきりさせて、どういうふうな目標でこのものを達成していくかというところになりますので、これはあくまでも達成できないような数字ではないと。

これをとにかく達成すれば、この今うちが考えている第６次の総合計画の将来都市像を達

成できるという中で、この目標値を設定してございますので、それに向けて実施計画等で行っていきまして、それを毎年、年度でＰＤＣＡサイクルで回して、振り返りをして、もし何かがあれば、そこで資料内容訂正して、そういう作業を繰り返しながら、ともかくこの前期については４年間でこの目標を達成していきたいというふうなことで進めていきたという数字でございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今の答弁でも達成していきたいとしか言っていないわけですよね。達成しますとは言えない、そうでしょう。

都市環境課は、悪いけれども、ごみを４年間で20％減らすと今おっしゃっていたアピールだけでできると思って20％減らすと記載したのか、どうなんですか。こうなったらいいなと書いているんですか。世の中の平均値見て、これぐらいしておこうか、そのぐらいの気持ちでつくっているんですか。そこはお聞かせください。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

都市環境課のこのごみ減量の目標値につきましては、吉田町一般廃棄物処理計画で、既に平成29年度には策定をしています。その目標値が平成39年、今度の最終年度になっているものですから、そこはもう曲げずにいこうということで決めています。

ただ、事務事業なかなか進まないという中で、そういった意識につきましてはやっぱり住民の皆さんにもありますが、そういったいろんなの、一つではなくて幾つものそういった意識を構築させる中でごみの減量を図っていきたいということで、こちらのほう設定をさせていただいています。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　要はそういうことですよね。昔決めたことを方針は変えません、５次計画で全然達成できていないのに、目指すことは変えませんと。できるかどうかも分からないけれども、数値は変えませんとおっしゃったわけでしょう。

いいんですが、要は、ちょっと話ずれるかもしれんけれども、町民から聞くことで、俺、こういう要望したんだけれども、予算がないからできないと言われるというのが何回か聞いたことあるわけですよ。今先ほどの補助金の話で、要するに予算はないけれども、意識変えてねと、20％達成できると思いますか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

その意識を変えるだけでは、やっぱり難しいという中では、町のほうもそれなりの努力をしなきゃいけないというふうには考えています。

生ごみ処理機で予算がなくって出せないというふうな考えはちょっと持っていないんですが……。

**○７番（平野　積君）**　それは別の話。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　もちろんそういったごみ処理とか環境に関する予算というものが限られている中では、できる限りそういったものをつけて進めていきたいというふうに考えています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　時間ないので、またやりますか。

教育のほう、申し訳ないけれども、時間ないので、６月か９月か12月かにやりましょう。

そういうわけで、目標値の考え方、今回の総合計画は、昔あった４年後の夢のような姿が４年後の姿として描かれていたのがなくなったというのは私は大いに評価するけれども、目標値がまだまだ夢物語を語っている、そこを変えていかないと駄目だと思います。

どうぞ。

**○議長（大石　巌君）**　理事、谷澤智秀君。

**○理事（谷澤智秀君）**　谷澤です。

今、議員のほうから目標値ということでお話ありましたけれども、今回の総合計画を策定するに当たりましては、大分これまでの第５次とは変えてございます。といいますのは、目標の指標については、先ほど設定の仕方は、指針はあのとおりなんですけれども、それぞれ具体的に達成できる、向かうと、もう達成するんだということの目標設定としているというのがまず１点です。

それから、各年度ごとに計画を立てている。

それから、今、これは基本計画ですので、分野ごとの大きなところの目標値になっています。それぞれの予算計上します実施計画レベルでも今回は目標値全て設定しておりますので、そうしたことが達成していけば、おのずとのこの計画の目標値には達成していくというふうに理解していますので、よろしくお願いしたいと思います。

以上でございます。

**○７番（平野　積君）**　終わります。

**○議長（大石　巌君）**　以上で、７番、平野　積君の一般質問が終わりました。

ここで暫時休憩といたします。

再開を11時５分に再開をしたいと思いますので、お願いします。

休憩　午前１０時５６分

再開　午前１１時０６分

**○議長（大石　巌君）**　休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ただいまの出席議員数は11名であります。

引き続き一般質問を行います。

---

**◇　八　木　　栄　君**

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

〔１０番　八木　栄君登壇〕

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木　栄です。

私は、令和６年第１回吉田町議会定例会一般質問において、さきに通告してありますように、保安林等の適正な維持・管理について質問をいたします。

吉田町の海岸線には、保安林として松の木が植えてあります。住吉地内における松林は、「飛砂防備保安林　設置　平成23年度　静岡県知事」という標識が立てられ、川尻地内では、「潮害防備保安林　設置　昭和63年度　静岡県知事」という標識が立てられており、それぞれ保安林としての役割を果たしているものと思います。

令和４年第４回吉田町議会定例会における専決処分事項の報告については、吉田町住吉地内の保安林において、強風により松が倒木し、作業所の屋根を破損させたという内容でした。また、令和５年第４回吉田町議会定例会における専決処分事項の報告についての内容も、同じく吉田町住吉地内の保安林において、大雨により松が倒木し、車両及びカーポートの屋根を破損させたというものでした。

強風や大雨によって松の木が倒れるということに対して、住吉の保安林沿道に住む方たちは不安を抱えて生活しており、安心できるように松の枝の伐採を土木要望として町に提出してあると聞いています。

松くい虫の影響による倒木もあり、成長して、松の枝が沿道の道を横切り住宅に届くようになっているところもあります。また、電線や電話線（光回線）などに接触し、被害をもたらすことが心配されるところもあります。保安林の現状については、現場を見れば確認できると思います。

吉田町森林整備計画も策定されており、保安林の公益的機能を適正に発揮し、住民の安全・安心を確保し、不安を与えないような維持・管理をしていただきたいことから、以下質問します。

(1)令和５年度において、何本伐倒、伐採したかを含む保安林の維持・管理状況は。

(2)第５次吉田町総合計画後期基本計画において、適正に維持・管理するとあるが、どのようなことか。

(3)保安林の持つ公益的機能を発揮するとともに、住民に不安を抱かせないために、今後どのような事業を計画しているか。

(4)松林の側道は町道認定されているが、松林の枝が道路上に伸びてきた場合の町の対応は。

以上、御答弁よろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、答弁をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　保安林の適正な維持・管理についての御質問のうち、１点目の令和５年度において、何本伐倒、伐採したかを含む保安林の維持・管理状況についてお答えいたします。

まず、当町の海岸林は、住吉地区の沿岸から川尻地区沿岸にかけて東西に約12.95ヘクタールが広がっており、その機能は海からの風や潮、飛砂などの自然災害から海岸沿いの住宅地や農地などの暮らしを守る防災機能と周辺住民の憩いの場としても利用され、地域住民の暮らしにとってかけがえのない海岸林だと捉えております。

令和５年度における保安林の維持・管理の状況といたしましては、松くい虫防除を目的と

した薬剤地上散布を２回実施し、松枯れ等による被害木を21本伐倒したほか、環境維持を目的とした枝払い松林内の下草刈り、松葉回収を年間通じて行っております。

また、一部の地域におきましては、ボランティア団体として活動する松をきれいにする会の皆さんをはじめ、地元の住民や事業所の方々が下草刈り、松葉の収集作業などを実施していただいております。

次に、２点目の第５次吉田町総合計画後期基本計画において、適正に維持・管理するとあるが、どのようなことかについてお答えいたします。

まず、保安林の制度といたしましては、飛砂や風害の防備など、特に重要な役割を持つ森林を森林法第25条第１項に基づき、県が保安林として指定し、その働きが失われないよう伐採や開発を制限し、公益的機能が維持できるよう必要な管理を行うものでございます。

また、町では、町内の森林を適切に整備していくことを目的とした吉田町森林整備計画を策定しており、この計画において、保安林につきましては、機能発揮の上から望ましい姿として、樹高が高く枝葉が多く生い茂っているなど、遮蔽機能や汚染物質吸着能力が高いと記載しております。

強風や飛砂などから生活環境を守り、保安林本来の機能が発揮できるよう、さきに申し上げましたとおり、薬剤地上散布や松枯れ等による被害木の伐倒や枝払い、下草刈りのほか、県と合同で実施する保安林の点検や定期的なパトロールにより維持・管理に努めているところでございます。

次に、３点目の保安林の持つ公益的機能を発揮するとともに、住民に不安を抱かせないために、今後どのような事業を計画しているかについてお答えいたします。

近年、温暖化の影響から台風の大型化や高温少雨の気候が続くなど、松の倒木や松枯れリスクが増し、保安林の維持・管理が非常難しくなってきております。

このようなことから、松枯れの根本原因とされるマツノザイセンチュウを媒介するマツノマダラカミキリの発生時期が早まっている可能性があることなどが考えられるため、来年度からは、薬剤地上散布を例年より２週間程度早め、事業の実施に向けて準備を進めております。

また、本会議定例会において上程されました令和６年度吉田町一般会計予算におきましては、松枯れ等による被害木の処理をさらに迅速かつ適切に行えるように林業総務費を増額して計上しております。

最後に、４点目の松林の側道は町道に認定されているが、松林の枝が道路上に伸びてきた場合の町の対応はについてお答えいたします。

住吉地区と川尻地区の保安林の側道の大半につきましては、町道認定しておりますので、それらの道路は、道路法第16条の規定に基づきまして、町が道路管理者として維持・管理を行っております。

また、同法第43条の規定では、「みだりに道路に土石、竹木等の物件を堆積し、その他道路の構造、または交通に支障を及ぼすおそれのある行為をすること」を道路に関する禁止行為の一つとしておりますので、保安林から枝木が道路側に出ている場合につきましても、この規定に基づき、道路の交通に支障を及ぼすおそれがあると認められる場合には、森林法規定にのっとって町が支障木の伐倒や枝払いを実施しております。

以上、保安林等の適正な維持・管理につきましてお答えいたしましたが、今後も吉田町の

海岸沿いにある保安林等を大切に守り、育み、後世に伝えるため、保安林の持つ公益機能を発揮するとともに、町民の皆様に不安を抱かせないようにするため、引き続き適正な事業の実施に努めてまいります。

**○議長（大石　巌君）**　答弁が終わりました。

再質問はありますか。

10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木　栄です。

再質問させていただきます。

先ほど、昨年は松枯れ等による被害木21本伐倒したということでございますが、もう入札をして、その中の金額でやっているものですから、別に金額は幾らかということは聞いても構わないと思いますので、大体入札した金額によると、21本で１本当たり大体幾らぐらいになるかということをちょっとお伺いします、木を伐倒するにですね。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この伐倒については、業務委託でやっているもの、また、手数料で緊急に対応できるためにやっているものもあるんですけれども、基本的には、この実績でいくとおおよそ１本10万円当たりとなっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木です。

そうすると、令和６年度の当初予算の案、それでは松くい虫の防除事業費の中で、被害木伐倒駆除手数料72万6,000円、予防伐倒委託料50万円、それと保安林等保護環境整備事業費の中で、保安林等保護環境整備手数料273万1,000円、保安林等保護環境整備事業委託料214万8,000円、合計610万5,000円というものが上げられているんです。これは私たちがまだ表決していないのであれですけれども、一応案として、そういう感じで勘定が出てきていますが、これを見て、６年度はどれぐらいの伐倒、あるいは伐採を予定しているのか、ちょっとお伺いをします。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この６年度予算全体では200万円増額今しているんですけれども、一般的というか、おおよそ10万円当たりということで、この伐採するに当たっては、緊急で呼ぶ場合とか、予防的に計画的にやる場合とかによっても違うんですけれども、おおよそ６年度は33本を伐倒ができると考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木です。

33本というと、さっき１本大体10万円というので330万ぐらいかなと思うんですけれども、自分は先ほど話をした予算の中の金額、これが大体600万円ぐらいということで、もっとできるんじゃないかと思うんですけれども、全てが全て、伐倒と伐採というのはまた違うと思うんで、そうするとまた金額も変わってくると思いますが、もう少しできると思いますが、

金額に対して33本というぐらいの理由、それは何かありますか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

令和６年度につきましては、先ほど200万円ぐらいの増額と言ったんですけれども、この中には、保安林の下草刈りのところで、およそ50万ほどなんですけれども、増額している部分であったりを含まれていることから、伐倒に関わる部分で増額したものが、121万円ぐらいが伐倒に費用として充てる予定でおります。そういうことから、１本当たり10万円で120万、昨年度が21本やってプラス12本で33本ぐらいを伐倒できるのではないかということで、試算しております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番です。

伐倒というのは、基本的に木をそっくら切り倒してしまうことだと思うんですよ。あと、自分がこの間質問した中には、倒れそうな木もありますけれども、枝が伸びちゃって、道路を横断して、道路の反対側の民家のほうへもう枝が届きそういなところとか、道路の松林よりも反対側に電柱があって、電話線、あるいは電線が通っているところがあって、そこへ風が吹くと接触して、こすれちゃうというんですか、以前たしか中電の方にも見に行ってもらったと思うんですけれども、普通なら中電の方が防護鑑定やって、接触しても被害が出ないような形にしてもらうんですけれども、それもやっていないもので、改めて私自分見に行ったんですよ。なので、そうすると、やっぱりそこで光回線を切断したり、あるいは電線を切断したりしても、周りの、あそこら辺はシラスの加工場なんかあるものですから、そういう方たちが冷凍庫とかでシラスを冷凍して、商品として保管しているわけですけれども、そういうものがいざ停電なんかしたときに、あるいは影響が出てくるということもあるものですから、伐倒だけじゃなくて、枝を払うところも一度考えていただきたいと思うんですけれども、その辺はいかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

今回増額している予算のところに、その手数料として増額している部分もあるんですけれども、その中に伐倒、あと枝払いのところも含めて予算計上してやっていく形で考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　５年よりも予算をつけていただいて、６年はもう少し数を多くやってくれてくれるということは、大変私ありがたいことだと思って、また、そういうことを自分も松の木のことに関してはいろいろお願いをされたりしているものですから、そういう方たちにもそういう話をして、町も努力しているよということをちゃんと伝えたいと思いますが、それにしても、松の本数が何本あるか分かりませんが、数多くあって、その中の住んでいる方に影響するというのは、全部が全部じゃなくて、ごくその中のある一定のところであるものですから、そうすると、割合にしてどのぐらいかということがありますが、その辺は把握しておりますか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

今、議員がおっしゃっているのは、全体がどのぐらいあるかということを聞いている御質問でしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木です。

笑われちゃう質問かもしれませんが、もしおおよそでいいんですけれども、大体何ヘクタールという面積で松くい虫の薬剤散布なんかやっているのであれですけれども、もしその辺がちょっと調べたり何かして分かるようであれば教えていただきたいなと思いまして、質問しました。いかがですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

正確にはちょっと本数とかというのは明確に分からない、おおよそなんですけれども、住吉川でおよそ3,300本ぐらい、川尻側の全体で2,500本ぐらいだと推測しております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番。

おおよそ合わせて6,000本ぐらいということだと思いますけれども、それで、川尻と住吉とまた松林の状態がちょっと違うような形で、状態というんですか、近くに民家にあるかないかということで、川尻も民家があったり、工場があったり、町営住宅もありますけれども、それで、住吉のほうもシラスの加工場があったり、民家があったりして、その沿道が全部が全部あるわけじゃないですけれども、その中でも直接先ほど言ったように、作業所が潰れたことの車とかカーポートが破損したようなことの、そういうことが起きやすい場所というのはある程度限られていると思うんですよ。

なので、全部が全部そうしろというわけじゃないですけれども、そういうのの割合を大体把握しているようならちょっと、もし分かるようなら、全体の何割ぐらいかということが分かるようなら、教えていただきたいですけれども、いかがですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この海岸にある松については、当然場所によってはもう道路も狭くて、民家に近いところもあるんで、そういうところをやっぱり当然ながら優先してやっていかなくてはならないと思っています。

今、おっしゃっている全体の被害ということについては、僕もおおよそですけれども、全体の５％弱ぐらいなのかということをおおまかですけれども、考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番です。

自分が考える距離で、松だけ生えている幅というのは、大体同じような幅だもので、距離で全体が保安林の松林が何メーターあって、その中で民家があるところが何メーターあるよ、工場があるところが何メーターあるよということで勘定していけば、割かしその割合が出る

と思うんですよ。それで、そうすれば、直接被害というか、何か影響が及ぼすところの割合が出るかなというふうに思うんですけれども。

それで、先ほど６年度の大体33本ぐらいだと言ったのは、そういう中でも直接住宅とかそういうものがあって、影響があるようなところを先にやるというような感じでよろしいんですかね。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

保安林に近くにある住宅に被害があってはならないことだと思っていますんで、当然ながら優先度は高いんで、そういうところをまず最初にやるということで考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木です。

松林の沿道に住む方が要望書を出したということを私は伺って、昨年それによって、多少なりとも伐倒をやっていただいたというようなことを聞いているんですけれども、住吉のことばっかり言ってあれですけれども、川尻のほうも要望書が出ているかというのは分かりませんが、今の本年度の影響のあるところというのは、その要望書が出ているところを優先してやるというような、そういう考え方でよろしいでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

令和５年度に要望については３か所出ていました。今、１件伐倒していないところがあるんですけれども、そこについては、６年度予算の中で早急に実施するように、今準備をしているものになります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木。

それでは、(2)の質問の回答のことで、後期基本計画の中で、４年後の姿ということの中で、保安林を適正に維持・管理することにより暴風、飛砂防備、潮害防備などの公益的機能が適正に発揮されていますとありますが、これについてはいかがでしょうか。どのように考えますか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この公益的機能が維持できるように必要な管理を行っていくものということで、この公益的機能というのが、吉田町の森林の場合、快適環境形成機能という機能ということで、海岸にある松がその北側にある住宅を守るために、塩害や防風から守るために、機能として、快適環境形成機能ということで実施するものになりまして、この答弁にもあったように、保安林を適正に管理するために、松葉刈りだったり、下草刈り、あと被害木の伐倒、あとパトロールを適切にやっていきながら、この機能を適正に管理して、今後もやっていくものになっていますので、これからも続けていきたいと思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木です。

答弁にあったように、適切に管理はされているということはある程度は分かりますが、先ほど答弁の中で、保安林というのは、機能発揮の上から望ましい姿として、樹高、木の高さが高く、枝葉が多く生い茂っていると、遮蔽機能や汚染物質の吸着能力が高いと記載しておりますとなっていますけれども、結局は高ければそれでいいというんじゃなくて、高いものですから、そして、枝が多く生い茂っているものですから、風を防ぐことは確かなんですけれども、それによって、海は何もないところから風が来るものですから、結局、見ると、陸側へかなりみんな寝ているんですよね、木が真っすぐ立っているのに寝ちゃっている。それによって、民家のほうへだんだん近づいているということがあるものですから、それで、私は、ここではこうして、木が高くて枝が生い茂っているほうがためになるよというんですけれども、それが逆に悪影響を与えているように感じるんですけれども、担当課としてはどうですかね、その辺はどう考えますか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この森林整備計画の中でもうたっている、今、答弁の中でもあったように、この遮蔽が高くというのが基本的な考え方であります。

高くなり過ぎたので、上だけ切るということについては、松の成長の過程というか、松のためにもそれを切ったことによって、寿命が短くなるというか、健全になるということもありますんで、そこは例えば先ほど言った松が真っすぐに立っていない内陸側、北側に倒れているよというところについて、リスクがあるところについては、例えば伐倒の検討とか、そういうことは考えていきたいと思っています。

高さを短くするということについては、その松が弱くなってしまう影響もあることから、今、上を切るということは、特に考えておりません。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　松の枝が松林の松並木というか、並んでいる方向に、横に枝張っていくなら、風を抑えてくれて、すごい働きがあると思うんですけれども、これが逆に反対方向というんですか、直角方向というんですか、方向でいうと南でなくて、北の方向へ結構伸びているのがあるんですよ。道路の上を横断しちゃって、それが民家にいっちゃう。

それを担当課長は、あそこも行ったことあると思うので、十分承知していると思いますけれども、ですから、枝を払うにもそういったちゃんと見極めて、必要なものは切っては困るものですから、それで、今言ったように、松の成長過程があるものですから、上を切っちゃうとっていうんですけれども、ですから、余計に北側に伸びていく、本当に影響を与えるような枝というのをちゃんと切っていただければ済むんじゃないかなと思うんですけれども、ですから、そういうところをもう一回確認をして、優先順位、よく松の木に印がして、帯を巻いたりしてありますけれども、そういうことで、今一度確認してやっていったらどうかと思うんですけれども、その辺はいかがですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

そこの今議員がおっしゃった北側、内陸側に松が真っすぐ立っていずに内側に倒れている

松については、そのリスクについてもしっかり確認して検証した上で、伐倒するリスクがあるのであるのであれば、切ることも考えて、６年度には実施していきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番です。

先ほど薬剤の散布、例年より早い時期にやってということで、準備を進めているよという答弁ありました。松のほうは、昨年と一昨年、時期的に台風の時期かなと思うんですけれども、今計画している松の伐倒とか伐採、その辺も台風が来る時期というのは、今ちょっと台風の時期というのは年中通して、なかなか言えませんが、当たり前に考えて、台風が多く発生する、そして、影響を受けるその前にやっていただいたほうが効果があるんじゃないかなというか、安心できるんじゃないかと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この伐倒については、今言った台風前に切るというところについては、最初松枯れ防止のための薬剤散布を昨年度は６月に２回実施しているんですけれども、今年度、５月中旬と６月中旬ぐらいにできるような形で今考えていまして、台風前というと、今、６年度で考えているのが４月に伐倒をすること。また、薬剤散布する前に伐倒を実施すること、例年これもやっているんですけれども、ここは増額しているんで、ここのところはやっていきます。

また、７月以降にも手数料で、台風等の影響が出ないように伐倒することも予算に計上してありますので、そこの部分が台風前に関連して実施していくものの伐倒と考えています。

以上です。

**○１０番（八木　栄君）**　了解です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　あと、松林の町道認定されているということで、普通の幹線道路なんかの樹木がよく枝が伸びて、コンテナみたいなトラックが通ると、よく枝を当たっちゃったりして、結構邪魔になるもんで、今かなりそういう樹木も減っていますけれども、枝を払ったりなんかしてくれていますが、そういうことを考えると、先ほど答弁もありましたが、交通に支障を及ぼすおそれという、だもんで、あそこは、シラス加工の製品を積んだ、大型か中型か分かりません、トラックが通ったりするものですから、そういうのの枝が当たらないようにしていただければ、それだけしかできないかなと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

生活というか、その生活している中で、交通するに当たって、枝等が当たって、交通に支障があるようであれば、枝払い等は実施していくようにしていきたいと思っています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　そういうのは、一応そういう道路を、一番防潮堤の際のところの松林とあとはもう１本内側の松林とあって、どちらも道路がついているものですから、そこを通る車もあるということは思いますけれども、そのため、自分は軽四で走ったものですから、

全然余裕があったんですけれども、ある程度のトラックなんかで、貨物ですか、そういうのが走ると枝が当たったりする可能性もあると思いますけれども、今の話では、そういうは何かそういうことで、住民からの連絡が入れば、情報的なものが入れば、それで対応するということでよろしいでしょうか。

**○議長（大石　巖君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

道路の交通に支障を来す場合については、枝払い等は実施していきたいと思っています。

以上です。

**○議長（大石　巖君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木です。

いろいろ今質問させていただいて、ある程度対応してくれるのかなというふうには思いましたけれども、あと、全体の松林に対してですけれども、要は樹木のお医者さん、そういう樹木を調べる人いますよね。そういう方を一度全部調べないとあれですけれども、取りあえずはその影響があるところでもいいですけれども、ちゃんとした調査費をつけて、松くい虫の被害に遭っている松とか、あとは本当に伸びてどうしようもないような松というのをちゃんとして確認をして、それを処理するという、それが優先順位的なものになるとは思うんですけれども、そういうに調査費をつけて、調査するということは、いかがでしょうか。

**○議長（大石　巖君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この松、保安林のことについては、県の専門家に相談しながら、どういうふうに適正に維持・管理していくかということも相談して、被害があったときとかに、どういうふうにやっていくべきかということも相談していっていますんで、その中で、足らないものがあれば、そこら辺は今後検討していきたいと思っています。

以上です。

**○議長（大石　巖君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　県のほうのその今言った調べをお願いするということですから、それはこれまで何回かやられましたか。どういう形でやったんですかね。

**○議長（大石　巖君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

専門家にこういう相談窓口というか、松の専門家にどういうふうに対処したらいいか、適正に維持・管理していくにはどうするべきかということを電話で聞いて、こちらにも、本年度も来ていただいて、維持・管理の仕方等は担当と、今回たまたま自分も現地に行くことができたんで、一緒に話をして、どうするべきかということを、こういうふうにやったらいいんではないかということで、話をしております。

以上です。

**○議長（大石　巖君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木です。

それは、完全にもう枯れて、どうしようもないような松の木をどうしたらいいですかという相談なんですか。私が今聞いているのは、今生えている松林の中で、そういう傷んだのがあるかもしれないものですから、そういうのを一応調べて、それが全然倒れても余り影響が

ないところならいいんですけれども、そういうものが住宅とか、そういう何か影響があるもののところにあったとしたら、それは先に処理しにゃいかんと思うんですよ。

だもんで、そういうものを、むやみやたらに全部調べるんじゃなくて、今、松が生えている中で、何かあったときに、周りの被害が及ぼすようなところを先に調査をされる方にちゃんと１回見て確認をするということで。そうでないと、誰が見ても駄目になったらどうしますかというのは言えると思うんですよ。そうではなくて、これが今駄目かいいか判断ができないものがほとんどだと思うんですけれども、それをちゃんと確認して、もう駄目だなというんなら、早めに何とか処理しにゃいかんと思うもので、その辺で調査をしたらどうですかということ今言ったんですけれども、それについてはどうですかね。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

その辺のところについては、実際今年度行ったときには、相談していない部分もありますんで、６年度については、専門家に来ていただく機会があれば、そのときにどういうふうにその辺をすれば、生きている木、まだ切る必要がないかというところら辺の予防的にできるかどうかということも含めて、相談した上で実施していきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　１本の木がどういう状態だもんで、どうしますかというんじゃなくて、全体の中で、そういう可能性のある木が、被害を及ぼすようなところに何本あるかというのを調べないと。ただ、ですから、木１本の判断じゃなくて、そういう木が全体に何本あるかなというのを調べないと分からないわけですね。それは担当課長は見て、ちゃんとチェックして分かるなら、それでいいですよ。それを相談すればいいだけのことなものですから。だけれども、それを判断して、それがその全体の中にそういうものがどれぐらいあるかということが分からないと思うので、それを調査したらどうですかということを言っているんですけれども、ちょっとあれですかね。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

すみません、分かりにくくて、今実際松が生えていて、伐倒する必要があるかないかというのを専門家に聞いて、そういうものがどうすれば見極められるかというのを専門家にアドバイスを聞いた上で、調査費が必要であれば、つける必要もあると思いますし、こういう形で確認ができるという方法があるのであれば、そういうことを６年度に実施していきたいということで説明しました。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　ちょっと私と考え方が違うものであれですけれども、そうした上でも、とにかく木が健康か健康じゃないかということだけだと思うもんで、その辺をしっかりと見極めて、それがその場所、場所によって、その辺の周りの方に対する被害が及ぼすかどうかという場所の中にあれば、それを優先的に伐倒するということが必要じゃないかなと思って、今言ったわけですんで。ですから、ある程度場所を決めて、専門家に調査をしてもらって、その上で、それじゃそれをどうするかという見極めをするというのが順番だと思いま

すけれども、今、見てもらって、それから調査をするというようなことを言ったもんで、ちょっと順番が違うかなと思ったんですけれども、そうじゃないですかね、どうですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

見てからと言ったわけではなくて、今、吉田町にある海岸、松がたくさんあるんですけれども、今ある松の中でどれがすぐ切る必要があるか、どれがまだ切らなくていいか、そういうものの見方をするためには、どういうふうに判断できるかという相談をした上で、それが調査費が必要であれば、どうしていくか、予算が必要であれば、予算を計上するなり、補正するなりとかということも考えて６年度は実施していきたいということで、答弁しました。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　説明を受けると、その受けた人が、それじゃ一度は見る確認をするわけですね。見て、それでこれ健康かな、そうじゃないかなということを見るわけですね。専門家が健康か健康じゃないかというのを見るんですが、その辺はどちらの……。もし課長が、その説明を受けた人が、課長がそれじゃそれを見て回るんですかね、それとも、その専門家の人が説明をした上で、その人が松林の中でいい、悪いを判断しながら、選別をしていくということでいいんですかね。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

電話でも構わないんですけれども、今ある松、この松が将来にわたって、まだすぐ即座に切る必要があるか、切らなくてもいいか、そういう判断をするのはどういうふうにしたらできるかということの相談をまず初めにしてから、そのやり方がどういうものであるか、すみません、今把握はできていないんですが、そういうものを相談した上で、こういうふうにしていくべきだ、こういう予算を計上してやる必要があるのであれば、こういうふうにやっていくということを専門家に相談した上で、検討していきたいということで答弁させていただきました。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　よろしいですか。

10番、八木　栄君。

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木　栄です。

とにかく保安林に関しては、松葉なんかがよく落ちているのを、誰かがまとめてくれたのを役場の職員がトラックに積んで運んで処理しに行くのは、ちゃんと自分も見て、よくやってくれているなというふうには思っています。

それはそれで、松葉のことだものであれですけれども、枝のほうのことは、また本当に近隣の要望を出した方たちが、役場がよくやってくれるやといふうに言われるように、私も期待をしている。

一般質問を終わります。

**○議長（大石　巌君）**　以上で、10番、八木　栄君の一般質問が終わりました。

ここで暫時休憩といします。

再開は午後１時からとします。

休憩　午前１１時５５分

再開　午後　零時５６分

**○議長（大石　巌君）**　休憩を閉じ、会議を再開します。

ただいまの出席議員数は11名であります。

引き続き一般質問を行います。

---

**◇　楠　元　由美子　君**

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

〔４番　楠元由美子君登壇〕

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元由美子です。

私は、令和６年第１回吉田町議会定例会一般質問におきまして、さきに通告してありますとおり、シーガーデンに隣接するコミュニティ施設等の整備について、町長にお伺いいたします。

町が強力に推進しているシーガーデンにおいて、財産、生産活動を守る対策が着々と進められ、近々多目的広場においてトイレ設置、駐車場利用が可能となり、今後は町内外の多くの方々に利用されると期待しております。

今年起きた能登半島沖の地震は、予測不能である災害への対策強化の必要性を教訓とするものでした。防災に力を入れている我が町だからこそ、このシーガーデンを利用される方々への安全対策の強化はより必要なものと考えます。

シーガーデンに隣接している川尻大道公園やコミュニティ施設である浜丁会館は、一時避難場所としての役割が十分に果たせる場所にある施設と考えられます。

これら二つの施設は、建設から36年以上たち、トイレや水回りは老朽化が進んだ現状でありますが、平成29年３月に策定した吉田町公共施設等総合管理計画においては、事後保全は行うこととしておりますが、令和11年度までの改修計画は示されておりません。

現在整備の計画はない川尻大道公園や浜丁会館ではありますが、シーガーデンの中央付近にあることから、シーガーデンシティ構想の目的である新たな安全と新たなにぎわいの両方を兼ね備えたシンボル的な施設として整備することで、新たな町の魅力につながると考えます。

以上を踏まえ、以下の点について質問します。

１、吉田町公共施設等総合管理計画で中間となる令和６年度に行う見直しでは、川尻大道公園と浜丁会館について、どのような観点で見直しが行われるのか。

２、今後シーガーデンを町内外の人が見学に訪れると予想されるが、これらの場所を一つを観光名所とすることについて、町はどのように考えているのか。

３、大型バスも駐車できる川尻大道公園を一時避難所と観光を兼ねた新たなシンボル的な施設にすることを地元の町民は期待しているが、町はどのように考えるか。

以上が私の質問の要旨です。明確なる御答弁をお願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、答弁をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　シーガーデンに隣接するコミュニティ施設等の整備についての御質問のうち、１点目の吉田町公共施設等総合管理計画で、中間となる令和６年度に行う見直しでは、川尻大道公園と浜丁会館についてどのような観点で見直しが行われるのかについてお答えいたします。

議員の御質問にあります吉田町公共施設等総合管理計画は、平成29年度から令和28年度までの30年間を計画期間として、公共施設等のマネジメントを長期的な視点で取り組んでいくこととしておりますが、計画期間内であっても必要に応じて適宜見直しを行うこととしております。

また、この計画に基づき、令和２年度に策定しました吉田町公共施設個別施設計画では、令和11年度までの10年を計画期間とし、原則として、この期間の中間となる５年目に見直しを行うこととするが、町を取り巻く社会経済情勢の変化等により、必要に応じて適宜見直しを行っていくものとしております。

御質問にあります川尻大道公園につきましては、吉田町公共施設等総合管理計画において、公衆用便所のみを基盤施設として位置づけており、基本的な方針といたしましては、施設の利用状況や運営コスト、利用圏域の重複等も勘案しながら、施設の長寿命化、コストの平準化等に向けた検討を進めていく。

防災・減災の観点から、優先順位を決めて、施設の長寿命化を進めるとともにライフサイクルコストの縮減及び平準化に努める。

また、長寿命化計画が策定済みの施設につきましては、計画に基づいた予防保全的な修繕や改善を実施し、更新コストの削減と事業量の平準化を図ることと定めており、こうした方針を基に、必要に応じて見直しを行っていくこととなります。

浜丁会館につきましては、町民文化系施設として位置づけており、基本的な方針といたしましては、施設の利用状況や運営コスト、近隣施設との利用圏域の重複等も勘案しながら、施設の在り方について検討を進めていく。

老朽化が進んでいる施設につきましては、劣化状況に応じて、応急措置や小規模な修繕等を実施しつつ、破損の拡大を防ぐことにより、可能な限り現有施設を維持していくが、修繕が建物の柱部分に及ぶような大規模なものとなる場合には、延命を図ることをせずに解体する。

施設の更新時期を迎えるときに、地域の住民が事業主体となって、建設事業を進めていただくように十分協議し、対応策を定めることとしており、こうした方針を基に、必要に応じて見直しを行っていくこととなります。

次に、２点目の今後シーガーデンを町内外の人が見学に訪れると予想されるが、これらの場所を一つの観光名所とすることについて、町はどのように考えているのかと３点目の大型バスも駐車できる川尻大道公園を一時避難所と観光を兼ねた新たなシンボル的な施設にすることを地元の町民は期待しているが、町はどのように考えるかにつきましては、関連がございますので、併せてお答えいたします。

初めに、シーガーデン整備に係る進捗状況につきましては、吉田公園周辺の用地を活用したにぎわいづくりを進めていくため、整備に向けたロードマップ案や基本計画案を策定するとともに、地域の持続的な発展につながるにぎわいの創出に向けて、官と民が連携して事業を進める官民連携事業の基盤づくりを進めているところでございます。

この官民連携の事業化においては、持続的な地域経済の循環を実現するために、地元事業者の参入を積極的に促進していくことが重要でございます。

そのため、令和５年度につきましては、町内事業者の事業参画を促進していくため、吉田町商工会と連携して、官民連携事業に関する勉強会を開催したほか、町の将来を担う子供たちの町づくりへの興味や関心を高めるため、町内小・中学校において、シーガーデンでのにぎわいづくりに関するワークショップを開催するなどして、官民連携事業を実施いくための気運の醸成を図っております。

また、事業化に向けた調査としまして、アクセス手法の整理や吉田公園を含む周辺エリアの利活用に向けた関係法令や課題の取りまとめ、官民連携手法の検討など官民連携事業を進める上での基盤整備を進めているところでございます。

今後は、この調査結果を基に、官民連携事業を実施するための事業スキームを構築するため、民間企業との協議やヒアリング、町民とのワークショップなどにより、民間のニーズやアイデアの把握に努め、事業用地周辺に隣接する吉田公園や吉田公園西側町有地、防潮堤などの周辺施設も一帯のエリアと捉え、にぎわいの創出に向けた事業範囲の検討を実施してまいります。

この中で、議員の御質問にあります川尻大道公園につきましても、にぎわいの創出に向けて、活用できる施設なのかどうか、また、活用するのであれば、どのように活用していくかなどにつきましては、今後検討してまいりたいと考えております。

**○議長（大石　巌君）**　答弁が終わりました。

再質問ありますか。

４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

御答弁ありがとうございました。

少し再質問をしたいと思います。

先ほど答弁の中で、こちらの吉田町公共施設等総合管理計画の中で基本的な方針を答弁いただいておりましたが、その中でもう少し具体的に教えていただきたいのが、確認したいんですけれども、第４章の中、先ほど基本方針で述べられている中でもありましたが、施設の更新の時期、こちらを迎えるときに、地域の住民が事業主体となって建設事業を進めていただくように、十分協議し、対応策を定めていきますと示されております。

これについて、私が今、今回お話ししています浜丁会館、こちらのところは、こちらの部分に関しては、ここに示されているような対応策というものが何かしらあるようでしたら、町の考えをお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　太田でございます。

浜丁会館につきましては、まだ更新の時期ということは捉えておりませんので、具体的な方針等はまだ町としては持っておりません。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

浜丁会館において、まだ対応策は持ち合わせていない、更新の時期とは捉えていないというような答弁いただきました。

では、こちらの浜丁会館において、更新時期を町はどのように考えておりますか。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

町長の答弁にもございましたとおり、大きな軀体を触るような改修はしないと、小規模な修繕で終わるものは直していき、延命を図るというふうに考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

先ほど町長答弁いただいておる中で再確認したわけでありますが、こちらの浜丁会館におきましては、建物自体、今建設されて41年ほどたっている施設であります。当時の年数は建っている割に、こちらのほうは地元の隣組の方々が月１回の清掃でかなり現状維持はきれいにされているかなとも思う中ではありますけれども、やはりトイレとか水回りなどの老朽化が目立ってきているわけであります。そちらのほうのところ、今後施設を維持するために、修繕も必要と考えますけれども、そちらのほうのところに関しての計画的なものは町のほうにはありますか。

**○議長（大石　巌君）**　財政管理課長、八木邦広君。

**○財政管理課長（八木邦広君）**　財政管理課でございます。

施設の修繕等についてはうちのほうで担当している部分がございますので、こちらから答弁させていただきます。

まず、浜丁会館につきましては、地元の要望でトイレの改修ということで、今年度要望書を頂いて、回答しているところがございます。トイレがもともと男女共用になっているという中で、非常に構造上分けてやるというところに、すぐどういう対応ができるかというところがすぐ見いだせませんので、一度調査をした上でないと、トイレの改修がどういう形でできるかというのをまず回答できませんので、その部分検討させていただきたいということで、要望のほうは回答させていただいております。ですので、こちらのトイレについては、うちとしては、施設改修を今検討しているという段階となっております。これが具体的になっていけば、当然また年度を定めてやっていくような形にはなると思います。

シンク等については、現状確認をさせていただきましたけれども、基本的に使えないという状態ではなかったものですから、事後保全という中で、小破修繕ということであれば、そのまま行いますけれども、今のところ機能が損なわれている状況ではなかったということで、一応そのままお使いくださいということでは回答させていただいております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

トイレのほうですけれども、住民の方の要望をしっかり受け止めていただいて、町のほう

が前向きな形で対応していただけるように、今確認をしたところでありますが、こちらのほう、構造上いろいろと課題がある中で、すぐにどうにかできるというものではないということも現状理解できるところではあるんですけれども、今後のスケジュールとしまして、調査した上で施設の改修のほうを検討していくという答弁を今いただいたところでありますけれども、そちらのほう調査、そちらのほうのスケジュール的なものはどのような計画で進めていくんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　財政管理課長、八木邦広君。

**○財政管理課長（八木邦広君）**　財政管理課でございます。

令和６年度に一応ちょっと業者さんのほうと話をさせていただきながら、どうしていけばいいかというところをまずやりたいと思います。

その上で、方針ができるようであれば、その後詳細設計をやって、工事ということにはなろうかと思いますけれども、それがいつになるかというところはちょっと今お答えはできません。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

調査のほうは早急にやっていただけるような、今答弁をいただいたところであります。いろいろと詳細のほうがはっきりしてくる中で、予算のほうの関係も絡んでくるかとも思うんですけれども、比較的コロナ禍が大分落ち着いてきた中で、地元のにぎわいである神社の祭りですとか、そういったものも開催される中、やはりこちらの施設を利用する回数が増えつつある現状であります。

トイレはどうしても必要不可欠なものでありますので、いろいろと課題は出てくるかもしれないんですけれども、なるべくスパンをかけないで、スピーディーに改善していただきたいと思います。

シンクのほう、こちらのほうは実際全然もう使えない状態というものでもないというのも私も理解している中で、地元の方々も御理解をいただいたかなというところでありますが、次の質問になるわけなんですけれども、今後この浜丁会館においては、先ほど更新の時期は今は捉えていないというふうに答弁いただいてはいるんですが、おいおいいつかはこちらのほうもそういった更新の時期が来るというふうに考えるわけなんですけれども、そのときに、こちらのほうの施設の建設に対して、町は先ほどの基本的な方針の中で、最後のところにあります施設の更新の時期を迎えるときに、地域の住民が事業主体となって建設事業を進めていただくように十分協議し、対応策を定めていくというような形で方針を定めているわけなんですけれども、そのような時期が来たときに、こちらの住民の方々との協議をどのような計画を持って、何年計画で進めていくとかというのがありましたら、教えていただきたいんですけれども。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

まだ具体的ないつということがない中での答弁になるものですから、ちょっとお答えしにくいところはあるんですけれども、住民の皆様がどんな施設を造りたいのかという構想もあるでしょうし、町を介して補助金的なものをもらえるようなメニューもございますので、そ

ういったところのスケジュールも併せてやっていくということになりますので、ちょっと複数年のスパンで考えられるのかなとは思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

こういった施設、地域の方が利用される用途が多いこういったコミュニティ施設に関しての建設事業費というんですか、そういったものは、前回のこちらの建物は工業再配補助金みたいなもので多分建てられていて、住民の方が何かしら負担するというものはなかったかと思われているんですね。そういった中、この建物を次回更新するに当たって、建設をする際に、やっぱり住民の方々は町のほうが建ててくれるんじゃないかというような期待をされる方もいると思うんですけれども、そういった中で、町のほうももちろん全額は難しくても幾らかの補助金は対応してくれる中、やっぱり住民の方にも事業費のほうの負担というのが必要となってくると思うんですけれども、そういったところの住民の方々へのお話に関しての進め方というのは、町のほうはどのように考えているんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

ごめんなさい、繰り返しになりますけれども、まだ建て替えの時期、そういった御要望もない中での答弁になります。

川尻浜丁会館は、町でいいますとコミュニティセンターという設置になりまして、コミュニティセンター、町の中でも浜丁会館以外にも持っております。そういった他の地域の皆様でも自分たちで建てようということで、今動いているところもありますので、そのようなお話をしながら、住民の皆様に御理解を得て、話のほうを進めていくというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

確かにほかの地域でも同じようなコミュニティセンター、浜丁会館のようなものを更新されるようなところを聞いてはいるんですけれども、先ほどのお話ですと、建物自体に何かしら更新時期を迎えなきゃいけないというようなもう兆しが見えたときに、そのような話を持ってこられて、すぐに住民の方々が対応できるのかどうかというところがすごく不安であるんですね。

ある程度この年数からすれば、この建物自体もあとどれぐらいこのまま現状が維持できるのかなというところを予想はされると思う中で、やはりそういった建設の計画、はっきりとはまだ決まっていない中でも、そのような住民の方への協力が必要であるということも踏まえて、町のほうから住民の方に何かしら伝えるようなことも必要かと私は考えるんですけれども、そのあたりは、ほかの地域での施設の更新に当たってどのような形で住民の方にスムーズに行われたんでしょうか、今まで。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

まだ地元の方から更新だとか建て替えの話もないんですので、あくまでも町からの、こち

らのお話とするならば、地域の皆様が主体となって進めていってもらうということのお願いになります。

うちのほうから説明をしなければいけない時期に来ましたら、丁寧に御説明のほうさせていただきたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

では、住民主体ということで、住民の方からのそういった要望が上ってきてから、そういった話が進展していくようなものと考えるものでよかったでしょうか。例えば浜丁会館に限らず、ほかのそういったコミュニティセンター、そちらのほうも地域の方々が協力して、町の補助金を利用して、建設をされたところも幾つかあるんじゃないかと思うんですけれども、そういったところの相談みたいなものというのは、町のほうも今までも受けているんじゃないかと思うんですが。

**○議長（大石　巌君）**　財政管理課長、八木邦広君。

**○財政管理課長（八木邦広君）**　財政管理課でございます。

まず、コミュニティ施設というところでは、今ですと大幡会館が地元を主体ということで、建設をしたいということで、もう大分以前から話をして、地元のほうで動いていらっしゃると。

その前ですと、下片岡会館が、もともと下片岡会館は集落センターというところだったんですけれども、それも地元のほうから施設を更新して、新しいのを建てたいということでお話がありまして、町としては補助金を出してやったという経緯があります。

基本的には、施設がある状態を使うのであれば、その分は使っていただく。ただ、地元のほうがやはりこの施設がもう新しいのを建ててくれとか、そういう話になるのでしたら、基本的には、地元のほうでどういう施設を建てたいかというところを事業主体となって考えていただくような形になると思います。

その場合、町としては、基本的にはその土地等については無償貸与するような形とか、そういった部分での支援というのは可能かと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　ありがとうございました。

今、今までの事例をお話しいただいた中で、土地のほうは無償貸与をしていただけるということもお話があるんですけれども、例えば補助金のほうも活用されたケースもお話しされたんですが、その補助金の金額も、そのときの予算によっても異なるんでしょうけれども、大体どれぐらいが補助金として町として負担された、過去にどうだったのか、もし分かりましたらお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　関連の質問になりますので、浜丁会館についての質問にしていただけますか。

**○４番（楠元由美子君）**　すみません、分かりました。申し訳なかったです。失礼しました。

じゃ、ごめんなさい、今いろいろとお話、ありがとうございました。

続きまして、２番、３番の質問の再質問のほうをしたいと思いますので、お願いします。

先ほどシーガーデンについての進捗状況のほうを答弁いただきながら、川尻大道公園につ

きましても、にぎわいの創出に向けて活用できる施設なのかどうか、今後検討していきたいという考えをいただいたところであります。

町長の努力でシーガーデンが整備され、多くの企業が進んできております。また、浜田の土地区画整備も進展しつつあります。しかしながら、観光面ですね。町内外の方が楽しめる切り札的なものが今ない現状であります。

今後、シーガーデンが観光名所となるような整備が進んでいくわけですけれども、その際に様々な世代の多くの方々が訪れると予想されるわけです。その中で、必然的に隣接されているこの公園も、立ち寄ることが予想されるわけであります。

現状は、砂場のようなものがあって、あとトイレのみというふうになっておりますが、子供たちが楽しめる遊具の設置ですとか、また遠足などで利用されることも可能かと。また、高齢者の健康増進につながる健康遊具などの設置などで、交流が広がる憩いの場を創出できるとも考えられますが、今は具体的な案はないかとも思われますけれども、町はこういった遊具の設置について、少しお考えをお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

公園の関係になりますので、建設課のほうでお答えさせていただきます。

今、大道公園の遊具の関係ということでお話ございましたけれども、現状、大道公園のほうで何か新しい遊具を設置するというところの、すみません、考えはございません。

先ほど来、町長答弁のほうにもございましたように、全体としてどういうような形で検討していくかというところございますので、そういう中で、また遊具のほうが必要であれば、そういうものを検討するというような形になってくるものだと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

今、シーガーデンのほうを重点的にいろいろと基本計画案に基づきながら官民連携の基盤づくりを進めているのは重々理解しておりますので、またその中でいろいろな世代の方が楽しめるような場所もいろいろ考えつつ、いろいろと事業を進めていただきたいと思います。

続きまして、こちら３番の質問の再質問とさせていただきます。

こちらのほう、一時避難所としての役割とともに、大型バスや車、そちらも駐車できるようなスペースがある川尻大道公園であります。救援物資、そちらのほうを載せた車などの受入れ、また配布なども可能である場所と思います。万が一、被災されて家に戻れない状況になった方などの一時的な生活支援に対応できるような場所と考えるわけなんですけれども、先ほどの、まだいろいろと計画中の中でお答えづらいとは思うんですけれども、そういった観点も含めた整備計画などは、町は持ち合わせているでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

一時避難所ということでございましたので、私のほうから答弁させていただきたいと思うんですが、まず、この浜丁会館のところなんですけれども、平成25年度までは地域防災計画におきましては避難地と指定されておりましたが、現在は指定避難場所からは外れている状況でございます。ただ、外れているからといって避難しては駄目だということはございませ

んので、各自、各家庭が一時的に集まる場所として利用していただくことは可能だと思います。

ただ、しばらくの間避難するということであれば、ここではなくて、今は町内21か所に避難所指定してございますので、基本的にはそちらに避難していただくということになるんですが、一時的に避難したときに、そういった支援とか、そういうものが必要となれば、それは地元の自治会であったり、自主防災会と今後協議しながら、そこら辺の運営については調整していきたいと、そのように考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　４番、楠元由美子君。

**○４番（楠元由美子君）**　４番、楠元です。

平成25年度までは避難地として指定されていた場所であったということもあり、やはり地元の方は、この場所に来れば安否確認ですとか情報提供とかが取れる場所、一時的な避難所として認識されている方も少なくはないと思いますので、またぜひ、そのようなことが起こっては困りますけれども、地域の方が安全に安心して過ごせるような、そういったものにつながるような、ここの場所の何かしらの整備を考えるようであれば、お願いしたいと思います。

シーガーデンに隣接するコミュニティ施設等の整備について、町の考えをお聞きしました。いろいろとシーガーデンに関しては少しずつ計画の策定案も分かりつつあり、次にどのように発展していくかというのが見えつつある状況であります。

ここの浜丁会館、また川尻大道公園も隣接するコミュニティ施設であります。あわせて、こちらのほうも同じように発展していくことを希望して、ぜひ川尻全体を通してにぎわいと防災を兼ねたシーガーデンにつながるように、町のほうも今後ともいろいろと御尽力をいただきたいと思います。

最後ですけれども、能登半島被災地での課題となったトイレ事情を踏まえて、ぜひとも川尻大道公園、こちらのほうに多目的トイレの設置を要望して、私の一般質問を終わります。

以上です。ありがとうございました。

**○議長（大石　巌君）**　以上で、４番、楠元由美子君の一般質問が終わりました。

---

## ◇ 大　石　裕　之　君

**○議長（大石　巌君）**　続きまして、１番、大石裕之君。

〔１番　大石裕之君登壇〕

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石裕之でございます。私のほうから、通告に従いまして質問をさせていただきます。

地震による災害時の避難場所等の設置についてということで質問をいたします。

本年、元旦16時10分に突然、令和６年能登半島地震は発生をしました。マグニチュード7.6、震度７の強い揺れが震源地となった石川県能登地方を襲い、その直後に津波にも見舞われ、甚大なる被害が発生いたしました。また、日本海岸と太平洋岸と南北に遠く離れたこの私たちの吉田町にも、震度２の地震が記録をされました。

このときの被害状況でございますが、昨日発表された数字でございますけれども、死者が241名、安否不明者が５名、そして家屋全壊、半壊、一部破損、全て含み８万629棟というような状況でございます。

あの日から既に２か月以上がたちました。現在でも、現地では一時避難所が188か所、まだ継続されて避難者数が4,800名以上までいらっしゃるというような状況でございます。そして、断水も１万5,170戸断水しているという状況がいまだに続いているという状況の中で、大変な思いをされていらっしゃいます。この場をお借りいたしまして、お亡くなりになられた方々、そして避難されている、大変な思いをされている皆様に、心よりお見舞いを申し上げる次第でございます。

私たちは、そうした方々に対しても、一日も早く安心した暮らしを取り戻せるように、政府はもとより私たち国民も力を合わせて、様々な支援や協力をしていかなくてはなりません。

私たちは、これまでに1995年１月17日の阪神・淡路大震災、2011年３月11日の東日本大震災、そのほかにも幾度となく地震による被害を経験し、また、それらを分析することで教訓としてまいりました。次は自分たちかもしれないという心構えで、このたびの能登半島地震においても私たちの地震時の教訓にするべく、様々な見直しや再確認をしていかなくてはなりません。

そこで、令和６年能登半島地震を踏まえ、地震による災害時の課題について、以下に質問いたします。

(1)地震による災害時の福祉避難所開設と備蓄について。

①福祉避難所開設に対する町の考え方と取組は。

②状況により、計画にある福祉避難所以外のところに福祉避難所を開設することを想定しているか。

③避難所の備蓄の種類や量などは、どのような方法や考え方で決定しているのか。

④特に妊産婦や乳児用の備蓄は、十分な種類と量が備蓄されているか。

(2)地震による災害時のペット同行避難について。

①ペット同行避難についての町の考え方とその対応は。

②ペット同行避難専用の避難所または避難場所による可否はあるか。

③避難所運営マニュアルを生かした運営がなされるための対策は。

(3)地震による災害時の災害廃棄物（災害ごみ）の処理について。

①今後起こるであろう大地震の被害により、町内から排出される災害廃棄物の量はどの程度になると推計しているのか。

②その災害ごみを処理するのに、どれくらいの期間がかかると想定しているのか。

③清掃センターが地震による津波の被害に遭い、機能できなくなった場合の対処の方法は。

以上、質問をいたします。御答弁をよろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、答弁をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　地震による災害時の避難所等の設置についての御質問のうち、１点目の地震による災害時の福祉避難所開設と備蓄についての一つ目の福祉避難所開設に対する町の考え方と取組はについてお答えいたします。

吉田町地域防災計画におきまして、一般の避難所では生活することが困難な障害者、高齢者、乳幼児などの要配慮者を受け入れるため、バリアフリー対策が施されている福祉施設等を福祉避難所として指定をし、公示するものとしており、現在は、吉田町健康福祉センターはぁとふる、吉田町総合障害者自立支援施設あつまリーナ、静岡県立吉田特別支援学校、特別養護老人ホーム片岡杉の子園、特別養護老人ホーム住吉杉の子園の五つの施設を指定しております。

この避難所は災害時に必要に応じて開設される２次的な避難所でありますことから、原則として災害発生直後から利用できるものではなく、災害の規模、発生場所、要配慮者の避難状況、福祉避難所指定施設の安全性を把握した上で福祉避難所を開設するかどうかを判断し、開設した際には、要配慮者とその家族、自主防災組織、支援団体などに速やかに周知することとしております。

福祉避難所への避難が必要な要配慮者につきましては、避難所の各地区連絡部と各自主防災会が中心となって選考することとしており、その選考に当たりましては、一般避難所での日常生活に耐えられない身体障害者、高齢者等、一般避難所における集団生活に耐えられない精神障害者、知的障害者等を優先することとし、高齢者は高齢者施設、障害者は障害者施設というように、できる限り避難者の状態に合った施設に避難できるよう考慮することとしております。

町では、要配慮者の避難支援を迅速かつ的確に行い、平常時から要配慮者の情報の把握や避難誘導等の支援体制を確立するため、吉田町要配慮者避難支援計画を作成しており、この計画においては、要配慮者のうち、災害時に自ら避難することが困難であり、円滑かつ迅速な避難のために特に支援を必要とする避難行動要支援者の名簿を整備しております。

また、民生委員・児童委員の皆様に協力をいただき、毎年、避難行動要支援者を対象に実態把握調査を実施しており、必要に応じて個別計画を作成し、避難時の留意事項等を把握しております。

この避難行動要支援者名簿や個別計画につきましては、各自主防災会と共有をしており、福祉避難所を開設した際の円滑な受入れ調整につながるものと考えております。

令和４年９月の総合防災訓練におきましては、福祉避難所の開設訓練を実施し、要配慮者の避難状況や福祉避難所指定施設の安全性の把握から要配慮者の受入れまでの流れを確認しております。

次に、二つ目の「状況により、計画にある福祉避難所以外のところに福祉避難所を開設することを想定しているか」についてお答えをいたします。

さきに申し上げましたとおり、現在五つの施設を福祉避難所に指定しており、基本的にはこちらの施設を福祉避難所として開設することとしております。これらの施設以外におきましても、福祉避難所として利用可能な施設につきましては新たに指定することとしております。

さきの能登半島地震の被災地におきましては、指定した施設が大きな被害を受けたことで、思うように開設が進まない状況であると報道されております。町におきましては、今後より多くの施設を福祉避難所として指定することにより、要配慮者の受入れ体制を整えてまいりたいと考えております。

次に、三つ目の「避難所の備蓄の種類や量などは、どのような方法や考え方で決定してい

るのか」についてお答えをいたします。

災害対策基本法において、町は、基礎的な地方公共団体として、町の地域並びに町民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、関係機関及び他の地方公共団体の協力を得て、町の地域に係る防災に関する計画を作成し及び法令に基づきこれを実施する責務を有すると定められ、町は、吉田町地域防災計画において、処理すべき事務または業務の一つに、防災に必要な物資及び資機材の備蓄、整備及び点検の項目を定め、避難所等に必要な物資の備蓄と整備に努めております。

町の避難所用の主な備蓄品には、備蓄食料、毛布、トイレ、間仕切りセット、防災ベッド、備蓄用マット、消毒液などがございます。このうち特に重要な品目である備蓄食料、毛布、トイレにつきましては、静岡県第４次地震被害想定報告書の第２次報告における必要数に基づいて、町において必要な備蓄数を算出し、計画的な整備を行っております。

また、感染症対策においても、必要な間仕切りセットにつきましては、主な避難所となる小・中学校の体育館の面積から必要数を算出し、平成20年度から段階的に整備を進めておりましたが、令和２年度に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用することにより、保管場所の容量から算出した最大数量を一括整備いたしました。

次に、四つ目の「特に妊産婦や乳児用の備蓄は、十分な種類と量が備蓄されているか」についてお答えいたします。

現在、町の備蓄する妊産婦や乳児用の備蓄品につきましては、乳児用のおむつ、お尻拭きなどがあり、大規模災害時の初動活動時には非常持ち出しができない被災住民などに対して、これらの町の備蓄品を配布する計画でございます。

また町では、これらの備蓄のほかに、被災時の生活支援対策の一つでございます「”ふじのくに”のフロンティアを拓く取組」の物資供給拠点確保事業におきまして、北オアシスパークの整備を進めるとともに、商業施設の誘致を行い、誘致した企業と災害時における物資供給支援協力に関する協定を締結しております。

大規模災害時においては、町の備蓄品の活用に併せ、不足分を補うためにも、町が災害協定を締結したスーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンターなどから協定に基づき物資供給を受ける計画もございます。

次に、２点目の地震による災害時のペット同行避難についてのうち、一つ目のペット同行避難についての町の考え方とその対応はについてお答えをいたします。

環境省は、東日本大震災などのこれまでの大規模災害時における動物救護活動の経験から、より合理的と考えられる、飼い主の責任によるペットとの同行避難を原則とする災害時におけるペットの救護対策ガイドラインを平成25年６月に示しております。

その後、平成28年に発生しました熊本地震では、多くの被災者がペットとの同行避難を行ったものの、避難所でのペットの受入れや一時預かりをはじめ、災害に備えたペットのしつけ、ふだんとは違う環境によるペットのストレス、避難所での飼育ルールなど、多くの課題が指摘されましたことから、その対応状況を検証し、より適切な対策が講じられるよう、平成30年３月にさきのガイドラインを人とペットの災害対策ガイドラインとして改訂しております。

一方、県では、東日本大震災から得られた教訓を踏まえ、平成27年３月に飼い主とペットの同行避難や発災への備え、各避難所でのペットスペースの確保等について示した、災害時

における愛玩動物対策行動指針を策定し、その後、発生した熊本地震において、避難所におけるペットの受入れ体制の確立と重要性が再認識されたことから、平成29年３月に避難時におけるペットの受入れと飼育管理を円滑に行うためのポイントをまとめた避難所のペット飼育管理ガイドラインを策定しております。

当町におきましては、これらのガイドラインを参考に、ペットをケージやキャリーバッグに入れていただくことを原則とし、可能な限り同行避難を受け入れる予定でございます。

次に、二つ目のペット同行避難専用の避難所または避難場所による可否はあるかについてお答えいたします。

現在、町の指定避難所においてペット同行避難専用の避難所はございませんが、小・中学校の体育館などの避難所においては、町の避難所運営マニュアルに沿ってペット用スペースを設けております。

避難所におけるペット用スペースといたしましては、大規模災害などにおいては各避難所の軒下やピロティ部分、駐輪場などの屋根のあるスペース、風水害時の避難においては体育館の渡り廊下や２階のギャラリー部分など、一般の方の避難スペースから距離を置くことにより、動物アレルギーのある方などにも配慮した場所を設定しております。

次に、三つ目の避難所運営マニュアルを生かした運営がなされるための対策はについてお答えいたします。

ペットの同行避難につきましては、「広報よしだ」や町のホームページなどでお知らせや啓発を行うとともに、防災訓練の場においても、避難所運営マニュアルの内容を踏まえた避難所開設訓練を実施しております。

また町では、畜犬登録の際に、静岡県動物保護協会の「ペット動物の災害対策準備ができていますか？」というパンフレットを配布し、啓発に努めております。

今後、このような機会にのみならず、防災関連の啓発を行う際においても、ペット動物の災害対策やペットの同行避難についての周知を図ってまいります。

次に、３点目の地震による災害時の災害廃棄物（災害ごみ）の処理についてのうち、一つ目の今後起こるであろう大地震の被害により、町内から排出される災害廃棄物（災害ごみ）の量は、どの程度になると推計しているのかについてお答えいたします。

地震による災害廃棄物の排出量につきましては、平成29年３月に策定し、令和３年３月に改正しました吉田町災害廃棄物処理計画におきまして、静岡県第４次地震被害想定報告書の第２次報告を基に発生想定量を算出しております。

発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす、最大クラスレベル２の地震・津波の被害想定につきましては、災害廃棄物として41万6,000トン、津波堆積物として17万8,000トンから37万9,000トンと推計をしております。

次に、二つ目のその災害ごみを処理するのに、どのくらいの期間がかかると想定しているのかについてお答えいたします。

吉田町災害廃棄物処理計画における町の処理方針といたしましては、災害廃棄物発生量と処理可能量などを基に、東日本大震災に係る災害廃棄物の処理指針や静岡県災害廃棄物処理計画を参考に、３年間を目標としております。

最後に、三つ目の清掃センターが地震による津波の被害に遭い、機能できなくなった場合の対処の方法はについてお答えいたします。

県内の全市町及び一般廃棄物処理を行っている一部事務組合は、災害などにより自助努力の限度を超えて一般廃棄物の適正処理に支障が生じ、または生じることが予想される場合において、相互に協力を行うことを目的に、平成13年３月に一般廃棄物処理に関する災害時等の相互援助に関する協定を締結しております。

このほかにも、県では、他県など災害応援、震災時などの相互応援、全国都道府県における災害時の広域応援に関する協定などを締結しております。

こうした協定などにより、町では、清掃センターが災害などにより機能しなくなった場合であっても、他市町と連携して災害廃棄物の処理が行える体制を整えております。

**○議長（大石　巌君）**　答弁が終わりました。

再質問がありますか。

１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　それでは、御答弁ありがとうございました。再質問をさせていただきます。

まず、(1)の地震による災害時の福祉避難所開設と備蓄についての項目でございますが、御答弁にもございましたけれども、能登半島の被災地においても、指定した施設が大きな被害を受けたことで、思うように開設が進まない状況であると報道しておりますというように御答弁もございました。

先日の１月21日の静岡新聞の報道にもございまして、「福祉避難所　開設２割」というような見出しで報道がございました。福祉避難所の開設が想定の２割にとどまるというような状況であったということでございます。87施設のうち19施設しか開設できなかったというような内容でございましたけれども、御答弁の中で、この福祉避難所が被災直後にということよりも安全性等を確保した上で開設するかどうかを判断しというようなことで、数日、被災してから時間がかかるということでございます。

それは当然そうだというふうに思っておりますが、想定としてどれぐらい、なるべく被災した人がいるときは、早いほうが当然ありがたいというように皆さん思う方多いと思うんですが、最速で何日ぐらいをめどにされているのか、御質問いたします。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

福祉避難所に関することですので、福祉課からお答えをさせていただきます。

福祉避難所につきましては、吉田町福祉避難所設置・運営マニュアルというものを策定をしております。その中で、福祉避難所の開設のフローということで、自主防災組織、地区連絡部、町の災害対策本部の統括部、民生部で情報の共有を図りながら、当然指定した福祉避難所の被害の状況、それから御質問にもありました、能登半島地震においても大きな課題となっております人的な整備ですね。能登半島地震におきましても、福祉避難所の担当の職員であったりだとか、福祉避難所の施設の職員も被災者であるということで、どれだけのマンパワー、人的な資源がそこで活動できるかというところも含めて検討をして開設に至るということが重要だと考えておりますので、その状況の判断といいますか、情報の収集につきましては、災害発生直後からやっていくことになりますが、では、実際どのくらいで開設ができるかということは、災害の大きさによっても変わってくるものかと思いますが、災害発生から１日経過したくらいでは何とかできればやっていきたいとは思いますが、何とも言えな

いところです。発災直後、災害の発生直後からは、そういった情報収集というところには努めてまいります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

ありがとうございました。

そうですね、当然、なかなか明確に決められないというのは理解をしております。なるべく早くというようなところはぜひ御努力いただきたいというところでございますが、今、御答弁でマンパワーの問題がなかなかそろわない可能性があるということで、それによっても、いつ開設できるか流動的だというような御答弁でございました。

そのことは私も重々承知をしておりますし、それは周辺がどれぐらい被害を被ったかとか、そういった状況によってもまた違うんだろうというようにも思いますので、そこは状況次第でまた努力するということだと思いますが、一方、避難所を開設できる、できないの判断をするのに、福祉避難所として使う予定のところ、福祉センターとか、障害者自立支援施設とか、特別支援学校とかありますが、こういったところが多分耐震的に倒れること自体はないと思うんですね。倒れることはないと思いますが、使えるか、使えないかはまた別の問題で、中がどれだけどうなっちゃっているか、天井が落ちてくるとか、中の被災具合によってもまた使えなくなってしまうことは十分考えられるわけでございまして、そういった角度からの施設のめどというか、そういうことも鑑みながら耐震の設計をしているとか、何かそういったことというのはあるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

現在、５か所の施設が福祉避難所として町が指定しているということになっておりますが、こちらの指定に当たりましては、そういった基準を満たしているといった福祉避難所の確保、運営が、国のガイドラインであったりだとか、そういったところで満たしているというところで指定をしているというふうに認識をしております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。ありがとうございます。

多分そうですね、その指定云々はいろんな基準があるとは思うんですけれども、多分中のことの基準ってそんなに厳しくないんじゃないのかなと思っておりまして、事実、能登のほうでも、天井が落ちてきて使えなくなった、福祉避難所にするはずだった施設というのが幾つかあるというようにも聞いておりますので、そういった意味では、そういった視点からももう一度見直すということは必要なのかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

町長の答弁にもありましたように、福祉避難所につきましては、より多くを前もって指定しておくというような体制を整えていくことが必要ということが、特に今回の能登半島地震で教訓となっているものになります。

それには、町内にあります社会福祉施設、老人福祉施設等と協議を重ねながら、そういっ

た町の要請に応えていただけるように協議をしていきたいと考えておりますが、もし指定が進まなかった場合につきましても、町内のどういった施設が利用が可能であるかといった施設のリストアップにつきましても、福祉避難所運営マニュアル、町のマニュアルのほうにもリストアップはしているところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。ありがとうございます。

答弁にもございましたので、福祉避難所としての利用可能な施設につきまして新たに指定することとしているということでございますので、現状、当然この五つの施設だけではどうなるか分からないということで、新たに福祉避難所としての指定をできるところをまだつくっていきたいよと、探しているよということだと思いますので、そちらに関しましては御努力いただきたいなと思います。

そして、今指定されている福祉施設の受入れ可能人数というのを、私、事前に資料で頂いてもいるんですが、この受入れ可能人数の算出方法と、この人数で十分かどうかということの見方について御質問いたします。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

吉田町の福祉避難所設置・運営マニュアルの中で、福祉避難所の１人当たりのスペースというか、面積がおおむね１人２畳程度、３平米というところで計算をしております。

その中で、５か所の指定福祉避難所の面積から単純に割っているというところになりますが、あと、特別養護老人ホームにつきましては、そのときに施設との協議ということで、具体的な何人受入れ可能であるかというところについては、その都度協議することになっております。

ですので、現在の受入れ可能人数につきましては、マニュアル上は１人当たりの面積で想定する人数を受入れできるかどうかといったところの計算方法になっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。ありがとうございました。

面積から算出しているということでございますので、実際は例えばはぁとふるで535人という人数になっておりますけれども、実際はここまでは、最大でここというぐらいのことで、実際これよりは少ない人数しか収容できないよということだと思います。

収容人数、これだと全体として、杉の子園のほうが、まだ人数がはっきり出ていないので分かりませんが、それ以外で言うと900人ぐらいの最大収容人数ということになろうかと思いますが、若干、それだとやっぱり少ないのかなというふうな感じはいたしますので、またそれは先ほどの議論のように新たな指定を図っていきたいということでございますので、そちらに期待をしたいというように思います。

そこで、またもう一つの質問なんですが、御答弁でいくと、妊産婦の方というのはこの福祉避難所には基本的には入れないというような形になるのかなと思いますが、妊産婦さん等の扱いに関しては福祉避難所の対象外ということでよろしいでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

妊産婦、乳幼児につきましても、災害対策基本法の中で要配慮者ということで定義されておりますので、先ほどの利用の対象となる、想定する人数の中には、乳幼児、妊婦につきましても人数の中に入っているということになっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　ありがとうございます。１番、大石です。

妊産婦と乳幼児のことに関しましては、その後の質問のところの中に入っていきますので、そちらのほうにも移っていきたいと思いますが、備蓄に関してでございます。

町でもいろいろな備蓄をしていただいているようでございまして、物が足りなければまた災害協定の中で融通できるよというようなことで、そういった意味では安心する部分はあろうかなというようには思いますが、またはこの間も、またこれも新聞記事になりますが、２月５日の静岡新聞の記事にありましたけれども、妊産婦、乳児用品、備蓄進まずということで、内閣府が全国の自治体を調査した結果の記事が載っておりました。地震などの災害時に避難生活を送る女性や妊産婦、乳幼児向けの用品について、全国の自治体で備蓄が進んでいないことが内閣府の調査で分かったという記事でございますが、やはりかゆいところに手が届いているかどうかという話なんだと思うんですが、いろんなものを用意していただいておりまして、それで賄えるのかなと思いますが、この記事によると、例えば女性、妊産婦向けの用品で、生理用ナプキンを備蓄している自治体は82.5％以上に上ると。その一方で、女性用の下着は11.9％、妊産婦用の衣類と下着はいずれも１％未満だったというようなことでございます。また、乳幼児用品では、粉または液体ミルクは72.5％あるのに対し、生後半年頃から必要となる離乳食、そういったものは14.3％にとどまったというような記事です。あとは、紙おむつは66.9％あるんですけれども、お尻拭きは26％しかないというようなことで、なかなか細かいところまで行き届かない部分がやっぱりあるのかなというような感じを受けております。これはそういう立場にならないとなかなか分からないというところもありますし、特に男性が考えるとなおさら分からないだろうというようなところが正直あるのかなというようには感じております。

そういった意味で、町の対策としては、なくたって災害協定で売っているものだったらある程度手に入るというような状況があるので、そういった意味では賄える可能性は高いのかなとは思いますけれども、今申し上げたのはほんの一例なんですが、そういったところまである程度配慮して備蓄をされているかどうか、お尋ねをいたします。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

妊産婦や乳児用の備蓄品ということで、私のほうからお答えさせていただきますが、今議員おっしゃられましたとおり、女性や乳幼児が早期に必要と思われる備蓄品には、プライバシーを確保できる間仕切り、生理用品、女性用下着、授乳用品、離乳食用品、紙おむつ、体温計、消毒液など多々あるかと思います。

まず最初に、当町の現状でございますが、町長答弁にもございましたが、令和４年度に備蓄したものがございます。その内容としましては、ちょっと細かくなりますが、生理用品が12袋、乳児用のおむつがＳ、Ｍ、Ｌサイズのそれぞれの袋を16袋、お尻拭きが64袋と、初動

に必要な分ということで今この数の量を整備したわけでございますが、これが必要数足りているかどうかというのは、まだ必要数の把握がちょっと難しいため、今これで十分な量であるというのはなかなか判断が難しいところではございますが、やはり協定による支援というところでカバーするというのも考えた中でも、例えば介護用おむつは今年度中に予算の範囲内でちょっと備蓄したいという考えもございます。また、歯ブラシ等も一部整備しているところもあるんですけれども、そのほかちょっと足りないものにつきましては、ニーズというんですか、必要性を考慮して、また備蓄の見直しをしていきたいと、このように考えます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。ありがとうございます。

そういった意味で、備蓄のほうも種類も豊富で、それなりに物もありますよというような判断ができるのかなとは思います。

ただ一方、この間、これはネットニュースのヤフーニュースと日本気象協会による共同企画記事ですというので記事があったんですが、全国のヤフーニュースが入ったものですから、ヤフージャパンユーザー1,000人、妊娠中の女性、小さなお子様を家族に持つ女性を対象に防災に関するアンケートを実施しましたという記事でございます。「どういったことに不安や心配を感じるか」という問いに対しまして、当然子供の健康とかメンタル面というのが最初には出てくるんですが、その次に大きく出てくるのが「避難所の環境」や「必要物資の供給があるのかどうか」といったことに不安や心配を感じるといった声が多く上がったというような記事でございます。

細かい数字等もありますが、それはさておいて、要は自分でもちろん用意するんですけれども、どれだけ用意すればいいのかとか、こういったものがあるのかないのか分からない、それが非常に不安だというのがこの調査から分かってきたところでございます。

そういった意味でいうと、現状どうなのか、ちょっと私はっきり分からないところもあるんですけれども、どんなものがどれだけある程度備蓄されているのかということをもう少ししっかりというか、今広報されているのかもしれませんが、あんまりそういった中身について、ざっくりのところしか聞こえてこないし、なかなか調べてもしっかり出てこないものですから、そういったものをしっかり何がどれだけありますよということを広くオープンにしていくことによって、じゃ自分でもちろんどれだけ用意しなきゃならんというのはあるにしても、いろんな判断がつくし、安心するというような面があるのかなと思いますが、その備蓄品の数とか種類、そういったものをオープンにするということについて、どのようにお考えになるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

今、議員がおっしゃられました、町で保管する備蓄品、この数量等の公表ということでございますが、現時点においては、例えば非常食が今何食あるだとか、そういった公表は現時点では行っておりません。

ただ、これにつきましては、どういった形でお知らせするのがいいのかというのは、ちょっと検証する必要あるかと思うんですが、例えばこういったものは避難所に直接行くのが主なところになりますので、避難所運営に携わるという意味では、各自治会、自主防災会が深

く関わってきますので、そういった方たちに対しましては、年度当初に１回、また年二、三回計画します訓練、その前に事前に説明会それぞれやっているんですが、そういった際に周知していくというのはひとつあろうかと思いますので、ちょっとそういった方向で検討のほうはしたいと思います。

また、各家庭で備蓄するものについては、いろんなところで発信されていますが、今回の能登半島地震を踏まえまして、今回の津波避難訓練に合わせまして、町のほうでも案としまして、携帯等にも含めて、こういったものを家庭で備蓄してくださいというパンフレットを作成させていただきまして、一部今回の訓練に配布されているというのもございますので、そういうのも併せて御覧いただければと思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　ありがとうございました。いろんな形で検討していただくことが必要かなと思います。

私は、やはりオープンにすることでいろんな声も寄せられるでしょうけれども、もちろん何でもかんでも備蓄せいということは当然無理なことですから、そこで取捨選択がもちろん行われるようにしなきゃいけませんし、できること、できないこと、あろうかと思います。そういったこともしっかり町民に伝えることで、じゃ自分たちはどこまで用意しなきゃならんということの自覚もまた芽生えるんじゃないかなというように思っておりまして、最初、何やかんや、いろんな声が来ると行政としては面倒臭いというのは、もちろん分からんじゃないんですけれども、自治会も大変になるのも分かるんですが、その後、そういうようないい結果をもたらせるような状況になるのかなと思っておりますので、ぜひそんなことも含めて検討いただければなというように思います。

次の質問に移ります。

(2)の地震による災害時のペット同行避難についてでございます。ガイドライン等でいろんなことがしっかり決められているということは承知をしております。

やはりペットに関しましては、答弁のほうにもありましたけれども、2016年の熊本の地震のときに、相当いろいろ問題があったことが報道されて、こういった意識が高くなってきたというようにも思います。また、2011年ですが、東日本大震災に関しましても、ペットを避難させるために自宅に戻り津波に巻き込まれたとか、そういったことも報道もされておりました。

そういった中で、今回能登半島沖地震に関しては、ペットの報道等があんまり聞こえてこないなと。そういった意味では、そういったトラブルはないのかなと思いましたが、ちょっとネットで探すだけで幾つか出てきてはおりました。やはりまだあるんだなというように感じた次第でございます。

一つ御紹介すると、地元の福井新聞が２月４日に報道している部分で言うと、珠洲市で自宅敷地内の納屋が全焼した事故で、焼け跡から遺体の一部が見つかったと。警察は、自宅が倒壊したことで納屋で避難生活を送っていた男性と見ていると。この男性は、ペットがいるから避難所に行けないと話していたそうだというような事故があったようであります。この方は、ペットとして小さい命を迎えて、その命を迎えたからにはそれを守る責任があるという中でその責任を全うしようとした。その結果として命を落としてしまったというような事

件だというように総括をされておりましたが、非常に心苦しいというか、つらいことだなと。

そういったことがやはり、せっかく地震で生き残った命を落としてしまってはいけないというように思っておりますので、ペットの同行避難もしくは同伴避難に関しては、取組をしっかりやっていただきたいなと思っております。

現状、自治会さんを中心に、避難所で避難マニュアルどおりに運営していくということになっていると思いますが、この避難所運営がしっかり回れば一番いいんですけれども、特に中心的な役割を担う自治会の方々というのも、２年ごととかで交代されたりもするようなところもありまして、そういったことが徹底されるのかというところがちょっと心配をしているんですが、その点についてどのように対策をされていらっしゃるでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

まず、災害時におけるペットの同行避難とか、そういった取扱いでございますが、町長答弁にもございましたように、現在、町は基本的には県の災害時における愛玩動物対策行動指針及び避難所のペット飼育管理ガイドラインに沿っているところでございますが、コロナ禍において、日頃からの備え、同行避難への備え、避難所への備えとして、実施すべき事項が示されておりまして、そのほとんどが飼い主がやるべきと示している中で、当然行政というか、市町の役割としてやらなきゃいけないものもございます。

まず一つ目に、地域防災計画にペットの取扱いに関する位置づけ等を明記するということで、これは既に地域防災計画のほうに記載をさせていただいているところです。

また、災害時等に飼い主による同行避難や避難所での適正な飼育管理が行われるよう、平常時から飼い主に対する啓発等の対策を講じるということで、これにつきましても広報であったり、ホームページであったり、登録の際に周知のほうをさせていただいているところでございます。また、今後もイベントとか説明会において、度々周知のほうは行っていきたいと思います。

そして、一番大きな要素となります避難所等におけるペットの受入れやペットスペースにおけるペットの飼育管理方法について体制を整備するというのが町の役割としてございますが、現在７か所の避難所においては、避難所運営マニュアルにおいてペットスペースのほうを確保しているところでございますが、そのほかの避難所であったり、スペースがそれで足りているのか、まだまだ課題はございますので、こういったところの充実を図っていき、それを周知し、また、それを訓練することによって定着していくと思いますんで、そういったものに力を入れていきたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。ありがとうございました。

おっしゃるとおりだと思いますので、ぜひお願いしたいなと思います。

吉田町の犬の登録が令和５年12月現在で1,552あって、ペットは犬だけではありませんし、猫とか鳥とか爬虫類みたいなものもペットになっておりますんで、いろんなものがあって、なかなか多種多様で大変な面があるかとは思いますが、その訓練等も含めてしっかりやっていただくことが大事かなと思います。

そして、訓練ももちろん大事なんですけれども、このペットの避難に関しましては、やは

りペットを持っている方だけではなくて、持っていない町民全体の意識として共有している部分がどうしても必要だというように思います。それがないとやはりトラブルになってしまうというふうに思いますので、特に今回能登の地震が起きてまだ間もないということもあって、非常に皆さんの関心は高いと思います。

今日の静岡新聞にも、南海トラフ、県民８割強、非常に関心をというような新聞記事が１面にありましたけれども、このタイミングを逃すべきじゃないというところで、ペットの避難に関して、ペットを飼っている方以外、町民全体に広報や啓発をするということは重要だと思うんですけれども、そこに関してはどういうような具体的なことをやる予定でいらっしゃるか、お尋ねいたします。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

このペットのことに関しましては、今議員おっしゃられますように、飼っている方はもちろんでございますが、飼っていない町民全ての方に知っていただく必要があると思います。

繰り返しになりますが、現時点でもホームページでこのペットのことについては常に掲載のほうをさせていただいておりますが、その継続とともに、イベントとか、また説明会、特に度重なりそういった周知を図っていきたいというふうに思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

ありがとうございました。ぜひ、そこら辺もこの機を逃さずに徹底してやっていただければありがたいなというように思います。

では、次の質問(3)のほうに、時間もないものですから移りたいと思います。

この災害ごみ、災害廃棄物の処理なんですが、町の計画としてはどんなことがあっても周辺の市町と協定等も結びながら、相互援助に関する協定ですか、こういったものでしっかりお互い連携してやる体制になっていますよということでございまして、それはそのとおりなんだというように私も理解をしております。

しかし、こういった施設は、どうしても迷惑施設としてなかなか新しい場所探すとかという状況にも時間もかかるということもあって、この炉が耐用年数が45年というようにお聞きをしております。平成11年、1999年に竣工されておりますので、今年で25年目ということです。あと20年ぐらいのまだ耐用年数はあるという中で、長寿命化も含めて長く使いたいよというような意識もあろうかとは思いますけれども、何分、海のところで津波の被害があり得る場所にあると。東日本等がある前に造られておりますから、そのことまで考慮せずに場所の選定も行われたんだと思いますから、そういった意味では早め早めに自力である程度ごみの処理等もしっかりやれるという体制を整えておくことも、また災害対策の一つとして大切なことなんじゃないかと。

しかも、牧之原市との議論も重ねていかなくてはいけないようなことでもございますので、そういった意味で早く着手をしていただくことがいいのかなと考えておりますが、その点についていかがお考えか、質問いたします。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

こちらの焼却場につきましては、それこそ広域施設という中で、牧之原市の意思も確認しながらということはありますが、やはり耐用年数でいうと45年、あと20年という中で、今のところちょっと新たな計画というのはないという状況です。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

現状はそうだと思います。例えば設備としての改善点とか、問題点とか、もしくは使い勝手の部分での要望とかそういったものというのは、現場から、もしくは周辺とか、いろんなところから声として届いていることはありますか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

広域施設組合、事務局長にその旨を確認したところ、今のところ、やはり修繕をしながら施設を使っていくということで回答を得ております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　ありがとうございました。

これはまた長い目で見るというか、なるべく早く動いてもらえればありがたいなと思う。私の思いは伝えさせていただきました。

最後になりますが、静岡大学防災総合センターの特任教授、岩田孝仁さん、テレビとかによく出られるんで御存じの方もいらっしゃるかと思いますが、この方の論評で、今回の能登半島の震災を自らのこととして、関係機関にはいま一度防災対策の再構築を図られることを期待するというように書かれておりました。まさしくそうだなというような思いで今回質問もさせていただきましたが、今回質問したのは本当に狭いところの部分しかないものですから、これは行政も、町民も含めてなんですが、自分のこととして、今回の能登半島の震災をもう一度振り返る、ある意味大きなチャンスに捉えて、そのようにしていただくことをお願いして、質問を終わります。

**○議長（大石　巌君）**　以上で、１番、大石裕之君の一般質問が終わりました。

ここで暫時休憩といたします。

再開は２時45分とします。

休憩　午後　２時３６分

再開　午後　２時４４分

**○議長（大石　巌君）**　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員数は11名です。

引き続き一般質問を行います。

---

◇ 山　内　　均　君

**○議長（大石　巌君）**　続きまして、８番、山内　均君。

〔８番　山内　均君登壇〕

**○８番（山内　均君）**　８番、山内　均でございます。

通告に従い、令和６年能登半島地震からの教訓についてお聞きをいたします。

最初に、令和６年１月１日の午後４時10分、能登半島沖を震源とする最大震度７の地震が発生し、この地震により亡くなられた方及び幸運にも災害から逃れた方に、お悔やみと、それと一日も早い復興をお願いするものであります。

本文に入ります。

令和６年能登半島地震、令和６年１月１日午後４時10分発生、最大震度７、マグニチュード7.6による人的・住家被害状況については、消防庁の情報の２月13日現在の発表された数字で質疑をいたします。先ほどと、ちょっと早いのですので、多少違います。

まず、人的被害は、石川県の死者241人、そのうち圧死が全体の４割92人、窒息・呼吸不全が２割強の49人、約６割の人が倒壊した建物の下敷きとなって亡くなっています。阪神・淡路大震災では、圧迫死（圧死、窒息など）が全体の約６割を占めた。多くは木造家屋が倒壊し、家屋の下敷きになって即死したと見られている。住家被害では、全壊が、石川県6,528棟、富山県129棟、新潟県93棟であった。亡くなった人の年齢別では、60代以上が73％で大半を占めていると。耐震性がなく、屋根が重たい建物が多く、被害をもたらしました。また、災害関連死の疑いがあるのは15人となっています。

以上、震度７の巨大地震から町民を守るための考えと対応について質問します。

１、建物の耐震化事業、プロジェクト「ＴＯＵＫＡＩ－０」について。

(1)建物の耐震化を図るプロジェクト「ＴＯＵＫＡＩ－０」で、昭和56年以前の建物の一般診断から耐震補強工事への実績は。平成12年の以前と以後の件数は。

(2)静岡県の建物耐震化率は、2018年で戸建て住宅約81％、全体で87％まで進んでいる。吉田町の現在の耐震化率と目標は。

(3)令和６年度で一般診断が、令和７年度で耐震補強工事の補助が終わるが、令和６年能登半島地震で様子が変わったと考える。これからの町の計画は。

県の対応に変化はあるのか。

２、この地震で亡くなった人の年齢層について。

(1)60代以上が全体の73％と最も多いのは、プロジェクト「ＴＯＵＫＡＩ－０」における私の経験から、倒壊の危険性が十分にありながら、年齢と予算で耐震補強工事に踏み込めない年齢と合致している。この年齢層の人を災害から守ることが最重要と考える。町の考えと対策は。

(2)近隣自治体では、屋根の改修・軽量化に補助金制度を設けているところが多い。町の対応は。

３、避難所について。

(1)災害関連死を減らすためにも、雑魚寝の避難所からの環境改善の取組を訴える専門家も多い。避難所について町の考えは。

(2)専門家の講演等を聞いて準備をする必要があると思うが、町の考えは。

以上、よろしくお願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　それでは、答弁をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　令和６年能登半島地震からの教訓についての御質問のうち、１点目の建物の耐震化事業、プロジェクト「ＴＯＵＫＡＩ－０」についての一つ目の建物の耐震化を図るプロジェクト「ＴＯＵＫＡＩ－０」で昭和56年以前の建物の一般診断から耐震補強工事への実績は。平成12年度以前と以後の件数はについてお答えいたします。

木造住宅耐震化プロジェクト「ＴＯＵＫＡＩ－０」につきましては、平成７年に発生しました阪神・淡路大震災において、８割以上の方が建物の倒壊等による圧死・窒息死等が原因で亡くなったことを受け、当時想定されていた東海地震における住宅の倒壊から１人でも多くの命を守ることを目的に、平成13年度に立ち上げられました。

この事業におきましては、立ち上げ当初、建物の無料診断や補強計画作成に対する補助、耐震補強工事に対する補助の３点の事業を実施しておりましたが、現在は補強計画作成に対する補助と耐震補強工事に対する補助が一体化され、建物の無料診断との二つの事業として継続をされております。

この事業における一般診断から耐震補強工事への実績につきましては、工事に対する補助の交付条件として無料診断を受けていることが必要となるため、工事を実施した件数がその総数となります。本町のこれまでの実績は176件となっており、年度ごとの件数を確認しますと、駿河湾地震や熊本地震があった翌年度は前年度より増加するといった傾向になっております。

なお、さきに申し上げましたとおり、この事業につきましては平成13年度に立ち上げたものでございますので、平成12年度以前の実績はございません。

次に、二つ目の静岡県の建物耐震化率は、2018年で戸建て住宅約81％、全体87％まで進んでいる。吉田町の現在の耐震化率と目標はについてお答えいたします。

本町の耐震化率につきましては、平成30年住宅・土地統計調査時においては、住宅の総戸数１万190戸のうち、新耐震基準と同等以上の耐震性能を有する住宅は9,529戸で、93.5％でございました。現在の本町の耐震化の目標としましては、令和３年度からの５年間を計画期間とする吉田町耐震改修促進計画の最終年度であります令和７年度末に、95％を目標として事業を推進しております。

次に、三つ目の令和６年度で一般診断が、令和７年度で耐震補強工事の補助が終わるが、令和６年能登半島地震で様子が変わったと考える。これからの町の計画は。県の対応に変化はあるのかについてお答えをいたします。

県では、令和３年度から令和７年度までの５年間を「ＴＯＵＫＡＩ－０」事業の総仕上げと位置づけ、取組を一層強化しております。

このような中、能登半島地震が発生したわけでございますが、発災以降、県全体で無料診断の相談件数が増えていることから、県では、昨年12月に締め切った補助交付額の変更申請について、その期限を延長し、本年１月以降に再度変更申請を受け付けるといった柔軟な対応を行いました。しかしながら、令和８年度以降の対応につきましては、現在もなお継続するなどといった方針は示されておりません。

町といたしましては、能登半島地震発災以前から、たとえ県の補助がなくなったとしても、

耐震補強工事への補助を継続することも含めて、耐震化の向上のための施策を今後も引き続き推進してまいります。

次に、２点目のこの地震で亡くなった人の年齢層についての一つ目の60代以上が全体の73％と最も多いのは、プロジェクト「ＴＯＵＫＡＩ－０」における私の経験から、倒壊の危険線が十分にありながら、年齢と予算で耐震補強工事に踏み込めない年齢と合致している。この年齢層の人を災害から守ることが最重要と考える。町の考えと対策はについてお答えいたします。

町では、県や耐震補強相談士の皆様に協力をいただきながら、「ＴＯＵＫＡＩ－０」の対象となる住宅を戸別に訪問しており、その際、年齢や工事に係る費用を考えると耐震補強を実施できないと答えられる方が多くいらっしゃることは把握しております。こうしたことから、改修ができないお宅に対しましては、戸別訪問の際に防災ベッドや耐震シェルターの補助についても併せて説明させていただいております。

１人でも多くの皆様に地震から命を守ることを考えていただけるよう、今後も引き続き「広報よしだ」やホームページなどにより周知を図ってまいります。

次に、二つ目の近隣自治体では屋根の改修・軽量化に補助金制度を設けているところが多い。町の対応はについてお答えいたします。

近年、屋根の改修や軽量化に補助金を設けているという市町があることは承知をしております。しかし、町といたしましては、「ＴＯＵＫＡＩ－０」の補助制度において屋根を改修できる場合もあり、実際に昨年度１件、本年度も１件、補助金を交付しておりますので、現時点で屋根の改修や軽量化に特化した補助金制度の創設は予定をしておりません。

次に、３点目の避難所についての一つ目の災害関連死を減らすためにも、雑魚寝の避難所からの環境改善の取組を訴える専門家も多い。避難所について町の考えはについてお答えいたします。

国の資料によりますと、災害関連死とは「当該災害による負傷の悪化又は避難生活等における身体的負担による疾病により死亡し、災害弔慰金の支給等に関する法律に基づき災害が原因で死亡したものと認められたもの」と定義をされております。また、広辞苑や大辞林によりますと、雑魚寝とは「雑魚のように入り交じって寝ること」「何人もの人が入り交じって寝ること」とされております。これらの定義から、議員の御質問にあります災害関連死を減らすためにも、雑魚寝の避難所からの環境改善を、災害時の避難所生活における身体的負担による疾病などを減少するために、多くの人が入り交じって寝る環境を改善することと捉えてお答えをいたします。

町では、令和２年度から、県が作成した新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所運営ガイドラインの内容を反映した避難所運営マニュアルを作成し、訓練においてブルーシートを活用した避難スペースの確保や、間仕切りテントや多目的ベッドを活用した避難所運営などを行い、多くの人が入り交じって寝るような環境を改善した、いわゆる雑魚寝の状態がない避難所の運営に努めているところでございます。

また、町における主な避難所となります小・中学校の体育館には、令和元年度に空調設備を、令和４年度にＷｉ－Ｆｉ設備を整備するなど、他市町に先駆けて避難所の環境改善に取り組んでまいりました。

このような状況の中、国は、令和４年４月に避難所における良好な生活環境の確保に向け

た取組指針を改訂し、新たな指針では、新型コロナウイルスをはじめとする感染症への対策、災害関連死防止につながる生活環境等の改善、防災機能設備等の確保など、避難所を巡る様々な対応が盛り込まれました。

県は、それらの指針を踏まえて、令和６年２月に避難所運営マニュアルを改訂しております。この避難所運営マニュアルには、平時からの準備として、感染症やプライバシー等に配慮した空間配置、間仕切り等によるプライバシーの確保、また防災機能設備等の確保として、防災機能設備の充実、情報収集手段の確保など、既に町が避難所の環境改善に取り組んでいる内容が盛り込まれました。

町といたしましても、疲弊している被災者の皆様が体調を崩さないために避難所の環境改善は重要と捉えておりますので、今後も国・県の指針やガイドラインなどに沿ったマニュアルの改訂などを適宜行い、避難所の環境改善に努めてまいります。

最後に、二つ目の専門家の講演等を聞いて準備をする必要があると思うが、町の考えはについてお答えをいたします。

町では、適切な知識や正しい情報の提供、地域防災力の向上などのために、町民や自主防災会向けの防災講演会を開催しております。その一例としまして、平成28年度には「災害時の健康支援」と題しまして、浜松医科大学の尾島教授、令和元年度には「災害時における大切なトイレのはなし」と題しまして、特定非営利活動法人日本トイレ研究所の松本氏、令和４年度には「防災気象情報の利活用について」と題しまして、静岡地方気象台の紅林防災管理官といった専門家を招いた講演会を開催しております。

また、職員向けには、災害に対する職員としての意識啓発や、取るべき行動の確認のため、東日本大震災を経験された自治体職員を招き、防災研修を実施しております。

さらに、令和５年度自治会連合会の視察研修においては、東日本大震災の被災地を訪問し、現地の自主防災会の方々などから、当時の状況や防災の取組などについて伺い、命を守る教訓を学んでまいりました。

このように、今後も各分野の専門家や被災地において実災害を経験された方の貴重な教訓などを伺う機会を設け、それらを参考にすることにより、防災意識の啓発や地域防災力の向上につなげてまいります。

**○議長（大石　巌君）**　答弁が終わりました。

再質問がありますか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　御答弁いただきました。

まず、平成13年度以降の耐震補強の工事を行った件数は今示されました。私が平成12年と書いたのは、建築基準法が平成12年に大改修されました。全く違った形になりました。それは、阪神大震災のときに崩れたほとんどの建物は、耐震壁が偏っていたために回転をしたんですね。回転をして、それでその建物がほとんど壊れたんですね。もちろん耐震壁のないこともあったです。その中で、平成12年からはＸ方向、Ｙ方向の２分の１は必ず造りなさい、そうしないと確認下ろしませんと、そういうやつが出たんですね。そうすると、何が起きたかというと、振られることがなくなってきましたので、建物自体が斜めにひしゃげるというか、そういうことがなくなったですね。それが一つの大きな例だと思うんです。

その後、平成12年の前です。我々建築士は、建築士会の仕事として、県の指針に基づいて

五、六年前からやっていたんですね、実際の補助として。それで、昨日も建築士会の幹部にも確かめました。確かにやっていたと。やっていました。私はやっていましたんでね。そのときに、もうその資料というのはないんですね。恐らくないだろうと。普通にないだけじゃなくて、私としてはなくなる必然性を持っています。耐震化が今言った、平成12年で違いますからね。それで、我々は平成12年に最新ソフトが大改修されて、それが今現在もずっとつながっていて、それが新耐震基準だと思っております。

そういう意味で、地震の耐震補強率は、国が示しているのとは静岡県ちょっと違いますので、現実は静岡県は違うんですね。その辺の把握というのはしていますか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

議員の質問でもございました静岡県の耐震化率、2018年というのもございますが、こちらの数字は、それに合わせて吉田町もつくっているわけですけれども、実際、住宅都市統計調査という５年に一度の住宅に関係する統計調査によりまして推計をされているものでございます。

ですので、住宅・土地統計調査の調査区の選定によってちょっと実際耐震化率が違うという状況がありますので、実際は、以前にもお示ししたことありますが、町の都市環境課のほうで把握しているものとしては違う数字を持っています。前にもお示しさせていただきましたが、実際は1,300件程度となっています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　分かりました。

今、答弁いただいた数字が本当の新しい数字。新しい数字をよく探していただけたと思いますけれども、我々の建築士会の連中ももうその段階でないだろうと、数字が出ないだろうという判断をしています。正確な数字というのはなかなか出ないと思うんですよね。それは状況によって建築基準法、全く変わってきますからね。

今度、大きな地震が起きた、東日本大震災で恐らくまた変わっていくでしょう。そういう形でどんどん進化していきますので、その進化のことによって、前のものが耐震性に関しては脆弱性を持っている可能性はあると。それはもう否めないところですね。

そういう意味で、私が耐震性を考えたときの問題としては、本当の、言い訳じゃないですけれども、こういう地震のたびに国が示す建築基準法が変わっていって、そこにはやむない事情がありますよということを言わんとしているわけですね。

あと、実は今言われた平成12年以降の耐震の建物は、恐らく震度７ではほとんどもっています。例えば今回の地震でも、後でしっかりやりますけれども、ＮＨＫのニュース、民放のニュース、みんな見ますね。見ていて、もう全部壊れたところのアップだけです。その建物は壊れるべくして壊れていますから、阪神・淡路大震災と同じ条件で壊れていますね。残念ながら、ああいう歴史的な建物とか都市というのは、京都含めてみんなそういう形になっていますので、それをやることは物すごい大変なことだと思うんですけれども、それでもその中で亡くなっていく方がいるということは、やっぱり何らかの方法をしなきゃいかん。

その方法が、これからですけれども、今言った平成12年以降にしっかりした把握をもってＤＸの中で進めながらやっていったときに、避難をしなければならない人、即死する人、そ

れと避難生活をしなきゃならん人、明確に出たときに、吉田町が人数、これが少ないですから、それが把握して数字が出たときには、むやみに避難所は要らないんですね。分かりますね。それはこれだけの人を守れば避難所はいいと。その人以外の人たち、あなたたちは大丈夫ですよという、その中での意識を持ってやっていく。それがこれから恐らく多分そういう状況が生まれてくると思います。

阪神のときも、避難所生活をしている人ばかりではなくて、珠洲市の映像をよく見るんですけれども、珠洲市が一番被害大きいですよね。ところが、市役所の映像を、あれ、報道、失敗だと思うんですけれども、倒れている建物がないんですね。ほとんど最近の建物です。あれ見ると、やっぱり倒れている建物と同時に建っている建物。

私は、うちでいつも騒いでいるのは、倒れている建物をずっと細かく見るじゃないですか。ところが、ちょこちょこ建っているうちがあるんですね。ほれ見ろあそこ建っていると。要するにその両方を映すことによって、耐震がいかに大事か、耐震を持った建物が人をいかに守るかということがあそこに出ると思うんですけれども、ただ、ニュース番組にすると、建っている建物がニュース性がなくて、事件性がなくて。それで、そのやつをいろんな人に聞くと、新聞が売れないんだと。テレビも見ないんです。あれ見れば安全だから。ところが、それ事件性がないから。ところが、そういう形で出るわけですね。私はいつもそれを一緒に探しています。

それと同時に、先ほどちょっとありましたけれども、鉄骨の建物で、多分皆さん見ているでしょう、ガソリンスタンド。健全ですよね。潰れているスタンド、なかったでしょう。鉄骨ですね。鉄筋の建物、もうほとんど壊れていないですね。

僕が一番安心したのは学校の建物。全くここと同じ造りです、あれはラーメン構造の。１基も壊れていないですね。阪神と違うのは、地盤の影響もあるでしょうけれども、壁も壊れてなかったですね。そういう意味で、吉田町のこの建物に関しては、本当はちょっと心配なんだけれども、これ、建物がパイルが要らない。打っていないですね。それだけもう強いという証明できますので、多分地震のときには、皆さんのところ下に潜っていれば助かるじゃないかと。そういう状況を私は今の今回の能登半島沖地震からの見えてきたものというか、それをやっぱり目指していきます。

その中で、まず先ほど、あの中で本当に自分が見つけた、感じたものが、60歳以上、65歳以上の人たちが、ほとんどが亡くなっていくわけですね。即死ですよね。そういう形で、その辺の認識を、もう一度しっかりとした認識を町のほうで持っていただければ、もっと違った耐震の方法が出ると思うんですよね。

それで、我々が耐震やるときに、このうちは絶対やらないかんというううちが出てくるんですね。それが避難所も含めた大事なことだと思うんですけれども、その辺のこれからの計画、変わっていると思うんですけれども、どのような予測をしていますかね。そのような予測をしてほしいんですけれども、そういう予測についてはどうですか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

こちらの「ＴＯＵＫＡＩ－０」事業の木造耐震化につきましては、やはり実際高齢の方が受けるという場合が多いです。ですので、町としましても、そういった高齢者の耐震改修というのは、実際、県のほうの補助金と合わせて、65歳以上のお宅に関しましては20万円プラ

スということで120万円の補助金を出していますので、今後もそれが続くというふうに考えています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　そうですね。私としても、専門家というか、設計屋から見ると、やっぱりそういうことを把握することによって、先ほど言った避難所の準備であるとか、むやみに地震を怖がる必要はないよと思っているんですね。

僕が一番考えているのは、私のうち平家で屋根軽いですから、多分もつでしょう。そのときには自助共助の中で提供しようと思っています、組の人たちにね。常に動いていますからね。そういう意味で、そういうような避難所の在り方の方法とか、そういうのをぜひやっていただきたいんですけれども、その辺の考えというか、そういうものの見方というのはなかなか持つのは大変ですか。

個人のうち、助かっている、健全なうちを避難所として、本当によく知っている人に使ってもらう。感染症、全てのものにいいですよね。そういうような、どうぞ。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

災害時における避難につきましては、基本的には避難所に一時避難するという形になろうかと思うんですが、ただ、今議員がおっしゃる在宅避難ということだと思うんですが、基本的には、今いろんな全周防御を目指して防潮堤とか整備、津波避難タワーとか整備したところでございますけれども、ただ、地震とか大規模災害が大きければ、基本的には１回は避難するというのが原則になりますので、一度はそういった避難所に避難していただくような形になろうかと思います。

ただ、そこで一時しのいで、安全が確認できて御自宅が安全ということになれば、それぞれ帰っていただくとか、今議員おっしゃられましたように、近所とかで安全なところに在宅避難として帰っていただくというのは可能だと思いますので、そういうのも含めた中で避難計画をつくっていきたいなと考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今言われたのは、私の中では合理性があるとはあまり思わないですね。わざわざ避難をして、そして避難の途中で亡くなる人もいるだろうから、その辺はまただんだんとどういうやつがいいかというのは、もちろん今先ほどの専門家がいっぱいいますから、やっていただければと思いますよね。私、その方法で進んでいっていただきたいと思います。

あと、先ほど出た屋根の軽量化について、これについては非常に懸念をしています。僕らが耐震の一般診断で補強に進む率というのは、私らの中では恐らく１割はいっていないんですよね。多分あと９割の人たちは、お金がなくて高齢だからもういいわと。

それと怖いのは、ああいう建物を見せられると、すごいよく　　のはもういいよという人が多いです。本当多いです。そういう話が専門家から出てこないのがいつも本当不思議なんですよね。そういう形がね。多分どこかから出てくると思いますけれどもね。そういう意味で、それが出てくれば避難とかそういうのが変わってきますので、また新しい形での方法ですね。

それで、さっき屋根の軽量化についてお聞きをしました。二つ目の問いの中で入れていますね。２の（1）この地震で亡くなった人の年齢層について、60代以上が全体の73％と最も多い。即死ですよね。私たち建築士会の連中は、詳しく阪神・淡路大震災で亡くなった二、三百人の人を全部裸で並べて、写真を撮って長いスクリーンやって、そして、とにかく気持ち悪い人は後ろ向いていてくれと。それで、その中で実際に見るわけですね。そうすると、はりが体に当たって、そして血が返ってこないところは真っ黒です。心臓から上、血が行きますので、こっちが真っ白ですね。100人中100人がそうなんですね。そういう状況を見ますと、年でもうやれないからとか、そういうことでなくて、やっぱり町長さっきおっしゃいましたけれども、屋根が軽くなったことによって、私はかなり多くの人が助かると思うんですね。逃げる時間が稼げると思うんですね。

私らの同僚で、うちの近くの同じ設計屋の話でも、屋根を軽くしただけで２割は耐震の力出るだろうと。私はまだもっと出るだろうと思っているのは、屋根を変えますと、皆さん多分、構造用合板ってありますよね。あれを屋根一面に張るわけですよ。そうすると、専門家的に言うと水平剛性。こうならないやつができて、そして建物の壁、ちょっとした壁だけで壊れなくなるんですね。そうすると、耐震の方向というのは屋根を軽くすることが第一です。

数字でいきますと、屋根を軽くして、友達の屋根、入れ替えました。瓦の屋根で約20トンから30トン。屋根の重さですよ。屋根だけの重さです、瓦だけ。それで、ガルバ鋼板、ガルバリウム鋼板使うと、約１トンなんですね。それだけの効果がありますので、ぜひ屋根を軽くするような、調べるとほとんどの周りがみんなやってくれていますので、その辺をちょっと町長にお願いしたいのは、考えることができれば、やっぱり後世に残るような形になると思うんですけれども、どうなんですかね。屋根を軽くする補助金を出してもらえれば。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

この屋根の耐震、やっぱりほかの市町にも確認をさせていただいていますが、今、実際この近隣でいうと藤枝市さん、あと牧之原市さんと、焼津、島田さんはやっていないという状況と、その状況の中で、藤枝市さんも牧之原市さんも、いまのところ年間数件、二、三件から多いときで５件ぐらいというような話を聞いています。

その中で、今吉田町がやっぱり取り組むべきことというのは旧耐震の、旧耐震だと震度５に耐え得る。なもので、６、７はもうとても耐えられないお宅に対しての補助金をまずはやるべきじゃないかということの中で、「ＴＯＵＫＡＩ－０」を進めていく中で、今、実際令和７年度までは総仕上げということの中でそちらを強力に取り組んでいる状況ですので、今のところ、ちょっと屋根というのは今考えていないという状況です。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　このパンフレットが国交省が出している屋根の補助の基準ですね。そして、ここにある磐田市はすごい大きな形でやっています。

要するに言いたいことは、それをやることによって、もう年でできないよとか、お金がなくてできないよという人は、３割上がれば、耐震化の数字が0.3から0.6になれば、５ではなくて、６から6.5、７いっちゃうとまずいかもしれないけれども、そのくらいの人ができると思うんですね。

吉田町でも夏に震度５強あったじゃないですか。あのときも１軒も潰れたうちがないと。そういう形を考えると、屋根を軽くしただけで、これがどうしても一つの、１本のまず前提なんですけれども、そうすれば圧迫死で亡くなる人なくなると思うんですね。

特に、先ほど言った状況を見ていったときに、身内には絶対になってほしくない。私は考えるときに、血管ですから、これだけ上がると、３ミリ上がると血液流れますからね。だから、私は私なりに軽四の車のジャッキをちょっと集めています。多少上げることができますからね。そういう方法を、やっぱり何らかの方法でちゃんと啓発をして、そしてやってくれれば、もっともっと地震に対しても怖くはないということになると思います。

東日本大震災で福島に行きましたけれども、実際に何でこのうちが建っているんだろうというううちがありました。屋根、カラーベストだったですね。条件ありますけれどもね。そういう意味で、ぜひ周りにこの補助金の屋根の分をお願いしたいんですね。ぜひ、できましたらお願いをしたいと思います。それによって評価そのものが、吉田町の評価って私は上がると思っています。

それで、特に耐震をやっていくときに、壊れたうち、あれを見ていきますと、耐震の補強をするときには、重たい屋根のうち。非常に重たい屋根、瓦の土が載っているうち。土が重たい屋根。瓦、こうかけてあるうち。そのうちがもう一つは軽い屋根。３段階に分かれているんですけれども、３段階に分かれると、筋交いの本数、耐震壁の本数も約３分の１くらい要るんじゃないかと思うんですよね。そこまで、３分の２ぐらいかな。そういう形がありますので、くどいようですけれどもお願いをしたいと思いますので、またぜひその辺も、ちょっと何か希望の答えがありましたら、どうでしょう。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

申し訳ありません、今現時点で言えるのは、今のところはちょっと計画はないということで御理解いただければと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　町の人たちがあの映像を見て諦めることではなくて、希望を持つことも大事だと思いますので、それだけはお願いいたします。

そういった、さきのテレビで見た状況はやっぱりそういう、ありますので、少なくとも吉田町のパンフレットに関しては、それをやっていただければ恐らく耐震化率上がると思います。地震は大丈夫なんだ、やれば、という意識をとにかく持っていただくことが大事。それができればと思っています。

あと、避難所の運営について、先ほど町長の答弁いただきましたけれども、避難所の運営については、ここにイタリアの例などもらっていて、この人の名前、先生の名前を出していいかということになったら、情報いただいた設計屋の人が、もうインターネットに出ているから出していいだろうと。出しますね。これ、新潟大学のお医者さんです。榛沢和彦さんという方。恐らく、先ほどのいろいろ避難所のオーケーを出した人とは全く違う返事をもらえると思いますね。

理由は、日本と同じようにイタリアは火山と地震といろんな災害が多いところです。それがこういう形で写真には、見ると分かるんですけれども、大型のテント、人が立って眠れる

テントを並べるわけですね。今、日本でもようやく仮設の住宅始まったでしょう、２か月たって。それで、トレーラーハウスができたやつがありましたよね。あれだって、用意しておけばすぐできるわけですけれども、テントであればすぐできるわけですね。

それが恐らく、さっき雑魚寝と言いましたけれども、この先生の表現は、あそこでの状況で体調を悪くして亡くなる人が多いということで出てきたわけですね。また、こういう例もありますので、そういうのを参考にというか、それを取り入れるような町の方向性というのを、そういうようなのが見つかりませんかね。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

避難所において間仕切りというんですか、そういったテントですね。環境整備というところで、当町におきましてもキャンプで使えるようなテントの、もう少し大きくてしっかりしたものでございますが、それもある程度の数字は整えてございます。

ただ、やはり技術というのは日々進んでおりまして、今議員がおっしゃられたこともその一つだと思いますが、そういった避難所に関するそういう資機材というのか、そういうのもいいものがどんどん出ているという状況にありますんで、それは状況を見ながら、必要であれば整備していきたいというふうに考えます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　現在ようやく前へ進んできたやつが、段ボールベッドと、段ボールで囲う、１軒ずつを屋根をつけて囲っちゃうと。それとか、新聞にも出ていましたけれども、避難所のボランティアの人たちは、体育館に大型テントを並べて、その中で寝袋で寝てもらうと。そうすると、プライバシーも全てできるんですね。

私もプライバシーに関していろいろ聞いたりやったんですけれども、例えば我々は、私ももう年取っていますから、男としては男女に区別することはないんですけれども、若い人たち、20代から40代の人たち、特に女性とか、それとかそういう多感な人たち、恐らく大きな避難所の中で、ベッドで避難所で寝ている人たち、あまり映像で見ないんですね。ほとんど年寄りですよね。それはやっぱりその人たちが、今これからやりますけれども、エコノミークラス症候群になって亡くなる人が多いんです。今回の地震でも、この中にありましたけれども、15人かな。そのくらいがいるんですね。

特に避難所で怖いのは、多分皆さん知っていると思いますけれども、年寄りの人が、トイレを使えなくなったと、すると水を控える。水を控えて血液が濃くなったことによって、恐らく血栓ができて、それが塞ぐと。そうやって亡くなる人もやっぱり災害関連死として多くなっていますので、その辺は町のほうでもちょっと考えていただきたいというのが、今言った、そういうものに関しての、そこでせっかく助かって亡くなる人を減らす、そういうのを考えてほしいと思うんですよね。どうでしょうかね。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

避難所運営につきましては、現在ある避難所運営マニュアルにおきましても、今おっしゃられました高齢者や妊婦等、要配慮者、こういった方は、スペースを分けるだとか、そういうプライバシーを保護するだとか、そういったのは今取り込んでいますが、やはりまだ課題

も多いと思います。

今回、能登のほうでもトイレというのは大きな問題になりまして、町としてもトイレ問題は大きな課題の一つと捉えていますので、改めて今回の能登地震等を教訓に検証はしていきたいと思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　私の目の前に自彊小学校ありますよね。自彊小学校の体育館、あの体育館はＲＣで上までやってあります。絶対潰れませんね、私の見る限りでは、経験の中では。あとはコミュニティセンター、あそこも強いですね。

その中で、大きな広場のところにありますけれども、年寄りの人とか障害のある方が一緒になるのは無理なものですから、例えばテントが準備ができるまで、仮設ができるまで、放課後児童クラブのああいう狭いところで、個室の中で生活をしてもらうとか、10日、20日間ね。そういうことも考えられると思うんですけれども、そういう、その辺のイメージとしては思い浮かぶと思うんですけれども、どうですか。

本当に年寄りの方とか障害を持っている人とか、特に弱者ですね。その人たちがそういう部屋を分けて生活を、避難をする。そういうのもまた一つの臨機応変の大事なことだと思うんですけれども、その辺のをいただければ、それに対して意識を持っていただければと思いますけれどもね。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

先ほどの一般質問通告の答弁のほうでもさせていただいてはおりますが、福祉避難所というところにも関わるかと思います。通常のというか、一般の避難所、また福祉避難所、こういうのも総合的にもう一回検証して、足りないとか、もう少し必要とあれば、それは拡大していく必要があると思いますので、それは検証させていただきたいと、そのように思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　あと、今回テレビをずっと見ていて見つけちゃったのは、避難所の横に合併浄化槽の大きなやつ、グラスファイバー製の、普通の大きなやつが置いてあったですね。あの合併式浄化槽って、恐らく10日でできると思いますよね。住宅のやつは３日でできると言いましたけれどもね。そうすると、今避難所の中でも、自彊小学校とか区域以外は幸いにしていいんですね。ところが、住小とか中央小であるとか、ここは恐らく駄目になりますね。水が止まりますからね。それと管が、そういうものできますので。そうすると、そのときにお願いしたいのは、そういう合併浄化槽をいつでも用意される企業と、何となくお願い、提携をしておいてやっていただいて、常にお願いできるような、造られるような状況をできたらと思うんですよね。

恐らくこのやつに関しては国交省での話ですから、かなり考えていると思います。そうすれば、水に関しては、トイレに関しては一つの目安ができるんじゃないかと思うんですよね。そういう部分は考えられるんですけれども、そういうのもまた利用できると思うんですけれども、どうですかね。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

今議員がおっしゃられました、既存の浄化槽を使うというのもひとつあるかと思いますが、新たに災害が起きたときに、そこに新たに合併浄化槽を設けるというのは、その物自体があるかどうかというのもございますし、工事も工期的にはそんなにかからないのかもしれないんですが、手配等の問題もありまして、いろいろ課題はあろうかと思いますが、それも今後考察していく中で手段の一つとして考えていく必要はあろうかなと思いますので、その辺は総合的に判断、検証のほうをさせていただきたいと思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巖君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今言われました、一つの目安としてそういう方向性を考えていっていただければ、非常に安心のできる町が準備できるんじゃないかと思います。

あと、先ほど言いましたエコノミークラス症候群、この怖さを資料で見つけたんですけれども、これに関しては、例えば中越地震、平成16年10月23日に亡くなった人、ここでエコノミークラス症候群という言葉が初めて出ましたね。初めてか、公にね。車の中で亡くなった人がいたと。血栓を持って亡くなった人と。

それで、熊本地震はその２年後、平成18年４月14日と16日、震度７があったときには、このところではすごかったですね。多分皆さん映像で見ていると思いますけれども、ある娯楽施設の駐車場にずっとずらっと並んだのね。今日、今持っていないかもしれないけれども、そういう状況があって、その中で208人の人が亡くなったという報道があったという資料を見つけたですね。せっかく助かっても、そういう形で死が追っかけてくると、そういうものがありますので、その辺もエコノミークラス症候群を起こさないためにも何がいいかというのは考えてほしいです。

要するに若い人たち、恐らくもう年老いた人たちって車でなかなか出ませんから、プライバシーとか、避難所での、先ほど言ったあの言葉は、榛沢先生が言っているだけの話であって、私はそうだと思いますけれども、そういうものが一つの解消ができると。エコノミークラス症候群で亡くなる人がないように、そういう世界をつくるには何をしたらいいかというやつを実際考えていただきたいですね。さっきの危機管理監の課長が言われた、あらゆるものを準備しておくこと、それをぜひやっていただきたいと思います。

その上で、今言った耐震の話をしていきたいですね。その辺、そういう意味では、耐震のイメージを変えながら、全員とは言わないけれども、できるだけ多くの人が助かる状況を町でつくっていただきたいです。そういうことに関しても、どこまで準備ができるか分からないんですけれども、その辺のまた意見、何かあればちょっとお願いをしたいんですけれども、そういう準備がこれから進めていくことがあると思うんですけれども、その辺の思いというのはどう感じていただけますか。

**○議長（大石　巖君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

町長の答弁でもございましたとおり、町としましては「ＴＯＵＫＡＩ－０」、県のほうの支援がどうなるかというのはありますが、町として、やはり安全・安心な町づくりを進める中で、私も含めて、そういった施策については進めていきたいというふうに考えています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　いろいろお願いをすることが多いと思いますけれども、今自分なりに考えて、そして自分のほうで、設計屋としてはこれがいいだろうと思う部分は幾つかあるんですよね。

その中で、本当に重ねてお願いしますけれども、屋根を軽くすることを考えていただきたい。とにかく構造用合板で屋根を斜めにならないように造れば、ほとんどのうちはもつと思います。それだけは確実にもつと思います。ただし、残念ながらその数値は我々の使っている県のソフトには反映はされていませんけれども、間違いなくなります。どういう計算してもなっていくでしょう。

そういう意味で、今日いろいろ言わせていただきました。先ほど大石議員の言われたペットのあれ、気がつかなかったけれども、やっぱりそうですね。本当そのとおりだと思いますよね。我々行きたくてもなかなか行けないし、それとよく言われるのは、僕らが聞いていたのは、ペットは運動場の隅にあれしなさいと、そういうのがいろいろ言われたのが、今度は大型テントやればそこで同時に生活ができると。そういう、だんだん状況が変わってきていますので、ぜひその辺も、耐震に向かってちょっと私も頑張りますけれども、その辺でぜひ皆さんの、町の協力と後押しがあればかなり地震に対しては怖さはなくなってくる、怖くないという、持てると思います。

ぜひ今言った幾つかをお願いしながら、私の質問として終わらせていただきます。

**○議長（大石　巌君）**　以上で、８番、山内　均君の一般質問が終わりました。

---

**◎散会の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　以上で本日の日程は全て終了いたしました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。御苦労さまでした。

散会　午後　３時４０分

開議　午前　９時００分

**◎開議の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　改めまして、おはようございます。

本日は、定例会15日目でございます。

本日は、２番、増田伸介君、５番、福世義己君から欠席の届出が出されております。

ただいまの出席議員数は11名であります。

これから本日の会議を開きます。

---

**◎議事日程の報告**

**○議長（大石　巌君）**　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

それでは、議事に入ります。

---

**◎議案第１５号の質疑**

**○議長（大石　巌君）**　日程第１、第15号議案　令和６年度吉田町一般会計予算についてを議題とします。

これから、第15号議案についての質疑を行います。

質疑は、最初に歳入の１款から11款まで及び21款についての質疑を行います。

引き続き、歳出は、款別に区切って質疑を行いたいと思いますが、説明員を入れ替えながら進めますので、出席する説明員により順番が前後する場合がありますので、御了承願います。

質疑につきましては、数値や説明を受けた内容などについて、確認の質問とならないようお願いをいたします。

また、簡潔明瞭に、審議する議題に関すること以外の質疑にまで至らないよう御協力をお願いいたします。

それでは、質疑に入ります。

初めに、歳入の１款から11款及び21款についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

よろしいですか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前　９時０１分

再開　午前　９時０４分

**○議長（大石　巌君）**　休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

出席議員は11名であります。

次に、歳出に入ります。

歳出の１款議会費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、２款総務費、１項総務管理費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

説明書の、まず57ページで、シティプロモーション事業の中の小山城前アンテナショップ運営業務委託料ということで、毎年のようにここ数年、出てございます。

これは、たしか地域協力隊の方が独立というかしてやっていただいているものだと思うんですが、このアンテナショップを運営することによってどのような効果がこれまでできているのかなというのが非常に疑問に思っております。毎年のように予算づけしてやっているんですが、その点についてどういった運営、町としてどういったアドバイスをしたりとか、そういうったことをすることによって町にとってこの業務が遂行されているのかなというところを答弁願います。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

このアンテナショップでございますが、今、議員おっしゃるとおりもともとは地域おこし協力隊の方が地域おこし協力隊を辞めて、今、アンテナショップを開いているという中で、このアンテナショップを開くことでにぎわいというところ、小山城のところのにぎわいというところに協力していただいているというところでございます。

それと、あとアンテナショップの中にそれぞれ個別で個人事業主というか、品物を置いて、それもその中で販売も管理していただいて、それのにぎわいの創出もやっているという中で、このアンテナショップの中につきましては、この後、予算にもありますとおり地域イノベーションとか、ああいう補助金も使いまして、ああいうところでイベントを興したりだとか、そういうことにも寄与していただいて、そういうにぎわいの創出に向けても一緒に町づくりを行っていただいているという中で、通常は今はコーヒーショップをやりながら、土日、平日問わず来た来客の方をおもてなししているというところで、その地域のにぎわいの創出というところで貢献していただいているというふうに、という事業でございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　一般的に、アンテナショップというと地元の産物とかをその場で販売したり、紹介したりというのがアンテナショップかなと思うんです。そちらに誘導するよう

な。しらすのまどぐち辺りは、しらすに関してはそういうことをやっていただいています。このアンテナショップ自体が、そこまでやっているのかなというのが非常に。

今、課長が言われたように、そのイベント云々。じゃ、どれだけのことをやっているのかなという、非常に見えないところがあるんですが、彼自身はコーヒーショップのようなことをやっているんだけれども、それがじゃ本店がどこかにあって、それを人が集まるようなところだからここでやって、広めていますよという意味合いがあるのかないのか。アンテナショップというその位置づけですよね、そこが何か曖昧かなと思うんですが、いかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

このアンテナショップ、運営するという選定するに当たっては、今のやってくださっている方ありきの話ではなくて、公募して、何かそこでそういう町づくりに貢献できる方、あとは先ほど言ったお店を持たない方の商品を管理する、そういうのも含めてそこの運営に携わっていただけませんかということで公募をした中で、今、選ばれて今の方が実施しているというところでございます。

今、実際にそういうことで公募をした中で今のような形態になっているわけですが、確かにやはりそういうものを使って年何回かイベントを開いて、夜市とか商工会ともコラボしながらやっておりますので、にぎわいの貢献という面に関してはかなり貢献していただいているのかなというふうに思う。これが、行く行くイベント、もっと大きなイベントになって、そこにもう少し集客力が来ればいいんですけれども、そういうことにこれから発展できればというううちのほうの願望はございますけれども、それなりのにぎわいの創出には寄与していただいているというふうに感じております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　申し訳ないんだけれども、答弁が違うのかなと思います。

だから、その位置づけですよ。アンテナショップというもの自体が、今やっていることと違うんじゃないかというのがあって質疑しているわけですが、ただその運営されている方が云々じゃなくて、町の考えが、にぎわいは分かるんだけれども、機能しているのという話なんです。実際アンテナショップとして。

町として、いろんなことをアンテナショップに提案なり何なりして、それを、運営業務でしょう、店番じゃないよね。そこのところが何か曖昧なところがあるのかなと思っているんです。彼は別に店番やっているわけじゃないし、そういう中で町としてもっとこういう、せっかくアンテナショップとして使うんだったら、他の業者にも声をかけて、町のほうから、ここでこういうのを出品しませんかとかという、そういうことをしながらあそこを広げていく。何かのイベントがあれば、そこでもっと大きくやりましょうとか、そういったことをさせるのかなと思っていたんだけれども、その点についていかがですか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

このアンテナショップのもともとの運営、もともとの趣旨というか、そのアンテナショップに関しましては、商品のＰＲ等を行うに当たって店舗を持てない方があそこに入ってＰＲ

を、商品をＰＲしながら、行く行くそこでやっていただいたものについて、アンテナショップを開いている方については、行く行くそこを土台にして独立してお店をどこかに持っていただいてやっていただく、その一つの足がかりとしてそのアンテナショップを今、活用しながらＰＲも含めてやっているというところでございますので、そのアンテナショップを持っている趣旨というのは、そういう趣旨の下アンテナショップを開いているものですから、その方面についてはアンテナショップ自体の意義というのはあるかというふうに考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　趣旨は分かったんだけれども、じゃ町としてどれだけの広報をしているのかというところも、じゃそういった広報も兼ねて運営業務ということにしているのか、その辺はいかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

そのアンテナショップ、個々の商品を置いて、それは個々でＰＲしていただいてそこでやると。今のその、今コーヒーをやっている方については、そこを今、うちのほうはそこのところ、にぎわいを管理しながらそこのアンテナショップを管理していただくというような位置づけで今、あそこのところにコーヒー、コンテナ、トレーラーハウスを使って自分で営業をしていただいていると。

アンテナショップ自体は、あそこに今５件、６件ぐらいお店が個々で置いてあるんですけれども、その方たちがそこから自分の商品を発信しながら、今後独立する足がかりをつくっていただくというのがアンテナショップの目的ですので、そういう面ではアンテナショップとしての意義はあるということで御説明させていただきました。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　58ページを見てください。地域イノベーション推進事業負担金です。

全協のときにいろいろ聞きました。そして回答いただきました。34万6,000円が毎年毎年計上されていると。それで、そのときの返事としては、毎年同じことをやっているわけじゃなくて、毎回毎回いろんなイベントに参加するとかやっていますよと。

ただ、これイノベーションなんです、イノベーション。イノベーションというイメージとは程遠くて、あの回答を聞いたときにイベント行事だなと思っていたんです。川根本町とイベント競争。じゃないんですよね、本来はイノベーション、改革、改新です。

要するに、言いたいことは、この中で皆さん御存じだと思いますけれども、川根本町ではインドの方がＩＴ企業を立ち上げてやっているじゃないですか。そのときに、吉田町がせっかくそのイノベーションのイメージの中で、その方たちがあそこでやっているものに対して、本来はそういうものに関してやってほしいんです。そういう計画、イノベーション、イノベーションというものの中ではそういうような発想というのはなかったんですか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

今、議員おっしゃるそのイノベーションという意味でございますけれども、今、議員がおっしゃるとおりイノベーションという意味では、大きく言えば社会的変革をもたらしてとか、そういう大きなことであるとは思いますけれども、ここで今、行っていますイノベーション事業というものにつきましては、もともとのその目的が、川根本町と吉田町の間で、お互い持っている地域の特産品であるとか地域のそういう資源、地域資源を使ってコラボしながら新しい価値を生み出していきたいというところで始まった事業でございますので、そういう意味でイノベーションという言葉を使わせていただいて、今この事業を行っているわけですけれども、もともとのその事業の趣旨というかその目的自体が、地域の特産品なり地域資源を使った中でコラボをしながら新しい商品を生み出していこうというところで始まったものでございますので、今やっているふるさと納税の返礼品であるとか、地域の交流であるとか、そういうものを含めてお互いの地域を山と海で活性化していこうというのがそもそもこの事業の趣旨ということで御理解いただければと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　山内です。

言おうとしていることは分かるんです。分かるですけれども、さっき言ったイノベーションというのは革新であり刷新であり、今までと変えることですよね。

それで、今の返事もそういう話で聞きますけれども、本当はやってほしいのは、吉田町に富士フイルムあるでしょう、ソニーあるでしょう、岡本技研あるでしょう。昔の、何というんですか、ガラスのあるじゃないですか。

要するに、要するにイノベーションを起こすためには、この町でイノベーションを起こすためには、そういう世界の有名な大企業、最先端技術を持っている企業が四つも五つもある自治体というのはないんです、探しても。特に町の中では、町を構成する中では。

その中でやってほしいのが、そういうところの、川根本町もいいけれども、そういうやっぱりこういう地元を見てもらうとそういうものがあって、そういうところにまたこのイノベーションの意義、それを見つけてもらえば、それがすごいこの町のいわゆる価値観であるとか、そういうのになるんです。

先ほど課長が言われたイベントをやる、にぎわいをつくる価値観、それと今言った全体の吉田町のための価値観、その辺もぜひそういう感覚、感じとしてそういうものを取り上げていただいて、そして世界の最先端技術というのを持っている大企業とそういう何かのつながりができれば、吉田町は瞬間的に日本に羽ばたける町になるんじゃないかと思うんです。

今、台湾から半導体の企業がすごいですよね、九州で。ああいうものができるのが私の中ではイノベーションと思っているんです。そのイノベーションは、今言ったここにこれだけ優秀な企業があるから、それはできると思うんです。それぞれの皆さんの、我々もそうだけれども、能力、跳ね上がるじゃないですか。ぜひその辺を、私はそう思っていますので、その辺を考慮したようなものをまたこのイノベーション事業の中でやっていただければ、大きな幅ができると思うんですけれども、その辺ちょっとどんな感じかお聞かせ願います。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

このイノベーション事業というのは、先ほど御説明させていただきましたこの事業に関し

ては、さっき今言った川根本町とのそういうもともとの趣旨があって、こういうものを立ち上げて今こういう事業を行っているということで御理解いただければと思います。

ただ、今、議員おっしゃる新しい、そういう最先端の企業とのコラボについては、その企業が吉田町に訪問して、そこで意見交換をしたりだとか、そういうことは常に行っております。そういう中で、一緒に何かコラボできて、何かそういうふうな最新的なものができるということであれば、それはそれで事業として、新たな事業として成り立つということも今後あるかもしれません。

そういう中、あとは新産業とかそういう企業の誘致であるとか、そういうものについてもそういう、またほかのところの事業の中で改めてそういうものは考えていきたいというふうに思いますので、決してそれをやらずに、これをそのイノベーションとして位置づけているというわけではなくて、このイノベーションというこの事業に関してはそういう趣旨でやっているということで御理解いただければというふうに思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　大体イメージとしては分かりますけれども、私が言いたいのは、せっかくこれだけの価値観を持った会社がいっぱいあると。その中に我々が同居しているというこういう条件というのはないですよ。そのときに、コラボではなくて、やっぱり慣例の中で教えてもらうんですよね。要は技術の、先端技術を。そういうことをやってくれると、このイノベーションの金額の価値観であるとか、金額ももっと大きなもので、大きな目標に向かってやることができると思うんです。

ぜひ、希望としてなるんですけれども、その辺の感覚、イノベーションを起こすのであるということであるならば、ＩＴ、インドのＩＴ企業に負けないような、そういうものをやっぱりやってほしいんです。ぜひそれはお願いですけれども、今までのイベントのあれからちょっと外れた感じで、そういう前向きな返事というのはいただけると思うんですが、どうですか。

**○議長（大石　巌君）**　理事、谷澤智秀君。

**○理事（谷澤智秀君）**　谷澤です。

今、議員から大きなお話の、町政全体のというか、そうしたお話をいただいています。

今回のこの２款の１項のところにつきましては、これは地域イノベーションということで、先ほど課長が申し上げましたとおり、川根本町と吉田町の特産品ということで、そこのレベルといいますかそこのものになりますので、名称につきましても、こうした補助事業ですので、これは致し方ないかなというふうに思っております。

その中で、町全体として今後、企業誘致含めて、新産業創出含めて、これはちょっと大きな話になりますので、またこの辺につきましてはいろいろな企業さんとも話、協議等もいろいろお話を聞きながら、そうした企業誘致含めた中で考えていきたいというふうに思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑は。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

同じページなんですが、その今の下のところに定住促進事業費補助金と移住支援金がござ

います。

令和４年の決算あたりだと、半額ぐらいしか使っていない。当時は若年者住宅取得応援補助金というものがあって、これをやめたわけですよね。令和５年が決算まだ出ていないので、どれくらい使っているか分からないんだけれども、同額で来ているということは、それなりの見込みがあってこの同額できているのか。令和４年はたまたまもう１個あったから低かった、利用、支給が少なかったのかというところであるんですが、町としても移住は非常に力入れているところであって、この金額が同額で来ているというところに何かあるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

今、移住定住の補助金でございますけれども、ちょっと予算的に例年と同じだというところでございますが、やはり実績がまだ伸びていないというところはございます。

ただ、これからもそれこそ、移住定住に向けてはうちのほうもかなり力を入れていかなければいけないというところで事業展開をしているわけでございますけれども、この移住支援につきましてもプロモーション活動であるとか、移住フェアであるとか、そういうところに行って、相談件数はかなり例年に比べますと伸びてはきてはいるんですけれども、ただそれがまだ実績に結びついていかないという中で、なかなかやはり実績からすると例年のとおりになっているのが今の現状でございます。

それを打破するために、令和６年度の予算に関しましても、そういう移住定住に向けたそういうフェアとかで流せる動画であるとか、そういうものも作成してＰＲしていきたいというふうには考えてございますけれども、予算につきましては今、実績を踏まえての予算措置だということでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　実績を踏まえたらもっと安くしていい、安くというかしていいんじゃないですか。実績はまだ例年並みということは、令和４年度の決算から行くと半分くらいで足りちゃうわけです。そう思うと、もうちょっと減額したものでも行けるんじゃないかと思うんですけれども、いかがですか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

すみません、ちょっと説明が足らずで申し訳なかったんですけれども、今、実績を基本にということでございますけれども、例年どおりその実績を踏まえた上で、そこまで何とか伸ばしていきたいという中で予算措置をさせていただいているというものでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑は。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　７番、平野です。

多文化共生推進事業、53ページです。

お話では、その初期日本語教室を国際交流協会と連携してやろうということなんですけれども、この経費、そのための経費というのはこの報償金104万2,000円ということでよろしい

でしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この多文化共生の中の新しい日本語教室ということでございますけれども、これはこの予算につきましては報償金だけではなくて、それをやるための県とのやり取りの旅費であるとか、あとは特定消耗であるとか、その特定消耗の中にもその事業の経費は入ってございます。あとは、会場使用料であるとか、教室を開くための使用料であるとか、そういうところにもこの日本語教室の費用、経費というのは含まれております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今のはふりでして、その初期日本語教室はどういう方に対してどのように進めようというふうにお考えなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この初期の日本語教室ということでございますけれども、今、国際交流のほうでも日本語教室というものを国際交流協会のほうでもやっておりますけれども、その国際交流協会でやっている今、日本語教室というのは、ある程度日本に滞在している方、会員の方である程度日本語もしゃべれる、だけどもこれからも自分のスキルを上げていきたいという方が主に今、日本語教室をやっているというところでございます。

ただ、今後やはり町としても外国人の方が増えていく中では、もうそのやはり言葉の壁というものがやはりかなり大きいということで、全く日本語が分からない、これから日本語を覚えていかなければいけない方というものを対象に、日本語教室を今回開いていくというところでございます。

それに当たりましては、この報償費の中でもありますとおり、まずコーディネーターの方にどういうふうな日本語教室を開いていくのがいいかというところをコーディネーターと相談をしまして、そのスキームをつくっていきます。

その中で、今度指導者であるとか、そういう人もお願いをして雇いまして、その方に、資格のある方に日本語をやっていただく。その中では指導者もおりますし、それをサポートしてもらうボランティアの方も必要になります。あとは、そういう方も含め、あとは日本語がまだ分からない方なので、要はそういう通訳というか母国語を、日本語と母国語の間でこの間に入ってもらうような、そういう方も今後指導員として雇っていかなければいけないという、そういう中で、全く分からない方が１年かけて日本語を覚えていただくという目的の下、今回は開催するというところでございます。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　そういうことで進めていくということなんですけれども、教室は開いたけれども、要はあまり身につかず１年たってしまったというようなことになると困るわけで、要はそういう方はどういう段階で卒業なのか、もう１年なら１年で卒業させちゃうのか、その辺の何か方針はありますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この日本語教室を進めるに当たりましては、まず最初に日本語の語学能力の判定、どのぐらい今、日本語がしゃべれるかという判定テストを行って、その今の日本語のレベルといいますか、それを把握した中でその後の教室の中にどういう指導をしていくか、この方にはどういう指導をしていくかというところについてある程度プログラムを立てて教室を開いていきます。最後に、その方がどのくらい日本語をマスターしたかという、またそこでも判定をしまして、どのくらい日本語を取得できたかというところも判定しながら見ていきます。

ただ、その例えば応募の方がすごく多くて、そういう方以外にもまだもう少し本当に日本語の初期の方というのが多ければ、やはりその方は今後、実践の中で日本語をそこを基礎として覚えていただくということもございますし、もしそこでまだ、ただ初期なので、ある程度しゃべれる方は今度、逆に国際交流協会みたいなところに入っていただいて、そういうとこでまたスキルを上げていくということも考えられますし、一応その判定の中で語学能力というものがどの程度身につくかというところについては確認をしながら進めていきたいというふうに思っています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今のお話聞いていると、割とマンツーマン的にやるという、イメージとしては教室でやるのかなと思っていたけれども、個々にレベルに合わせてやっていくということは、割とマンツーマンでやっていくということなんですか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

マンツーマンではないです。教室に集めた中でやるんですけれども、日本語を教える方がいて、その通訳、通訳というか母国語でその方に日本語を、今どういうことを言っているというのを間に入ってくれるサポーターをつけながらやっていきますので、マンツーマンではないですが、そういう判定の中ではそういうどこまで伸びたかというのは分かるような形にはなります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　62ページを見てください。９目の５の事業です、交通安全施設整備。

これは、最初の説明の中では通学路という説明を受けています。通学路ですね。この通学路には、恐らく中学生、中学校には通学路という指定されたものはないと思うんですけれども、多分この通学路は小学校の通学路ということで多分判断しますけれども、誰が答えてくれるのかな。実は、中学生の通学路の中に、我々が車で走っていると、皆同じ考えを持って、体験したことがあると思うんですけれども、例えば神戸のトンネルからずっと行って旧道ありますよね、ずっと曲がって。あそこがすごい交通量非常に多いです。初倉から来るところに。

ところが、あそこはよく皆さん御存じのとおり車が突っ込みますね、よく。あの通りに中学生が毎朝、それと夕方、一番車の多いときに本当に危険なところを通っているんです。逆に言うともう、何というんですか、湯日谷川の土手を通りなさいとか、そういう状況を何かつけてやって、通学路としてしっかりとした方向性、位置づけ、それをやっていかないと、

どこかで必ず事故起きていると思うんですけれども、その危険性が非常に強過ぎちゃって、これここで言っていいのかな、教育委員会のほうがよかったかもしれないですけれども、その辺の感覚をちょっと、誰かが確認をしていますか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

まず、小学校につきましては、先ほども議員がおっしゃったとおり通学路を指定する中で、学校側のほう、あと保護者さん等もいらっしゃいますけれども、そういう中で通学路等を決めるといいますか、コースが決まっている中で通学をしていただいているという状況でございます。

中学校につきましては、おのおのといいますか、各学校のほうに向かっていくという形になりまして、そこのところに危険箇所等ある場合でありましたら、また町のほうでも何らかの対策はしていかなければならないというところがあれば対応をしていくことになりますので、また学校さんとお話合いする中で決めていくといいますか、対策のほうをしていくというような形になっていくものだと思っています。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　もう一つ、北区に行くと一つ心配するのは距離、吉中までの距離と、多分皆さん知っていると思いますけれども、一番吉田町の北、飛び出ているところに関しては中学校、相手の中学校、初倉中学校が見えているんです。それと同時に、夜、夜になるのが真冬の早いときには子供たちが通るときには暗い時間で通る、暗い、朝中学生が。そういうものが危険があり過ぎちゃって、あるものですから、この施設整備の1,662万ではとてもじゃないけれども、そういうものを一時的にはやっていただきたいと思うんです。そういうこの金額の中でのできるものというのは、どこまでできるんですか。

それと、もう一つは今言ったその危険な箇所を指定をして、それを何らかのシステムをつくるとか、方法をつくるとか、そういうことはできるんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

今回この交通安全施設の整備費ということで上げさせていただいている内容につきましては、区画線の整備、あと転落防止柵の設置、こういうものを上げさせていただいています。

先ほど、夜間暗いとかいうようなことのお話とかになりますと、地域の方と御相談させていただいてという形になりますけれども、防犯灯を設置するとか、そういうようなものの対策になりますけれども、ちょっとそれとはまたここのところが違ってくるものです。

ここの金額では乗せてはいないんですけれども、ほかの場所ですと歩道の整備とか、そういうものは道路の工事費という中で交通安全の対策ということはさせていただいている状況でございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今言われた区画の部分であるとか、それは既によくその中でも分かるんですけれども、前に調査に、産業建設常任委員会の調査に行ったときに、グリーンのベルトあるじゃないですか、グリーンのベルトはどうやら半分、60センチじゃなくて30センチでもう十分に機能を果たすと、そういう実際にやっているところに意見いただきました。

だから、そういう意味で持っていくと、同じ金額でもやれる範囲というのは増えてきますので、ぜひその辺も金額をうまく利用して、そうしてやっていただければと思います。ぜひその辺も、希望となりますけれども、ぜひこの安全を守るため、子供の、少ない子供を守るためにはやるべきことたくさんありますので、その辺でしっかりとした施策をお願いしたいと思っております。

何か、これからの方向とかあれば聞きたいと思いますけれども。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

議員のおっしゃるところのとおりでございますけれども、またそういう対策の中で、よりよいといいますか効果的なものがありましたら、そちらのほうを取り入れていくような形を取らせていただきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　平野です。

生活交通確保対策費、55ページです。

この事業の財源内訳を見ますと、国庫補助金の地域公共交通確保維持改善事業費補助金4,017万7,000円があります。これは、新しい交通実証運行業務に充てられるものなのでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

地域公共交通安全確保改善対策補助金というところで4,071万7,000円、国庫補助でというところでございますけれども、これにつきましては今度の実証実験のところで、去年もうちのほうで説明させていただいた共創モデルというところで、実証実験に関してある三つのモデルをつくって、その中でやっていくというところで国庫補助を頂いておるんですけれども、その補助金をこの中で頂いて進めていくというものでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　この実証実験でその国庫補助金が出ているということなんですが、これは本格稼働したときも国庫補助金というのは出続けるんでしょうか。

というのは、要するに５年度に比べて、その他というのもあるんですけれども、一般財源からの出が５年は2,488万4,000円だったのが６年度は521万4,000円と減っているわけです。要するに、国庫補助金がしっかり出ればより有効に本格稼働もできると思いますが、その辺はどうなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この補助金につきましては、今の３分の２の補助金というのは、共創モデルというのはあくまでも実証実験をやる中の補助金ということで今ついていますので、これはあくまでも実証実験のための補助金ということです。

今後、本格運行ということになりますと、今度また補助金が変わりまして、また新しい国

庫補助ございます。これは今、地域間交通のところに、ジャストラインに補塡している、あの路線に関して、あの路線に関してこういう新しい交通を使って、デマンド交通であるとかそういうものを使って本格運行した場合は、今度２分の１の補助が出るという新しい国庫補助がございますので、本格運行になればそちらに今度移行して事業を進めていくということになると思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　それに関して、財源の中でその他というのが2,000万ぐらいから4,000万ぐらいに増えているんですが、これは何か、その他というのは何ぞやというところと増額の理由、お願いします。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

このその他というところで今あるんですけれども、これにつきましては今、去年もそうでしたけれども、５市２町の連携中枢都市圏事業の中でこの実証実験に関しては補助が出ていますので、そのお金ということと、あとはふるさと納税のほうで、シーガーデンに関したというその項目の中で今回達した金額が、今、議員がおっしゃいます4,222万5,000円ということで、その他のところで出ているということでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　そうすると、その他には使ったら料金払いますよね、300円、割引もある。その中に、その運賃というのは入っていない。その入っているとすればどのぐらいを見込んでいるんだというところをお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

今、料金で300円と、あと500円、榛原病院の場合は500円頂いているということでございますけれども、今その収入に関してはこちらの今、歳入のほうには入ってございません。実際は入ってはいますけれども、この事業の中では、の中の補助金というかその事業費としては入ってございません。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　それ入れない理由というのは何ですか。この事業で得たものをその事業に生かすというのが基本じゃないかと思っているんだけれども。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

すみません、説明不足で申し訳ございません。今の収入のお金というのは、今タクシー会社２社に委託として、今車両に関して委託を出しております。その中で、向こうに料金収入が入ったものと、今度あちらからうちのほうに委託料としてこちらのほうに請求が来る、そこのところでその料金に関しては差引きしておりますので、実際の現金に関してこちらに入ってくるわけではなくて、その委託料の中で行ってこいしているということで御理解いただきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

説明書の66ページ、ＣＩＯ補佐業務委託料、これは令和４年からだんだん減っているんです、委託料自体が。これ１年契約なのかもしれないんですが、この変わっていく、だんだん安くなっていっているというのは、業者とのその契約内容、事業内容が完了したものがあって減ってきているのか、またもうほかの追加することはできないのかというところでちょっとお伺いしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

ＣＩＯ補佐業務につきましては、令和４年度から契約のほうをさせていただいております。

令和４年度につきましては、１年間契約ということで契約をさせていただいていたんですけれども、標準化の業務、またはガバクラに移行する業務というのが令和７年度末までに目指してやっていこうということがだんだん分かってきましたので、このＣＩＯ補佐業務につきましても令和７年度末までしっかりＣＩＯ補佐官に御指示をいただきながら町も進めていこうということに考えております。

そこで、令和５年度からは長期継続契約ということで契約方法を変えましたので、１年間ごとの契約の金額は若干単年度契約よりも下がっているという内容でございます。

内容につきましては、そのときに応じて、令和５年度なら５年度から７年度末までこんな業務をやってもらいたいということで今、依頼をかけて契約のほうをしているということになります。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

今、国のほうからＤＸに関していろいろ無理難題、私に言わせれば無理難題が結構来ていると思うんです。そうした中で、次から次にいろんなことが出てきている中で、その契約内容はじゃ年度ごと更新していくのか、じゃ今回７年度までの長期契約になったことによって、途中でもその新しい分野を追加して、でも料金は変わりませんよという契約で行っているのかどうかというところをお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

今、令和５年度ですので、今年度から長期継続契約が始まったということになっております。

国から、先生のほう、ＣＩＯ補佐官のほうからの御指示をいただきながら、町でどういった方針を決めるのかということでやっているわけですけれども、先生、ＣＩＯ補佐官の力が今以上に必要な場合は、この業務の内容を変更しまして委託をもう一度結び直すと、変更契約をするということになります。そのときの料金は、またその都度委託業者と相談しながら、幾らになるのかということを設定をし直すということになります。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　その件は分かりました。

その下、下に、これはあんまり金額少な過ぎて令和５年度も見逃していたんですが、ウェブ会議用アカウント運用業務、これは令和４年度のときには名称が違ったんです。ウェブ会議用アカウント使用料として同じ金額が、ほぼ同じ金額が計上されていました。

令和５年と令和６年度においては、アカウント運用業務委託料、今度委託料になっているんです。その点について、どう変化してきているのかというところをお願いしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　昨年度までは使用料ということで、使った分をお支払するということになりましたけれども、今この世の中で、なかなかＺｏｏｍとかということが盛んになっているということになって、アカウントを申し込むときの手続が複雑になっているという現状がございましたので、業務の委託料ということで名称を変えて、その手続まで一切面倒見てもらおうということになってございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　単なる使うに当たっての申込みというか手続が複雑になっているから委託する。職員で十分できるんじゃないかなと思うんですが、そんな複雑なことというのは。Ｚｏｏｍでしょう、Ｚｏｏｍの有料版というのはそこまで、委託してまでやらなきゃできないものなのかというのが今聞いて逆に思ってしまったんですが、そんな複雑なものなんでしょうか。

一般企業においても、そんな有料版使っていても、そこまで、委託してまでやらなきゃできないようなものじゃないと思うんですが、その点についていかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　ちょっと今、外国のほうに申し込むような形になっていて、引落しも米ドル、ドルのお金が関係するような形になっているようです。そういったことも含めて、ちょっと業者に委託したほうが間違いはないという判断をしました。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　そうすると、これは単年度で契約に多分なっていると思うんだけれども、毎年これくらいずつかかるのか。それと、あとじゃ逆に米ドルで払うとなると、為替の関係でいろいろ金額も変わってくるのかなと思うんですが、その点のものはこれ加味して入っているということでよろしいですか。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　議員おっしゃるとおりでございます。毎年かかるものであり、為替の変動も含めてこのくらいの金額で賄えるというふうに思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　シティプロモーション事業、57ページ。

この事業の中に、動画作成業務委託料というのがあります。これはどのような動画を作成して、それをどのように活用するのでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この動画作成ということでございますけれども、今、従来でも動画というものは今ユーチューブのほうに吉田町ということで動画配信しているんですけれども、その動画が2017に作成したものというところで、今の防潮堤であるとか新しいものはまだ盛り込まれていないというところもございまして、今回第６次吉田町総合計画をつくっていくというところで、今年度、新しくその動画を改めて作成しようというところで今回、つくるものでございます。

この動画については、ユーチューブ等で町の紹介として発信をするというところもございますし、あと先ほど言った移住フェアであるとか、そういうイベントのときに流す動画というのが今、短いバージョンだとうちのほう持っていませんので、そういうのも含めて、そういうところでも町を紹介できればいいかなというところもございますし、あと昨年につきましては要はブランドロゴ、ああいうものも含めて吉田町をＰＲしていく動画を新しくつくりたいというところで今回、動画のほうを考えておりまして、長いものでロングで２分ぐらいのもの、あとは数十秒単位でイベントのときにちょっと流せるような、そういう動画を含めて今回つくる、作成していこうというふうに考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　このシティプロモーション、吉田町を宣伝しようということなんですけれども、以前もお伺いしたんですけれども、その移住フェアという、要は吉田町は割と首都圏をターゲットにされていると、金も出るからということもあったんだけれども、それよりも、要するに吉田町というのは温泉を出るわけでもなし、交通の便がいいわけでもないので、東京から引っ張って来るよりはこの近隣市町の方々、また吉田町についてアパートに住んでいる方を吉田町に定着させるために、吉田町に、吉田町を含めて近隣市町の企業にこの動画を持っていって、また持っていくか配信できるようにして、近隣市町の方々の従業員の方に見ていただいて、吉田町のよさを満載したものを出して、吉田町いいじゃない、じゃちょっと行ってみようかと、住んでみようかというようなことに活用できないのかと思うんですが、その辺はどうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

それこそ、すごく議員がおっしゃるとおり、やはり東京とかというとなかなか東部があったりいろんなものがあって、なかなか東京から引っ張ってくるというのはなかなか難しい。ただ、今回の動画については、そのイベント等で流して吉田町を広く知ってもらうというところはございます。

今おっしゃるとおり、やはり吉田町としてのターゲットとすると、やはり吉田町に働きに来ていただいている方で町外に住んでいる方が、いかに吉田町に魅力を感じて吉田町のほうへ住んでくれるかというのは、非常に大きなターゲットになるというふうに町でも考えておりますので、それにつきましては令和６年度から、そういう何をその方たちが需要として持っているかというような聞き取りも町のほうでちょっと行いまして、それを施策に生かしていくというものもございますし、あとはその来ていただくものを施策に生かしていくということと、なるべくよそから来ていただくというところをどうしたら、パンフレット等、要は子育てのこんな充実していますよ、他市町と比べるとこんなに吉田町というのはいいですよというところのパンフレット等も作成して各企業に配って、吉田町がいかに周りの市町と比

べるとそういうところの面では充実しているというところも積極的にＰＲしていきたいというふうには考えてございます。

**○議長（大石　巖君）**　ほかに質疑はありませんか。

１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

説明書の60ページ、細かいところになるんですが、ちょっと質問をいたします。

今回の議会に出ている吉田町犯罪被害者等支援条例に絡む予算だと思うんですが、静岡県犯罪被害者支援センター賛助会員費というのがあります。ここの会員になることというか、ここは何を担うところなのかを質問いたします。

**○議長（大石　巖君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

静岡県犯罪被害者支援センターということでございますが、これは今回の定例会で提出させていただいています条例がお認めいただきまして、４月１日から施行された後にここと協定のほうを締結させていただきたいというふうに考えております。

このところ、全県的に支援しているところのセンターになるんですけれども、警察とこのセンターと協定締結することによって、警察、センター、町の３者が一体となって情報共有したりですとか、その犯罪者の被害に遭われた方の支援を行えるということで、より強力に支援を行えるということで、それに加入するための会員費ということになります。

以上でございます。

**○議長（大石　巖君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

そうなりますと、これは基本的にはこの条例が制定されている市町が全て入っている、会員になっているという認識でよろしいでしょうか。

**○議長（大石　巖君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

全ての、条例を制定されている全ての市町が加入されているというわけではないんですが、ほとんどが加入されているという状況でございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巖君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　これ金額も大した、大したことないと言うとあれですけれども、そんなに高いものじゃないんですけれども、例えばじゃ何かあったときに、具体的な情報を欲しいとか、相談をしたりとかということをした場合に、これは別でお金がかかったりするのかどうか、そこだけお願いします。

**○議長（大石　巖君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

この会員を支払うというか、その協定結んで会員費払えば、その中でそういった情報共有もできますし、また講師の派遣していただいたり、そして職員の研修もやっていただいたり、そういったこともここに加入することで可能になります。

以上でございます。

**○議長（大石　巖君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　シーガーデンシティ推進事業費、56ページです。

この事業の委託料というのがありますけれども、調査委託料とか設計委託料、この辺は吉田インター付近のバスターミナルとか吉田公園の南側の土地の利用に関するものというふうにお伺いしておりますけれども、本年度のこの予算で、この事業をどこまで進めるよていなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

このシーガーデンシティ構想の委託料ということで、調査委託料、支援業務、設計委託料と三つございますけれども、この事業につきましては、今、議員おっしゃるとおり吉田公園の南側の整備に関するものと、あとは吉田インターのバスターミナルというところで進めるものでございます。

まず、バスターミナルのほうからでございますけれども、バスターミナルのほうにつきましては今年度基本設計を行いまして、あとは要は今後国庫補助等、それを使いながら進めていく上で、社会資本総合整備交付金の計画書をつくらなきゃいけないということで、今年度その事業を進めさせていただいております。

令和６年度につきましては、今度新たに詳細設計に入っていきまして、具体的にどういうものをつくっていくかと、具体的にどういうようになるかというものを令和６年度で詳細設計を進めていく予定でございます。

この中の設計支援業務ということでございますけれども、これにつきましてはその令和６年度に行う詳細設計に関して、普通の道路とか河川とは違いまして、その中に造るものがあって、建築があったりだとか特殊なものもございますので、そういうものの設計に関してやはり支援業務、まちづくりセンターであるとか、ああいうところの支援業務はやはり必要になりますので、その支援業務として金額を計上させていただいております。

今度、調査委託料でございますけれども、この調査委託料につきましては今、吉田公園南側の整備についての調査委託料というところでございますけれども、これにつきましては官民連携事業を今進めておりまして、令和５年度にそのどういう官民連携事業を進めていったらいいかというところと、あとはやはり官民連携事業を進めていく上では、かなり地元との関わりというか、そういうものが非常に大切になるということで、勉強会、商工会の勉強会であるとか、小学生にワークショップを開いた中でそういう意見を積み上げていくという中で令和５年度については事業を進めさせていただいております。

その中で、基本的な構想みたいなものもつくって、令和５年度は進めているところでございます。

令和６年度につきましては、今度それを今度官民連携事業として成立させなければいけませんので、その官民連携事業を進めるスキームを令和６年度につくっていく。具体的にどういう形態でどういうものをつくっていくかというところを令和６年度にまとめまして、令和７年度以降に実際に官民連携事業を進めていくという段取りになってございます。

その６年度の事業の中ではどういう、どこまでを事業範囲にして公募をかけていく、事業を進めていくかというところも含めまして、令和６年度にその官民連携事業を実際実行に移すためのスキームをつくるということで進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　じゃ、まずバスターミナルに関しては、今おっしゃったようなことを令和６年度にやっていくわけです。

今の想定で、何年ぐらいから供用開始ぐらいを想定されているんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

バスターミナルにつきましては、これあくまでも予算との関係、いろんな問題がございますけれども、今、令和６年度に詳細設計を始めまして、令和６年度以降に用地交渉を始めて、用地等を買収しなきゃいけない部分ございますので、始めて実際事業を行って完成ということになりますけれども、令和８年、９年あたりにもし完成できれば、希望とすればあります。その辺はまたいろんな諸事情もございますので、延伸になったり、そういうこともございますけれども、一応それぐらいを予定してございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　もう１個のその公園南の整備、これ官民連携が、民が食いついてくれるかどうかというのがポイントだとは思うんですけれども、それが進めば令和７年度以降やるというんだけれども、その辺のめどというか、実際に環境整備も必要だろうし、いつごろから開始、具体的に開始できるというめどで進めていこうとしているんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

今、官民連携事業で進めているところでございますけれども、これ令和５年度の事業の中で、国交省にＰＰＰサポーターといいまして、要はその官民連携事業をアドバイスして、国のそういう部門がございまして、その方に来ていただいて見ていただいた中では、いろんな全国の状況を見た中ではかなりポテンシャルとすればあるという中で、今回この官民連携事業を進めていく中でも、その民間がどういう形だったらこの事業に公募していけるかというところもヒアリングの中で、今回この令和５年度の事業を進めていく中では、プロポーザル方式を取りまして、そういうものをこういう事業区域でこういう事業を進めていく中で、どうしたらその官民連携の事業をやっていくかということを条件に公募してございます。

その中で、ある程度全国的に実績の、こういう企業とかのヒアリング等に関しても実績があったり、あとは先ほど言った官民、民のほう、地元との連携をどういうふうに進めていくかという実績、こういうふうに進めていきたいという、そういう審査をした中で業者を選んでございます。その今回調査事業を今回６年度に行いますけれども、その中でも民間とのヒアリングをしながら、どういうスキームでつくったらこれに対して民間が手を挙げてくれるかというところも調査しながら進めていきますので、ある程度めどが立つような形で事業のほうは進めていけるというふうに考えてございます。

あとは、時期のことに関しては、あそこ一部国有地のところもございますので、その国有地の払い下げなり借りるなりしたときに、やっぱり向こうの、国のほうのスケジュールもございますので、それが決まらないとうちのほうも公募をかけられないというところもありますので、その辺につきましては国と今、打合せをしておりまして、スケジュールのほうを今、

絞っているというところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今、前半説明されたことは今までに説明受けている話で、要はやっているけれども手挙げてくれるところが本当にうまく行っているのかというところが心配なわけです。ぜひそこは、６年度金かけてしっかりとここに行ってやるぞという方を見つけていただいて、実際に動けるような状況にしていただきたいと思いますので、これは答弁いいですからよろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑は。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

説明書の75ページ、これは選挙管理に関するところなんですが、12番の投票管理システム標準化仕様分析業務委託料、その下の投票管理システム標準化移行に係る業務委託料、さらにはガバメントクラウド運用管理業務委託料であるわけです。これ全て関連しているのかなと思います。これはまさにＤＸ化に対する、対応するためにやるとは思うんですが、これ一々これ分けている、特に最初のと２番目、仕様分析と移行、これわざわざ分けて計上している理由というのは何かあるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

どのような事業名というかで予算を計上するかというのはこちらで考えた結果になるわけですけれども、業務の明確化、職員のほうが分かりやすくするために業務のほうをこのような形に分けさせていただきました。

内容としましては、議員がおっしゃるように標準化、ガバメントクラウドへの移行作業というものに係ってきます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

そうしますと、今からやっていくであろうアナログ規制に関するものもこれ絡んでいるのかなと、投票管理というと。いいんだけれども。

その中で、これをやることによって、じゃ今後職員の人件費が削減されるとか、何かいい要素というものはここから生まれてくるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

この業務直接が住民サービスに直結するかどうかと言われると、若干違うというかというものになるんですけれども、これは総務課の中の情報のほうの予算で大きく上げているものの一環で、20業務は国からもう指定されていて、標準化・共通化にしなければいけないという業務の中の一つなので、町はやらなければいけない業務というふうなものでございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　そうしますと、このガバメントクラウド運用管理業務委託料、ほかのところにも確かありますよね、総務課の中で。それとはまた違うというところでよろしいんでしょうか。どこだっけ、ありましたよね、総務課の最初のほうに確か。その点についてお

伺いしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　総務費の今１項、総務費の４項です。66ページでいいですね、ガバメントクラウド。

**○９番（増田剛士君）**　ありますよね。これとはどう違う。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　66ページのほうにもガバメントクラウド運用業務委託料というのがございます。これ22業務、20業務か、に関連していると今、答弁にもあったので、これ同じ20業務の中で二つ出ているというところについてお答えをお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　総務課長、太田順子君。

**○総務課長（太田順子君）**　総務課でございます。

標準化・共通化の対象業務、今20業務が挙げられておりますけれども、その中で町のシステム、大半のものが一つのシステム会社のほうに多くの業務を委託しているんですけれども、それではない業務も中には入ってございます。そういったものに関しましては、今契約しているところの予算のところで予算を計上させていただいていると。ほかの業務につきましては総務費のほうで一括、ガバメントクラウドまたは標準化に係る業務ということで予算計上をさせていただいているという縛りになってございます。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　すみません、項が違っていました。おわびします。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

よろしいですか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　それでは、これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前１０時１５分

再開　午前１０時２４分

**○議長（大石　巌君）**　では、休憩を閉じ会議を再開をいたします。

ただいまの出席議員は11名であります。

次に、２款総務費の２項徴税費から６項監査委員費までについての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、12款公債費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

よろしいですか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　それでは、質疑なしと認めます。

次に、13款の諸支出金についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、14款予備費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前１０時２６分

再開　午前１０時２７分

**○議長（大石　巌君）**　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員数は11名であります。

次に、３款民生費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　82ページ、成年後見制度中核機関運営事業費についてお伺いします。

この事業は令和５年度から開始されまして、その委託料565万2,000円は対前年度76万7,000円減額となっています。５年度と財源内訳を比較しますと、その他の96万7,000円が令和６年度はなくなっていると。この減額の理由は、その他がなくなったのかなというふうに想像しておりますけれども、この５年度のその他というのはどういうものであって、６年度でなぜなくなったのかというところをお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

６年度につきましては、財源が国庫支出金のみというふうになっております。そちらにつきましては、国の制度の中の生活困窮者の関係のメニューの中に、この中核機関に関わる部分がございまして、そちらを予算計上をさせていただいております。

６年度については、そういった財源の中でさせていただいておりますが、始まったばかりの制度でございますので、本年度はそちらの財源を活用をして実施をしていきたいというふうに予算計上をさせていただいております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　この成年後見制度中核機関運営業務委託料というのはどのような業務を委託して、それは吉田町のためにどういうふうにやっているのかというところをお願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

この成年後見制度中核機関運営業務委託料につきましては、成年後見制度の利用の促進に関する法律に基づきまして、成年後見制度の利用の促進を担う中核的な機関を設置・運営することによりまして、この制度の利用の促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とすると大きな目的がございますが、細かい内容につきましては、まずは広報機能を持っていただく、それがその成年後見制度や相談窓口のまずは周知、それから重要な相談機能、それから成年後見制度利用促進機能ということで、実際に申立ての支援を行ったりだとかケース会議を行ったりだとか、その他その成年後見制度をどのように推し進めていくのかといった推進協議会の運営業務までを、その他もございますが、中心となる業務がそこの部分になります。

当町におきましても、そういった成年後見制度を利用されたほうがいいケースであるだとか、利用の検討をしたほうがいい方であるだとか、そういう方々のためには相談窓口が周知されて、必要となればその関係機関、そこのコーディネートだとかつなげる役割を持つことができますので、後見制度の利用促進であるだとか、こういうことが後見制度はできますよとか、そういった周知にも広がるということで、町民の皆様にそういう制度が必要な方にはそこにつながりやすい、そういった効果があるかと思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今年度も、後見制度の講演だったか講座だったか分かりませんけれども、開きましたよね。そういうのもここの委託料の中に含まれてＰＲとしてやっているのか、それはまた別に町がやっているのか、その辺はどうなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

今年度、議員おっしゃるとおり成年後見制度の講演会を実施いたしました。牧之原市と合同でこの成年後見制度の推進についての会議を持っておりますので、こちら合同で開催をさせていただきました。そちらの予算につきましては、この委託料とは別に予算を組んでおります。

ですので、６年度につきましても、そういった成年後見制度の研修会であるだとか養成講座であるだとか、そういったものも計画しておりますが、それは町の予算でということで実施してまいりたいと考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　保育所費、各保育園運営費、104から110ページになります。これの中の給食料理委託料です。

これは、令和５年度にさくら保育園で開始して、令和６年度はさゆり保育園でやっていこうというような予算になっておりますけれども、これは毎年１園ずつ、要は４園あるわけですけれども、毎年１園ずつ増やしていこうというお考えなのか、その辺お願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　こども未来課長、杉田香織君。

**○こども未来課長（杉田香織君）**　こども未来課でございます。

議員おっしゃるように、令和５年度、今年度はさくら保育園、来年度さゆり保育園ということで給食の業務、調理委託のほうをお願いしておるわけなんですが、そちらになるに当たっては給食員の確保が大変であったということで、今年度から委託をしております。

２園委託をすることで、今いる職員で何年かは回すことができるであろうと考えておりますので、１年ごと一つずつ増やすではなく、この２園で少し様子を見ていこうということを考えております。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　こう委託することによって、コストアップなのかコストダウンなのか、そういう観点ではどうなんですか。

**○議長（大石　巌君）**　こども未来課長、杉田香織君。

**○こども未来課長（杉田香織君）**　こども未来課です。

委託費そのものはもちろんアップはするんですが、人件費に係るところと比較をしますと、今回委託、さくら保育園やっていただいた業者につきましても、人件費は町とそう変わらない金額で実際はやってくれているところになります。

あとは材料費になりますが、材料費は町のほうで今持ってやっておりますので、材料費が、委託をしたからあっちはどんどん材料を使ってとかというわけではなくて、町で注文をして、この中で料理をしてくださいという形でお願いしておりますので、そこは変わりはないところになります。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　ほかないようなので、別です。

児童館運営費、111ページから112ページです。この中に、施設整備費2,175万8,000円、これは何を整備するんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　こども未来課長、杉田香織君。

**○こども未来課長（杉田香織君）**　こども未来課です。

今回、児童館の施設内の空調改修を行います。空調機の劣化、経年劣化が最近ここ何年か見受けられまして、故障の都度修繕を行っておりますが、都度都度故障も多いことから、今後正常に機能しなくなるおそれがあることから、新しい機械に設置をしようと考えております。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　この整備のために国庫補助金、次世代育成支援対策施設整備交付金や県補助金の児童館等整備事業補助金などを活用して今回やろうということなんですけれども、卵が先か鶏が先かというような話なんだけれども、要するにこの設備しっかりやらなきゃいかんということで補助金を探したらこれがあったので、じゃ行こうという話になったのか、この補助金が何かあるみたいだよ。じゃ何か使おうということで児童館の施設を直そうというふうな、どっちが先かという話はどうなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　こども未来課長、杉田香織君。

**○こども未来課長（杉田香織君）**　こども未来課です。

先ほどもちょっとお伝えしたんですが、故障が何回か故障がありまして修繕を行っていて、とにかく修繕を行いたいということから、補助金はないかということでほかの課からも補助金担当のほうからもちょっと確認をしていただき、国と県に問合せをしながら今回、前年度

協議しながら予算を６年度に確保できるようにということで行ってきたので、修繕をしたくて、修繕するにはやはりどれくらい利用があるのかなと、今後の設備の在り方とかも考えさせていただきまして、年々、コロナもありながらですけれども、利用者が増えている状況です。子供の数が減っている中でも事業を充実させていただいているところで、利用者も増えていて、必要性というのも町民が表してくれているところでありますので、まずは安全を確保するために空調の設備を行わせていただき、皆さんに快適な中で利用していただきたいと考えております。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　なければ、これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前１０時４１分

再開　午前１０時４２分

**○議長（大石　巌君）**　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員は11名であります。

次に、４款衛生費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　生活排水改善対策事業費、123ページについてお伺いします。

この浄化槽設置費補助金8,865万8,000円ついているわけですけれども、ここ数年は割と増やしていただいていたと思うんですが、６年度は若干、若干ですが200万円ほど減額になっています。その理由をお願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

浄化槽設置費補助金につきましては、財源として国から、県からも補助金を頂きまして、それを財源に事業を実施しておりますが、このうち県からの財源、県からの補助が浄化槽設置に係る新設の分について年々減額をされているということでございまして、その分に見合うように町から申請者に対しての新設の補助額も引き下げました。そのことで予算総額としては減っておりますけれども、対象とする基数としては令和５年度と同じ基数を確保してございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今回、財源内訳その他でふるさと納税から金を持ってくるというお話があるとしたわけで、そうすると一般財源をもうちょっと増やしていくと、補助金は減るけれども全体像はちょっと増やすというような考えはなかったんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

先ほど申し上げました県からの補助、これは令和６年度から急に下がるというものではございませんで、実はこれまでも令和４年、令和５年についてもそれ以前から比べて段階的に引下げをされておりました。

今までは、一般会計からその分を補塡をすることで、補助額を新設に対する補助額も一定に保ってまいりましたが、今後も下がっていく、やがてなくなってしまうということでございますので、この浄化槽の補助のそもそもの目的、転換に注力をしたほうがというようなこともございましたので、新設に対する補助額については下げさせていただきました。

なお、例えば新設の場合の補助額でございますけれども、５人槽につきましては今まで新設に対して33万2,000円を補助しておりましたが、これを３万円減額をしまして30万2,000円の補助とさせていただきたい。それから、７人槽では現行で41万4,000円の補助から、３万8,000円を減額して37万6,000円とさせていただきたい。10人槽につきましては、現行で54万8,000円の補助から５万円を減額して49万円8,000円の補助とさせていただきたいと、こういう内容となっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　その補助金の支払方法についてお伺いしたいんですけれども、今５人槽、単独浄化槽から合併浄化槽に５人槽でやろうとすると、その価格が工事含んで100万としたときに、吉田町は七十数万円補助を出すわけです。

ところが、依頼主は100万円用意しなければならないんです。設置するのに。後で70万入ってくるので、持ち出しとすれば三十数万ということになるんですけれども、単独浄化槽から合併浄化槽に変えようといったときに、30万で済むのと100万準備しなければならないというのでは、いざゴーをかけようとしたときにその気持ち、やろうという気になりにくいんではないか。

今、浄化槽の転換に関しては、予算が年度内に終わってしまうというようなことで、要するに単独浄化槽から合併浄化槽へ変換しよう、転換しようという機運というのは上がっていると私は思っているんだけれども、これがなかなか続かないんじゃないか。そうすると、やっぱり本来の30万あれば変えられるというような形にできないかなと思うので、例えば転換工事終了後、施工業者と依頼主の完了の証明なり出させて、その補助金というのは業者に納める、町から業者に渡せば依頼主は30万で済むわけです。そういう制度に変えられないかという思いがあって、それであればもうちょっと、より単独から合併浄化槽に変えられる機運がもっとあがるんじゃないかなというふうに思うんですが、その辺はどうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

ただいま御提案をいただきましたけれども、この補助の対象者は浄化槽を設置しようとする者ということで、申請者は町民になります。ですので、申請者の口座へお金を振り込むというのが原則でございます。

それと、なぜ後からかということになりますと、公金を補助しますので、確実な施工を確認してからでないとお金を支払えないということもございます。

業者と申請者の方の間柄でも、先払いで全額ということでは恐らくないのではないかと思

っております。業者としましても、着手的なその前払い的なお金は請求しているのかもしれませんけれども、全額についてはやはりその申請者に対しても浄化槽を設置して完了してから請求しているのではないかなというふうにも考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　要は、もしその本人にしかできないとすれば、出せないとすれば、完了後、終わりましたと申請すればすぐ金が入ってくるのか、言葉は悪いけれどもお役所仕事で、１か月とかそういうことが、今の実態知らないのでお伺いしているわけですけれども、本人が完了しましたと、そして１週間以内には振り込まれているとすれば、業者も完了後１週間ぐらいで振り込んでくださいというような話になると思うので、その辺の申請から金が実際に振り込まれるのにはどのぐらいの期間かかるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

実態としては、申請者というよりもそこを施工した業者が必要な書類を、本人からの書類もそうですけれども、補助に当たっては浄化槽のこの維持点検の業者と契約をして、今後しっかり清掃であるとか維持点検をしますよというようなことも補助の要件になっておりますので、そういう書類一式を実務的には業者のほうが整えて提出をしております。その提出を、請求書を提出後２週間程度でお支払をしております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　私も同じところで、生活排水改善対策事業費です。

今、議論の中で浄化槽の入替えありますね。私が、それで今100万という数字が出ましたね。これ国交省のほうでは85万ぐらい、３年、何年か前。

ところが、私の知っている範囲で、実際に設計の方法にして増築改築を進めていって、台所とトイレが前後に分かれた、どのぐらいかかると思いますか。200万を超すんです。断念しました。その人は断念をしました。

言いたいことは、楽観的に考えてほしくないです。できないです。本来の事業というのは、水質を改善をして生活のそこに持っていこうということなんですけれども、そういう人たちが私の中では先日も見つかりました。

でも、そういうものを出していただくのは構わんですけれども、そういうものがあるということを認識をしながらやっていただきたいと思うんですけれども、その認識というのはどの辺まで知っていますか。100万以上、200万円以上かかるといったその。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

新設にしても転換にしても、敷地の広さであるとか、例えば転換の場合、既存の水回りがどんな状況かということもありますので一律ではないという、申請によって転換に必要な総額は全て変わるということは認識をしております。その中では、配管費用が長ければ当然金額が高いものもあるだろうということは認識をしております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　ちょっと現実的な話をしておかないと、ちょっと考え方がずれていますので、例えば今、面積ありますよね、確かに広いうちは多いんです。

ところが、吉田町で今補助しているというのは15万補助しているでしょう、中に配線というのは。15万か幾ら、補助していますよね。そうすると、その補助金ではとても間に合わない。それと、面積の大きさというのは管を入れるだけですから変わらないです。

要するに、言いたいことは、そういう困っている人たちが、やりたいこともやれない人たちがいるときに、これをどういうふうにして解消していくのか。本来の目的の浄化槽の水質改善と、それはあれが全部やって初めてできるわけですけれども、その辺の非常に難しい問題があるんですけれども、その辺はどうなんですか。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　浄化槽は個人の敷地の中にありまして、その家に住むお宅の方しか使えない私有財産でありますので、全てを補助するということはかなわないと思います。

金額につきましては、環境省のほうで２年に一度程度、全国の施工費の調査を基に国の単価というものを定めております。補助ですので、一部を補助して差し上げるということでございます。

環境省のほうでは、社会的便益というような計算をして、算定をして補助額のほうも施工費全体に対してどれくらいが社会的便益、公益性があるかということを計算して、新設であれば５人槽の場合33万2,000円だというような計算をしております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　山内です。

国は、国はマクロで考えますから、ミクロのことなんか考えていないです。そこを補っていくのが市町村であり担当課である。そのときに、そうしたそういう不安を抱えるような施策はどこかで解消しないかん。私は事業としてやるしかないと思っています。本当にやるんだったら。下水をやめて。それしかないと思う。

そういう認識で今、こういう一般質問するわけですけれども、その辺をどこまで分かっていただくかどうか分からないけれども、その辺も配慮しながら、確かに合併浄化槽を入れ替えるのが競争のような形でさせるのは構わんですけれども、その辺のやつをちゃんと町のほうでは配慮しながらやっていただきたいというのが私の願いなんです。いずれそうなるでしょうね、そうなると思っていますけれども、その辺の形で浄化槽の調査、もしできれば、そういうものがやっていただけると、町としてもやっていただけると、そこに公平なものが出てくるんじゃないかなと思うんです。その辺の調査、そういうことというのはやるべきだろうと思うんですけれども、どうなんですか。できると思います、水道屋さんに聞けばすぐ分かると思います。

**○議長（大石　巌君）**　上下水道課長、内田宏一君。

**○上下水道課長（内田宏一君）**　上下水道課でございます。

これまで申請のあった方、総額が幾らでということを見積もりであるとかということで出してありますので、金額が幾らかというようなことは出ますけれども、それに応じて全額、

高額の場合全額を補助するとか８割を補助するという考えはございませんで、あくまでも国が進めている転換に対する補助、新設に対する補助という国の考えにのっとって今やっておりますので、これを議員がおっしゃるような施策を打つということは今のところ考えておりません。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今言った、私はこれだけかかるから何割をと言っているわけではないです。ただ、そういう人たちが、断念をしている人たちが何人か出てきてといったときに、その目的そのもの、排水の、目的そのものがそこで非常に難しい、ずれてくるんじゃないかと、統一できないんじゃないかという心配をしているわけですから、その辺を、回答はいいです。同じ答えがきますから。でも、その辺をぜひやっていただきたいのと、本当にやりたくても困っているという人たちがいるということを実際に調査をしてもらって、そしてやっていただくということは必要だと思うんです。その辺を希望として出しておきます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　128ページの妊娠・出産包括支援事業です。

令和６年度からアウトリーチ型産後ケアを始めるというお話でしたけれども、もう産後、産後ケア事業委託料は61万1,000円。61万円で、その対前年度５万5,000円減額になっております。

その中で、そのアウトリーチ型産後ケア事業というのは、この委託料に含まれているのか、また別枠なのか、その辺をお願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　健康づくり課長、門田万里子君。

**○健康づくり課長（門田万里子君）**　健康づくり課でございます。

６年度から始めようとしておりますアウトリーチ型、訪問型になりますけれども、こちらはこの予算でいう産後ケア事業委託料、この中に入っております。ここに、もともと行っていた宿泊型と通所型、それとプラス６年度から始める訪問型、これも全部含まれているということになっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　７番、平野です。

このアウトリーチ型産後ケアというのは、利用するのに条件とか、利用したときの料金とか、そういうのはもう既に決まっているんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　健康づくり課長、門田万里子君。

**○健康づくり課長（門田万里子君）**　健康づくり課でございます。

こちらの制度につきましては、特に条件というところでは特にないです。希望する方が対象になります。

あと、料金も、今お願いできる病院、助産院とは協議の中で料金の話は出ておりますが、まだ契約、正式な契約はしておりませんので、まだ確定はしておりませんけれども、ただ話の中では金額はもう出ております。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　よその市町見ると、３回までとか１年間というような条件いろいろあ

るわけですけれども、それは今後出てくるかもしれませんけれども、この委託料を減額した中で新しい事業を加えるという話なんですけれども、今回新しく令和６年度からやるアウトリーチ型、この予算上はどのぐらい、金額は決まっていないので、金額は入ってくるとして、どのぐらいの方がこれを利用されるというふうに踏んでいますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　健康づくり課長、門田万里子君。

**○健康づくり課長（門田万里子君）**　健康づくり課でございます。

金額は、予算を上げる以上、まだ契約を締結していないので確定はしていないと申しましたけれども、金額は病院及び助産院からの提示はございます。そこを基に計算をしております。

今回の新しいアウトリーチ型訪問型を加えたのに、当初予算では前年度よりもマイナスになっているというところでは、もともとありました宿泊型と通所型、120分の通所型になりますけれども、こちらの実績を見直しをしまして、先ほど誰でも利用できるということで申し上げたんですけれども、その申請自体が実態では数名、年に数名しかおりませんで、いろいろ相談を受けていく中で、あなたこういうサービスを使ったほうがいいよという勧奨はしているんですけれども、御本人の都合とかもあって断る方もいるし、逆に希望される、自分から希望される方もいらっしゃいます。ですので、今まではそう多くなく、ほんの数人ということになっておりました。

ですので、６年度予算としましては、今まであったところを見直しをしまして、実態に合った人数に減らしまして、その分アウトリーチ型、それからあともう一つ、通所型の中でも今まで120分以上という設定で行っておったんですけれども、もう少し短時間で行いたいという声もありましたので、120分未満の通所というのも新たに入れております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　124ページの地球温暖化防止対策事業費、補助金がこれ50万、毎年そのぐらい出ていて、ソーラーを、多分何基ですか、10件当たりの補助金、以前の記憶でそう記憶していますけれども、数的にはその記憶でよろしいですか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

地球温暖化防止対策事業費の補助金につきましては、５件ということでございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今、単純に温暖化の防止でソーラーの話していますけれども、実はここのところ大きな地震があって、阪神の地震と能登半島の地震、皆さん多分知っているでしょう、感震ブレーカーの話。それがセットでいろいろやっていかないと、ああいう大規模火災がなる可能性が明らかに見えているんです。消防庁はそのセットの要求、セットというか感震ブレーカーを使いなさいと。

いずれにしても、補助金でやっていくような形になると思うんですけれども、そういう特にこの温暖化の防止対策、日本で物すごい大きな目標を上げていますけれども、もう実際としてはその辺の認識でやっていく必要があると思うんですけれども、どうなんですか、その辺の考え方は。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

やっぱり環境問題というのは、大きく最近トレンドとして取り上げられている部分ではございますが、町としましては今年、来年をかけまして環境基本計画と併せて地球温暖化対策防止計画を策定しておりますので、それに合わせて環境、地球温暖化防止に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　いろいろ新聞とかの記事を見ていますと、いろいろ国交省からこういうものが環境省に移ってきていると。多分一本化されていくということになって、その一つの大きな目標、温暖化、$CO_2$ゼロに向かっていくと思うんです。

やっぱり吉田町も、その辺のもうそろそろやっていくことが必要と考えていますけれども、その辺はそういう意識としてはどうなんですか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

もちろん、地球温暖化防止対策策定する以上は目標を持って進めていくということを考えていますので、そのような理解でいただければと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　このソーラー、皆さんよく小さなソーラーをよく見ますよね。このくらいの回すような。あの小さなソーラーで、本当はトイレのブロアが回るはずなんです。要するに、そういう細かいところでやっていくと、何というんですか、電気代金であるとかそういうものが非常に安い部分に振り返ってくると思うんです。その辺はぜひ、どういう形でいいのか、エネルギーこれからももう全部変わっていくんでしょうけれども、同時にその全く同じ意識ですので、その辺のその合理性というか、そういうのを追求したような形をこれからまた考えていただきたいとは思うんですけれども、それでできればいいと思うんですけれども、そういう形をお願いをしたいと思いますけれども、その辺どうですか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

一応５件、今回の、すみません、地球温暖化対策事業費の補助金につきましては、ソーラーパネルと蓄電池のセットの設置ということで10万を補助しておりますが、こちらにつきましてやはり希望の多い場合につきましては、補正等の対応をしていけたらというふうに考えています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　123ページ、飼い主のいない猫不妊去勢手術費補助金ということなんですが、これ以前から比べたら大分減ってきてはいます。ということは、この補助する団体の活動が弱まっているのか、猫自体が減っているのか、どうその辺を見てこの金額になっているんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

以前にもお話しさせていただいておりますが、実際その猫自体は、飼い主のいない猫自体は数をはかることはちょっといささかできないんですが、実際死亡猫、死亡猫を回収する件数は明らかに年々減っております。

そういう中で、そういった猫も減っているというのは確実なんですが、やはり一応補助金につきましては、毎年満額を使われているような様子はございます。ですので、実際その飼い主のいない猫自体は減ってはいると思うんですが、そういった猫、団体さんの活動によって、ＴＮＲの活動によってそういった猫が減ってきているということですので、そういった成果は見させていただいております。ただ、実際その猫の数というのはちょっと分かりかねるというところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　猫の数が分からないというのは理解するんだけれども、その団体の活動自体が、この補助金始めてもう大分たつんだけれども、それこそ後継者というか人間増えているのか、ずっと１団体がやっているわけですよね、に補助金出しているわけです。そこの団体自体がちゃんと回っていて、このものになっているのかというところのチェックというのは、町としてされているのかというところでお聞きしています。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

もともとこの団体自体につきましては、５人以上の活動をしていただける団体ということでやっている中で、その辺の人数的なものはクリアした中で補助金を出させていただいています。

実際その150万という金額でやっていただいていますが、そこをやっていただけるような活動はしっかりしていただいているということは確認しております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前１１時１２分

再開　午前１１時１３分

**○議長（大石　巌君）**　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員数は11名です。

次に、５款労働費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

次に、６款農林水産業費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　この問題をやるときに、こちらの農家が非常に苦しんでいるというのをどうにかしなさいよ、どうなっているんだということを言われますので、ちょっとお伺いします。

農林水産業費が令和４年、５年が４億7,783万円、それで令和６年が２億9,824万5,000円なんです。この……。すみません、すみません。

**○議長（大石　巌君）**　134ページ。

**○８番（山内　均君）**　134ページです。ちょっと一番の全体の話だけ。

この金額を見ていくと、実際農業の、いろんな農業やっている人たちの、お茶の農家の人たちの衰退、衰退というか困難さとすごい合致してきているような気がするんです。そうでもない、そうでもないですか。すごいうんと減ってきた理由というのは、これはちょっとどんなものが想定をして減って、減らしているんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

今の議員おっしゃられました農林水産業費の金額が前年に比べて少ないというような状況がというところなのかと思いますけれども、それにつきましては令和５年度につきましては山崎頭首工の工事のほうの金額のほうが１億近いお金を計上させていただいてございまして、そちらの分の減が大きい金額の減ということになるかとは思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今、先ほど農業やっている人たちからそういう声が聞こえてくるんですけれども、そういうものに関しての心配というか、そういう対策というのはやっぱり取ってはいるんですか。取られてはいるんですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

お茶については、厳しい状況ということは把握しております。

今、吉田町のほうにあるこの補助金の中では、以前ＪＡ農協が活用した耕作条件放棄地、今あるお茶畑を高収益な作物に転換するというもの、事業がありますので、そういうものを活用していただけるのであれば予算は計上して実施していきたいと思っています。というのが、今あるお茶に対する対策が主なものになります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　あの事業が今やっていただいて、うまくいくとそれは期待ができますので、やっていただきたいと思うんですけれども、ただあの事業に参加するときの参加のする年齢制限であるとか、これはハードルが高過ぎるんですけれども、そのハードルというのは、こういう国のほうではそういう議論というのは、そういうのはされているんですか。

**○議長（大石　巌君）**　山内議員、今の質問は予算のどこに入りますか。

**○８番（山内　均君）**　全体的な考えの中の話です。

**○議長（大石　巌君）**　答弁よろしいですか。

産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

このハードル、年齢制限とかは特にないんですけれども、この実際活用していただくのであれば、認定農業者等が中心になってやってできるような対策として活用していただければと思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　146ページの津波・高潮危機管理対策事業費で、そこに設計委託料3,472万1,000円というのが上がっております。これは何をやるものなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この今年度つけている委託につきましては、今まで漁港の津波対策として漁港背後地に漏れないために実施するものとして、シミュレーションとして漁港の航路の、失礼しました。津波対策として多重防御で漁港を守るということで計画しておりまして、今年度やるものについてはこの漁港の航路のところの幅を狭めるということを、令和４年度のシミュレーションから、狭めることによって漁港背後地の浸水を防ぐという対策を進めるということで検討、決めたことから、６年度につきましてはこの漁港航路のところに造る、どういう構造のものをどういう工法で造れば津波、地震に対して守れるか、漁港背後地を守れるかということの検討をするものとして実施するものであります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　私のこの津波・高潮危機管理事業費でやることが変わったのかどうか、ちょっと分からないんですが、この事業、国からの有利な補助金を出る可能性があるので一時、その法改正待ちで一時事業をやめます。令和５年度は予算つけなかった。それを６年度に復活させているんですが、その財源内訳見ると以前と同じ県と一般財源だけだったかな。要するに国からは何の金も入ってこないという状況なんですが、その辺の事情、どういうふうなことがあって今この令和６年度の予算に至ったのかの説明をお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この予算、減額して一部、以前答弁したものは、防災とにぎわいを含めてという形で一時その方向性を見た上でやるということで答弁して減額させて、認めてもらったものになります。

この漁港漁場整備法の改正によって、この６年度から施工するものになって、そこについてはにぎわいをするために漁港をどのように活用していくかというものの改正で施行が令和６年４月１日からされることになっているんですけれども、その内容を見るとにぎわいのた

めに、現時点ではこの補助がどういうものが新たにできるかどうかというところについては、まだ補助の制度としてはできていないんですけれども、現時点でこの津波対策、この津波・高潮でやるものとにぎわい、そこのところのメニューについてはまだできていないんですけれども、現時点で補助メニューとしては新たなのは現時点ではないんですけれども、津波対策を進めていく、進めることができる部分についてはやっていくということで今回計上させて、お認めいただこうとするものであります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　そうすると、令和４年度で減額補正して５年やらない。結局最初にやろうとしたことを６年からやろうという理解でいいのか、４年度はもうちょっと違うことを考えていたのか、そこはどうですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

４年度のときにここの当初予算で計上したものについても、基本的には多重防御でやるということで考えていました。

その中で、漁協とも調整が必要になるんですけれども、その当時はどういう構造であれば対応ができるか、どういう工法にするかというとこら辺のところが、どうやってやっていくかという方向がちょっとまだ定まっていない部分があったので、そこら辺が今回計上したことによって、35メートルのところを、先ほどの繰り返しになりますけれども、対策を取ることが、やれば守れるんじゃないかということが判断できたことで計上したものになります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　そうすると、以前我々に説明していたにぎわいを入れると国から金が入ってくる。だからその様子を見るためにやめる、今回延ばすんですという説明は間違いであって、要は何メーター減らすかというシミュレーションができていなかったので、やっとそれができてきたので、これから漁協と交渉してそれをやりますというのが正しい説明ですということですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

その当時のことが間違ったものではなくて、にぎわいについても早急に、早急というか津波の防災対策プラスにぎわいの創出も含めて、６年度についてもできることからやるという考えは変わりはないんですけれども、まずはこの津波対策のところでできる部分、補助の上増しがあるかないか、現時点ではないんですけれども、そこにできる対策として必要なものの検討を実施していくために今回お願いしたものになります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　平野です。

吉田町にとって、津波対策というのは重要な事業ですよね。その中で、令和４年度からできたものを５年やらずに、要するに遅らせたわけです。

津波対策は、基本的にスピード感を持ってやっていきましょうという話をしているにも関

わらず、補助金欲しさに２年間延ばしたというような結果になっていると私は理解するんだけれども、それは違いますよという話なのか、そういうことですという話なのか、そこはどうなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

繰り返しになりますけれども、この令和４年度のときにこの法改正があるということは分かって、されるということで、その中で期待を込めてといったらちょっと語弊があるかもしれないんですけれども、その辺で法律改正と併せて同様に補助メニューができるのではないかということも推測していたんですけれども、現時点ではないんですけれども、そこら辺があるんですけれども、現時点でできる津波対策については少しでも進めたいということでやろうとしているものになります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　もうちょっと分かりやすく説明できませんか。

**○議長（大石　巌君）**　理事、佐藤慎一君。

**○理事（佐藤慎一君）**　佐藤です。

今年度やる事業を再度ちょっと説明しますと、ちょっと補助金、令和４年度にやめた話とはちょっと別なんですけれども、去年、昨年度までに検討した内容の構造物に関する概略設計を実施するんですけれども、最終的に町内に津波が入らなくするために必要な構造物の概略検討をやるということで、入り口を狭くするということもやりますし、概略検討やりますし、それ以外も含めてちょっと総合的に過去ちょっとやれなかったこともあるんじゃないかということを含めて検討したいと、そういうことを進めたいというふうに思っています。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　要は今年それはやろうと、令和６年度にやろうというお話ですよね。令和４年度も入ったか、多分入ったと思うけれども、令和５年度にはその開口部、港の津波を抑えるためには狭くしなければならない。じゃ、どういうふうにすれば、どのぐらい狭めれば津波は被害を抑えるか減らすことができるというシミュレーションをやったはずなんです。

でも、令和４年度と令和５年度予算をつけなかった、減額とつけなかった理由は、法改正があってにぎわいと防災を兼ね備えるとより有利な国庫補助金が出ますと。だから我々は事業をしばらくやらないんですと言っていたんです。でも、実際にやっているのはシミュレーションを５年度にやって、それで実際開口部35メーターなのかな、そこまで狭めることができれば抑えられるということが分かったとすれば、４年度やらない、５年度つけない、予算をつけなかったという話は法改正待ちではなくて、その結果をしっかりやるために事業は遅れますと、そう説明すれば我々も納得するわけです。

ところが、法改正待ちでいい補助金がありますので、ちょっと待ってください。それを取ったらやりますという話で、実際蓋を開けてみたら国の補助金は入っていないと、そういう話でしょう。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

その当時、補正、減額補正したときに、そういう補助金が出るのではないか、そういうこともあるのでということは言ったんですが、ありますとは答えていないと思います。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　結果はそうなったんだから、仕方がないですよ。これでやるしかないと私は思っているんだけれども、ここに至るまで、この経緯を踏まえて、その産業課なり吉田町として何か教訓を得たのかなと。実際重要な仕事が遅れた、今の説明どおり行って遅らせているわけですよね。遅らせて補助金をもらうぞと言っていたにもかかわらず、実際に県から50％出たわけだから、やろうと思えば令和４年度にできた事業を令和６年度に持ってきましたと。ある国の法改正の期待感で。それで実際はそうではありませんというのが結果だと思うので、この２年間遅らせたということに対して、自分たちの事業に対する考え方というものに対して何がしか学んだものがあるのかどうか。ただ我々は粛々とやって、ただ遅れただけですというふうに感じているのか、ここがやっぱりしっかり調査して物事を考えていかなければならないのかなとか、何か何がしかの学びはあったのかというところはどうなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　理事、佐藤慎一君。

**○理事（佐藤慎一君）**　佐藤です。

過去検討した内容で行きますと、今、入り口を狭めるということで話が進んでいると思うんですけれども、実際にそれで関係者と協議をするにはちょっと理論が足りないというか時期尚早ということがあって、町の中でいろいろ考えて、こういう方法も考えられるんじゃないかとか、そういうことを案として出しまして、来年、令和６年度につきましてはそのことについての概略設計をしていくということで、若干考え方をちょっと膨らませて、それも比較検討なんですけれども、結論ではないんですけれどもやっていきたいという流れになったということです。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

139ページです。担い手育成総合対策事業費というところの中で、これは前年、前年というかＲ５年度と比べても本当半額に近いぐらいの予算組みになっているかと思います。

そうした中で、139ページの経営開始資金と、従来あった初期投資促進事業費補助金というのがこれまではずっとあったわけで、これに関しては今のところ申請がなく、補正もあったんだけれども、申請があって、それが駄目になって、それで補正という経緯もあるんだけれども、今回全くそういったものが出てこないとなると、そういった制度がなくなったんじゃないかというような誤解を与えるようなことにならないのかというか、予算計上されていないのでそういうものは今年度ありませんよとなっちゃうのか。せめて頭出しで出しておくとかということはできなかったのかというところで。

現状申請がない中でつけなかったというのか、その辺のところ、周知も兼ねてお願いしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この経営開始資金、今回300万計上してあるんですけれども、これは２名の新規就農者に対する補助金になります。

先ほど議員がおっしゃった初期投資の基金については、今も制度としてありまして、前年度に、６年については５年度にエントリーがした上で、本人が新規就農と認められるのであれば初期投資として設備の投資をすることができるものでありまして、ここについては実際町、志太榛原農林事務所、あとＪＡ等々、その方と協議というか連携しながら本人がどうするか判断した上で計上するものであって、今回計上してありませんが、そういう方が出てくる、新たに設備を入れたいということであれば、あって条件に合致すれば補正なり対応していきたいと思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　そうなると、大体前年度に申請をして、次の予算に乗っかってくる。その年度途中で申請して年度中にということはほぼないという見込みでこういった予算を立てているということでよろしいですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この年度途中に出て年度内にということについては、そこは国・県の補助金、県経由でやっている補助金絡んでいますので、そこのところの状況を把握して、その状況によっては補正対応できるのであれば、年度末までに当然完了しなくてはならないので、その調整ができて予算も見込めるのであれば補正対応でしていきたいと思う。そこは県と調整になりますけれども、そういうことも可能であります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　もう事実がなかったら補助金として計上できないというような筋のものと理解してよろしいんですか。普通だったら、これぐらいの予算を持って、あと何人ぐらい来るかなというような見込みも兼ねてあると思うんだけれども、こういった補助金に関しては県云々絡んでいるので、もう申請がなかったら、前年度から、もう計上はしないんだよというルールの下にやっているということでよろしいですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

議員のおっしゃるとおりでございます。この例えばこの今回、経営開始資金２名新規の方がいるんですけれども、そういう方が今までエントリーしないよと言っていたんですけれども、急遽設備投資したいということであれば、先ほどと繰り返しになりますけれども、対応できるのであれば実施、補正なり対応していきたいと思っています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

次に、７款商工費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　146ページ、先ほど同様に７款の全体の話の中からお聞きをします。

商工費が、令和４年が１億4,618万5,000円、令和２年が１億2,413万円、本年が１億423万円、この順調に減ってきているんですけれども、その減ってきている理由というか、この中で見ていくと企業立地がかなりのウエートを占めているんですけれども、それが大体ここへ影響してくるとは思うんですけれども、そのほかに影響するものというのは、商工業自体がなかなかうまく行っていないというか、大変な思いをしていますけれども、何かその辺ではあるんですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

議員がおっしゃるとおりに、企業立地のところが占める割合が多くて、そこの部分が減っているものが主になります。決して商工業を衰退させるためにとか、そういうことは全く思っていませんので、しっかり商工会と連携してやっていきたいと思っています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　そういう話しているわけじゃなくて、こうやって順調に減ってきて、今言った明らかにできているものが立地条件、立地のあれでその状況であればいいんだけれども、全体的に下がっていてそれだけではないので、ちょっとその辺の心配というのか、どういう形での予算の編成が、内容というのはどうなっているのか、どうなっているのかねということを聞きたいんです。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

繰り返しになってしまうんですけれども、減っているところはやっぱり企業立地の影響、これも前年度エントリーで上げているものなんですけれども、そのところが大きく出ているものになっていまして、それ以外のものについては特に大きく減らしている、そういうものはないです。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　山内です。

聞いた理由は、今、吉田町の中である職種に関して、飲食業がえらい勢いで減っているんです。本当になくなってきたんです。そのときに、今その中でそういうものがあって、それに関して、そういうものに対しての応援できるものがあれば、理由がはっきり分かればそういうものができると。その辺のやつを、その辺のところをしっかり把握できていれば打つ手があると思うんですけれども、なかなかその辺が非常に困っている状況が今出てきていますので、その辺をどうですか、把握しているものはありますかということです。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

商工業全体で考えると、例えば商工会の会員とかは高齢化によってやめている方も実際いらっしゃって、減っている部分はあるんですけれども、町で補助金として出している産業振興補助金とかは新規で個人事業主、若い方が主、また脱サラしてやっている方もいるんです

けれども、そういう方については申請が増えているので、しっかりと応援していきたいと思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　山内です。

今、言ったのを聞いて多少安心ですけれども、そういうしっかりした分析はしてもらって、その上で何ができるかは、多分今言ったことがその考えて出てきた結論がやらなきゃならんことだと思うんですけれども、しっかりした分析をやって、そういう形での町の元気を取り戻してほしいと、そういうような趣旨ですので、その辺もまたしっかりとお願いをしたいと思います。答えはいいです。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　観光振興費、150ページです。

この中に、令和５年度予算では地域おこし協力隊業務委託料410万というのが入っていましたが、令和６年度はこれなくなっています。その事情を説明願います。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

この地域おこし協力隊、10分の10補助でできるものなので、十分活用していくことができればやっていくべきだと思っております。

今回計上していないのは、今、今年度までいた方については、年度で終了はしたんですけれども、したために今、不在という形になりますけれども、ここについては観光だけでなくほかの事業でもうまく活用できれば、また国として地域おこし協力隊増やしてやっていこうという国の考え方もありますので、そういう中でうまく活用できることがあれば、そこについては今後も検討していきたいところにはなっていきます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　企画課がいるものだと思っていたんですが、いないので、要は人が集められないというような、応募してくれる人がいないから採用できないだと思うんですが、その辺の状況というのはどうなのか、今後その確保できるような見込みというのはあるのかお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　理事、谷澤智秀君。

**○理事（谷澤智秀君）**　谷澤です。

地域おこし協力隊の件ですが、昨年度は観光ということで産業課のほうに計上していたというところがありますけれども、今現在、先ほど課長の答弁ありましたとおり今年度は今、予算計上していないという状況でございますが、こちらについてなんですが、今、町のほうでは業務、いわゆる地域おこし協力隊に担っていただきたい業務というのをもう一度再精査を今しております。

これまでも地域おこし協力隊を採用してきた実績もありますが、そこの辺の反省、反省というか改善点ですね。またどういったところにもっと活躍をお願いしたいのか、そこの辺を今、精査をしておりまして、今後業務を絞りまして、必要に応じて、そのときには補正予算

等をお願いをしていく形になるかと思いますが、今の応募業務を含めて今、精査。先ほどの今、応募条件という話もありましたが、こちらも含めてこういった業務なら皆さんから来るんじゃないかとか、その辺のいわゆるマッチングがうまく行けるように、今制度のほうを整えているところですので、そういうところで当初予算には今現在計上していないという状況でございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　夕方のローカルのニュースを見ると地域おこし、何とか市の地域おこし協力隊これだけ頑張っていますというような、もう顔出ししてしっかりやっている。そういうことができるように、テレビに映れとは言わんけれども、やっぱり吉田町をアピールして、アピールするだけじゃなくてその地域をしっかりと盛り上げていくというようなことができるような、要するに割と新しい感覚で吉田町をにぎわしてくれるという思いがあるので、そこはぜひ進めていただきたいと思うので、今おっしゃったような形で、可能なら６年の補正でそういうことができるように頑張っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

151ページをお願いします。

静岡県中部・志太榛原地域ＤＭＯ負担金、これ44万とそんなに大きくないのですが、コロナの関係でこのＤＭＯ関連、非常にやりづらいところはあったと思うんですが、コロナが一段落してこれからという中で、このＤＭＯ関連で負担金は出してはいるんだけれども、ある程度たまってきたのかなと。何かしら次年度、６年度計画があって、負担金もやっていきますよというのがあるようでしたら御紹介いただきたいですが。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

６年度につきましては、一つ小山城まつりのときにこの来場者調査、５年度もちょっとＤＭＯの方に来ていただいてやっている部分はあるんですけれども、６年についてはまた続けてくれるということで、そこについてはやっていくものになります。

また、５市２町連携して、このＤＭＯは５市２町でやっているものになりますので、その中でやっているものとして、吉田町の事業者が参加している事業、していない事業が幾つかあるんですけれども、５年度の実績でいうと茶氷だったり、茶氷という事業だったり、お茶を使ったするがヌーン茶の事業だったりというものについては町内事業者も参加しているものになります。そういうものが主になります。

あと、ＤＭＯ全体としましては、５市２町どういう、静岡県全体としてどういうふうにやっていけばもうかることができるかという調査分析等もしているものですから、そういうのをうまく活用できるように、このＤＭＯを使っていきたいと思っています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　とくに大きなイベントは、町内関連では予定はないというふうに理解はしました。

そうした中で、コロナが一段落した中で、今また外国人からの渡航というか日本へ観光で来る方が大分増えてきているというのが報道でもあるわけで、そうしたものも吉田町にいかに静岡空港を利用して引っ張れるかというようなことも、このＤＭＯの中には入ってきていると思うので、その辺の中で何か、せっかく負担金出している中で、吉田町年中何かしら引っ張れるものがあったら企画を出して引っ張ってくるというのがこれ非常に地元にとってもいいと思うんですが、そういった企画的なものに関しては一切するが何とか企画というところにお願いするだけで、各町、市町の、５市２町の中で提案ということをしていくという場はないということでいいんですか。

**○議長（大石　巌君）**　産業課長、山脇一浩君。

**○産業課長（山脇一浩君）**　産業課でございます。

このインバウンド、今まで全く動いていなかったものが動き始めている中で、このＤＭＯの中でも現在インバウンドに対するアンケート、各市町にＤＭＯからアンケート調査、どのように活用できるかということのアンケート調査がありますので、それを踏まえて検討、６年度ＤＭＯの中で検討して、どうできるかということを考えていくということで今、実施しているものになります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

再開は午後１時からといたします。

休憩　午前１１時５４分

再開　午後　零時５５分

**○議長（大石　巌君）**　皆さんおそろいですので、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員は11名であります。

次に、８款土木費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　治水対策の関係で、158ページ。

二つあるんですけれども、まず設計委託料で建設課でお聞きしたのは稲荷川と神戸川の排水計画の業務委託、事業、排水計画の業務委託料ですね。あともう一つの治水対策の関係では、維持管理修繕費が町内の４河川のしゅんせつということです。

まず、治水対策、先のことについて聞きます、神戸川と、稲荷川と神戸川の排水計画。

以前、地元の人たちの前でいろいろ説明していて、非常に助かったんです。そのときの話で、シミュレーションをかけますよと。あと、そのシミュレーションをかけたときの我々地元の人たちを含めて見ていないものですから、その辺についてはちょっと心配なんです。

できたら、本当はどういう形にしろやっていただけると非常に安心した形、せっかくすぐ動いてくれて、そして周りの人たちが20人、15人ぐらい集まったかな、見ていただいたんです。あれは本当に助かって、だからそのシミュレーションやったときのそういう結果というのはこれから、今回はもうしようがないけれども、もしやったときに見せていただくような、そうすると地元の人たち安心できますから、いい施策というか分かっていただける。その辺をどういう形でシミュレーションをやったやつはこれからは、今回は見せられないけれども、理由とかそんな、理由ありましたか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

今の業務自体は、令和５年度行わさせていただきました湯日川の治水対策のほうの業務になると思うんですけれども、議員おっしゃるようにシミュレーションのほうも行わさせていただきまして、こちらにつきましてはまた結果のほうを今後ホームページ等、そちらのほうで公表のほうをさせていただく予定でございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　あのシミュレーションというのをやっていただくと本当に分かりやすくて、それと、それと同時にそこに入ってくる小さな川なんてあるじゃないですか。そのやつが大きなものにもいたずらをするものですから、その辺がシミュレーションやったときにどういう形で出るか、それはぜひ説明というかしていただけるとあそこの人たちありがたいと思うんですけれども。

ちょっと以前よりもひどすぎますので、しゅんせつも、雨がちょっと降るとあそこの床屋さんの裏にしたりしても必ず退避なんです。毎回毎回。その辺のことも考えてもらうと、もうちょっと解消できるとありがたいなと思っています。

あとは、スリーエイドというがあるじゃないですか、スリーエイドという車の大きな町で融資した。土地を融資して、運送屋さんのところですけれども、あの辺も実はもうちょっと上げておけば、集落センターの西、床屋さんの裏側の、坂を上って急なところの用地ですよね。あの辺もやっぱりその辺の情報というのは最初出ていなかったらしいんです。その辺もやっぱりこらからやるに当たっては、いろんな問題を起こす前にそういうものは出してくれるような状況をつくってくれるとありがたいです。今回はそうですけれども、そういう状況というのはこれからの状況をどういうふうにするかというのをちょっと教えていただければと思います。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

今後また策定といいますか、その計画的なものをつくっていく中におきまして、その地元の皆様のほうから御意見等をいただかなければならないようなところがあれば、そちらのほうの御意見も酌み取っていくような形のほうを取っていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　これに関しては一応。

それともう一つ、先ほど聞きました治水対策の維持修繕、町内の４河川をということでしゅんせつのお話いただきました。

このしゅんせつがちょっといろいろ厄介で、前回も全部をやるわけでなくて部分的にやったときに、住んでいる人たちからすごい苦情が出るんです。うちの前で止めちゃったとか。そういう説明というのは、どこかで出してもらうとありがたいんですけれども、今までは出ていませんけれども、そういうのを出してくれるような状況は要求できるんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　細かい地域の説明ということではないんですけれども、工事させていただくに当たりまして、関係するところにつきましては工事事業者等が近隣にも御説明に上がらせていただくとかというところもございますし、あとまたうちのところで実際に工事で行うとき、これしゅんせつだけではないのかもしれませんけれども、通常工事の場合であれば道路の規制とかが必要になってくるとかという場合もございますので、そういうときには町のホームページとかＬＩＮＥ通じて周知のほうも今現在も図っているところでございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　それともう一つお願いしたのは、やりましたと、今回今度は４河川やるじゃないですか。４河川の、４河川やるでしょう。そのやつのどこかでここをやりましたという結果を出してもらうとありがたいんです。それをやってもらえると、そこに住んでいる人たち、住んでいる人たちはこれ来なかった、ここまで来なかったけれども今度やってねという要求等、生活に直接関わってきますので、その辺でまた要求を、そういう要求ができると思うんですけれども、どうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

町のほうで行いました工事の周知と、周知といいますかＰＲといいますか、実際にやったところの箇所がどういうところをやったかというところを町民の皆様にお知らせするということは、また町としましても町の事業を御理解いただくには必要なことかと思いますので、何らかの方法をちょっとまた検討していきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　159ページ、大幡川改修事業費。これ、平成26年か27年ぐらいから始まっていると思うんですけれども、繰越明許に関していえば年度内に事業を、予算を使う年もあれば、繰越明許で次の年に持っていく年もあります。

令和３年度からは、補正しては翌年、それを繰り返しているわけですけれども、なぜこのような予算組をするのかということに関して説明いただけますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

ここの事業につきましては、大窪川の改修工事というような形の中で、国の防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策、この中に盛り込まれているものでございまして、現状の今、令和６年度まで、この中で人命・財産の被害の防止や最小化、そういうような対策

としまして重点的かつ集中的に対策を講じる事業となってございまして、この中で早期の効果の実現とか工事の平準化、このような形の中で年度内の国の補正予算におきまして措置されてくるものでございます。

町におきましても、この補正予算に対応するために予算計上させていただきまして、事業進捗を図っているということになるものでございますけれども、補正予算対応という形にはなるんですが、こちらのほうが国のお金のつけ方がいいものになりますので、そういうところを町のほうも見ながら事業進捗を図っているというような状況でございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　国の補正というか、それで予算がついてくると。それに合わせてうちの町も補正して、その工事期間考えると次の年という話になるんですが、そもそものこの計画があるとしたら、要するに繰越し、繰越し、繰り越して先送りしているわけです。計画自体の遅れというのはないんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

計画の遅れといいますか、前倒しというわけではないんですけれども、国のお金のほうの活用をしながら進めているというような形になりますので、事業自体の遅れというような形、お金の部分について遅れというような形ではないです。

ただ、工事におきましては、工事現場の状況等によりまして、なかなか事業進捗、町のほうで見込んでいたよりも工事のほうができないとかという場合もございますので、そういうものにつきましては事業的に遅れてしまうというところもあるかとは思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　そうすると、この最終はいつまでこれを続けるということになるんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

こちらの工事につきましては、大幡川流域の工事というような形で計画のほうをさせていただいてございまして、こちらは令和20年度まで、ここまでの計画のほうを持っているところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑は。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今の箇所でお願いします。

今回この1,002万6,000円に関して、長さを聞いたら16メートルということですよね。それと同時に、20年間で富士見幹線の手前まで行くという話だったですけれども、大窪川ふくめたら。

こういう形で、私もこういう仕事をやって思うのは、一番かかるのが経費なんです。車を、大型車を動かすだけで１回約もう10万取られますから。そうすると、これだけの、16メートル、僅か16メートルを毎年毎年少しずつやっていくのは、本当にお金のロス起きているはず

なんです。そういう計画というのは、どういう形で16メートルこういくんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

先ほどすみません、ちょっと私のほう令和20年という話させていただいたんですが、すみません、令和16年です。それですみません、20年間の計画ということで、申し訳ございません。

今の議員の16メートルのというところがあるんですけれども、こちらにつきましては、今回の大窪川の本線のところとは別の支川の工事ということの中で、２か年、昨年度、本年度合わせての工事で、一応令和、すみません、来年度ですね、令和６年度までの工事ということでそこのところを一応終了する予定で今、計画のほうを進めているところでございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　多分、建設課の工事は分かっていると思いますけれども、何年か前、台風19号、すごい台風が、大雨が降ったときあったでしょう。あのときに一番困っていたのは、あれから上だったんです。農家の方の切った麦わらが自彊小学校の一体全部埋まっちゃって、すごい大変な思いをした。それは、ひとえにこの治水の対策が、まだそこまで恐らく想定していなかったと思うんですけれども、そういうのも含めて一番我々の同級生が農業やっている人たちが結構いるんですけれども、彼らが困っているのはあそこの上、富士見幹線から上でやっていて、河川が小さくてとにかく排水できない、水が排水できない。水が排水できたときに、隣のうちのいっぱいわらが入っちゃうとか、すごいあれを持っているので、リスクを持っているんです。

そうすると、こういうやるときに、どういう調査をすれば、当然調査を依頼してやるんでしょうけれども、どういう調査をしてどこまでやるかというのは決めていくんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

まず、どのような工事の計画をしているかというところにはなるんですけれども、こちらにつきましては準用河川の大幡川水系の河川改修工事という中で、26年度から令和16年度までの20年間の工事という中で計画のほうを組ませていただいてございます。

こちらにつきましては、関係する河川のところ、どのような形で改修していけばいいかというところも含めて調査をしながら。その中で何年計画でできるかというところも踏まえて、全体事業費がどれぐらいかというところも含めたもので計画のほう策定していくものでございます。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今の言った調査しながらということで返事いただきましたけれども、今、今北区の富士見幹線の上、あの辺がもう物すごい開発で、住宅、商業地域でき過ぎて、恐らく目に見える形であふれてくるのが分かるんです。

そうすると、20年じゃなくて早くやっておかないとあそこの人たちの一帯が恐らく新しい洪水のが出てくると思うんです。そうしたときにもっと大変な思いをすると思うんです。当然実際を見ながらということになると、幅を広げないと無理なんでしょうけれども、その辺も含めてどこかで説明をしていただいて、あそこの人たちの、住んでいる人たちの、なんですか、安心感であるとか、とにかく遊水池はほとんどなくなってきましたから、そういう勢

いでもっとやっていただきたいのと、それとそのときにはシミュレーションを、シミュレーションをかけて、またそういう形での確実な方法をこういう金額の中で入れていただきたいと思うんですけれども、その辺はいかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　今後の周知といいますか、どのような形で広報していくかというところの話にもなってくるかとは思いますけれども、こちらにつきましてもまた町のほうで、どのような形のものが住民の皆様に安心を与えるかというところも考えながら、方法をまた検討していきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　162ページのＴＯＵＫＡＩ－０についてお聞きします。

いろいろ皆さんが聞いてくれた中で、ＴＯＵＫＡＩ－０の件数がこの見積もりの中では2,200万円、2,000万円が耐震一体化型の工事ですね。そして言われた高齢者用が200万ということです。すごいハードルが高いと思うんです。大変な思いをするんじゃないかと思うんですけれども、課長の先日の説明では、熊本地震の後に19件ということで、あのときもよくたくさん、我々も頑張ったとは思うんですけれどもスタッフ、建築士さんも含めたスタッフ、それが今度やっていくときに本当にできるかなという心配をしているんです。

皆さん慣れていますから、そういう面でその辺の、何というのかな、確信を取りながらやっていただきたいな。その20件に対してはすごい大変になると思いますけれども、これからその20件に対して、熊本のときはそうですけれども、今回はどのような形でそれを消化していくか、できるだけ多くの人がやらないかん、やっていただきたいと思うんですけれども、どうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

ＴＯＵＫＡＩ－０につきましては、それこそ今年度の１月１日に起きました能登地震で、既に今もう反響が出ている状況です。

そういう中で、やっぱり建築士さん、耐震補強相談士の方でも、もう既にやりたいという方も聞いています。ですので、その年度始まってできる限り耐震補強相談士さんの皆さんの御協力を得ながら、スムーズに開始ができるようにとは思っていますが、何分その耐震補強相談士さんも一緒に打合せ会等をやっていますので、その進捗状況を確認しながら進めたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　ＴＯＵＫＡＩ－０が６年、来年、６年度かで、７年度で終わりますよね。その後は先ほど町長の施政方針にあるように何らかの形で進めていっていただけると、非常にありがたいことですけれども、その辺がまた細かいですけれども、分かったら教えていただきたいことと、それとあと今これから増えるときに、今度の地震含めて、吉田町に結構あるんですよね。さすがに改修率がこれほどあるとは思っていませんので。

それで、そのやっていただきたいのは、今までの中でやったら補助金が50万、60万のとき

の人たちはもう断念をしているんです、その段階で。今回これだけ大きな金額出てきたものですから、20件を目標にするに当たってもう一度掘り起こしというか、そういう形をもしやれれば、このＴＯＵＫＡＩ－０の意味がまた膨らんでくるんじゃないのかと。そうすると、やっぱり20件というのはできないことではないと思うんです。この辺のこれから件数増えてきますから、それに対して都市環境課のほうではどんな形での形に絞っていますか。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

このＴＯＵＫＡＩ－０の周知に当たりましては、戸別訪問をさせていただきます。これまでもわが家の専門家診断だけで、実際工事に踏み込めなかった人たちも、実は戸別訪問は行っていただいていますので、そういった戸別訪問と、県のほうで行っていただいているダイレクトメールも活用しながら、そういった我が家の専門家診断で諦めた方につきましても周知図ってまいりたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　最後にしますけれども、この目的というのはあくまでも地震から人を、即死をする人をできるだけ減らそうという目的ですので、その目的に沿った現実的な対応をしていただきたいなと思います。

それと、やっぱり一般質問でもしましたけれども、７プラス以上で65歳の単独で住んでいる人はやっぱり本当に日本、吉田町も多いです。そこは一番のターゲットになるじゃないかと思うんですけれども、ぜひその辺の、ＴＯＵＫＡＩ－０はＴＯＵＫＡＩ－０で事業ですので、地震対策費であるとかそういうものはまたどこかで考慮してもらってやっていただきたいと思います。それがやっぱり本当に助けるための方法はもうそれしかないと思いますから、そういう意味ではその辺ちょっと何か返事がありましたらお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

議員のおっしゃるとおり65歳以上の方、やっぱり高齢者になりますと、その耐震改修をしてまでというところがやっぱり意見としてあります。そういう中で、やっぱり戸別訪問でしっかりまずは説明をすると。これまで、最初にやられた頃は本当に50万とかという少ない金額でしたが、今はもう100万円でると。高齢者になりますとプラス20万円出るということの中で、やっぱりその耐震補強をしていく手段を何とか見つけていただくと。それがかなわない場合につきましては、やはり耐震ベッドでありシェルターというものがありますので、そちらも一緒に周知させていただいていますので、それでぜひとも命を守るような対策をしていただきたいと考えています。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに。

１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

今のＴＯＵＫＡＩ－０関係でございます。

今の議論を聞いていたら、建築士の方々も大変だというような話も出たので、そこら辺ちょっと確認をしたいんですけれども、私は今回この予算、ＴＯＵＫＡＩ－０わが家の専門家

診断事業委託料、これが40件から60件に増額していますよという説明も聞いているんですけれども、今回の能登の地震もあったということで最大のチャンス、やっていただくには最大のチャンスで、それをやっていくことでまた町民の命を救えるということを考えたときに、私の思いとしてはこんな少なくていいのと、今回チャンスだったから、もっと町民に喚起するよというような意気込みを見せていただきたい予算を出してほしかったなというふうに正直思っているんですが、そういう中で先ほどの議論で建築士の人が大変になっちゃうだどうのという話も今お聞きしたので、そこら辺はどういうことであれなのかというか、本当のところをお聞きしたいのと、できれば本当に戸別訪問もやっていらっしゃるの知っていますけれども、そういった中でまだ吉田町にも1,290軒まだあるんですか、木造のあれが。そういったところの中でも、その中の１割とか何割かはもう耐震診断までは絶対やってもらうんだというぐらいの意気込みで補正をしてもらうぐらいの気持ちを持ってやっていただければありがたいなと思っているんですが、そこら辺の意気込みも含めて御答弁いただきたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　都市環境課長、鈴木　久君。

**○都市環境課長（鈴木　久君）**　都市環境課でございます。

このＴＯＵＫＡＩ－０につきましては、これまでのやっぱり、先ほどもおっしゃいました耐震補強もそうですが、わが家の専門家診断もこれまでの地震によってやっぱり次の年とかというのはやっぱり多くなっているような状況がございます。

という中で、最大でも60件まで行っている年はないというのがあって、一応60件ということにさせていただいていますが、県のほうも少し金額を上げるというふうに聞いています。そういう中で、早々に今ある耐震補強、わが家の専門家診断の、今もうやりたいという、来年度やりたいという話も受けていますので、その見通しによってできる限りお受けしていきたいと考えています。

県のほうも、その補正につきましては県内で調整すると言ってくださっていますので、できるだけ早い段階で分かりましたら、できるだけ多い金額で件数やれるように努力していきたいと思います。

また、それにそれこそ耐震補強相談士が今８人町内いらっしゃる中で、先ほど申し上げましたとおり現場もどれくらい抱えられるのかというのもありますので、そこは耐震補強相談士の皆さんと会議をしっかり持っていますので、そういったのを調整しながらしっかり進めていきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

ぜひ、パンクしちゃってもそれはしようがないというのは当然のことでありますけれども、何よりも耐震診断をやっていただくことが重要だろうというように思っておりますので、うまく調整をしていただいて、もともと何かだから、今回の地震が終わって反応、問合せが19件とか何かいろいろあったと。それをその分乗っけていますよみたいな説明をまた受けているので、それだけじゃちょっと少なくないというのが私の感じたところでもあるものですから、今の御答弁聞いてやる気だなということで意気込みを感じましたので、ぜひ補正もたくさんつけていただいて、倍増していただくようにお願いをしたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　166ページ、能満寺山公園整備事業費です。

公園用地として946万6,000円が計上されています。今回の用地購入で、町の考えていた駐車場の敷地の全部買えるのか、何％ぐらい買えるのかというところはどうなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

今、町のほうで考えている駐車場の用地というのは、約1,700平米あります。今回、そのうちといいますか、既にもう用地のほう購入させていただいている、御協力いただいている方もございまして、今回につきましては残りになります約500平米、こちらのほうの用地の費用ということで計上のほうさせていただいているところです。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　そうすると、今年度に土地購入すると、もう来年度には整備して、７年度ぐらいにはもう使えるようになるという理解でよろしいんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

用地のほう御協力していただいた後の今後のスケジュールというところになるんですけれども、これにつきましては令和７年度におきまして、その駐車場を整備するに当たっての設計のほうをさせていただきたいと思います。その後、事業のほうの着手ということで考えてございますので、予定では令和８年度に完成をしていきたいということで計画のほうをさせていただいてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　町民も期待大きいわけです。上っていくよりも駐車場でばっと行ってすぐ入れる。７年度に設計して８年度から、一緒にやれないのはなぜ。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

まずは、用地のほうがまず確定していないというところが１点ございますのと、あとはその後、用地確定した後にその場、実際にどのような駐車場の配置をするかというものも、町内部でも検討しなければならないところございます。そういうものを検討した後に工事というような形を考えてございますので、現状今のところですと２か年、測量、その後に工事というような流れで進みたいということで考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　そこも確認ですけれども、そうすると町民に今度土地買うらしいけれどもいつから使えるんだと、駐車場になるんだといったら、８年度からと言ってもいいということでいいですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

今、私どものほうといいますか町のほうで考えているのは予定ということになりますので、必ずしもじゃそのときにできるかというような話をされますと、それに向けて町のほうは努力していくということしかちょっとお答えのほうができなくて申し訳ありませんけれども、そのような形で進めていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

165ページ、公園維持管理費の中の修繕料です。

公園の設備の中で修繕料ということが上がっているんですが、内容確認していないのでちょと申し訳ないんだけれども、優先順位、これまではトイレの修繕であるとか遊具の修繕というのが結構来ていたんだけれども、その優先順位というものがもしあるんでしたら、まず教えていただきたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

こちらの遊具に関わる、すみません、修繕費のところになるものでございます。こちらの公園のほうの中の修繕という形になりまして、議員おっしゃるように公園の中のどういうものを修繕していくかというような形にはなってくるんですけれども、これの優先順位的なものにつきましては、まず今回載せさせていただいているのは遊具の改修も一つの中で載せさせていただいてございます。

この中に、遊具点検も毎年点検のほうをさせていただきまして、その中で不具合が発生しているもの、早期に改修していいものというものもございますので、そういうものを優先的に改修していくと。

そのほかに、来年度におきましてはトイレの改修、洋式のもの、すみません、和式のものを洋式化するというようなものも考えてございまして、そういうところを整備のほうもしていきたいというところで考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　過去、自分もやっているんですが、前期かな、同僚議員も聞いているんだけれども、親水公園、湯日川親水公園、あそこももうずっと長いこと使えない施設があったりして、そういうところには全然手がつけられない。修繕費は上がってくるけれども、まずは遊具、トイレという方向に行ってしまっているんだけれども、一応あれも遊具ではないかもしれないんですが、一つのあれだけの公園の中のものが壊れたままでずっとあるというのが、もう本当に長いですよね、期間的にも。あれは優先順位の中に全然入ってこないということでよろしいんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

今おっしゃられた議員のお話で、湯日川のところの改修でなかなか手がつけていないというところがあるというところのお話でございますけれども、こちらのほうも優先順位的なも

のというようなところをどうしていくか、つけていくかというところも確かにあるんですけれども、まず壊れている、破損している部分といいますか壊れている部分につきましてはかなりの金額のほうがちょっとかかってきてしまうというところもございまして、それにつきましてはまた補助とかそういうものをどのような形でちょっとうちのほうが取ってくるかというところもありますので、そういうものも考えながら整備のほうをしていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　じゃ、壊れていようが何しようが、補助がつかなかったらやらないよと今、言っているのと一緒なんだけれども、それで本当いいんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

補助がつかないからやらないとかというわけではないのですけれども、限りある財源ございますので、そういう中をどういうようなものにやっていくかというところ、ちょっと町のほうでといいますか、こちらのほうでもどういう形で計画を立てていくかというのはさせていただきながら進めていきたいというふうに思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　くどいようですが、本当にもう長いこと言っているんです。一般質問でもやっているし。そういう中で全然動かないというのは、もうよそ向いていると思うし、もう町としてはあそこの公園は別に手をつけねえぞというふうに思っているんだな。だったら取っちゃえよ。今ある工事中に、工事中というか壊れているから使えないような囲いはしてあるけれども、そんなもの取っちゃって、もう本当に壊しちゃったらどうだと自分は思いますけれども、あの維持本当にする気があるんだったら、ちゃんとやっていけばいいと思うんです。あまりにも長い期間放ってある。これちょっと問題かなと本当にずっと思っているんですが、修繕費見れば上がってきてこない。聞けば何かしらの補助メニューがあればどうのこうのと言われると、やる気はないんだなと思ってしまう、正直。

ちゃんと計画を立ててやろうと思えばできるのかなと思うんですが、その点いかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

計画のほうを立ててというお話ございまして、そちらにつきましても、もちろん町のほうも何もなくということではできませんので、計画を立てながらどのような形でやっていくかというところはまた検討していきたいと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　よろしいですか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　もうずっと検討中だと思います。そろそろ何かしらのことを示していただきたい。ずっと検討中ですよ。その辺いかがでしょうか、副町長。

**○議長（大石　巌君）**　副町長、田村安正君。

**○副町長（田村安正君）**　御指摘の親水湯日川公園ですか、具体的にはちょっとまだ私は認知していないところあるんですけれども、いずれにせよ町といたしましても計画的に進めていっている部分ではありますので、そういう中でどのように取り組んでいくかというのは、いわゆる町民の方、もしくは議員の方とキャッチボールしてやっているつもりでございますので、そういった意見があればぜひ聞きながら進めていきたいと思います。

ただし、程度とか、それから予算、前の会議でもございましたけれども、この町に来まして、やはり我々職員が財源をいかに確保していくかというところを非常に神経をとがらせて、前回の、午前中の質疑でもございましたけれども、みんなで単なる徴収税だけではなくて、国・県並びにそれ以外のところからもいろいろ予算を、いろんなところから情報交換しながら共有して集めて、絞り出して予算を確保しておりますので、そういったところもぜひ御理解いただきながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑ありませんか。

１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

157ページの橋梁維持補修費についてでございますが、これ見ると今回の予算で１億5,800万余上がっております。

これ振り返りますと、令和４年が9,000万余、令和５年が１億1,000万余と、そして令和６年度としては１億5,000万の、１億5,800万余というようなことで、ここ３年間だけですけれども、見ると年々大変増加しているということで、橋梁の補修、修繕等が進んでいるというような認識をしておりますが、そのように数字が上がってきているものですから、それで今、橋が実際要修繕が、補修がまだあと25あるというふうに聞いております。

そういった中で、今回の予算で、町長のお話からすると五つの橋の補修を実施するというような予定のようでございますが、これこれから先の見通しというか、どの程度のスパンで修繕が行われる、行いたいと思っていらっしゃるのか、それとまた予算のこともどれぐらいまで増えていくか、もしくはある程度これぐらいのところを維持しながらというようなところのお考えもお示しいただきたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

今、町のほうが管理します道路橋の老朽化に伴う損傷とか劣化、これに対応するために町のほうで行きますと吉田町橋梁長寿命化修繕計画というものを策定してございます。この計画に基づきまして、令和10年度までの計画を持っているわけですけれども、これに基づいて事業のほうを進めていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　ありがとうございます。

その計画に沿ってというのは分かるんです。あと、これは国の予算も当然入ってきてやっている事業ですので、単独ではなかなか全部やり切るというのは難しいことだとは思いますが、そういった中でさっきと繰り返しになりますけれども、予算的に大体今１億5,000万ぐらいを維持しながらやっていきたいぐらいの考えでいらっしゃるのか、まだここ数年はもうちょっと増えていくよという可能性があるのか、その辺の見通しがもしあれば教えてくださ

い。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

橋梁、各橋梁ごとの修繕度合いといいますか、度合いが違ってくるところがありますので、ちょっと一概には言えないんですけれども、基本的には平準化するような形を取っていきたいというふうに考えてございまして、現状ある金額ベースぐらいを10年ぐらいまでの間、実施のほうをしていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　なければ、これで質疑を終結します。

次に、11款災害復旧費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これで、ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員を入れ替えて行います。

休憩　午後　１時３４分

再開　午後　１時３６分

**○議長（大石　巌君）**　休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員は11名であります。

次に、９款消防費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　173ページから174ページの地震対策費です。

令和５年度の予算では、津波浸水想定業務委託料502万7,000円が入っていましたけれども、これでどういうことが分かったのかということと、令和６年度の予算にそれの結果を基に進めていく事業というのがあるのかないのか、その辺をお願いいたします。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

今年度実施させていただいておりました吉田町津波遡上シミュレーション業務委託でございますが、これは２月29日にその業務を完了しまして、既に成果品のほうは受け取っている状況でございます。

この今年度実施した業務の内容としましては、以前もちょっと説明させていただいたことがございますが、一級河川大井川及び二級河川坂口谷川におきましてＬ２津波対策を進めるという中で、どの程度の規模の津波がどの程度の範囲で遡上するか把握するために実施させていただいたもので、その結果としまして今、Ｌ２津波が遡上高、上り高と現況の堤防高の

比較というものは実施できております。

議員おっしゃいましたように、今令和６年度にはこの河川のＬ２津波対策に関する予算の計上は今してございません。今年度実施したこの業務において基本設計、基礎資料の作成も実は実施しているんですが、今後整備を進めるための流れや検討事項を整理してございます。

今後の流れでございますが、今シミュレーションが終わりましたので、これは今後もう少し職員で分析というか検証していくんですけれども、それを踏まえた上で予備設計とか関係機関協議をやっていきたいと思います。その後、測量調査、あと詳細設計です。それが終わった後に、もし用地が取得が必要となれば用地取得して、その後に工事というか施工という流れになります。

今後は、この最初にやる予備設計着手に向けてシミュレーション結果の分析や課題を整理する予定でいまして、また河川管理者、関係機関との調整も開始していきたいと考えております。

この予備設計の中では、基本事項といいまして基礎検討、のり覆工とか護岸のことですが、関連構造の検討や図面作成、概算工事費の算出などやっていくわけですが、前段としてまだ準備することがございますので、今年度はそれをやりたいというところで今、予算の計上はございません。

また、同時に今年度につきましては住吉工区など海岸のところのＬ２対策を先に施工、着手したいということで、今そちらの予算を計上させていただいていますので、河川につきましては、これから今年度の業務委託の成果を基に分析のほうはしてまいりますが、今予算を計上しているものはございません。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今のお話を聞いていると、結論とすれば大井川も坂口谷川もかさ上げしなければならないという結論が出ましたという理解でよろしいんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

一級河川大井川、二級河川坂口谷川においても全く影響のないということはございませんので、何らかの対策は必要となってございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　それ吉田町は全周防御ということを考えてそれをやっていこうということなんですが、大井川、坂口谷川なんかを考えると、向こう側、焼津、牧之原、それはもう放っておいて、吉田町で単独で県と交渉するなり国と交渉するなりで進めていくという方針なんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

議員おっしゃられますように、大井川の向こう側には焼津市さん、坂口谷川の向こうには牧之原市さんございます。全周防御ということで吉田町を囲えば、影響はなくはないと思います。

当然ながら、一級河川大井川につきましては管理者は国になりますので、河川を進めるの

は国、坂口谷川につきましては県という。また、両市町にもいろいろと関連ございますので、そこは話をしながら、吉田町はまずそういう方針を示しているといった中で協議をしながら進めさせていただきたいと思います。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかにありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　じゃ、174ページの防災意識向上事業です。

防災意識向上事業費は1,541万4,000円計上されておりますが、そのうち1,277万6,000円は防災公園指定管理委託料です。それが全体の83％を占めている。地域防災指導員養成講座委託料58万8,000円、これ４％に満たない。

防災意識向上事業と銘打ちながら、ほとんどは防災公園指定管理委託料になっている。それが防災意識向上につながっているかどうかという話に関しては、つながっていますという答弁を今までずっとされてきていました。

今回は、元日に能登半島の地震があって、防災意識の向上をさせるにはチャンスの年だというふうに理解しておりまして、この予算上は現れてはいないけれども、要するに防災意識を上げていくんだというような施策とか、それはありますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

まず、今、議員御質問の防災意識向上事業費の来年度当初予算に反映させていただいている内容につきましては、今、議員がおっしゃられましたように金額、議員がおっしゃられましたとおり金額から見ればそのほとんどが防災公園に係るというところでございます。

もう少し、ちょっとこの内訳のところで説明させていただきますと、この中、町民の防災意識向上につながる事業は逆に何かというところを先に挙げさせていただきますと、まず一つ目には防災講演会の開催、これは講師料とかという予算を上げさせていただいていますが、これは住民向けの防災に関わる講演会を開催する。これは例年やっているもので、来年度も開催させていただきたいと思っています。

また、ふじのくに防災士養成講座の受講ということで、これは地域防災員を養成するというところで、令和５年度においては15名の方に受講していただきまして、８名、うち女性が４名ということで地域防災指導員に認定のほうをしてございます。

また、地域防災指導員養成講座、これも吉田中学校１年生を対象にジュニア防災士養成講座、令和５年においては242名が認定されているわけなんですけれども、これも来年度も継続していきたい。

また、地域防災指導員フォローアップ講座、こういったものは今、予算で計上している中の内容でございます。

また、予算に見えてこない町民の防災意識向上につなげるために様々な活動を今年度も実施のほうをさせていただいております。

ちょっと代表的なものを上げさせていただきますが、まず一つ目は防災訓練でございます。御存じのとおり、９月３日に総合防災訓練実施させていただきました。ちょっと今年度のところになるんですけれども、新たな取組としてデジタル技術を活用した訓練等を実施させていただいています。

また、先日３月10日、津波避難訓練実施させていただきましたが、参加者が5,656人ということで、昨年の3,794人からすると約1.5倍になっていますので、やはり今この辺は能登半島地震の影響で町民の意識も高まっているというところが見えたところです。

これを機に、町としましても新たに安否確認の報告訓練を取り入れたり、携帯トイレなどの記した防災備蓄品掲載チラシの配布を実施させていただいています。また、津波避難タワーのほうではペット同行避難をされる方もいて、だんだん町民の防災の意識も高まっているんじゃないかなというふうに思っています。

このように、また研修出前講座としましては、いろいろな自主防災組織向けの、学校向け今までもやってきまして、令和５年度は特に福祉関係者向けということで介護事業所向けの防災研修を実施したり、福祉のまちづくりボランティア講座、また住民主体のディナーサービス向けの出前講座なども新たに実施してやっていますので、そういったものもまた来年継続していきたいと思います。

また、啓発活動としましては、この３月に広報のほうに防災特集ということで３ページほど掲載のほうをさせていただいていますので、こういうのも重ねながら、予算には見えてこないんですが、町民の防災意識を高めるような事業を様々展開していきたいと、そのように考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　先ほどの答弁の中にも、その総合防災訓練、地域防災訓練、要するに防災訓練の話が出ていまして、私思うに防災訓練をやるときに、各自主防災会から計画書というのを出させますよね。ほとんどノーチェックじゃないかと思っているわけです。

今年こそチャンスなんだから、上ってきた計画しっかり精査して、各自主防災会ともう防災課で話し合って、その防災訓練の意義とかそういうものを、書面だけじゃなくて直接話して、より有意義な防災訓練にしていくというようなことを進めたらどうかと。

そうすると、今、機運も上がっているから、まず自主防災会がいかに人を集めるかというのを工夫してもらわないかんけれども、実際に来たら非常に勉強になったというような気持になって帰っていただくような、そういう自主防災訓練をやれば、やっぱりその意識を上げて、それを２回やれば大体差があるところが食い止められると。それを毎年よりレベルアップを図っていくと、今の昔の東日本大震災から下がってきたのをまたちょっと上がったところをいかに維持するかということができると思うので、できたら自主防災会への計画を提出させた、まずは説明するんですね、防災課が。どういう訓練をやるということをしっかり説明して計画書を上げて、そこに対する時間を取るためにちょっと計画としては前倒しに進めやって、できればその計画を基に自主防災会と話し合うという機会を持ってレベルアップを図っていくということをやってもらえたらなと私は思っているんだけれども、それに関して何か御意見ありますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

まさに今、議員おっしゃられましたとおり、やっぱりまず訓練をしていくというのがやっぱり一つでございます。その訓練も有意義なものでなければいけないというところで、計画立てるだけではなくてその検証も必要でございます。

町としても防災課としても、その計画を立てていただいて、決して見ているだけではなくて、先日の津波避難訓練もちょっと現場のほうをちょっと確認させていただいたりして、こういうふうにやっていただいているんだというところをちょっと感心したりしているところもございます。

ちょっと自治会の中には、ちょっと避難所部長ということで新しい組織をつくってやっていきたいという意見も聞いたりもしています。

やはり、今回の能登半島地震を踏まえていろんな課題が見えてきたんですが、やっぱり一番大きいのは避難所運営というところではないかと思います。これまでも防災訓練で避難所の開設訓練とかはやってきたんですけれども、まだまだやり方が手ぬるいというかまだ実践向けではないものですから、本当に今、議員おっしゃられますように、本当に役場だけでできるものではございませんので、自治会の方、自主防災会の方、地域の方を一緒になってそういった避難所運営を含めた訓練のほうをしていきたいと思いますので、またいろいろ一つずつ取り入れながらやらせていただきたいと思います。そのように考えております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　なければ、これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午後　１時５０分

再開　午後　１時５３分

**○議長（大石　巌君）**　休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員は11名であります。

次に、10款教育費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

200ページ、社会教育総務費、委託料、公衆無線ＬＡＮ整備等業務委託料296万9,000円についてお伺いします。

来年度、町立図書館、それから吉田町総合体育館、そして学習ホールへのいわゆるフリーＷｉ-Ｆｉの設置ということでございました。いいことだとは思っております。

まず、この町民にとってはやっぱり使いたいという方が、ニーズあると思うんですが、この設置ですとか運用開始の時期、順番、このあたりをお伺いします。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

今、議員おっしゃられましたフリーＷｉ-Ｆｉの設置、学習ホール、図書館、総合体育館、この３施設につきましては来年度整備のほうを行うということでありまして、今の予定です

と２月頃をめどに完了のほうをさせたいということで計画のほうをしております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

今のお話だと、じゃ２月まではそれぞれ順次できたところから解放していくわけではなくて、２月以降、２月というのは来年の２月ということですよね。そうすると、もう供用開始自体は結構年度末というか、年度内にはやりたい、あるいは翌年度まで延びちゃう、これはどちらになりますか。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

６年度事業ということで考えておりますので、来年、令和７年２月完成ということで、そこから運用のほうを開始したいというふうな計画を持っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　その件については了解しました。

それで、学校の関係のＷｉ－Ｆｉでいいますと、ちょうど３年前に学校のＷｉ－Ｆｉ、これは教育用で非常に生徒とか、あと教育関係者がその地域で、その学校内で使うという意味でのクローズドのものではあるんですが、今回はフリーＷｉ－Ｆｉなので、そこに利用したい方がパスワードさえ登録すればというところで、ちょっと性質が違うものだと認識しています。

３年たっているんです。３年たつとかなり性能ですとか、例えば機械が要するに今情報量などもすごく多いものですから、そうすると３年前に学校に入れて今稼働しているものとこれから入れていくものというのは、例えば仕様の細かい部分はいいんですけれども、例えばＢＰＳと呼ばれる回線速度ですとか、あるいは同接と呼ばれる同時接続の容量ですとか、その辺は何か変わりがあるというか、吉田町はこういうものを入れるよというものに言及いただきたいです。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

今、設置しようというものに関して業者のほうからお見積もりをもらって、何個設置するということで計画のほうをしてございます。

学習ホールにつきましては、新規に四つのアクセスポイントを増設、観客席、それから後ろの控室等まで使えるというところであります。図書館につきましては３か所ということで、２階の学習室、一般図書、児童図書フロア。それから、総合体育館については８か所のアクセスポイントということで、アリーナ、観覧席、トレーニング室等々という計画を持っております。

一つのアクセスポイントで50人接続可能というところまで把握している状況です。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

今のお話だと、広いものですからアクセスポイントを増やして、かなり高速な快適な環境

で使えるものだと思いたいです。

もう一つ、これはお願いといいますか、Ｗｉ－Ｆｉ、フリーＷｉ－Ｆｉを活用するときに、その場に行ってＷｉ－Ｆｉの設定というかパスワード設置みたいなものが必要になってくるかと思うんですが、その場所場所によるんですけれども、聞かれなかったから教えていないとか、あるいはそもそも入っていることを言わないとか、こっちから聞かないとＷｉ－Ｆｉを使えることを教えてくれないという状態は、行政としてみれば望ましくないので、使えるようになりましたよというところと、後はその場にいる方がこれを入力すれば、次から何回も利用する方は特に、あるいは町外から来ている方は自動接続ができるような、そういう表記とかアナウンスをお願いしたいんですが、それについては課としてはどのようにお考えでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

現時点においても、総合体育館等に設置されている箇所がございます。ロビー、１階のロビー、２階のロビーで使用のほう可能ということになっておりますので、全館ということであれば、また利用者の皆さんに分かりやすく周知するような方法、例えば端的にＷｉ－Ｆｉ使えますよというのを壁に貼るであるとか、そういったのを丁寧にやっていきたいと考えます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

そうですね、総合体育館はロビーだけが今アクセスができるけれども、体育館の中に入って競技のフィールドの中だとなかなか使えないのが、今、今回から使えるようにしたと。恐らく図書館ですとか学習ホールに関しては、いろんな場所でも常に快適なものが、利用者にとっては通信料としては無料でという形だと思いますので、期待したく思うんですが、一つ社会教育施設へのＷｉ－Ｆｉ、フリーＷｉ－Ｆｉ設置に関しては、ちょっと見解を伺いたいんですが、今回三つのものを整備するというところだったんですが、中央公民館です、中央公民館は社会教育施設として、例えばいろんな方が講座を行ったり講演を行ったり、ときには催しを行ったり会合を行ったりするわけです。そこにフリーＷｉ－Ｆｉ置いていただくと、かなりいろんな方が、直接参加できなくてもオンライン参加したりとか、オンラインで見たりとか、あるいはインタラクティブ、双方向の通信的なもので非常に、何というんですか、やれることが広がる、利用者も利用価値がある、高まる、利用者も広まる可能性があると思っているんですが、今回のその選定の中には、この中央公民館というのは入らなかったのはなぜでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

御質問の中央公民館の設置につきましては、現在インターネットを活用していただくために、１階のホール、それから２階のＩＴ講習室、その隣の研修室に設置のほうをしております。既存としては設置してあるという中で、今、議員おっしゃられた講座であるとか各生涯学習教室で利用のほうをしているという状況でございます。

主に、講義での参考資料の紹介、あとパソコン教室とかスマートフォンの使用の教室等々

もやっておりますので、そういったことで現在そこの中で使用しているという状況でございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

中央公民館にＷｉ－Ｆｉが入っていることを私が調査不足で知らなかったのもあるんですけれども、今のお話だと全館というわけではなくて、例えば階層によって利用できない階もあるという認識でいいんですか。それを例えば今後、増設していこうとか、あるいは今のままでもうちょっと止めておこうとか、そのようなことに対してはどうお考えでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　今後の設置のことでございますが、インターネット環境の充実とか拡充ということに関しましては、今現在、講座であるとか教室等やっておりますので、そういった方々の使用状況等を踏まえた中で、または財源の確保なども含めまして、いろんな可能性を調査しながら検討してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

財源の話も出ましたので、最後に一つ、これ教育費の中での今回は予算という形になりますけれども、Ｗｉ－Ｆｉ設置という観点では、執行部の方にぜひ今後の方向性をお伺いしたいことがございまして、もともと５市２町の中枢都市連携で入った予算、私の記憶ではバスの建屋ですとかＷｉ－Ｆｉの設置、バス路線の、そこから始まって、今回急に、急にというわけではないんですけれども、私はこれでこっちになったんだなと思って、ちょっと根拠を探したら、吉田町ＤＸ推進計画の12ページにフリーＷｉ－Ｆｉ整備していきますと。これは静岡中部中枢都市圏ビジョンの事業としてやっていきますと。

図書館、体育館、学習ホールと、そのほか展望台小山城、小山城の売店、吉田漁港、ほかに防災目的として北オアシスパークなどいろいろ書いてあったので、その優先度とかもあると思うし、あと既にもう入っているところもあるとは思うんですけれども、町として、私今後この社会動態の変化で、やっぱり人が集まる公共のスペースにはＷｉ－Ｆｉが快適に使えるように、個人の携帯のそれぞれの容量の問題があるんですが、今結構皆さんそこのコストを抑えたくて容量を最低限にしている。そこへ行ってフルで使うともう数分で容量いっぱいでもう通信が遅くなっちゃうみたいなケースがよくありまして、なるべくあったほうがいいという考え方なんですが、町としては、例えばですが、先ほど申し上げた中央公民館の全館の快適に整備もそうなんですが、町立の体育館ですとか、あるいは福祉施設としてのはぁとふるのようなところ、いろんな活用方法でそれはニーズが出てくると思っているんですが、町としてどういう予算を使ってどこまでやっていくかということを、方向性だけでもここでちょっとお教えいただきたいな思います。よろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　理事、谷澤智秀君。

**○理事（谷澤智秀君）**　谷澤です。

今、議員からフリーＷｉ－Ｆｉ、オートＷｉ－Ｆｉの御質問いただいたわけですけれども、これまで当町では、フリーＷｉ－Ｆｉにつきましては静岡中部連携中枢都市圏事業、いわゆ

る５市２町事業でこれまでも総合体育館、学習ホール等々、先ほど今、議員がおっしゃられた７か所に設置をしていくということでこれまで進めてきています。

今回、増設ということで総合体育館、学習ホール、図書館のほうにつけるということでございます。

なお、フリーＷｉ－Ｆｉの設置につきましては、もう既に令和４年度につきましてもう９か所もう設置をしております。この中部連携中枢都市圏の事業で行っています。

なお、この５市２町、いわゆる中部連携中枢都市圏の事業は、圏域の観光施設、また交流ですね、交流人口それぞれある施設において設置をするというのが一つ目的としてございます。

そうした中で、広く住民の方が使用される公の施設、特に町内のみならず町内外に使われるところ。また公の施設ではなくても観光として訪れるところというところにこれまで設置をしてきているわけです。

そうした中で、町のほうの方針ということでございますが、先ほど福祉はぁとふるとか、恐らく庁舎も入ってくるのかなというふうには思いますが、こちらについてははぁとふるは公の施設、役場は公の施設ではございません。ここは職員が事務をつかさどるところという、役場の業務をつかさどるところというところになっております。

そうした中で、今後、ＤＸ計画がございますけれども、町としましては一つは住民サービスの向上につながる、そうした手続が始まってくるとか、そうした事業が進んでくれば、そうした対応策というのも考えていかなければならないというふうに思っております。

また、当然費用対効果、それから事業の最適化です。こちらは補助の関係も含めて、そうしたものを踏まえながら今後、優先順位等も踏まえて検討していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑は。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　生涯学習課つながりで、209ページから210ページ、図書館管理費。

図書館用地7,100万ほどの予算が計上されていますが、今回の土地購入で、今までも土地購入してきたわけですけれども、これでもう100％購入できるという話なのか、まだ残っていますという話なのか、そこはどうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

議員御質問の、来年度買収した暁には町有地全部なるのか、まだならないのかという御質問でございますが、用地の取得につきましては、図書館が開館する前から数年かけて一部を買収したということがございます。そのほかについては土地をお借りして、今まで運営のほうをしてきたという中で、令和３年度に土地の所有者の方から協力していただけるということになりまして、そこから新たに計画、買収計画のほうをつくりまして、お金の平準化等を考慮した中で３年から６年にかけて買収していくということで計画のほうを策定しまして、令和３年度までに50.47％、令和５年度、今年度末までに85.78％の取得のほうをしてございます。

６年度におきましては、３間５筆残っておりまして、それを買収させていただくと100％

土地が購入できる、全て町有地になるという計画でございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　そうしますと、全部図書館の敷地というか、それは全部町の所有地というふうになるわけで、そうすると何ができるかということなんですが、６年に土地を買って100％にして、７年度以降になるのかもしれないけれども、コンクリートでない、砂ぼこりの雨が降れば沼地になるところとか、どういうふうにそこを活用していこうというふうにお考えでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

議員おっしゃられるとおり、用地未買収というところの中で借地でやっていたというところで、しっかり駐車場が舗装できておらずに土の状態で、かなり利用者に不便をかけているという状況ではございましたが、６年度買収のほう、所有者に協力していただけたらそのあたりを整備していきたいというふうに思っております。

それこそ、図書館については立地もいいということで、東名川尻幹線沿いであるとかシンボルであります展望台小山城の近いところにもございます。シーガーデンシティ構想の中で交流人口を増やしていくという中でも、図書館においても非常に期待できる施設であるというふうに考えておりますので、町有地になったら利用者の拡大、あと用地の適正な管理をしていくというところで、今現在未舗装になっている部分に関して、しっかりとした整備、舗装等をしていきたいというふうに考えております。

ただ、整備するに当たっては、当初と違うものもできています。ちいさな理科館であったり、そういったところも見据えながら駐車台数を決めていくとか、そういったのを整理して駐車場の整備のほうを７年度以降実施してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今、お話にも出ましたけれども、もう10年前だったかもしれないけれども、ちいさな理科館への導入というか入り口というか、今図書館経由で行っている。それをもう少し駐車場から直行けないかという話をしたときには、ここらはまだ借地なのでという話でありましたから、100％町有地になった場合は、その理科館、ちいさな理科館への入り口というか、入り口への筋道というか、それも開発していくというようなお考えでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

小さな理科館の出入りに関しましては、今現在三つのルートがございます。図書館を通過するルート、それから湯日川の土手から入るルート、あともう１個は、案内はないんですが、北側のほうからというんですか、池の周りを通っていくという三つのルートがございます。

７年度以降、駐車場の整備というところに関しましては、ちいさな理科館への入り口、動線も当然その整備の中に盛り込んで、皆さんが利用しやすい、行きやすいようなルートの確保、案内、案内表示なんかも併せて検討して整備のほうをしていきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　他に質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　188ページ、中央小学校の維持管理費です。

ここで確認というかしておきたいのは、まずこれ築何年というのは分かりますか。ちょっと次の質問へ行くために。

**○議長（大石　巌君）**　学校教育課長、粂田真男君。

**○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）**　学校教育課でございます。

中央小学校は築何年かということでございますが、今Ａ棟、Ｂ棟、Ｃ棟と建っておりますけれども、Ａ棟につきましてが一番古い建物でして、昭和43年に建立していますので55年たっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　それと、そうすると191ページに出てきます施設の補修、これは体育館ですよね。体育館は何年たっていますか。

**○議長（大石　巌君）**　学校教育課長、粂田真男君。

**○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）**　学校教育課でございます。

中央小学校の体育館につきましては、平成15年に建てておりますので、20年弱経過しているという状況です。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　今日ここで予算の中で聞きたいのは、私が情報を得た中で、中でバスケットやっている若い人たちがいて、そのときにあそこの壁から、壁、体育館の壁から雨が浸入すると。状況をちょっと見ていないもので分からないんですけれども、今、時間を聞いたらそんな二十数年ですから、それほどのことはないと思うんですけれども、壁から出てくるといって心配をしているのは、恐らく鉄筋が浸透していて爆裂を起こしているかもしれない。鉄筋の、鉄筋は雨降ると、さびると倍ぐらいになりますから。

その辺で、前回のときに聞いたのは屋根の補修であるとかそういう部分だというような話なんですけれども、これは全体的に見直しますか。

**○議長（大石　巌君）**　学校教育課長、粂田真男君。

**○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）**　学校教育課でございます。

中央小学校の体育館の屋根の改修工事につきましては、これはまさしく議員おっしゃるとおり雨漏りの改修工事ということになりますので、全体かと言われると、当然劣化診断の中で雨漏りの箇所が顕著に見られる部分というところで改修をさせていただきますので、そのための設計業務も組んでありまして、同年度中に補修工事を行うということになっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　雨漏りが一番危険な部分ですよね。そういう意味で、せっかくやるんですから全体の、この設計の中で全体の安全性というのは当然確かめることになると思いま

すけれども、それはやっていただけますか。その上での壁からの浸入どうするかということは改めてちょっとやらないと、我々仕事の、仕事をしている状況、私としては非常に危ない部分が出ているんです。ひょっとしたらとんでもないことが起きるかもしれないです。そういう話があったときに、危ないなこれはと思って今、聞いたわけですけれども、その辺は確実にちょっと見てくださいね。

**○議長（大石　巌君）**　学校教育課長、粂田真男君。

**○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）**　学校教育課でございます。

体育館の屋根の改修工事につきましては、防水層の劣化が全面に及んでいるということで、全面の劣化に対しての改修を行うというふうになっておりますので、雨漏りに関してはこれで解消できるという見込みとなっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

183ページの英語教育推進事業費の中の国際理解教育推進事業委託料、これはＡＬＴの関係で、令和４年あたりまではＪＥＴを通してお願いしていたのが、民間業者というか派遣業者に変えてきたというのは分かるんだけれども、令和５年に比べて200万ほど予算額が増えているんです。それについて、そうした民間の会社の値上げというのかによるのか、それともＡＬＴの質を上げるためにはこれくらいはもうどうしても出さないといい人来ないよということなのか、その辺のところの答弁をお願いしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　学校教育課長、粂田真男君。

**○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）**　学校教育課でございます。

ＡＬＴのことにつきましては、令和５年と、ちょっと令和４年から200万ぐらい、令和５年と６年度は200万ぐらい上がっているというのは、これは令和５年度の７月末までＪＥＴの職員がいましたので、それから９月に、夏休みを挟んで９月から４人の外部委託という形でやっておりますので、５年度は少し半年分４人になった体制でやっているということの違いです。

ですので、値上げというか今までの委託料の基本的にはほぼ同じ金額で推移しているという状況で御理解いただきたいです。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

内容的には理解しました。

そうした中で、その民間にＡＬＴ派遣をお願いするに当たって、やっぱり吉田町なりのこういう方をお願いしますよとかという要望も兼ねてできるというふうに考えるんだけれども、その辺の金額と、その派遣の来てもらう方、どういった方がいいな。これまでＪＥＴでやった場合、当たりはずれがあったみたいな話を聞いているので、その辺のそういった要望も通るのかどうかというところでお聞きしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　学校教育課長、粂田真男君。

**○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）**　学校教育課でございます。

こちらの英語、国際理解教育推進事業ということで名を打ってありますけれども、基本的には各学校にＡＬＴ、いわゆる外国語授業を充実、ネイティブの方を入れて子供たちに外国になじんでもらうというところのための、各学校に１人ずつの英語、授業における、学校におけるネイティブに学んでいただくというところを目的で入れているものですから、それに応じた仕様書の中での金額がこちらということになりますので、新たに何かプラスということであれば、当然それに加わった金額がかかるというものになろうかと思いますが、令和６年度の予算につきましては、通常どおり各学校に１人派遣していただいて、各授業を対応していただくというところの契約をしていく予定というふうになっております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　大体分かりましたが、ネイティブな英語をしゃべるというのは、外国人、英語圏の人間。一般的にこの辺で見るのは、フィリピンの方とかもＡＬＴで過去来ていたりしたと思うんですが、その純粋な英語圏というのか、イギリスであるとかアメリカであるとかという、そういったところの指定もできないということであるんでしょうか。

結局、いろんな言葉しゃべる中でも英語もしゃべりますよという方と、本当にもう英語圏、英語しか分からないと言ったら失礼なんだけれども、英語圏の中で育った方というと、また違うと思うんです。その辺が要求ができるのかできないのか、というところでどうなんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　学校教育課長、粂田真男君。

**○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）**　学校教育課でございます。

例えば本当にアメリカとかイギリス圏にいる方を呼んでほしいという要望は会社のほうにはできますけれども、仕様書の中、あと金額面においてもそれを強要して、強要というか必ずこれにしてくださいというところまではなかなか難しいのかなと。もしそれであれば、当然値段は上がるのかなというところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　学校教育関係で、181ページから183ページの教育振興費の校務支援システム更新業務委託料1,765万5,000円。これは、クラウド化に向けての更新というふうに聞いております。

町長の施政方針でも語られておりましたけれども、このクラウド化によって学校教育や家庭教育、どのように変わって、どのように改善されるというところを説明願えますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　学校教育課長、粂田真男君。

**○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）**　学校教育課でございます。

校務支援システムをクラウド化することによってメリットというところだと思うんですけれども、サーバー、今現在は校務支援システムというのはサーバー設置型といって、役場の庁舎内にあるサーバーの中で管理したものを校務として使っているんですが、それをクラウド化することによりまして、今学習系データはグーグルのクロムブックを使って子供たち学習をしております。その学習系データとその校務支援システム、この校務系データもグーグ

ルの中のクラウドで一元管理ということになりますので、それを一元化によるいろんなものが、情報が一元化することによって効率化されるということで、まずそれが一つあります。

それによって、いろんなデータが、学習系のデータと、あと校務の場合は学籍の関係とか成績の関係、欠席、出欠の関係、健康管理の関係とかいろんな子供たちのデータ、そういったものが統合していきますので、最終的にはその一元化されたことによってそれを集計とかすることによってダッシュボード化して、この児童・生徒にとっての成績、それから人物像というものが一元化されて集計されることになりますので、それによって先生方がこの子に対してどういった指導をすればいいかとか、そういったことが簡易的に、簡便に分かるというような状況になりますので、先生方の教員の効率化が図られるということになります。

また、クラウド化することによってセキュリティーの担保もされることになります。今現在は、校務支援システムサーバーにある中で、データを例えば持ち出す、基本は持ち出さないんですけれども、持ち出すときにＵＳＢとかを持っていくとか、あとパソコンの内部にあるという場合があるんですが、それが全てクラウド上にありますので、パソコンの紛失とかＵＳＢで持ち歩くこともないものですから、そういった意味でのセキュリティーが担保されるというところです。そういったところがメリットということになります。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　今、教育に関するデータが一括化されると。先生が個々の生徒に対して丁寧な指導ができるというようなお話があったんです。

そういうふうに教育委員、学校教育課が語られる、メリットを語られるのも分かるし、私もそうなってほしいと思いますが、それが本当に現場で動くかどうかということをちょっと懸念しているわけです。

今までても、個々の生徒に対してしっかり指導をしていこうと思えば、こっちのデータを拾ってこっちのデータを拾うということをやれば、やれるはずですよね。今回クラウド化することによって、それが容易に検索できるという形になるんだけれども、要は先生方がそういう気持ちを持ってしっかりやってくれるかどうかというのがこれを生かすポイントだと思うので、その教育委員会としたら、その学校の先生方にしっかりと使って、これを活用して効率化して、やってほしいのは個々の生徒に対しての指導。

それは、データを見て、この子はどういう指導をしたらいいかとか、そういうのが、そういうことをしっかりと考えてやってもらえるようにしていただきたいと思うので、強力にそこを指導していただきたいと思いますが、その辺は今まではやっているよという話なのか、これを活用してより効率化図っていこうと。効率化だけじゃなくて、効率化はいいんですが、要するに子供の指導というところに力をしっかり入れてね、空いた時間それに使ってねという話をしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　学校教育課長、粂田真男君。

**○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）**　学校教育課でございます。

議員おっしゃるとおりで、私たちもそういったことを希望しております。

既に、今、校務のＤＸ化とか校務支援システムのクラウド化と言っていますが、そもそも今、先生方、各学校の先生方、本当に校務に関してもかなりクラウドを活用してやっておりますという中で、今その校務支援システム上の学籍管理とか出欠管理が、どうしてもサーバ

ー上のシーフォースというところでやらなきゃいけないということで、端末は結局二つ使いながらやっているという状況が見受けられます。

そういった中で、もう先生方がＧＩＧＡスクールが始まって３年たちまして、吉田町に関してはかなり学習系に関してのクラウドの活用の方法、それから先生方がそういったチャット上でやり取りするとか、まさに今、クラウドを使いながらそうやってやり取りしている中で、１点だけそこの校務支援システムはサーバーになっているからそこについてはもう制限されて、学校の中でしかできないものであって、制限されてしまうというところでなかなか難しいというところですので、今回の校務支援システムを新しくクラウド化することに伴って、逆に言えば先生方が今求めているものが手に入るということになりますので、新しいものだから使わないというわけではなくて、待っていましたというような気で多分いてくれる先生方が多くて、だから非常に多分取り扱いやすいと思うんです。

という中でやっていけますので、より我々が求めている、議員さんもおっしゃったように、子供たちに集中して指導ができるという体制が来年度はつくられるんじゃないかなというふうに期待しております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑は。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

207ページ、学習ホール運営費の中の長寿命化計画策定委託料が今回入っているわけですが、この長寿命化計画を策定していく委託料ということなんだけれども、これ学習ホール自体が保健センターと住吉自治会とある意味一体化しているんですよね。そうした中で、学習ホールだけの長寿命化計画ということで行くのか、この計画の中に、じゃもうこの二つの施設。住吉自治会館は、もう今四つの自治会の中でも一番古くなってきちゃっている中で、もちろん単独で直すわけにもいかないし、保健センターは下にもあるし、その横につながって学習ホールがある。

この長寿命化計画というのは、その辺も含めたことが入ってくる余地があるのかないのかというところでお聞きしたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

議員御質問の学習ホールの長寿命化計画というところで、うちの10款のところに予算化はされておりますが、そのあたりは今年度予算立てるに当たって、関係する課、健康づくり課、保健センターあります健康づくり課、それから自治会関係、財政管理課等と協議をいたしまして、全体を長寿命化計画、まず劣化診断をやってどこが悪いのかというのを判断した中で長寿命化計画を策定していこうということで協議のほうをさせていただいて、その学習ホールを含めた住吉会館、保健センター含めてあの施設一帯を長寿命化計画をうちのほうで、生涯学習課のほうでまずは業務委託を発注するということで予定をして、予算のほうを計上をさせていただいております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　それを聞いてすごくありがたいなと、今ありがたく思っております。

もう１点、その建物に関する長寿命化はもちろんそうなんだけれども、今の学習ホール、使い勝手があまりよくないところももうあるんです。椅子の配置であるとか。そういった長寿命化ということは、建物はもちろんだけれども、長いことこれからも使っていこうといったときには、その内装といったらおかしいんですが、そうしたリフォーム的なこともこの計画には盛り込んでいくということでよろしいでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

それこそ学習ホールにつきましては、もう約40年ほどたつという施設になっておる中で、議員も御存じだと思いますが、中の舞台照明であるとか音響設備等々も修繕しながら今まで使っていっているという中で、大規模な更新というものはやっておりませんでした。

今回この業務委託をする中で、そういった中の施設、議員さんおっしゃられた椅子のものでありますとか、そういったものも含めて、ただどこまでできるか分かりませんが、そういったものも生涯学習課としては考えて、今後の改修工事に生かしていきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

205ページです。中央公民館活動費の中のシニアカレッジ運営委員会委員報償金と、そのシニアカレッジ視察研修業務委託料というところなんですが、施政方針演説、町長のほうからもお話がありまして、シニア世代が互いに学び合い高め合いながら、生き生きとした充実した生活を送ることができるように、新たな知識の習得や仲間づくりなどを通してシニア世代が楽しく充実した生活を送ることができるようにということでこの会がつくられたと、平成28年に開設されたということでございます。

これの企画運営、中身の部分なんですけれども、どういう形で今運営されているのか教えてください。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

シニアカレッジの運営の状況という御質問であります。

今、議員おっしゃるとおり、平成28年度からこのシニアカレッジのほうを実施しているというところで、入学資格に関しましては吉田町在住の60歳以上の方、２年間の受講期間という設定をしております。月に２回程度の講座の実施ということで、あとその講座の内容といたしましては、午前中に大学教授、学識経験者などによります一般教養講座、午後には各種体操、ニュースポーツなど健康づくりコース、それから植物栽培に関する基本的知識、寄せ植えなどの園芸コース、この二つに分かれて実施をしているという状況でございます。

現在の３期生につきましては、令和６年の８月で卒業を迎えるという現在の状況でございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。ありがとうございます。

これ入校の条件みたいなものというのは、さっき言われた吉田町在住者ということぐらいで、年齢とかそのほか何か条件等あったら教えていただきたいのと、１期生それぞれとか１学年というか、人数制限みたいなものもあるのかどうなのか教えてください。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

入学資格の要件、あと定員ということでお答えのほうをさせていただきます。

吉田町在住の学習意欲を持つ60歳以上の方、定員は40名でございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　ありがとうございます。

これ現状、今希望すれば、その60歳以上在住者であれば入れる余裕、その40人の定員に余裕があるのかないのか、今までの過去の例で言っていただいていいんですけれども、それはどういう状況でしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

１期２年間ということでやらさせてもらっております。今現在３期生ということで、先ほども申し上げましたが２年間を終えるのが今年の８月卒業という予定でございます。定員40名のところ、現在22名の方が講義のほうを受けているという状況でございます。

あと、この卒業の修了証の資格というものもありまして、一般教養講座２単位、午後の講座１単位の単位制、７割以上取得した学生には修了証を渡すということで、それをもって卒業という形で今、実施のほうをしております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。ありがとうございます。

まだ、今現状でいうと定員にはまだ余裕があるみたいなことでございましたけれども、私はこのシニアカレッジというのは大変いいと思っています。それで、これをもっともっとしっかり、要はシニアの方々がもっと入りたくなるようなものに磨き上げてほしいなと思っておりまして、定員に満たないというのは非常に残念ではありますが、まだ、これを、何というかな、競争率がもっともっと高くなって、入りたくてもなかなか入れんみたいなぐらいの形に盛り上がっていくといいなというふうに思っております。

特に、もう20年前ぐらいから比べると、その老人会みたいなものの活動というのも大分小さくなってきたりとか、なくなって数も減ってきたりというような状況もある中で、それに代わるような形でこういったものがしっかり運営されてできるようになると非常にいいなと思いますし、これの運営自体を、この中の会員の方々がやっていらっしゃるのか、この運営委員会委員報償金というのがあるぐらいですから、これが何名でしたっけ、15名、15名分でしたか、10人分ですよね、10人分で5,000円、単価１回１人5,000円みたいなことで話を伺いましたけれども、そういった方々が運営、企画運営まで携わっているのかどうなのか、そこら辺もちょっと教えてください。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

今年度、運営委員会のほうを開催のほうをしております。といいますのも、３期生が終わって次の４期生に対しまして、今後募集をしていくというところでありますので、今３期生の状況、定員40名が22名ということで説明のほうをさせていただいたんですが、もっと定員まで近づける、定員以上にというところも我々のほうも考えておりますので、運営委員会を今年度立ち上げさせてもらって、どういった方法で講座のほうをやっていったらいいのか、皆さんが魅力あって募集、応募のほうをしていただけるのか、あとどういった周知をすれば皆さんの目をひくのかという様々な検討を今している段階でございます。

今年度２回やらさせていただきましたが、来年度についての引き続き予算のほうを、報償金のほうを計上させていただいて、何回か開催したいというふうに思っております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。ありがとうございます。

そうなんですよね、企画運営とかもこの方々が直接、自分たちがやりたいことも含めて面白おかしくやるというのも大事でしょうし、ただ面倒くさいところだけサポートをしていただけるような形の会づくりができていくと、非常に面白い形になっていくのかなというようにも思っております。ぜひ、定員オーバーするぐらいの形のものに磨き上げてほしいと思います。

その場合、やはり広報というのは非常に大事だと思います。どういったやり方を今までされてきたのか、その結果が今のこういう状況になっているという一面もあろうかとは思いますので、そこら辺は内部で、特に高齢者に届くＰＲというのはなかなか難しい面もあろうかとも思いますので、そこら辺をしっかり議論していただいて、いいものに育て上げていただきたいと思いますので、そこら辺の意気込みを最後にじゃ、お願いします。

**○議長（大石　巌君）**　生涯学習課長、中山孝宏君。

**○生涯学習課長（中山孝宏君）**　生涯学習課でございます。

先ほど、運営委員会を開催していると、４期に向けて検討しているということで、私すみません、メンバーのほうを言わなかったのでここで言わさせていただきたいと思いますが、このシニアカレッジを設立委員会というものをやりました。そのときの委員長、大学の、静大の教授のほうにお願いをして委員を務めていただいております。そのほかに社会教育委員、あと主にやっぱり受講生ということで、今の受講生の方々に参加していただいて意見のほうを聞いている状況でございます。

そういった中で、２回会議のほうを開かせていただいたという説明をさせていただきましたが、委員のほうから様々なやっぱり意見が出て、一番やっぱり皆さんに知ってもらうのが、口でというか口伝えといいますか、そういったのをやっていかないといけないねとかいう話もされていたり、あとはやっぱり広報であったりというところも意見のほう出ております。

３期については、なぜこの定員半分くらいだということでいろいろ中のほうでも検討はさせていただきましたが、やはりコロナの影響が非常にあるのかなというふうに思っております。

４期生に関しましては、コロナはもう通常の生活に戻っているということでありますので、今の３期の、３期生の魅力をまた広報とかに載せてアピールのほうをしていって、あとは目立つ形でポスターの掲示であるとか公共施設、あと60歳以上の方が行くと思われる施設等に

もお願いしてポスターの掲示等々、あとホームページなんかでアピールのほうをして、定員超えるような目標で４期は行きたいというふうに考えます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　すみません、最後に一言だけ。今、メンバーお聞きしましたけれども、それはそれであれなんですけれども、あまり偉い人が中に入っていると、高齢者の皆さんもあまり言いたいことも言えなくなってしまったり、やりたいこともやれなくなってしまったりすることはないのかなとちょっと心配したところもあるんですけれども、そんなことも含めてとにかくいいものに仕上げてください。よろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　他に質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　なければ、これで質疑を終結します。

これをもって第15号議案についての質疑を終結をいたします。

---

**◎散会の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　以上で本日の日程は終了をいたしました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。

散会　午後　２時４７分

開議　午前　９時００分

**◎開議の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　改めまして、おはようございます。

本日は、定例会22日目、最終日であります。

本日は、２番、増田伸介君、12番、蒔田昌代君から欠席の届出があります。

ただいまの出席議員は11名であります。

これから本日の会議を開きます。

---

**◎議事日程の報告**

**○議長（大石　巌君）**　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

これから、議案審議に入ります。

初めに、一般会計並びに特別会計等の予算に関する議案の審議を議案番号順に行います。

審議につきましては、質疑は既に終了しておりますので、討論から行います。

引き続いて、予算に関する議案を除くその他の議案審議を議案番号順に行います。

それでは、審議に入ります。

---

**◎議案第１３号の討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第１、第13号議案　令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第１４号の討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第２、第14号議案　令和５年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第２号）についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いいたします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第１５号の討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第３、第15号議案　令和６年度吉田町一般会計予算についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第１６号の討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第４、第16号議案　令和６年度吉田町土地取得事業特別会計予算についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第１７号の討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第５、第17号議案　令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計予算についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第１８号の討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第６、第18号議案　令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計予算についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第１９号の討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第７、第19号議案　令和６年度吉田町介護保険事業特別会計予算についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第２０号の討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第８、第20号議案　令和６年度吉田町水道事業会計予算についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第２１号の討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第９、第21号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算に

ついてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

８番、山内　均君。

〔８番　山内　均君登壇〕

**○８番（山内　均君）**　８番、山内　均です。

私は、令和６年３月吉田町議会定例会に議案提出されました第21号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算について、反対討論を行います。

第21号議案、令和６年度公共下水道事業予算は、川尻南部汚水幹線工事、県営住宅吉田団地56戸、民間アパート60戸、川尻団地138戸、白鷺団地54戸、湯日川親水公園の東側７戸、住吉枝線工事７戸等による、322戸を下水道に接続しようとする工事及び管渠埋設である。

しかし、住宅団地内には合併浄化槽を使っているお宅が数軒あり、何軒接続するかは不明である。本来は、下水道が布設されれば全戸が下水道に接続することが前提条件であるが、接続軒数は不明である。

予算内容から、収益的収支及び支出のうち収入は、令和４年度第１款下水道事業収益は７億4,310万8,000円、令和５年度は７億6,478万6,000円、第１項営業収益の１目下水道使用料、令和６年度は１億1,632万7,000円、令和５年度は9,554万円。第２項営業外収益、６年度は６億2,666万1,000円、５年度は６億6,925万円、２目の他会計補助金5,711万3,000円、令和５年度は7,800万円、４目の他会計負担金１億1,159万4,000円、５年度は１億3,341万6,000円。

支出については、第１款の下水道事業費用が７億2,329万2,000円で、令和５年が７億4,589万5,000円、第１項の営業費用では６億6,197万5,000円、５年度が６億8,101万6,000円。

また、資本的収入及び支出に関しては、収入は令和５年度が資本的収入、第１款の資本的収入は６億8,213万円で、令和５年度が９億956万5,000円、第２項の負担金は、受益者負担金529万4,000円、令和５年度が509万5,000円、第３項の１目他会計負担金が令和６年度が３億1,323万6,000円で、５年度が３億5,937万円、第４項は国庫負担金である。

支出に関しては、第１款の資本的支出は６億9,970万6,000円、令和５年度は９億4,230万5,000円であった。

令和６年度公共下水道事業予算には、収益的収支の営業収益第１款２項、第１款２目他会計負担金5,711万3,000円、４目他会計負担金第１款２目他会計補助金5,711万3,000円、４目他会計負担金１億1,159万4,000円、資本的収入及び支出第１款３項が他会計負担金３億1,323万6,000円、合計４億8,194万3,000円が一般会計から繰り出されている。令和５年度は５億7,078万6,000円が一般会計から繰り出されていたが、令和６年度の収入、収支の各項目の減少は、事業規模の減少であると考えている。

経営戦略会議の結果により、下水道料金の改定が行われ、令和６年度の公共下水道事業予算の収益的収入で下水道料金の予算は１億1,632万7,000円になった。令和５年度の下水道使用料9,544万と比較して2,088万7,000円が増えているが、令和６年度吉田町一般会計からの繰入金４億8,194万3,000円と比較すれば、4.3％のみの増収ということになる。下水道使用料等の収益では、独立採算制は成立しない。

下水道区域内では全戸が公共下水道に接続するのが原則である。下水道設備の整備がされた区域内においても、下水道へ接続しているものやいないものがある。不公平である。下水道区域内の区域が確定した今、下水区域外から見える状況も不公平である。

１月１日の能登半島地震で起きたような地盤変動によるリスク、少子化への対応もしなければならない。吉田町公共下水道事業は令和８年度末で管渠整備、379ヘクタールで終了する。吉田町の面積の2,073ヘクタールのうち、約２割が下水道区域内、約８割が下水道区域外になる。人口割合にしても約３割が下水道処理区域内としかならない。結果、この下水道事業にはもはや公共性は存在しないと考える。

吉田町公共下水道事業の先行きは全く不透明である。水洗化の理念である生活環境及び水環境の保全のためには、下水道事業単独では不可能と考える。

私は、合併処理浄化槽による水洗化事業と下水道事業を同時に進め、また施策の方向転換を進め税の公平性を確保し、公共下水道事業と公共浄化槽事業による水洗化を求めることを提案し、第21号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算についての反対討論といたします。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　反対討論が終わりました。

賛成討論はありませんか。

10番、八木　栄君。

〔１０番　八木　栄君登壇〕

**○１０番（八木　栄君）**　10番、八木　栄です。

私は、第21号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算について、賛成の立場で討論します。

令和６年度公共下水道事業会計予算において、一般会計からこの会計へ補助を受ける金額、いわゆる基準外繰入金が5,711万3,000円であり、令和５年度よりも2,088万7,000円減額されています。このようなことから、令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算について賛成をいたします。

**○議長（大石　巌君）**　賛成討論が終わりました。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで討論を終結します。

採決に入ります。

この採決は起立によって行います。起立しない方は反対とみなします。

それでは、採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立を求めます。

〔賛成者起立〕

**○議長（大石　巌君）**　起立多数です。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

これで、一般会計並びに特別会計等の予算に関する議案の審議が終わりました。

これから、これまでに議決した議案を除くその他の議案の審議に入ります。

---

**◎議案第３号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第10、第３号議案　専決処分事項の承認を求めることについて（令和５年度吉田町一般会計補正予算（第８号）について）を議題とします。

これから質疑を行います。

質疑につきましては、数値や説明を受けた内容などについて、確認の質問とならないようお願いをいたします。

また、発言は簡潔明瞭に、審議する議題に関すること以外の質疑にまで至らないよう、御協力をお願いいたします。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり承認されました。

---

**◎議案第４号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第11、第４号議案　吉田町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第５号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第12、第５号議案　吉田町介護保険条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　７番、平野です。

今回の条例改正は、メインは保険料の改正です。その保険料改正も大きく２つの改正があるというふうに捉えております。

１つ目は、所得による保険料支払い段階を10段階から13段階に増やすこと。その内容は、住民税の世帯非課税の第１段階から第３段階までは基準額に対する割合を減らし、低所得者の負担軽減を図る。所得の高い方については、所得上限を500万円から720万円に上げるとともに所得分類を増やし、保険料収入を増やすものです。

２つ目は、第５段階の基準額を年額６万円から６万3,000円に上げることです。

私は、この２つ目の基準額の増額について気になっているので質問いたします。

住民税非課税世帯の第１段階から第３段階までは、公費負担による低所得者軽減強化により、現在の保険料は第１段階は３万円が１万8,000円、第２段階は４万5,000円が３万円、第３段階は４万5,000円が４万2,000円になります。そこへ今回の改正案で、基準額増加を考慮すると第１段階は１万7,955円となり、45円下がります。それに対して、第２段階は３万555円で、555円の増額です。第３段階は４万3,155円で、1,155円の増額になってしまいます。

つまり、基準額に対する割合を下げた効果を受けるのは、第１段階のみというふうになります。少なくとも、令和６年度からの３年間の基準額を６万円に据え置くという考えはなかったのか。あったとすれば、その議論の中で今回の基準額年間3,000円増額に至った理由は何かの説明をお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

保険料基準額の算定につきましては、３年を１期とする介護保険事業計画を策定するということで、３年ごとに見直しを行っております。この保険料につきましては、３年ごとに事業計画に定めるサービス費用見込額等に基づきまして、３年間を通じて財政の均衡を保つように設定する必要がございます。

具体的には、給付費総額の見込みが不足をしますと、介護サービスの財源が不足することになるために、必要なサービス料を適切に見込むことが最も重要というふうになります。

この給付費の見込みにつきましては、過去の人口推計から将来人口をまず推計する。そこに要介護度別の認定者数を推計しまして、それぞれのサービス別の給付費を推計するという作業を行います。その中で、介護報酬の改定率等も勘案しまして給付費の総額を推計いたします。

６年度の介護報酬の改定につきましては、国の改定がプラス1.59％増ということが示されております。この上昇につきましては、令和３年度、８期の報酬改定はプラス0.7％ということを比べますと、大幅に上回っている改定になります。

そうしたことから、まず、介護給付費を見込むという作業をして、そこから国の考え方の介護保険制度の持続可能性を確保する観点から、今後の介護給付費の増加を見据えて１号被保険者の保険料基準額を決定していくことになりますが、この人口推計につきましても９期の途中、令和７年度に団塊の世代の方が全員75歳を迎えるといった、高齢者の人口増、高齢化率の増というものが見込まれておりますので、そういったものを考え合わせますと、今回の介護保険料につきましては、推計を年額基準額６万3,000円ということで算定をさせていただきました。

この基準額を基に区分を10段階から13段階に改正をするものですが、これにつきましても国の方針にあります第１号被保険者間での所得再分配機能を強化するといった考え方から、国は基準を９段階と今しております。当町は10段階としておりますが、国の方針にあります13段階への多段階化、それから特に高所得者の標準乗率の引上げ、そうすることによって低所得者の保険料上昇の抑制、つまりは低所得者の最終乗率の引下げを図るということで、国の方針のとおり当町におきましても、13段階の区分を設定をいたしました。

ですので、まずは基準額をどこに設定するかというところが今後の介護保険制度を持続可能とするかというところが大きな観点になりますので、今回は６万3,000円ということで改正をさせていただくということに至りました。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　段階を13段階に上げるとか、上限を500万から720万に上げる、これは国の方針であればそれは仕方がないかなと。もう一つ国の方針として低所得者層の負担軽減を図るということに関しては、最初に説明したように、第１段階しか負担軽減が図られないということからすると、私としては基準額というのは少なくとも３年間据え置いてほしかったという思いはあるんですが、給付費が増えているというのを理解しているわけで、高齢者だけじゃなくて介護被保険者も増えているというところもあって、確率的には給付費の増加は免れないのかなとは思いますが、健全な介護保険制度を守るためには必要だったという説明なんですが、今回の３年置きにありますので、３年後に関してはやっぱり被保険者の負担軽減というのを念頭に入れて、給付費との絡みもあるんですが、しっかり考えて基準額というのを決めていただきたいと思うんですが、それに対して何か御意見ございますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　福祉課長、増田稔生子君。

**○福祉課長（増田稔生子君）**　福祉課でございます。

まず、３年ごとに見直しをする際に一番重要となるのがやはり給付費の見込みということは説明をさせていただきましたけれども、その給付費を抑制していくということも重要な観点かと思いますので、９期につきましても今まで同様、介護予防に力を入れていくこと、そ

れから当町は認定率も国の平均よりも低い認定率を保っておりますので、そういったところの数字を注視しながら３年間の介護保険制度の運営、それから介護予防につきましても推進をしてまいりたいと考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第６号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第13、第６号議案　吉田漁港管理条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第７号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第14、第７号議案　地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第８号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第15、第８号議案　吉田町上水道事業給水条例及び吉田町布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第９号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第16、第９号議案　指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第１０号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第17、第10号議案　吉田町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第１１号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第18、第11号議案　吉田町犯罪被害者等支援条例の制定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

１番、大石裕之君。

**○１番（大石裕之君）**　１番、大石です。

この条例の説明を受けたとき、町政連絡会ですかね、そのときにもお聞きしたんですけれども、そのときの回答がちょっと明瞭ではなかったので再度お尋ねいたしますが、ほかの県内市町の制定よりもだいぶ時間がたって議案として出てきたという状況がございます。

そこの点につきまして、何か具体的な理由等があれば御説明いただきたいと思います。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

町政連絡会のときに報告のほうはさせていただきました。確かに、周辺市町、中部５市２町の状況からみても、当町の条例制定が若干遅れがあるということは否めませんが、繰り返しになりますが、これまで犯罪被害者等に対しまして支援を全く行ってこなかったということではございません。令和元年度から相談の受け皿となる犯罪被害者支援総合的窓口を防災課に設置しているほか、牧之原警察署犯罪被害者支援連絡協議会などを通じて、関係機関などと連携は図ってきたところでございます。

このような状況の中、社会情勢的に各自治体が具体的な支援についての法的根拠となる条例を設置し、犯罪被害者等の一定の支援を受けられる体制づくりが求められていたことから、当町においても、条例制定を計画したところでございますが、他市町の事例などを参考に逐条解説であったり、内規であったり、そういった準備を進めてきた結果、本議会定例会に議案を提出させていただいたということになります。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

この新しい条例、犯罪被害者支援条例について、幾つか質疑させていただきます。

今、他市町の事例とお話もありましたが、実際にそうした先行というか導入の事例で適用されたケース、例えばどのようなものを想定して吉田町としてはこの条例をつくったのかということをまず知りたいです。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

まず、今回の条例の趣旨というところでございますが、多種多様化する犯罪に対して誰もが犯罪被害者となり得る中で、社会全体で犯罪被害者を支える町づくりが必要でございます。その中において、犯罪被害者が必要な支援を途切れなく受けられるように、まず町としてできる施策を明確にするということが必要でございます。

また、犯罪被害者への理解を深めていく社会づくりを目指すというのが趣旨でございます。

そのような中、どういったケースがというところでございますが、基本的に犯罪被害者等に対する相談や情報提供については、基本的には相談の希望があったときには全て応じるというのが基本でございます。そういう中で、被害状況を調査、把握していく段階で、その都度必要に応じた支援、町としてできる支援をしていくということになります。

その支援策の一つであります、今回の条例の大きなところでございますが、見舞金の支給というところでございますが、その見舞金を支給する事案は、基本的には犯罪により死亡した場合あるいは全治１か月以上の負傷または疾病を負った場合のいずれかであって、その犯罪を警察が事件として取り扱ったと、それが基本的なものになります。

そういったものに対しまして、支援を行っていくという条例でございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

趣旨としては理解して、特にお見舞いという部分、金額はここに表記してあるとおり、死亡で30万、10万というところなんですが、私、吉田町に住んでいて平和な町だなと思っているんですが、今後ちょっと起こり得ることとして、例えば相手に明らかに加害がある場合のあおり運転ですとか、あるいは最近は特殊流動性犯罪というんですかね、具体的には家に押し込んで危害を加えて金品などを奪うと、その結果けがをするというようなケースが今後、もしかしたらこの不安定な世の中で増大してくるんじゃないかなという、ちょっと不安がありまして、今回のケース、犯罪の相談窓口としては一つなんですが、そうした際に例えば申請すればそれは見舞金として死亡もあるかもしれないですけれども、加害で警察の事件として取り上げられて書類がそろえば、これは支給されると考えてよろしいんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

犯罪の種類は非常に多種多様でございまして、この条例の運用に際しては相談を受けながら基本的にはケース・バイ・ケースという対応を想定しているところでございます。

今、犯罪の中には、今議員がおっしゃられた特殊なものとしましては、まずはあおり運転というところでございますが、このあおり運手により心的被害、これを負った場合、当町の施行規則管理において、交通事故のように犯罪等の被害が自動車損害賠償保障法の支払い対象となるときは見舞金支給の対象としないと定めているように、一般的に加害者の自賠責保険が適用される場合は、見舞金の支給の対象からは除外させていただいているというところでございます。

ただ、加害者が無車検、無保険の状態であったり、またひき逃げ事件等で加害者が不明など、自賠責保険が適用されない場合には、町から見舞金を支給するということも考えられま

す。

また、特殊詐欺や闇バイト、そういった強盗、窃盗など流動型犯罪によって、これも身体的被害を負った場合です。この場合は事実確認の上、見舞金を支給することは想定されます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　現時点での内容は理解しました。

もう一つ、犯罪被害者に給付という部分では警察、この場合静岡県警から給付金の支給があるということを認識しております。実際に警察が事件を把握して、事件の被害者らに対して資格があると判断した場合に、例えば警察側から書類が、お出しになればこれは出ますよというようなお話、あるいはもしかしたら刑事事件になるので弁護士からとか、というケースがあり得るかと思うんですが、ここの県警の犯罪被害者支援とこの町で制定した犯罪被害者の支援条例というのは、リンクというか結びついているものなのか、それとも別個で犯罪の履歴などは照会はするけれども判断は町がするというものなのか、そのあたりを教えてください。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

まず、この条例を制定することによって、連携というところも明確になってきますので、当然警察と連携しながら、情報共有しながら進めていくということにはなります。

その中で、警察は警察としての役割がありまして、いろんなものがあるんですがその中に、今議員がおっしゃられました国の制度というところになるんですが、犯罪被害者給付制度ということがございまして、こちらも給付する制度が確立されています。この国からの給付は、公安委員会の審査を経て給付の可否、給付額が決定されるもので、ちょっと給付まで長期間要するものというふうに聞いております。

一方、町の、今回条例で制定させていただく予定の見舞金は、町のその条件に合致すれば国の給付の可否にかかわらず支給されるというものでございますので、支援は連携してやっていくんですが、この給付金に関しては別々でというものの扱いになります。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。今の内容は理解いたしました。

最後に一つ。この条例制定でもって、より窓口で犯罪に関する相談などが受けやすくなるとも認識しておるんですが、一つお願いというか、方向性を教えていただきたいのが、犯罪被害者って、なかなか自分から犯罪の被害を受けた、書類を書かせてくれというよりかは、むしろ年間でどれだけ件数があるか分からないですけれども、来年度も、たしか死亡で１件、そして傷害で１件というお見舞金の部分で予算計上はしているんですが、なきゃないでそれはいいことじゃないかというお話なんですが、私が懸念しているのは、被害の渦中にあった方がその制度を知らなかったとか、あるいはその制度を申請しようとしてもちょっと期限が、１年ぐらいでしたっけ、ある中でついなかなかそれどころじゃなかったというような際に、やはりこれはむしろ町のほうからこのような制度ありますと、警察とも連携しているということなんで、ここにおそらく相談していただければ、書類を出していただければ、このお見舞金が幾ばくか出ますよというような寄り添いをしていただきたいなと思うんですが、それ

についてのお考えはどうでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

**○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）**　防災課でございます。

今回の条例につきましては、お認めいただきましたらこれはまず、前提として町民の皆様に周知する必要があると考えております。

また、どのような計画をしているかというと、まず年度明けまして４月１日にホームページのほうで条例の制定総合案内窓口見舞金支給等について、周知のほう予定してございます。

あと、予定でございますが、５月号の広報で同様に周知のほうさせていただきたいと思います。そういった周知をする中で、実際の運用に関しては町が事件、事故を把握する方法としては幾つか考えられると思うんですが、まず町は報道により、そういったことがあったということを把握した場合でございますが、被害者の方の意向もございますので、町から被害者に直接連絡をするというのはちょっと適切ではないかというふうに考えています。この場合は町から事件等を取り扱う管轄、警察のほうに、こういった報道を聞きましたけれども、どういったものですかということと、もし被害者が支援を希望するんであれば町のほうでこういう支援をやっていますというところを町のほうに紹介して、希望があれば、紹介していただいているのを言っていただくということでございます。

また、被害者の方が町に直接来た場合は、それはそれで応じさせていただくとともに、警察のほうに促すというところになるんですが、また逆に、警察か、ちょっと協定を締結を予定しております犯罪被害者支援センター、こういったところから連絡がある場合もございますが、これも被害者の方が町の支援を希望しているようなら、町から被害者のほうへ連絡すると。

いろんなパターン考えられると思うんですけれども、いずれにせよ被害者の心情等に配慮した上で積極的に介入していきたいと、このように考えてございます。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑を終結します。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第２２号の質疑、討論、表決

**○議長（大石　巌君）**　日程第19、第22号議案　令和５年度農業基盤整備促進事業山崎頭首工改修工事請負契約の締結についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

山崎頭首工改修工事、農業利水のための老朽化したラバーダム、これを新しくするという内容、あとそのラバーダム自体は流量の管理といいますか、大雨ですとか台風のときにそこが動いて、少し河川部に急な増水を防ぐという意味合いの工事だと認識しておるんですが、実施場所の工事、施工内容ですね、交通の障害が出るのではないかというちょっと懸念がございまして、質問させていただきます。

議案上程の中では、期間は来年度１年間の中でということだったんですが、この実際の工期というのはもう１年間丸々その工事に、かなりの車ですとか機材ですとかがかかるものなのでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

当該工事でございます山崎頭首工の改修工事でございますけれども、工事自体、河川の中で工事をするという関係がございます。この関係もございまして、大雨とか影響がございます河川の影響も予想される出水期、これにつきましては工事を実施する期間としましては適していないということもございますので、それを避けるところを考えてございまして、実際の工事着手ということになりますと、10月の下旬頃、こちらのほうからの工事着手ということを予定しているものでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　３番、盛です。

台風シーズンが少し終わった10月下旬からの工事でというところなんですが、あそこの島田吉田線バイパスが10年前にちょうどできて４車線のものが隣にある形になるんですが、あの２車線がですね、私もよく毎日通るんですが、結構交通量が多いんですね、いまだに。大分その４車線のバイパスのほうに分散されたとはいえ、そしてあとバス路線でも現状あるわけでして、かなりの交通量が、特に朝夕多いんではないかというところで、例えばですけれども、通行止めですとか片側工事通行みたいなものがその時期に頻発してしまうと大変なのではないかという懸念があるんですが、そこのところは建設課としてはどのようにお考えでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

議員のおっしゃった道路のところにつきましては、交通の規制、工事車両が入る関係とかが、実際の工事を行うところは湯日川の土手、その両側、こちらのほうがメインの工事箇所という場所になりまして、議員のおっしゃったところですと、工事車両が入ってくる所の場

所になります。そのところにつきましては、交通整理員をつけて車両侵入の場合には交通を規制するようなところもありますけれども、大きな通行止めは行うというような場所ではございません。

先ほどお話させていただきました湯日川の土手の両側、こちらにつきましては山崎橋から念仏橋、この区間につきまして片側ずつではございますけれども、こちらのところを全面通行止めの対応をさせていただいて交通規制をしながら工事を進めていくという流れで、事業のほう進めていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　３番、盛　純一郎君。

**○３番（盛　純一郎君）**　今の内容でちょっと言おうと思っていたことが変わったんですけれども、であれば島田吉田線、旧道というかあの２車線のところはそこまで、通行止めはないにせよ、片側工事通行は例えば集中期と10月以降でも、そういうことがなさそうだという認識でよろしいでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　議員のおっしゃるとおりでございます。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　山内です。

同じ生業をするものとしてお聞きをいたします。

まず、制限付きの一般競争入札ということです。結果を見ると、応募された方が最初から１件ということですよね。当然競争入札ですので本来は競争した中で出てくるのがいいんですけれど、その辺のちょっと心配をするのが、今、建設業界で起きている人手不足であるとか、そういう中でいろんな条件、入札になかなか入れなかった条件、何かそういうものに関してをお聞きをしているんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　今回の入札の条件でございますけれども、まずこちらの山崎頭首工の工事を実施するに当たりまして、今回の条件としましては、まず当町の一般競争参加資格審査書、こちらのほうを受理されたもの、そのほかに施工に係る連絡調整を勘案しまして、島田・静岡土木事務所管内こちらに営業所を有している者、あと品質の確保、高い品質の施工確保するために、当該工事の同種工事、堰とか水門とかを工事の元請で実績を有している者、これなどの条件を付しまして公告をさせていただいております。

なので、当該工事の実施するに当たって必要な条件を付して、制限付の競争入札のほうをさせていただいたというところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　そういった条件と、今言われた静岡土木管内と島田土木管内、それは当然出てくると思うんですけれども、例えばその制限の中で点数とかそういうの、業者が持っている点数、そういうものに関しての900点であるとか750点であるとか、そういう数字というものでもやっぱり、中には条件としてつくわけですか。

例えば、そういうのがついてくるとなかなかハードルが高くなってきて、つけ方によって

はこういう結果が常に出てくる可能性はあるんですよね。その辺の可能性とういうのは点数についての難しさとか、そういうのはなかったんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

点数を持っているといいますか、そこのところについては資格要件の中には入れてはあるんですけれども、その点数が何点であるから参加できないとかという、そういうものを基準を今回この当該工事ところに設けているものではございません。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　分かりました。制限がなかったということであれば、どなたでも入れるというかそういう形ですよね。その中で、なかなか踏み切れなかった理由というのはちょっと心配をするのと同時に、今聞いた中で、管内と、本来なら何社にそういう紹介は町のほうからは出しているんですか。

**○議長（大石　巌君）**　建設課長、栁原真也君。

**○建設課長（栁原真也君）**　建設課でございます。

まず、入札しました入札公告をホームページ上といいますか、公表のほうをしています。その関係ございまして、何社に話かけをしているというものではございません。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　内容は分かりました。ホームページで出して、応募がなかったという結果なんですね。その辺でやっていただくのはいいんですけれども、できたら競争入札の中にそういう形が生まれるようなものは考慮して、工事の競争、要するにできれば一番健全でありますので、そういう形ができればと思って質問させていただきました。同業者としては当然心配、気になるところでした。

それと、あとクレーンヤードってありますよね。中から、クレーンヤード。何というのかな、坂をつけてそして降ろすわけじゃないですか。そのためにストップするわけですね。大体わかりました。聞きたいことはそれでオーケーです。はい。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　それでは、質疑は終結します。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第２３号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第20、第23号議案　第６次吉田町総合計画基本構想についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　平野です。

４ページの将来フレームですね、についてお伺いします。

人口世帯について、計画の目標年次である令和13年の吉田町の人口は２万9,500人、世帯数は１万3,400世帯と想定しますと記載しています。また、グラフの脚注には、平成12年から令和２年の人口及び世帯数は国勢調査による実績値、令和６年以降の人口は「吉田町人口ビジョン」における将来人口の展望値を国勢調査の水準に置換した推計値と記載しています。

そこで、吉田町の人口ビジョンを見てみますと、第３章に将来人口推計に吉田町の総人口の実績値及び将来推計のグラフがあります。そのグラフは令和22年以降吉田町の人口は減少するというふうに記載してあります。

一方、第４章の人口の将来展望には、本町が目指す人口の長期展望と題するグラフが出ています。そのグラフでは平成32年つまり西暦2020年までは減少するが、それ以降西暦2035年まで増加し、それ以降は減少するとしています。増加する要因として、合計特殊出生率が2015年は1.73ですが、2020年には2.07に上昇すると仮定が入っています。

そこでお伺いしますが、2020年、令和２年度に吉田町は合計特殊出生率2.07を達成したのでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

合計特殊出生率でございますけれども、今この合計特殊出生率が国勢調査の結果に基づいて合計特殊出生率を基準で設けているんですけれども、今、吉田町に関しては2020年の、その令和２年、この前の合計特殊出生率についてはまだ2.07は達成してございません。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　新しい計画を立てるというときには、最新のデータというのを基に私はつくるべきだというふうに考えていまして、今回は、令和２年は２万9,771人と展望しましたが、今回の基本構想では令和２年の国勢調査のデータは２万8,919人です。

要するに、人口ビジョンのときよりも国勢調査で令和２年は減っているので、今度はそれを基準にしたわけですね、この基本構想は。そうしたときに、令和２年に合計特殊出生率が2.07を達成できていなかったというのも事実ですよね。片一方は事実を基に作成し、片一方は事実でない、以前につくった仮定の条件を基に計画を策定するというのは、何か矛盾を感じますが。事実を基にするのであれば、今回事実を基にするのであれば両方、ほかのものも

あると思いますが、それを基に策定、推計すべきではないかと思いますが、そこはどうでしょう。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

この人口ビジョンのほうの推計ですけれども、今、社会人口研究所の、社人研の国勢調査を基にして、今社人研のほうは２万8,000ということで数字のほうを出しております。それがこの基本構想のほうに出ていますけれども、それを踏まえて、あとは吉田町の人口ビジョンのほうで基礎となっているデータというのが住民基本台帳、そちらをベースに今、人口ビジョンというのは考えてございます。

今回の基本構想につきましては、その住民基本台帳の数字を今、社人研の国勢調査のほうと、基本台帳のほうの差のほうがありますので、そこを置換して今、そっちの数字に落としてある。あくまでも今の人口ビジョンのほうと、あとこの置換した元の数字というのは住民基本台帳をベースにして、構想のほうの人口を算出しているというところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　それは、私が説明したように、令和２年の国勢調査を基に27年につくった人口ビジョンをそこに合わせたわけでしょう。令和２年の国勢調査という事実に基づいてその数値を減らしたわけですよ。それであれば、合計特殊出生率2.07達成できていないのであれば、それを基に計算させるべき、するべきではないかというのが私の意見ですが、そこは考えなかったんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

その置換というのが今、人口ビジョンのほうと、あと独自推計から社人研のほうの国勢調査の推計というところに、大体今680人ぐらいの差異があります。それを今の住民基本台帳から引いた値を今ベースにしていますので、それが今、人口ビジョンのこの基本構想のほうで言っています令和２年度においては２万8,919というところで、そこは２万9,200とかという数字を今後、その差異をずっと基本台帳から引いた数をベースに今、この基本構想のほうの数字を出しているというところでございます。

先ほど言った、合計特殊出生率が2.07を達成していないというところでございますけれども、今現在、吉田町の住民基本台帳のほうが２万9,232、今一番新しい数字ですけれども、２万9,200人を何とかクリアできていると。合計特殊出生率のほうはまだ達成できていませんので、今後いろんな施策をしながらその2060年に2.07を達成するように何とか数値をもっていきたいというふうな目標を持っておりますが、ただその分、ほかからの転入であるとかそういうものを含めて、今のところまだこの人口ビジョンで目標としていました人口は達成できているというところで、今回この人口ビジョンをそのまま採用させていただいて、この基本構想のほうで人口フレームとして使わせていただいたというところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　まあ100歩譲って、人口ビジョンを策定したときには、５年後の令和２年には合計特殊出生率を2.07にもっていきますと。だからそれを基に計算して、下がった

んですよ。下がるデータを出して2.07を達成して、ほかにもあるんですが、それが達成できるんで吉田町は人口増加しますと、人口ビジョンは書いているわけです。

増えるというのは、要するに目指す姿なんですよ。展望値というのは目指す姿なんですよ。で、推計値というのは、下がるという推計値が出ている。今回は展望値と書いているんで、展望値というのは間違いではないんだけれども、吉田町の人口ビジョンのときには吉田町が目指す展望値になっているんです。目指すが入っているわけです。今回資料には展望値としか書いてないので、この展望値とは何ぞやという説明がないんです。それを基に吉田町は一番冒頭の文章の人口は２万9,500人と想定していますと。想定しているんじゃなくて我々は目指しますじゃないんですかという、基本的にはそういうことなんですが、そこはどうなんでしょう。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

展望値というお話でございますけれども、人口ビジョンのほうはそれに向けてやっていくという中で、基本的には2060年に今の２万9,000、現状を維持するというところと、合計特殊出生率を2.07までもっていきたいという中で、その途中経過として2.07にもっていきたいという人口ビジョンのほうでは展望がございましたけれども、今回ここでいう将来フレームというところでございますけれども、あくまでも今の人口フレームの展望と今の現状を合わせたときに、今のこの人口フレーム、要は13年までのフレームをどう考えていくかというところで、ここに人口フレームという形で、載せさせていただいてございますので、それがたまたま人口ビジョンのほうの今の乖離とはあまり乖離はしていないという中で、合計特殊出生率については2.07をまだ達成しておりませんので、今後それをどう上げていくかということになれば、今度その数字というのはどんどん上がっていくというところでございますけれども、ただ人口の展望という将来的なフレーム、13年までのフレームということで考えれば、現在今その人口ビジョンで示させていただいた数字とあまり乖離はないというところで、今そこを展望の値とさせていただいているというところでございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　この基本構想の３ページの時代の潮流の下のほうに、自治体には人口減少、少子化高齢化が進行する中でという記載がございます。それに対して吉田町は人口が増えるんだということをここで宣言するわけですよね。でも、実際は下がっているというのが現実ではないですか。保っているというのか下がっているという、そこの感覚の違いはあるけれども、やっぱり吉田町も我々としては人口減少に対してどのような施策を打っていかなければならないのか、そういうことで質疑しているつもりなんですが、ところが町当局は、吉田町は人口が増えるんだというと、ここの感覚のずれが出てしまうんですが、逆にこれを町民の皆さんが見たら、ああ吉田町は人口が増えるんだ、という感覚に陥ると思うんですが、その辺に関しては何か御意見ございますでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

今、議員おっしゃるとおり、この３ページのところでは時代の潮流ということで、全国的に少子高齢化が進む中でやはり人口減少というのは問題になっていると。それは各市町どこ

でも今起こっているような状況でございます。

ただ、人口減少は進んでいく、全体のパイですね。人口自体は減るんですけれども、ただそれが進むにつれて各市町とも、やはりどう人口を維持していくかという、その都市間競争というのが今後まさしくそのパイの奪い合いといいますか、そういうものが進んでくるという中で、今回人口が吉田町の場合、今　　増えていくというフレームをつくらせていただいたんですけれども、2023年度から24年度の人口ですね、今吉田町の統計総計からいきますと、113人ほど人口増えています。

そういう中で、まだそれこそパイは減るんですけれども、こういう第６次総合計画のような施策を打つことによって、ほかから人口を取り入れると、吉田町を選んでもらえるというところを今後目指していきたいというところでこのようなフレームを想定して、今の第６次総合計画のほうを策定しているということで御理解いただければと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　７番、平野　積君。

**○７番（平野　積君）**　そういう意気込みでやっていくと、それに基づいて第６次総合計画を実施していくというその意気込みは感じましたが、やってくださいねと言うしかない。

よろしくお願いします。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑ありませんか。

９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

15ページ、土地利用の構想という中で、②活力ある産業振興を図る土地利用の推進ということで出てございます。現在、当町においては、工業においては他市町から来てもらったりとかということで、非常にありがたいことではあります。

ただ、商業に関しましては、大店法なくなって以来、非常に規制ができない、そういう中で大型店舗が来ますよ。ここにも書いてあるとおり、進出が今後も予想されるそういう中での産業振興を考慮した土地利用、どういったことを目指しているんでしょうか。

なかなか理解できないところなんですが、大手企業、大手商店がボンボン来ることを予測する中で、それを認めるというか、消費者のためにはいいんだからどんどん呼びますよということになっているのか、活力ある産業振興という中で、この表現がなかなか理解できないんですが、どういった意味を指しているんでしょう。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

今回、この基本構想の中の土地利用の構想ということで、今議員がおっしゃいました、活力ある産業を図る土地利用の推進ということでございますが、この土地利用の構想自体は土地をどう、今の吉田町の少ない土地の中をどう有効的に使っていくかという中で、吉田町の中でいいますと水資源が豊富であるとか、あとは交通環境が充実しているだとか、そういうことの中でやはり地元の商店も当然でございますけれども、企業であるとかそういう店舗であるとか、そういうものも今後誘致も図っていかなければいけないという中で、そのどこをどう、この中では農業もありますし、工業もありますし、漁業もありますし、そういう産業をそれぞれどう守っていくかをこの土地利用、土地をどう活用していくかで決めていくというところをうたったのがこの土地利用の構想というところでございます。

先ほど、議員がおっしゃいました地元の商店であるとか、もともとある商店のほうの振興というところでございますけれども、それはそれでまた今度基本計画の中に、第３章のところで活力と魅力あふれる産業振興のまちづくりというところございますけれども、ここの中でやはり地元の商業に関しても町としていろんな支援をしていく、商工会も含めていろんな形で支援をしながら地元の産業、商工についても支援しながら発展をさせていくということで、こちらの基本構想はあくまでも土地の活用の仕方ということで御理解をいただいて、その個別の商店であるとかそういうものについては、この第３章のところのもので今後どう支援していくかというところも含めて考えていくというところで御理解いただければと思います。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

その土地利用に関しまして、今の現状を見たときに、過去、養鰻池であったところが最初倉庫になりました。で、今何になっているかというと、太陽光になっているんです。これはもう明らかに土地利用をどうしていくのかという問題なのかなと思うんですが、そういった土地利用というのか、健全というか、町のにぎわいを増やすものなのかというところ、非常に今の吉田町を見ていて、養鰻で盛んであったところが養鰻がちょっと弱くなった、そうしたら倉庫の町みたいに倉庫がばんばん建った。で、倉庫が今なくなってきて太陽光がばんばん出てくる。どこを見てもちょっと広い土地があると、もう太陽光ですよ。

そういったことに、この土地利用の構想の中でどう考えているのかなというのが非常に見えないところなので、今後都市マスのほうもできてくると思うんですが、そういう中でここにある、15ページにある活力ある産業というところを見たときに、先ほどの説明だとなかなか理解できない部分がある。第３章のこの、地域に根付く産業育成という意味でやっていきますよというんだけれども、やはり大手がボンとでてきたら、とても太刀打ちできませんよ。

そういう中で、どう考えているのかなというのが非常に、まだ先ほどの説明でなかなか理解できないんだけれども、何かありますか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

今おっしゃるとおり、もともと養鰻池のところが今倉庫になっているというところで、やはり吉田町の場合、インターがあったりだとか交通環境の充実というところが前からありまして、そういう面で倉庫が養鰻池の跡地にできてしまっているという事実はございます。

ただ、その後にだんだん倉庫じゃなくて太陽光ということでなんですけれども、それこそ今、太陽光に関しては都市環境課のほうになりますけれども、ガイドライン、太陽光の設置に対するガイドラインというのをつけまして、なるべくその路地の太陽光はなるべくそういうのを規制、行政指導になりますけれども、そういう指導をしていくというようなガイドラインというのを今つくってございます。ほかの市町に比べるとかなり太陽光のほうは、まあ大規模のものはできてしまったものはございますけれども、ほかの市町に比べると太陽光もなんとかこう規制ができているという感じはいたします。

あと、商工の既存のところの大手というところでございますけれども、主は産業課になりますけれども、産業振興補助金であるとかそういうところで、操業支援であるとか、あとは

特産品の開発であるとか、そういうものも含めて町として支援していくというところもございますし、今進めております官民連携事業というところに関しても、やはり官民連携事業を進めていく中では、地元との結びつきというか地元がいかにこう関わってくるかというところが非常に大事になってございますので、令和５年度の事業の中でも商工会と一緒に勉強会を開いたりだとか、いかにそこに商工会というか地元の商業なり事業者が関わっていけるかというところも含めて、今考えてスキームのほうを構築しようということで作業のほう進めておりますので、そういう面で地元との関わりといいますか、そういうものを町としても進めていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　９番、増田剛士君。

**○９番（増田剛士君）**　９番、増田です。

シーガーデンシティ構想もある中で、川尻の防潮堤云々、多目的広場云々、そういったところに商店をこう誘致というか、当初においてはもう過去から商店街というものはない。そういう中で、そうした集積的な考えというのは構想の中には入ってはこないということでよろしいんでしょうか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

やはり土地利用の構想という中では、前にもちょっとお示しさせていただいた国土利用計画のほうの土地利用構想図ございますけれども、あれを基にいかにどう町として、土地をうまく活用していくかというところを示させていただいております。

ただ、先ほど言った商店街、個人事業主の方とかそういう方をどう支援するかという話になりますと、繰り返しではございますけれども、そういう補助金であるとか、そういう支援をうまく利用していただいて、事業のほうを何とかこう活性化させていきたいというふうな思いで今、町のほうは考えております。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑は。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　23ページからです。第２章の豊かな自然と共生するまちづくり。

最近、ときどき発言をさせていただいてます。23ページからです。

**○議長（大石　巌君）**　山内議員、基本構想のほうでお願いします。

**○８番（山内　均君）**　基本構想。

基本構想の中では、ここから想像できるのは、吉田町に水道がいってないところがありますよね。そういうものの中には基本構想としては、こう入ってきているんですか。非常に危うい。ここに見せていただきましたけれども、今見ていくと水道が通っていないところ、それがここの中に入っていないとすると、非常に感染症であるとかペストのようなものが発生したりとか、そういうものに関しての全体的な共生、自然と共生するよりも何ていうのか、当然守るためにこれをつくるんですけれども、そういうものというのは中には包含をしているわけですか。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

今おっしゃる水道事業の中で、水道の水資源ということですけれども、今基本構想のほうの９ページになりますか、９ページの第２章の豊かな自然と共生するまちづくりという中で、水資源を有効活用し、安全で安定的な水を供給するということで、水道に関してはこのような構想を持って、豊富な水資源をどう有効に活用していくかというところは基本構想の中につづってございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　私が言いたいのは、基本構想は全くそのとおりです。それでいいんです、水道の浄水関係とか。ただし、吉田町に意外とたくさんのそういう触れていないところ、自分たちで地下水を汲み上げてやっているお宅が、これ吉田インターの周りにもあるんですよ。

それとそのときにその水の状態というのが非常に鉄分が多いんです。多分そこの水使っている人いると分かると思うんですけれども、鉄分の多さは建物に非常に影響を与えて、共生する豊かな共生ができなくなってくるのね。でもその中にどこかに、一つの文章でもいいんだけれども、そういうものが入りませんか。それが見えないものですからちょっとこれに関しては怖いなと思っています。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

水の文言につきましては、先ほど言った９ページの、水資源を有効活用し、安全で安定的な水を供給するという中に一文として、飲料水のより一層の質の向上と安全の確保に努め、健全かつ安定的な事業運営を推進しますということで、一文入れてございますので、これを踏まえた中で実施計画であるとかそういう中で、それをどう、これを進めていくかというところについてはそちらのほうの議論になりますので、基本構想自体では良質な水を安全で安定的に行うよう事業を推進していくということで、基本構想のほうではうたってございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　私が言っているのは、安定的に供給するんではなくて、水道水でね。水道が通っていない方は上げているんですよ。そうすると、そこにいろんな問題が発生してきています、鉄分の問題があるとか。あそこの水使っているとよく分かるんですけれども、そういうものが住んでいる人たちに影響を与えるんじゃないかと。そういうときにはやっぱり町が担保しなきゃいかんじゃないですか。そういうものに関しての、中に一文というか、それは入りませんかということです。

極端なこと言うと、何軒くらいありますかと、本当は聞きたかったんですけれども。そういうものが中に文章として入りませんか。それはどの部分で包含をするわけですかということです。

**○議長（大石　巌君）**　企画課長、石間智三郎君。

**○企画課長（石間智三郎君）**　企画課です。

繰り返しになりますけれども、今水道に関してはその水道水の安定供給を維持して、先ほど言った安定して健全かつ安定的な事業運営を推進するという中で、先ほど言ったいかにどう供給していくのか、どうするのかというのはその後に、要は実施計画そういう細かい話の

中でその辺を議論してどう、この目的を達成するため進めていくかということになりますので、そちらのほうで検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

**○議長（大石　巌君）**　８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　違いますけれども、話を聞いていて、今その水道のことを言っているわけじゃなくて、私は。吉田町全体を俯瞰したときにそういう地域があるんですね。ただ、その地域の人たちは、もしそういうものができたら、起きたときに、やりようがないんですよ。

そういうものに関して一言でも中に言葉が入っていれば、私は今日、その友達のところに行ってこういう結果が出たよと言うことができるんですけれども、今の状況ではないものですから、ただその部分を聞きたいんです。水道はいいんです。水道のほうは非常にいいと思います。ダブっているところもあると思いますけれども、その部分はどうなんですか。その部分をちょっとだけ、一つ答えをいただきます。

**○議長（大石　巌君）**　理事、谷澤智秀君。

**○理事（谷澤智秀君）**　谷澤です。

そうした水に実際にお困りになられている方々に対してどうしていくかということで今お話が、この構想の中に入れられないかというお話かと思います。

一応この構想では、町がどう進んでいくのか、この水に関しましてどう進めていくのかというところを、基本的方針を定めているところになります。

ですので、先ほど来から企画課長が申し上げましたとおり、水道水のまず安定供給というのがあります。これは全体としてあるわけです。この目的を達成するためにそうしたいろいろな、この目的を達成するためにこの構想の下には計画と、基本計画というものがあります。基本計画の中にも当然課題とかそうした一つが、今言われたのも一つと、課題として捉えるかどうかがあります。安定供給の中でしていく、その計画の中にまたさらに実施計画ということで事業をやるわけです。

そうした中で、この先ほど来の水の供給と、水の供給が行っていないというようなところには、そうした事業の中で解決、また対応していくというところになるかと思います。当然権利ものになりますので、個人の、御自分の状況というのもあるかと思いますが、そうした中で相談しながらそうした対応はしていくと、事務事業の中で対応をしていくという流れになりますので、まずこの構想の中にはそうした、ここはあくまでも方針的なものになるものですから、先ほどの安定供給を維持するという大きな目標を掲げて、それを具体的に落とし込んでいくというような計画のつくりになっておりますので、この中にはやはり今、私たちが基本構想で上げています安定供給の維持というような中に、議員が言われたのは入ってくるというふうに思っております。

以上でございます。

**○議長（大石　巌君）**　よろしいですか。

８番、山内　均君。

**○８番（山内　均君）**　ぜひ、今言った簡易水道が駄目になって、結構あるんですよ。その人たちに安心できるようなこの町づくりの方策をつくっていただけるということになれば、それをやっぱりどこかで町の人たちの健康であるとか、その担保するそういうものの文言であ

るとか目的であるとか、そういうものが少なくとも一言入っていってもらわないと、ここに住んでいる、吉田町に住んでいる人たちは、今後同様に守らなきゃいかん話ですから、その辺をもしこれからまた文言の追加なんかがあるんだとすれば、ぜひやっていただきたいと、そういう希望です。お願いします。

**○議長（大石　巌君）**　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　これで質疑は終結します。

討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第２４号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第21、第24号議案　町道の路線廃止についてを議題とします。

質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第２５号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第22、第25号議案　町道の路線認定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第２６号の質疑、討論、表決**

**○議長（大石　巌君）**　日程第23、第26号議案　吉田町固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めることについてを議題とします。

質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案については同意することに決定をいたします。

◎議案第２７号の質疑、討論、表決

**○議長（大石　巌君）**　日程第24、第27号議案　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり適任とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり適任することに決定しました。

ここで暫時休憩とします。

再開を10時45分としますので、お願いします。

休憩　午前１０時３７分

再開　午前１０時４４分

**○議長（大石　巌君）**　それでは、休憩を閉じ、会議を再開します。

ただいまの出席議員数は１１名であります。

---

◎委員会活動報告

**○議長（大石　巌君）**　日程第25、委員会活動報告を総務文教常任委員会委員長からお願いをします。

３番、盛　純一郎君。

〔３番　盛　純一郎君登壇〕

**○３番（盛　純一郎君）**　令和６年３月19日に、総務文教常任委員会所管事務調査報告書を議長に提出いたしました。

本委員会で決定した所管事務事項について、調査の結果を下記のとおり吉田町議会会議規

則第73条の規定により報告します。

調査事項、地域教育推進事業について。

調査の目的、町は第５次吉田町総合計画第５章の地域教育の分野において、その施策の方向性として地域教育推進事業の推進や、放課後子ども教室の拡充を掲げている。

地域の教育力の向上を図るため、地域の各種団体、学校、家庭が共同して取り組むこと、また、放課後及休日に子供が安心して活動できる居場所を確保するとともに、次世代を担う子供の健全育成の一層の支援が必要であるとしている。

そこで、町が行っている地域教育推進事業について、その現状と課題を調査・研究する。

期間は、調査・研究が終了するまで。

町が行う８つの地域教育の推進事業について、担当課からの概要や現状などの説明を受け、資料点検、質問、再質問等を通じて今後の事業の進め方や、課題となる点などを調査、協議を重ねてまいりました。

また、各小学校体育館にて行われている放課後子ども教室、３教室の現場視察を行い、その他地域教育推進事業と学校教育、コミュニティスクール制度との関わりなどを生涯学習課、そして学校教育課に質問いたしました。

なお、調査の経過、結果につきましては、お手元に調査報告書のコピーをご参照いただければと思います。

まとめ、のみ読み上げます。

今後も地域教育推進の各事業が持続性のある事業であるためには、課題として事業に携わる人員について、主に高齢化等の影響による参加スタッフの減少があります。こうした担い手不足の解消のため、関係の課や団体でよく協議を重ねつつ、新しい担い手の発掘・育成、そのための現場ニーズの把握や参加スタッフの意欲向上などに努めてもらいたい。

以上をもちまして、地域教育推進事業につきましての調査終了、所管事務調査報告といたします。

**○議長（大石　巌君）**　報告が終わりました。

委員会活動報告に対し、質疑を許します。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　質疑なしと認めます。

委員長、御苦労さまでした。

これをもって、報告済みといたします。

---

**◎議員派遣について**

**○議長（大石　巌君）**　日程第26、議員派遣についてを議題とします。

吉田町議会会議規則第123条第１項の規定による議員派遣については、お手元に配付しました議員派遣の件のとおり、現時点で期日等が確定している行事について派遣をしたいと思います。

お諮りします。

議員派遣については、お手元に配付してあります議員派遣の件のとおり派遣することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認め、議員派遣についてはお手元に配付してあります議員派遣の件のとおり派遣することに決定をいたします。

---

**◎議会閉会中の継続調査について**

**○議長（大石　巌君）**　日程第27、議会閉会中の継続調査についてを議題とします。

産業建設常任委員会委員長から所管事務調査について、議会運営委員会委員長から所掌事務調査について、それぞれ会議規則第71条の規定によって、お手元に配付しましたとおり、議会閉会中の継続調査の申出がありました。

お諮りします。

各委員長からの申出のとおり、議会閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

**○議長（大石　巌君）**　異議なしと認めます。

したがって、各委員長からの申出のとおり、議会閉会中の継続調査とすることに決定をいたします。

---

**◎町長挨拶**

**○議長（大石　巌君）**　以上で、令和６年第１回吉田町議会定例会の全ての日程が終了しました。

閉会に当たりまして、町長から御挨拶をいただきます。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

**○町長（田村典彦君）**　御苦労さまでございました。

**○議長（大石　巌君）**　ありがとうございました。

---

**◎議長挨拶**

**○議長（大石　巌君）**　令和６年第１回吉田町議会定例会を閉じるに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本定例会は、３月１日以来、22日間にわたりまして諸議案の審議をいただきました。

本日ここに全ての議事が終了し、おかげをもちまして閉会の運びとなりました。これも議員各位の終始極めて真剣な御審議によるものと、心から厚くお礼を申し上げます。

最後に、議員各位の、また町当局の皆さんの御健勝を心から御祈念申し上げ、閉会の挨拶

といたします。

ありがとうございました。

---

**◎閉会の宣告**

**○議長（大石　巌君）**　以上をもちまして、令和６年第１回吉田町議会定例会を閉会といたします。

閉会　午前１０時５１分